

佐川町男女共同参画に関する
住民意識調査及び事業所実態調査
結果報告書

平成 30 年 11 月
佐川町

目 次

1. 調査概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の実施要領.....	1
3 集計にあたって.....	1
2. 男女共同参画に関する住民意識調査	2
1 あなたご自身（ご回答者）のこと	2
2 男女平等意識	9
3 職業生活	20
4 家庭生活と男女の役割	42
5 地域社会活動	66
6 人権意識.....	75
7 男女共同参画社会	85
3. 男女共同参画に関する事業所実態調査	101
1 貴事業所の概要.....	101
2 女性の活躍推進.....	106
3 男女が活躍する社会	112
4 男女共同参画社会の実現に向けた町の取組	117

1. 調査概要

1 調査の目的

本調査は、満18歳以上の住民を対象に、男女共同参画についての住民の意識や実態の把握、また、男女共同参画について町内の事業所における取組や制度などについて把握し、両調査結果を「第2次佐川町男女共同参画計画」の策定に向けての基礎資料とするとともに、今後の佐川町の男女共同参画に関する施策に反映させていくことを目的としている。

2 調査の実施要領

(1) 男女共同参画に関する住民意識調査

- ① 調査対象 町内在住の満18歳以上の男女
- ② 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- ③ 調査方法 郵送による配布・回収
- ④ 調査期間 平成30年9月27日～10月18日
- ⑤ 配布数 1,000件
- ⑥ 有効回答数 381件(女性213件、男性162件、無回答6件)
- ⑦ 有効回収率 38.1%

(2) 男女共同参画に関する事業所実態調査

- ① 調査対象 町内に事業所を有する企業・事業所
- ② 抽出方法 町が所有する法人情報を基にした無作為抽出
- ③ 調査方法 郵送による配布・回収
- ④ 調査期間 平成30年9月27日～10月18日
- ⑤ 配布数 100件
- ⑥ 有効回答数 57件
- ⑦ 有効回収率 57.0%

3 集計にあたって

回答は、回答数を分母とした百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、単一回答で合計が100%にならない場合がある。複数回答で合計が100%を超える場合がある。

性別・年代別等の集計結果については、性別・年齢の無回答を除いて表記しているため、合計が全体と一致しない場合がある。

また、性別・年代別以外のクロス集計結果から、傾向のみられる点を追記している。

前回調査とは平成24年度実施の佐川町男女共同参画に関する住民意識調査のことである。

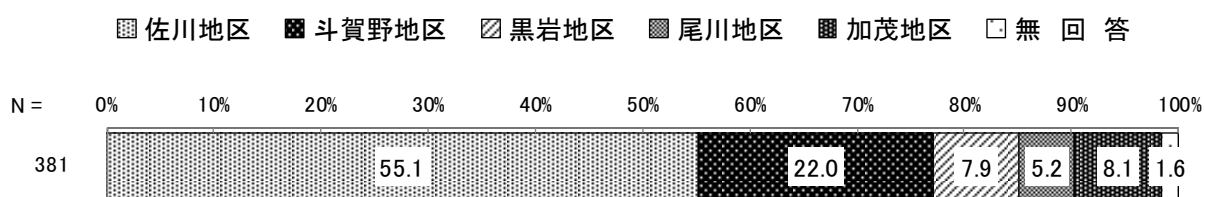
2. 男女共同参画に関する住民意識調査

1 あなたご自身（ご回答者）のこと

問1 あなたのお住まいの地区はどちらですか。

全体では、「佐川地区」が55.1%と最も多く、「斗賀野地区」が22.0%、「加茂地区」が8.1%、「黒岩地区」が7.9%、「尾川地区」が5.2%となっている。

問1 居住地区〔%〕



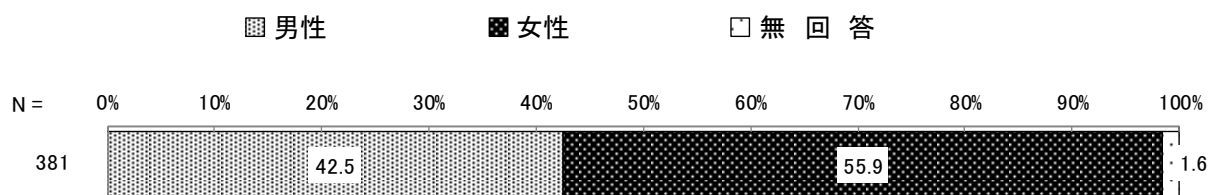
【前回調査との比較】「斗賀野地区」は前回（17.3%）よりやや多い。

問1. 居住地区							
	全体	佐川地区	斗賀野地区	黒岩地区	尾川地区	加茂地区	無回答
前回	399 100.0	217 54.4	69 17.3	33 8.3	32 8.0	41 10.3	7 1.8
今回	381 100.0	210 55.1	84 22.0	30 7.9	20 5.2	31 8.1	6 1.6

問2 あなたの性別をお答えください。

全体では、「男性」が42.5%、「女性」が55.9%で「女性」がやや多い。

問2 性別〔%〕



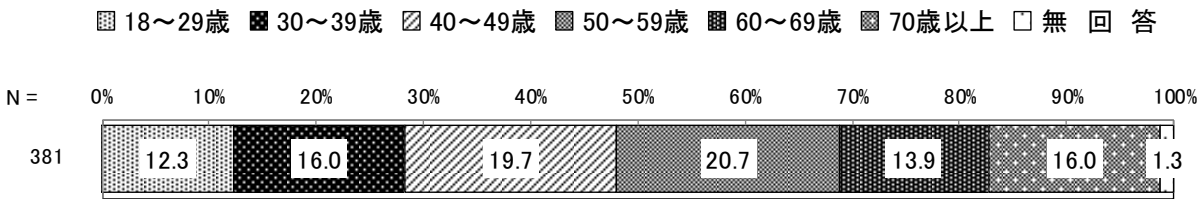
【前回調査との比較】「女性」は前回（58.9%）よりやや少ない。

問2. 性別				
	全体	男性	女性	無回答
前回	399 100.0	160 40.1	235 58.9	4 1.0
今回	381 100.0	162 42.5	213 55.9	6 1.6

問3 あなたの年齢をお答えください。

全体では、「50～59歳」が20.7%、「40～49歳」が19.7%と多く、「30～39歳」と「70歳以上」がともに16.0%で続いている。

問3 年齢[%]



【前回調査との比較】「70歳以上」が前回（33.8%）より少なく、「30～39歳」と「40～49歳」は前回（8.5%、9.0%）より多い。

問3. 年齢									
	全体	20～24歳	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
前回	399 100.0	16 4.0	8 2.0	34 8.5	36 9.0	70 17.5	96 24.1	135 33.8	4 1.0
今回	381 100.0	※	※47 ※12.3	61 16.0	75 19.7	79 20.7	53 13.9	61 16.0	5 1.3

※前回は20～24歳と25～29歳、今回は18～29歳で集計

問4 あなたの職業をお答えください。

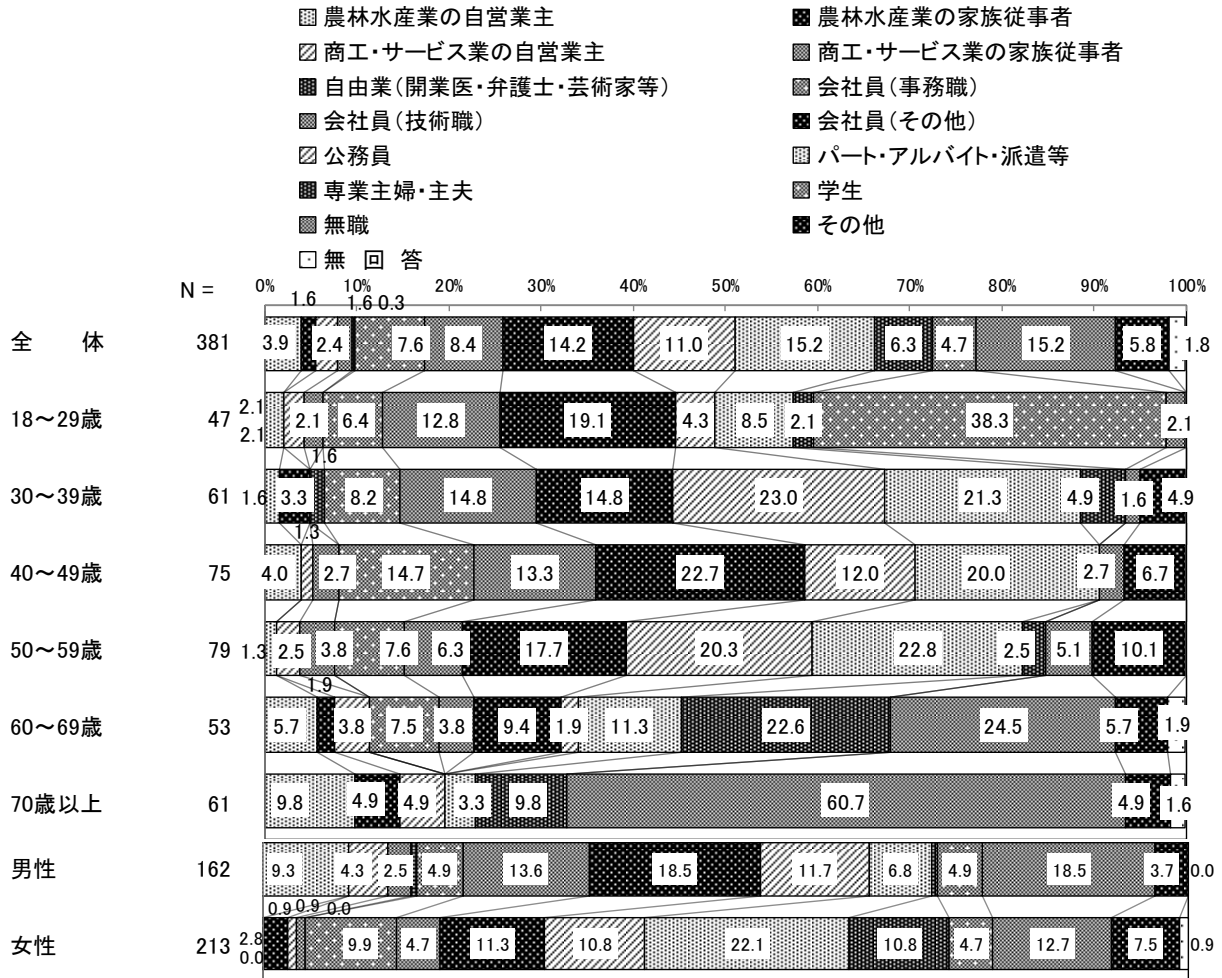
全体では、「パート・アルバイト・派遣等」と「無職」がともに15.2%、「会社員（その他）」が14.2%、「公務員」が11.0%と続いている。

年代別では、18～29歳は「学生」が38.3%、40～49歳は「会社員（その他）」が22.7%、70歳以上は「無職」が60.7%と多い。

男女別では、男性は「会社員（その他）」と「無職」がともに18.5%と多く、女性は「パート・アルバイト・派遣等」が22.1%と多い。「会社員（技術職）」は男性で13.6%、女性で4.7%と男性の方が多い。

世帯構成別では、夫婦ふたり暮らしで「専業主婦・主夫」が18.3%と多い。

問4 職業[%]



【前回調査との比較】「専業主婦・主夫」と「無職」は前回（13.0%、29.1%）より少なく、「会社員（その他）」、「公務員」と「パート・アルバイト・派遣など」は前回（9.3%、6.3%、11.0%）より多い。

問4. 職業								
	全体	農林水産業の自営業主	農林水産業の家族従事者	商工・サービス業の自営業主	商工・サービス業の家族従事者	自由業(開業医・弁護士・芸術家など)	会社員(事務職)	会社員(技術職)
前回	399	21	8	15	6	3	14	27
	100.0	5.3	2.0	3.8	1.5	0.8	3.5	6.8
今回	381	15	6	9	6	1	29	32
	100.0	3.9	1.6	2.4	1.6	0.3	7.6	8.4

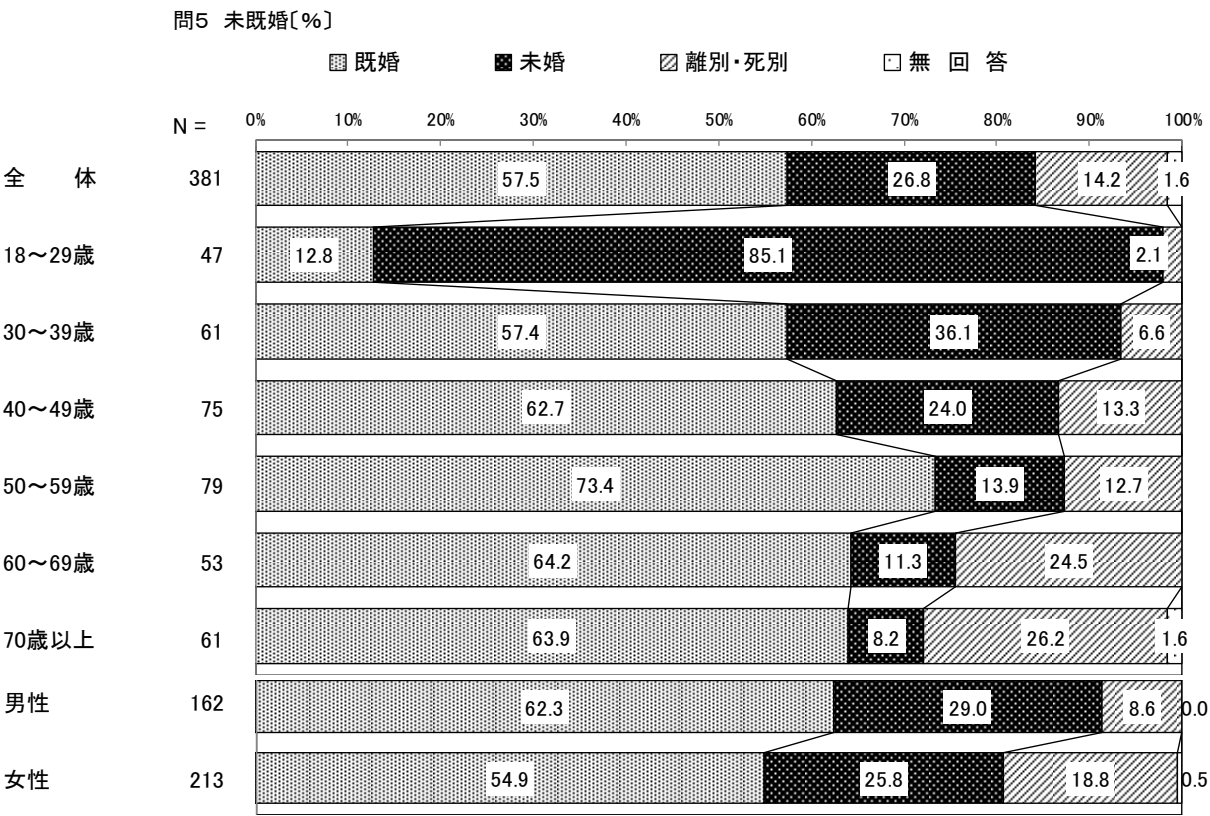
	会社員(その他)	公務員	パート・アルバイト・派遣など	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
前回	37	25	44	52	3	116	23	5
	9.3	6.3	11.0	13.0	0.8	29.1	5.8	1.3
今回	54	42	58	24	18	58	22	7
	14.2	11.0	15.2	6.3	4.7	15.2	5.8	1.8

問5 あなたは結婚していますか（事実婚を含む）。

全体では、「既婚」が57.5%と多く、「未婚」が26.8%、「離別・死別」が14.2%と続いている。

年代別では、「既婚」は50～59歳で73.4%と多く、「未婚」は18～29歳で85.1%、「離別・死別」は60～69歳と70歳以上で25%前後と多い。

男女別では、「既婚」は男性で62.3%、女性で54.9%と男性の方がやや多い。



【前回調査との比較】「既婚」が前回（70.2%）より少なく、「未婚」は前回（12.8%）より多い。

問5. 未既婚					
	全体	未婚	既婚	離別・死別	無回答
前回	399 100.0	51 12.8	280 70.2	63 15.8	5 1.3
今回	381 100.0	102 26.8	219 57.5	54 14.2	6 1.6

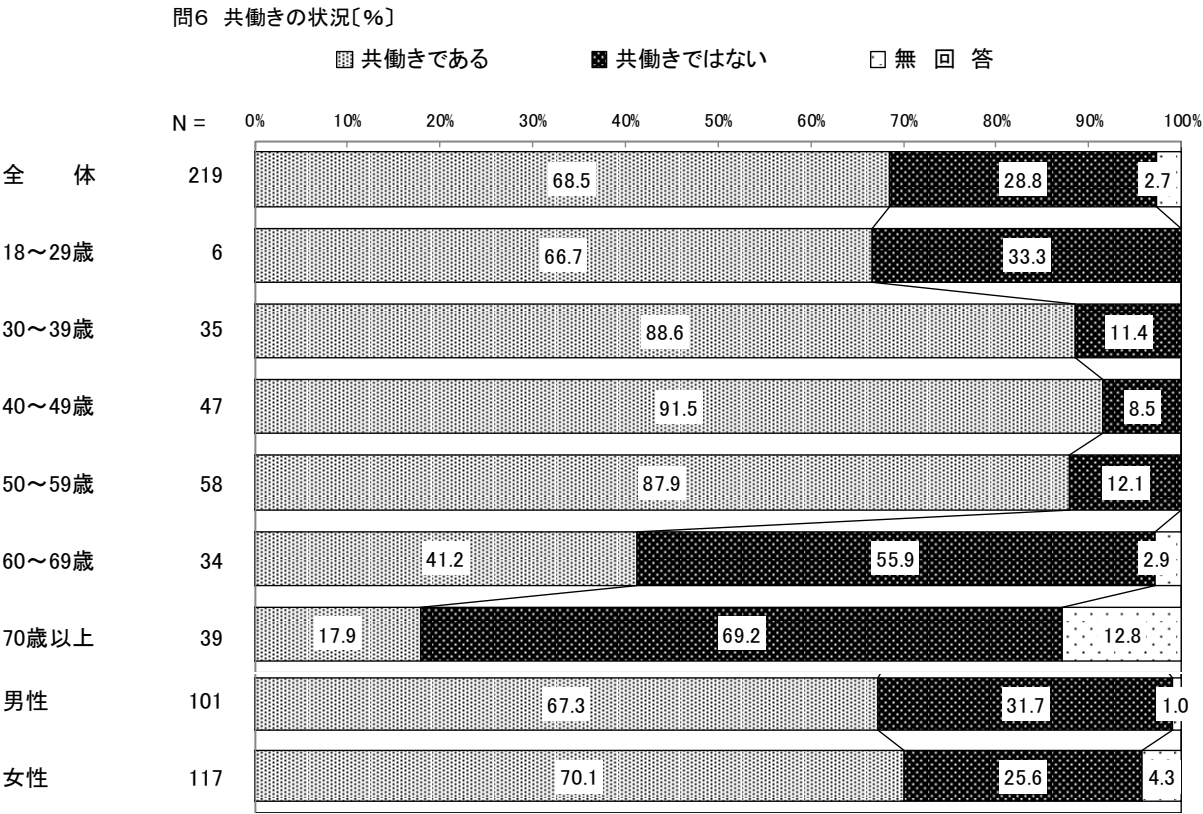
問6 （問5で1と回答した方に）共働きの状況についてお答えください。

全体では、「共働きである」が68.5%と多く、「共働きではない」が28.8%である。

年代別では、30・40・50歳代で「共働きである」が90%前後と多い。

男女別では、「共働きではない」は男性で31.7%、女性で25.6%と男性の方がやや多い。

性・年代別では、「共働きである」は男性の30～39歳で88.9%、女性の40～49歳で100%と多い。



【前回調査との比較】「共働きである」が前回（51.4%）から特に増えている。

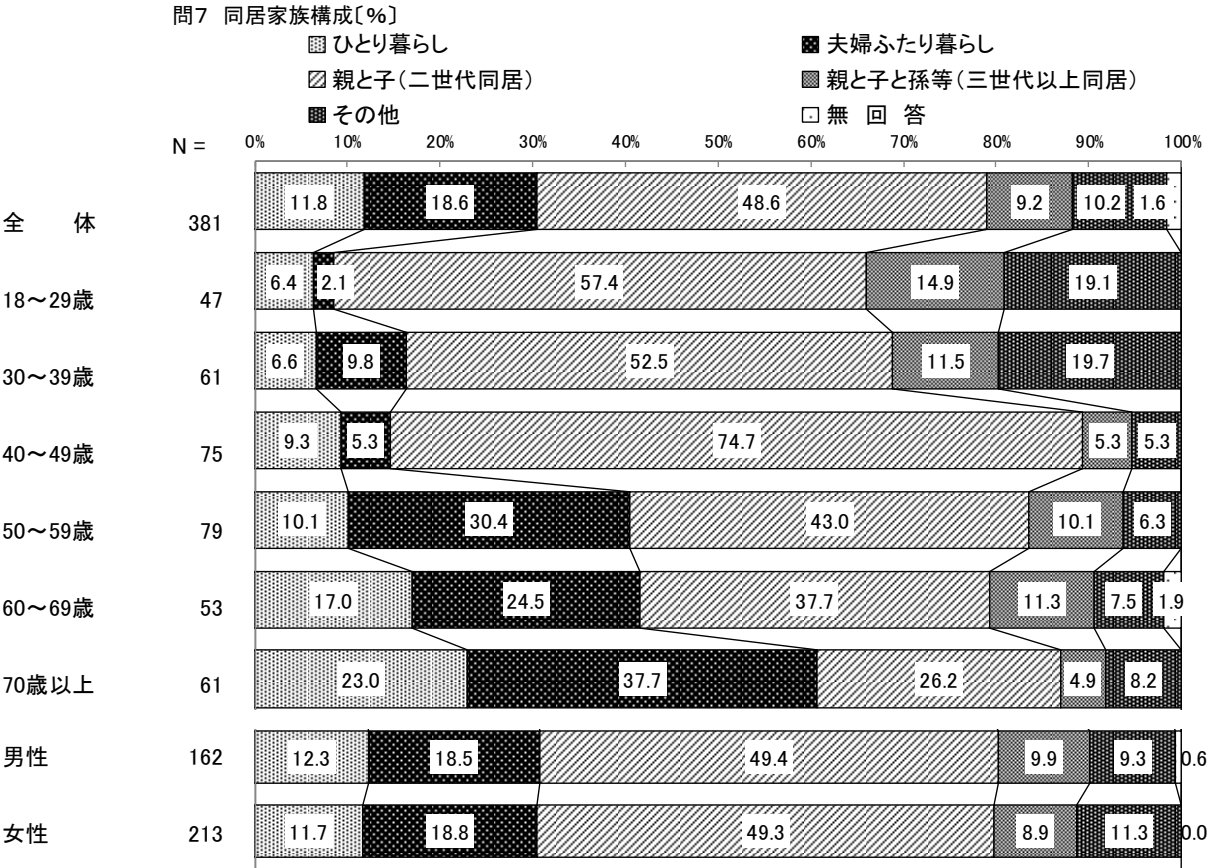
問6. 共働きの状況				
	全体	共働きである	共働きではない	無回答
前回	280 100.0	144 51.4	117 41.8	19 6.8
今回	219 100.0	150 68.5	63 28.8	6 2.7

問7 同居家族の構成についてお答えください。

全体では、「親と子（二世代同居）」が48.6%と多く、「夫婦ふたり暮らし」が18.6%、「ひとり暮らし」が11.8%と続いている。

年代別では、「親と子（二世代同居）」が40～49歳で74.7%と多く、「ひとり暮らし」は年代が上がる则多くなり、70歳以上で23.0%である。

性・年代別では、「親と子（二世代同居）」は男女ともに40～49歳で75%程度と多く、「夫婦ふたり暮らし」は男性の70歳以上で42.9%と多い。



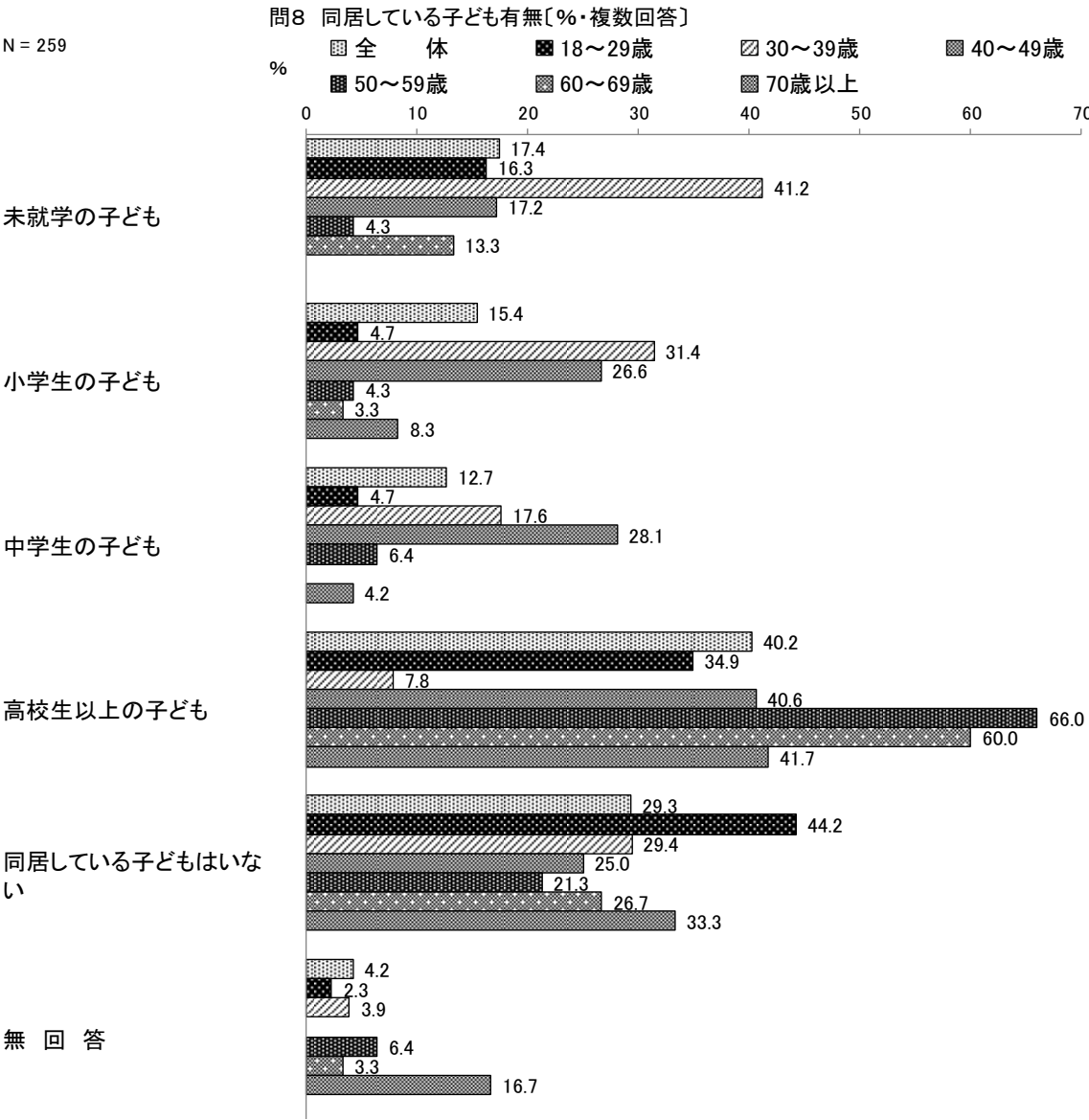
【前回調査との比較】「夫婦ふたり暮らし」が前回（31.1%）から特に減っている。

問7. 同居家族の構成							
	全体	ひとり暮らし	夫婦ふたり暮らし	親と子(二世 代同居)	親と子と孫 など(三世代 以上同居)	その他	無回答
前回	399	34	124	161	42	33	5
	100.0	8.5	31.1	40.4	10.5	8.3	1.3
今回	381	45	71	185	35	39	6
	100.0	11.8	18.6	48.6	9.2	10.2	1.6

問8 (問7で3～5と回答した方に)同居している子どもの有無についてお答えください。

全体では、「高校生以上の子ども」が40.2%と最も多く、「同居している子どもはいない」が29.3%、「未就学の子ども」が17.4%と続いている。

年代別では、30～39歳で「未就学の子ども」が41.2%、「小学生の子ども」が31.4%と多く、50・60歳代で「高校生以上の子ども」が60%を超えて多い。



【前回調査との比較】「未就学の子どもがいる」が前回（10.2%）より多い。

問8. 同居している子ども							
	全体	未就学の子どもがいる	小学生の子どもがいる	中学生の子どもがいる	高校生以上の子どもがいる	同居している子どもはいない	無回答
前回	268 100.0	24 10.2	38 16.1	19 8.1	99 41.9	65 27.5	23 9.7
今回	309 100.0	45 17.4	40 15.4	33 12.7	104 40.2	76 29.3	11 4.2

2 男女平等意識

問9 あなたは、今の佐川町の現状をみて、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

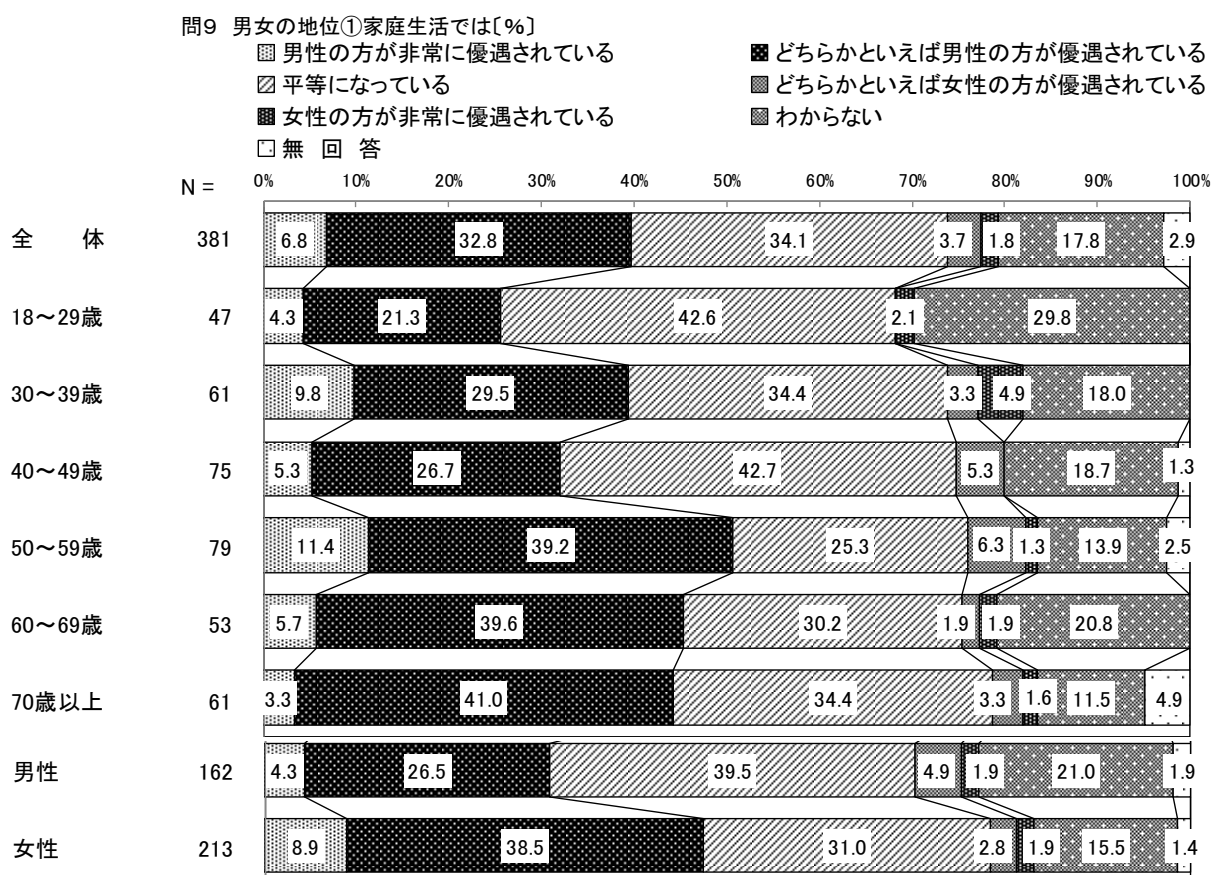
①家庭生活では

全体では、『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計、以下（ ）内省略）が39.6%と多く、「平等になっている」が34.1%、「わからない」が17.8%である。

年代別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は50・60歳代と70歳以上で40%前後と多い。

男女別では、『男性の方が優遇されている』は女性で47.4%、男性で30.8%と女性の方が特に多く、「平等になっている」は男性で39.5%、女性で31.0%と男性の方が多い。

性・年代別では、「平等になっている」は40～49歳の男性で54.3%、女性で32.5%と男性の方が多い。



【前回調査との比較】「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が前回（34.3%）よりやや少ない。

問9. ①家庭生活では								
	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399 100.0	23 5.8	137 34.3	137 34.3	13 3.3	3 0.8	65 16.3	21 5.3
今回	381 100.0	26 6.8	125 32.8	130 34.1	14 3.7	7 1.8	68 17.8	11 2.9

②職場では

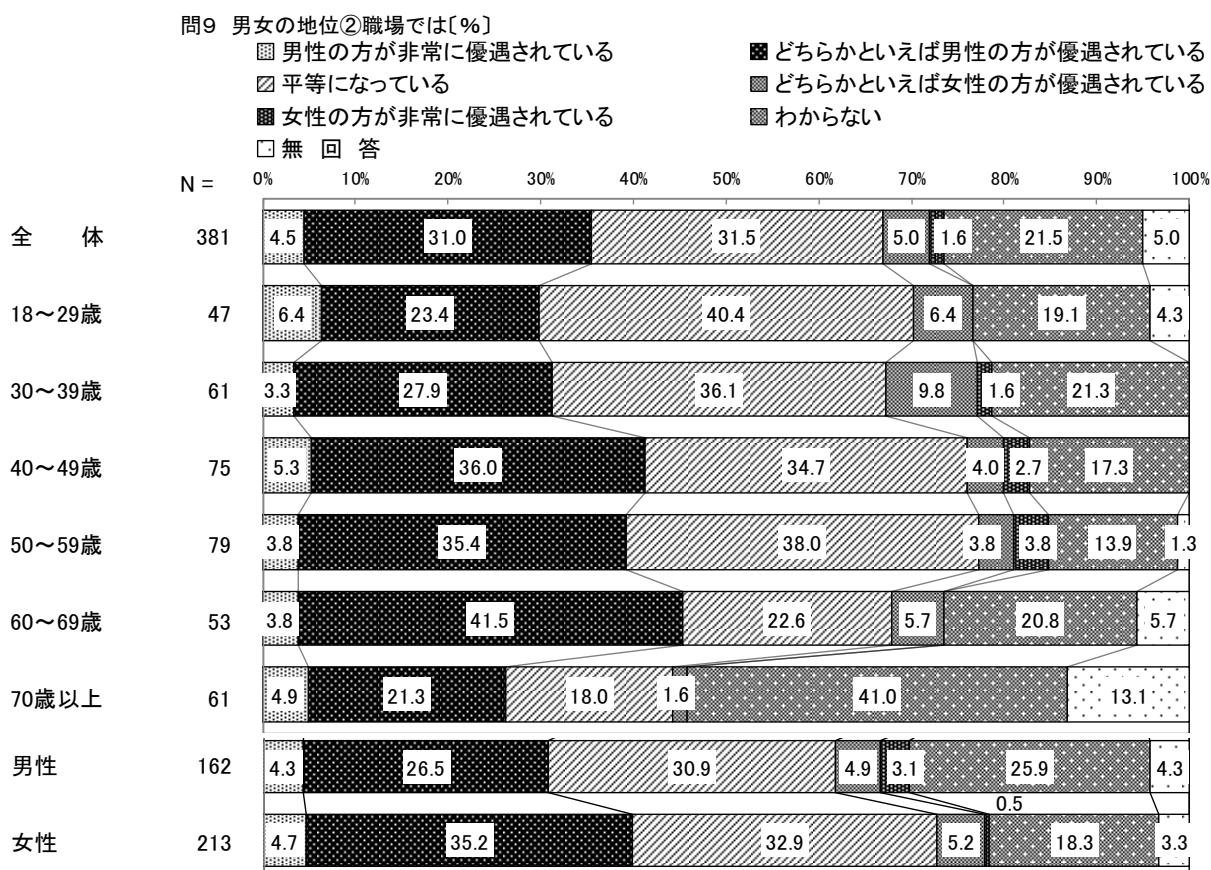
全体では、「平等になっている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」がともに30%台と多く、「わからない」が21.5%と続いている。

年代別では、『男性の方が優遇されている』が60～69歳で45.3%と多く、「平等になっている」が18～29歳で40.4%と多い。

男女別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は女性で35.2%、男性で26.5%と女性の方が多い。

性・年代別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は50～59歳の女性で43.2%、男性で25.7%と女性の方が多い。「わからない」は70歳以上の男性で35.7%と多い。

世帯構成別では、親と子と孫等（三世代以上同居）で「平等になっている」が42.9%と多い。



【前回調査との比較】「平等になっている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が前回（23.6%、2.3%）より多い。

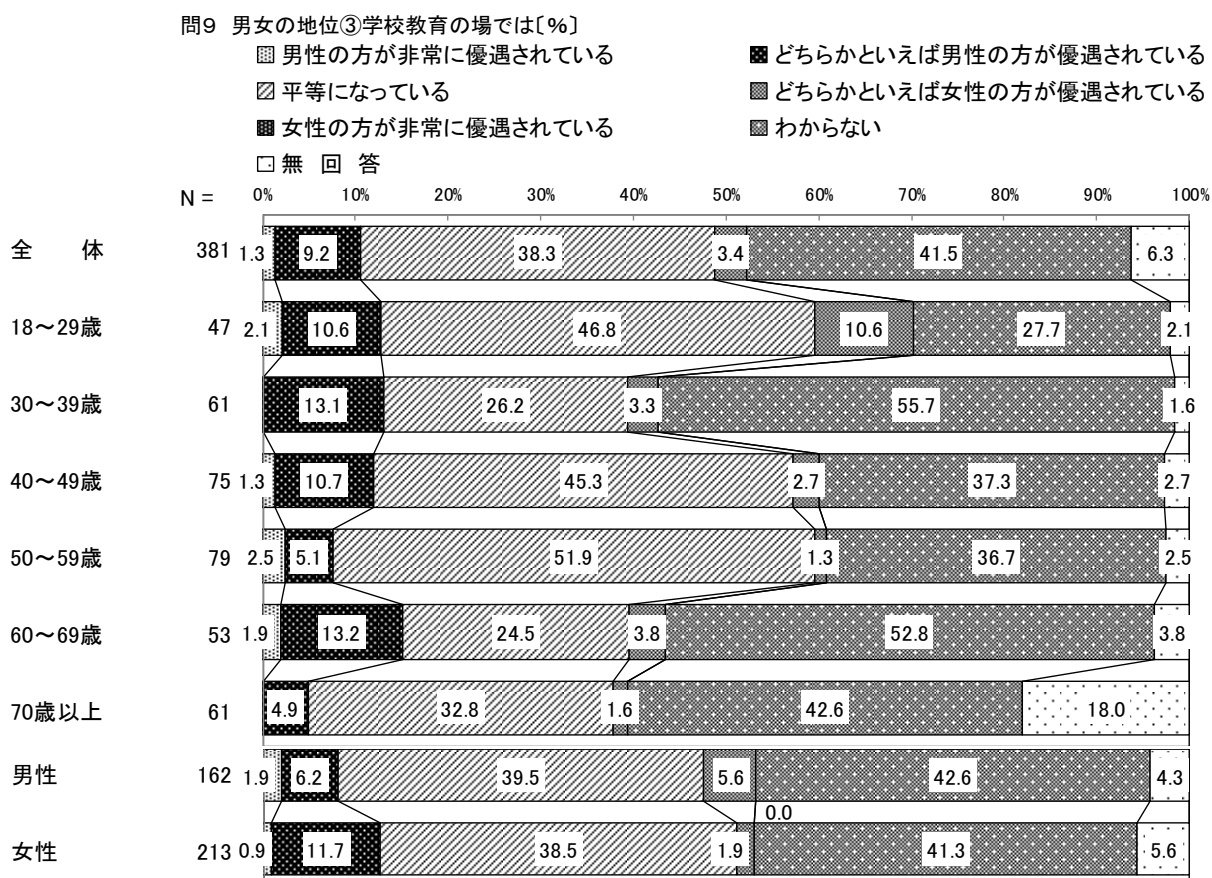
問9. ②職場では								
	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	19	124	94	9	0	112	41
	100.0	4.8	31.1	23.6	2.3	0.0	28.1	10.3
今回	381	17	118	120	19	6	82	19
	100.0	4.5	31.0	31.5	5.0	1.6	21.5	5.0

③学校教育の場では

全体では、「平等になっている」と「わからない」が40%前後回答されている。

年代別では、「平等になっている」が40・50歳代で50%前後と多く、30～39歳と60～69歳で25%前後と少ない。18～29歳で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」がともに10.6%回答されている。

性・年代別では、「平等になっている」は男性の50～59歳で57.1%、女性の18～29歳で51.7%と多い。



【前回調査との比較】「平等になっている」は前回（41.6%）よりやや少ない。

問9. ③学校教育の場では								
	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399 100.0	7 1.8	26 6.5	166 41.6	9 2.3	0 0.0	147 36.8	44 11.0
今回	381 100.0	5 1.3	35 9.2	146 38.3	13 3.4	—	158 41.5	24 6.3

④地域活動の中では

全体では、「平等になっている」が33.9%と多く、「わからない」が28.9%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が23.6%と続いている。

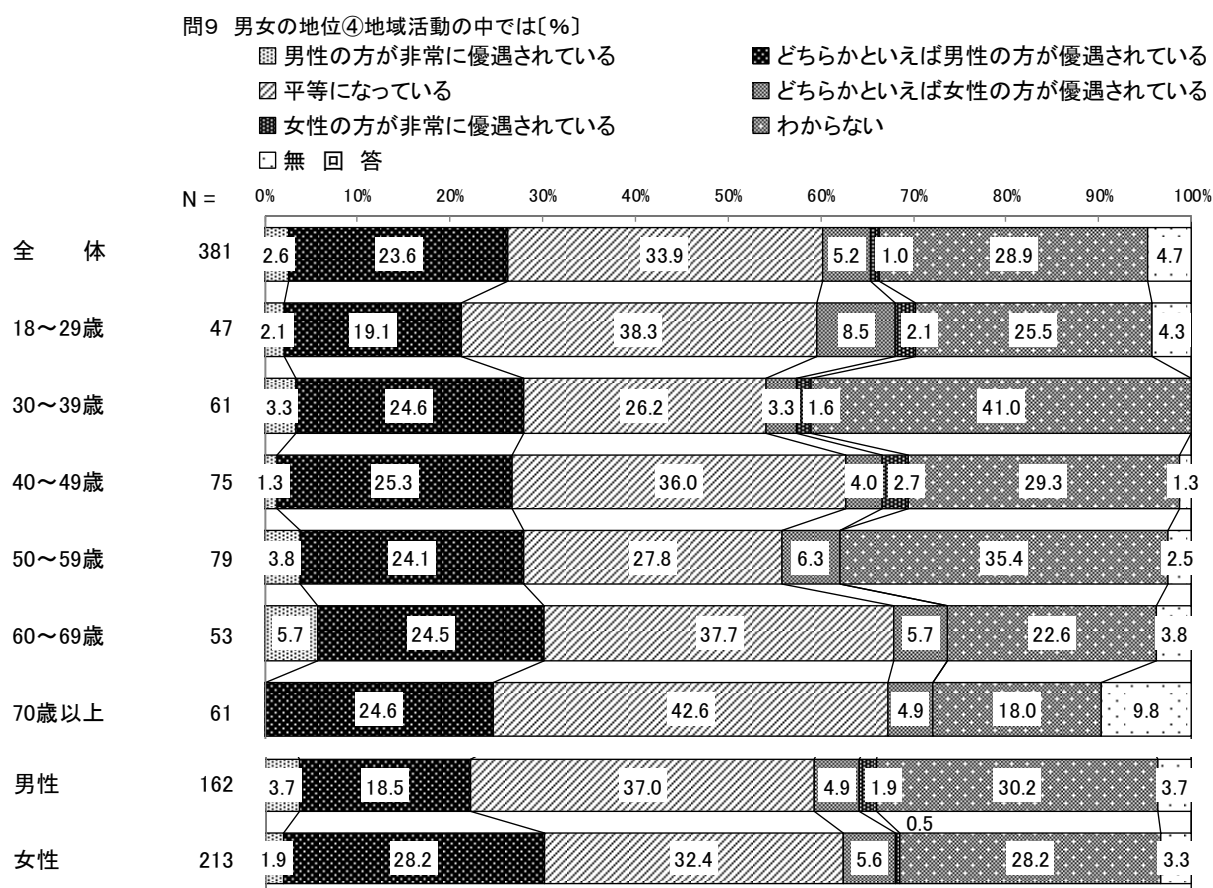
年代別では、70歳以上で「平等になっている」が42.6%と多く、30～39歳と50～59歳で「わからない」が35%を超えて多い。

男女別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は女性で28.2%、男性で18.5%と女性の方が多い。

性・年代別では、「平等になっている」は70歳以上の男性で57.1%、女性で30.3%と男性の方が多い。

職業別では、「平等になっている」が専業主婦・主夫で54.2%、学生で44.4%と多い。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が農林水産業の家族従事者で50.0%、公務員で35.7%と多い。

世帯構成別では、「平等になっている」が親と子と孫等（三世代以上同居）で45.7%と多く、ひとり暮らしで17.8%と少ない。



【前回調査との比較】「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が前回（2.8%）よりやや多い。

問9. ④地域活動の中では								
	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	11	102	125	11	0	112	38
	100.0	2.8	25.6	31.3	2.8	0.0	28.1	9.5
今回	381	10	90	129	20	4	110	18
	100.0	2.6	23.6	33.9	5.2	1.0	28.9	4.7

⑤議会や政治の場では

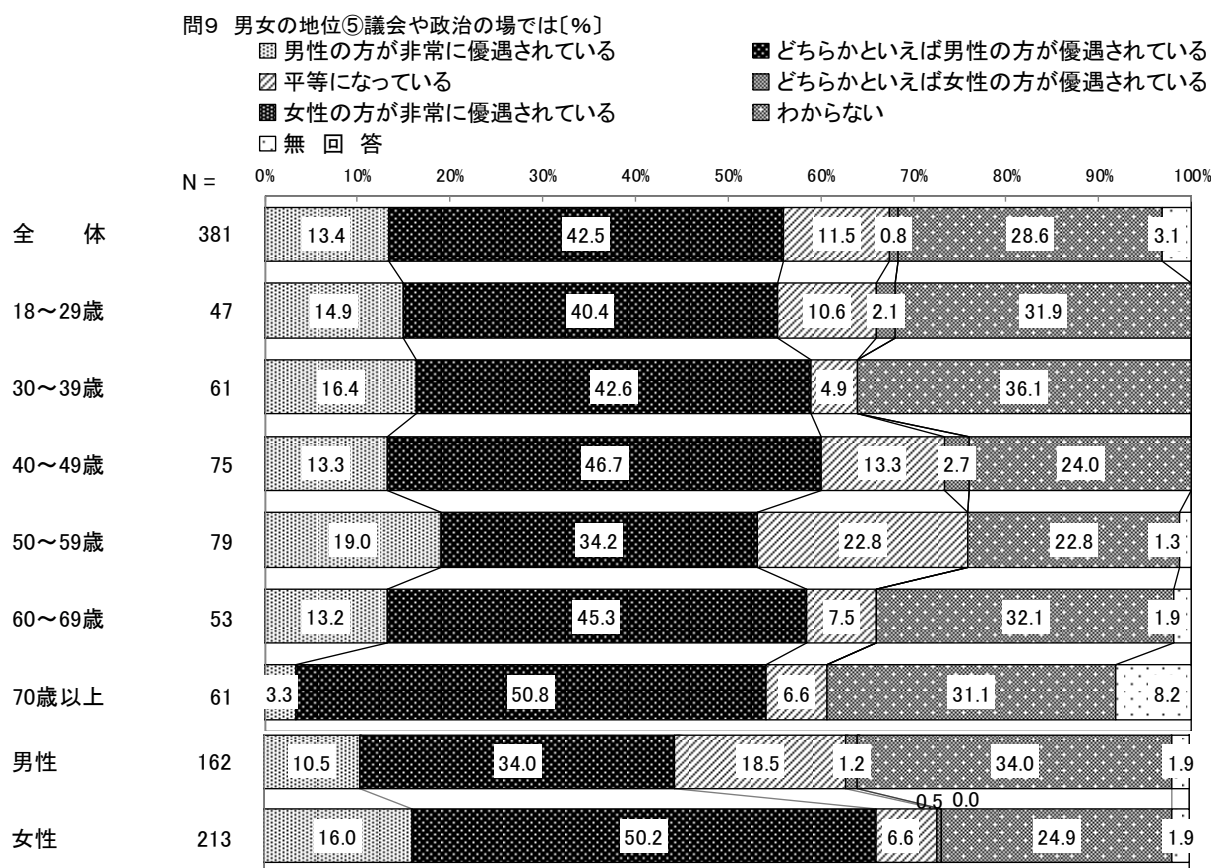
全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.5%と多く、「男性の方が非常に優遇されている」と合わせて『男性の方が優遇されている』は55.9%と多い。

年代別では、「平等になっている」が50～59歳で22.8%と最も多い。

男女別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は女性で50.2%、男性で34.0%と女性の方が多い。

性・年代別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は女性の60～69歳と40～49歳で55.0%を超えて多く、男性の50～59歳で20.0%と少ない。「平等になっている」は男性の50～59歳で37.1%と多い。

職業別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が農林水産業の家族従事者で66.7%、専業主婦・主夫で58.3%と多い。「平等になっている」が商工・サービス業の自営業主で33.3%、公務員で23.8%と多い。



【前回調査との比較】「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は前回（37.8%）よりやや多い。

問9. ⑤議会や政治の場では								
	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399 100.0	49 12.3	151 37.8	55 13.8	1 0.3	0 0.0	108 27.1	35 8.8
今回	381 100.0	51 13.4	162 42.5	44 11.5	3 0.8	-	109 28.6	12 3.1

⑥法律や制度の上では

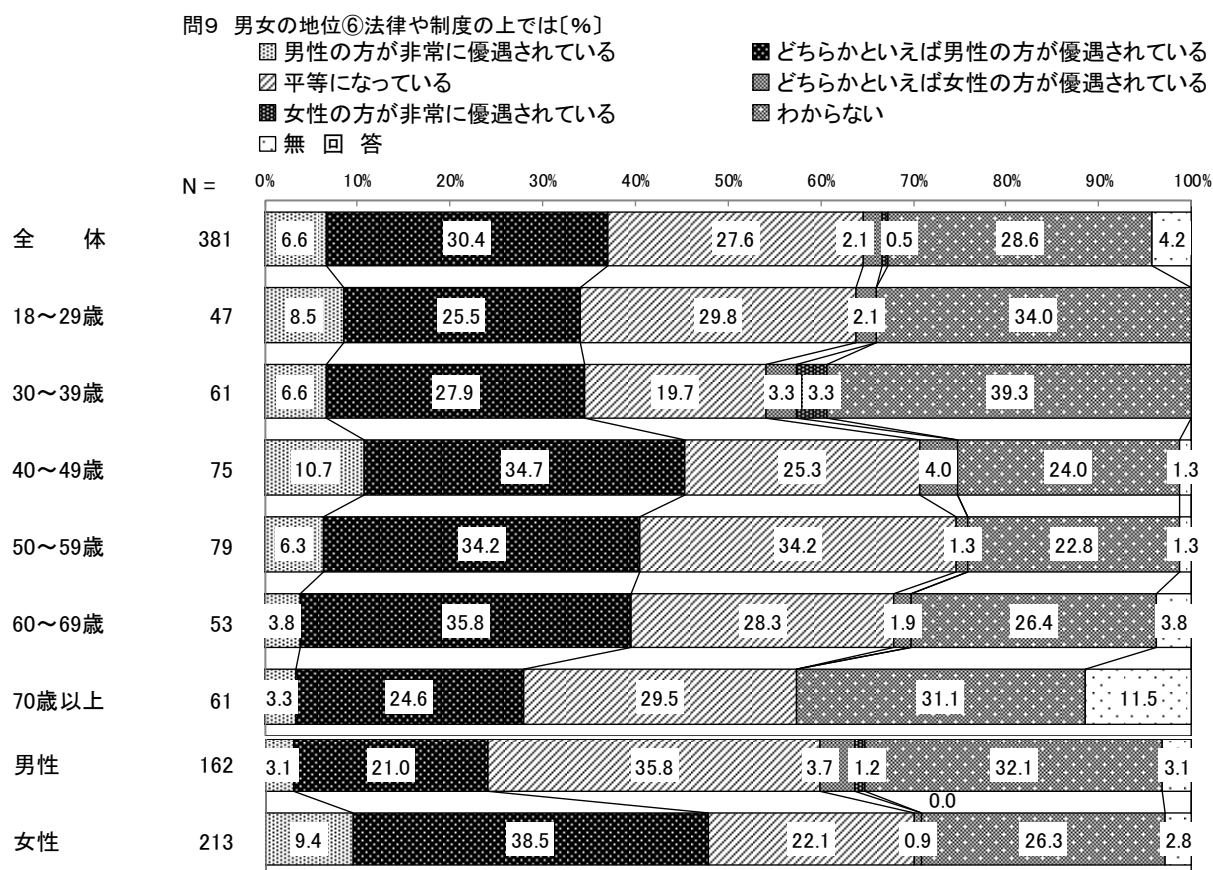
全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が30.4%と多く、「平等になっている」と「わからない」が28%前後で続いている。

年代別では、「平等になっている」が50～59歳で34.2%と最も多い。『男性の方が優遇されている』が40～49歳で45.4%と多い。

男女別では、『男性の方が優遇されている』は女性で47.9%、男性で24.1%と女性の方が特に多い。

性・年代別では、「平等になっている」は男性の50～59歳と70歳以上で45%前後と多い。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は女性の60～69歳で53.8%、40～49歳で47.5%と多く、「男性の方が非常に優遇されている」は女性の40～49歳で15.0%回答されている。

職業別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が農林水産業の家族従事者で50.0%、パート・アルバイト・派遣等で43.1%と多い。「平等になっている」が商工・サービス業の自営業主で44.4%、公務員で42.9%と多い。



【前回調査との比較】「平等になっている」は前回（32.1%）よりやや少なく、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が前回（25.8%）よりやや多い。

問9. ⑥法律や制度の上では								
	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	24	103	128	14	1	95	34
	100.0	6.0	25.8	32.1	3.5	0.3	23.8	8.5
今回	381	25	116	105	8	2	109	16
	100.0	6.6	30.4	27.6	2.1	0.5	28.6	4.2

⑦社会通念やしきたり・慣習では

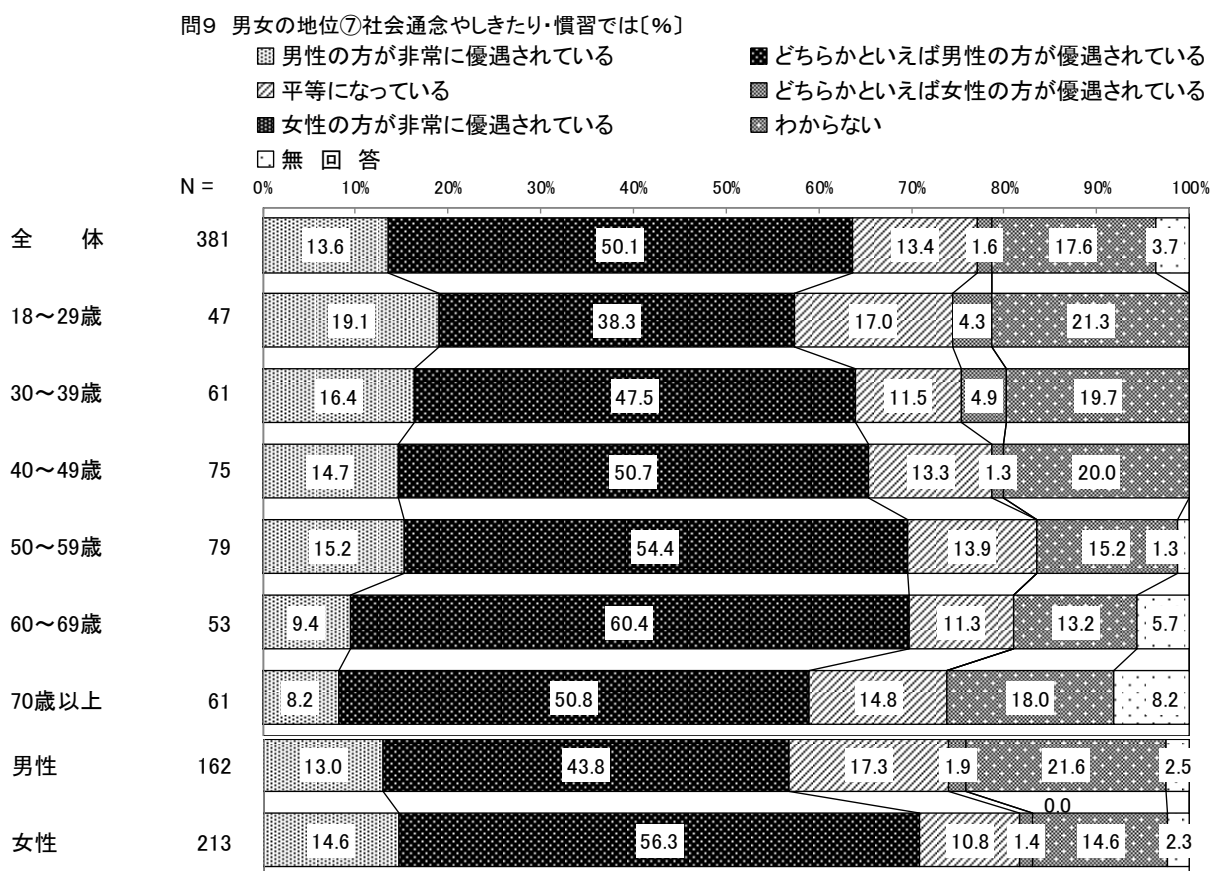
全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が50.1%と半数を占め、「わからない」と「平等になっている」が15%前後で続いている。

年代別では、『男性の方が優遇されている』が50・60歳代で70%近くと多い。

男女別では、『男性の方が優遇されている』は女性で70.9%、男性で56.8%と女性の方が特に多い。

性・年代別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は60～69歳の女性で76.9%と男性の46.2%より特に多い。

職業別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が専業主婦・主夫で62.5%、会社員（事務職）で62.1%と多い。



【前回調査との比較】「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が非常に優遇されている」が前回（10.5%、48.9%）よりやや多い。

問9. ⑦社会通念やしきたり・慣習では								
	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	42	195	56	9	0	67	30
	100.0	10.5	48.9	14.0	2.3	0.0	16.8	7.5
今回	381	52	191	51	6	-	67	14
	100.0	13.6	50.1	13.4	1.6	-	17.6	3.7

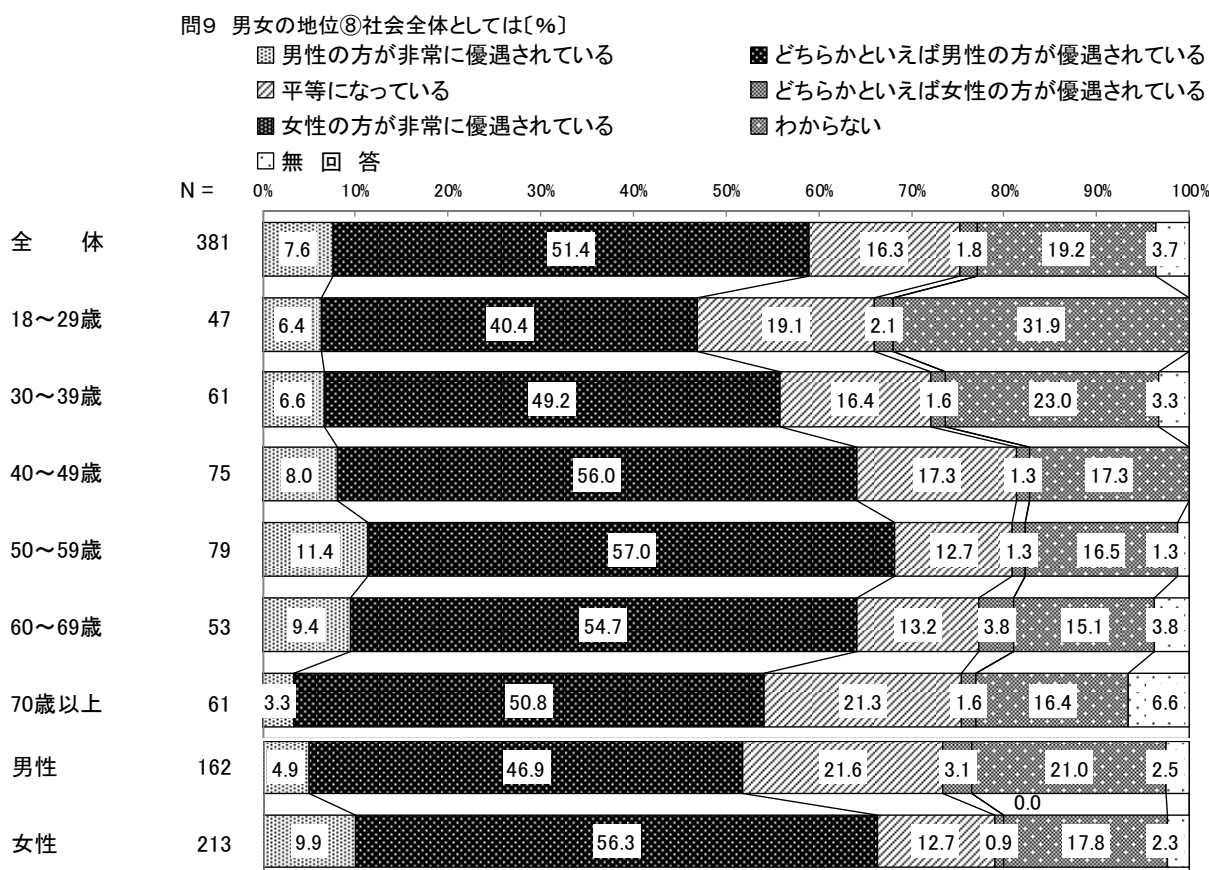
⑧社会全体としては

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が51.4%と半数以上を占め、「わからない」が19.2%、「平等になっている」が16.3%と続いている。

年代別では、40・50・60歳代で『男性の方が優遇されている』が65%前後と多い。

男女別では、『男性の方が優遇されている』は女性で66.2%、男性で51.8%と女性の方が多い。

職業別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が農林水産業の家族従事者で66.7%、専業主婦・主夫で62.5%と多い。「平等になっている」が商工・サービス業の自営業主と商工・サービス業の家族従事者でともに33.3%回答されている。



【前回調査との比較】「平等になっている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は前回（19.0%、3.3%）より少なく、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「男性の方が非常に優遇されている」は前回（46.9%、6.0%）よりやや多い。

問9. ⑧社会全体としては								
	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399 100.0	24 6.0	187 46.9	76 19.0	13 3.3	1 0.3	70 17.5	28 7.0
今回	381 100.0	29 7.6	196 51.4	62 16.3	7 1.8	-	73 19.2	14 3.7

問 10 社会にはいろいろな面で男女不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。

全体では、「男女の役割についての固定観念」が65.9%と最も多く、「社会通念やしきたり・慣習」が53.8%、「男女の身体的・生理的な違い」が46.5%と続いている。

年代別では、「男女の役割についての固定観念」が18～29歳と40～49歳で70%を超えて多く、「社会通念やしきたり・慣習」が60～69歳で69.8%、「働く上での有利・不利」が18～29歳、40～49歳と60～69歳で50%前後と多い。

男女別では、「男女の役割についての固定観念」、「法律や制度上の差」と「男女差の自覚やお互いの理解の不足」は女性で72.3%、22.5%、50.7%、男性で59.3%、13.0%、39.5%といずれも女性の方が多い。

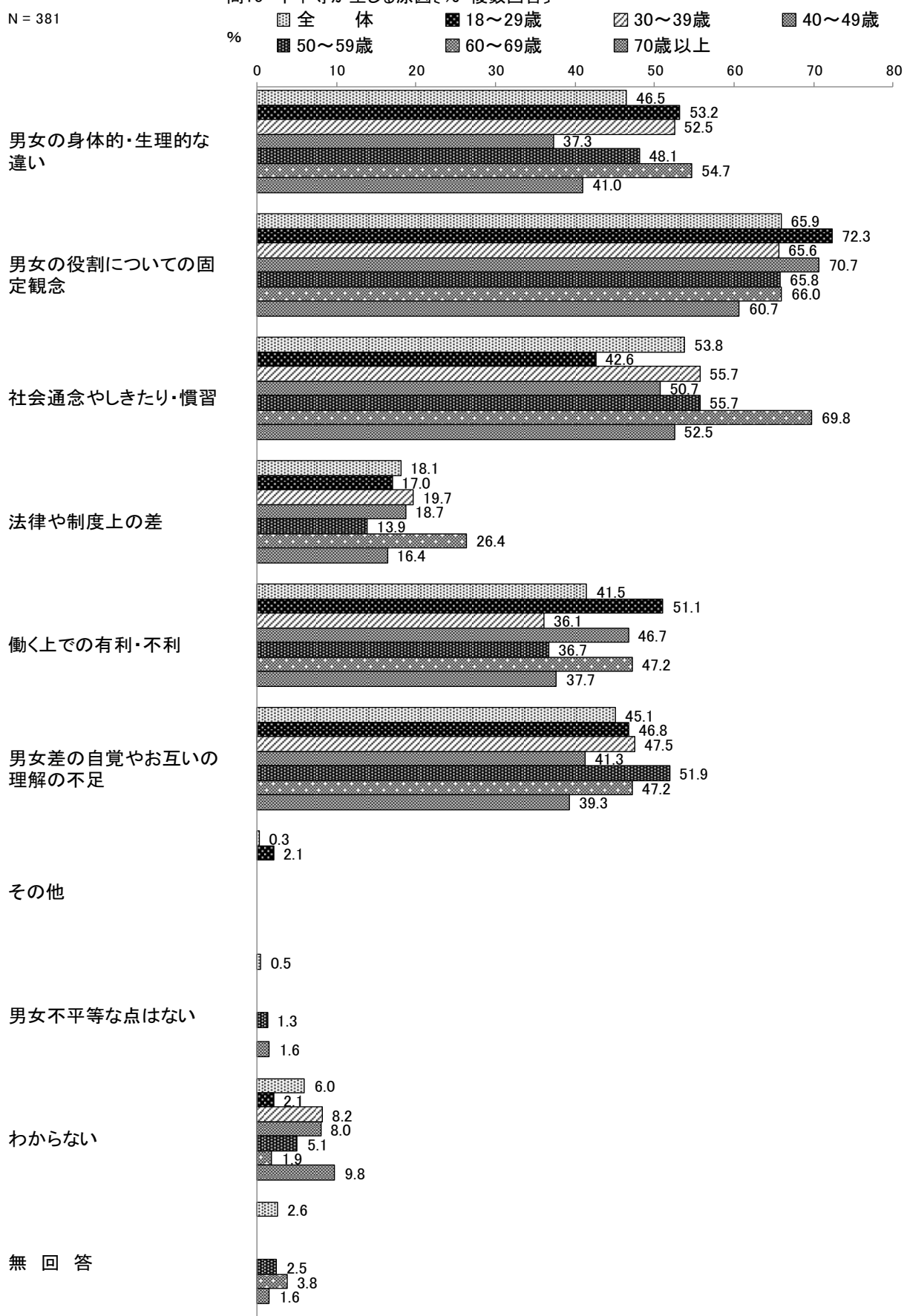
性・年代別では、男性の18～29歳で「男女の役割についての固定観念」が83.3%、「働く上での有利・不利」が61.1%と多く、60～69歳で「社会通念やしきたり・慣習」が69.2%と多い。女性は40～49歳で「男女の役割についての固定観念」が80.0%、50～59歳で「男女差の自覚やお互いの理解の不足」が63.6%と多い。

職業別では、「男女の役割についての固定観念」は専業主婦・主夫で83.3%、公務員で78.6%と多く、「社会通念やしきたり・慣習」は専業主婦・主夫で75.0%、会社員（事務職）で69.0%と多い。

世帯構成別では、親と子と孫等（三世代以上同居）で「働く上での有利・不利」が51.4%とやや多い。

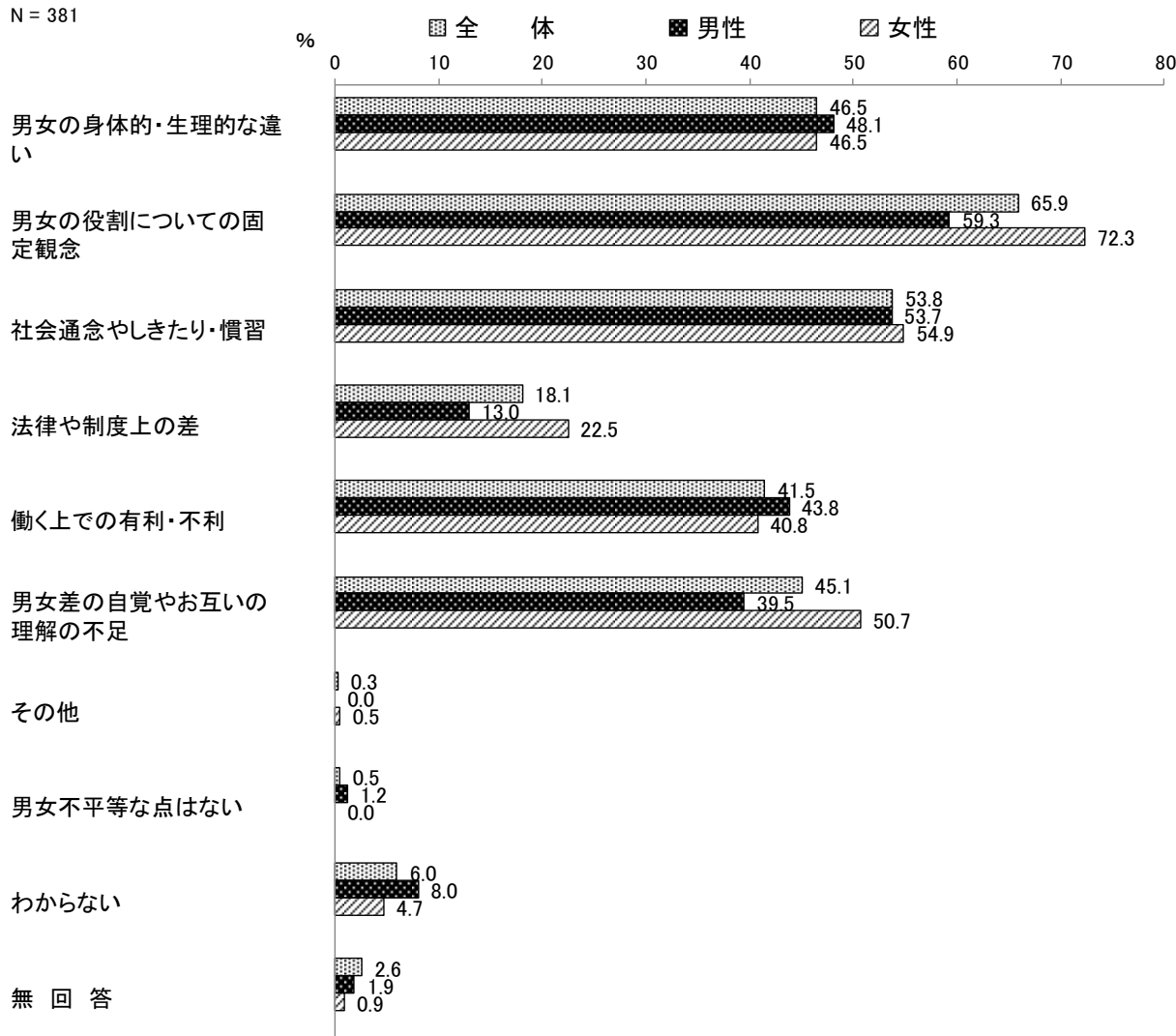
N = 381

問10 不平等が生じる原因[%・複数回答]



N = 381

問10 不平等が生じる原因〔%・複数回答〕



【前回調査との比較】「男女の役割についての固定観念」と「男女差の自覚やお互いの理解の不足」が前回（56.9%、36.6%）より多い。

問10. 男女不平等が生じる原因								
	全体	男女の身体的・生理的な違い	男女の役割についての固定観念	社会通念やしきたり・慣習	法律や制度上の差	働く上での有利・不利	男女差の自覚やお互いの理解の不足	その他
前回	399 100.0	181 45.4	227 56.9	208 52.1	62 15.5	163 40.9	146 36.6	4 1.0
今回	381 100.0	177 46.5	251 65.9	205 53.8	69 18.1	158 41.5	172 45.1	1 0.3

	男女不平等な点はない	わからない	無回答
前回	11 2.8	36 9.0	12 3.0
今回	2 0.5	23 6.0	10 2.6

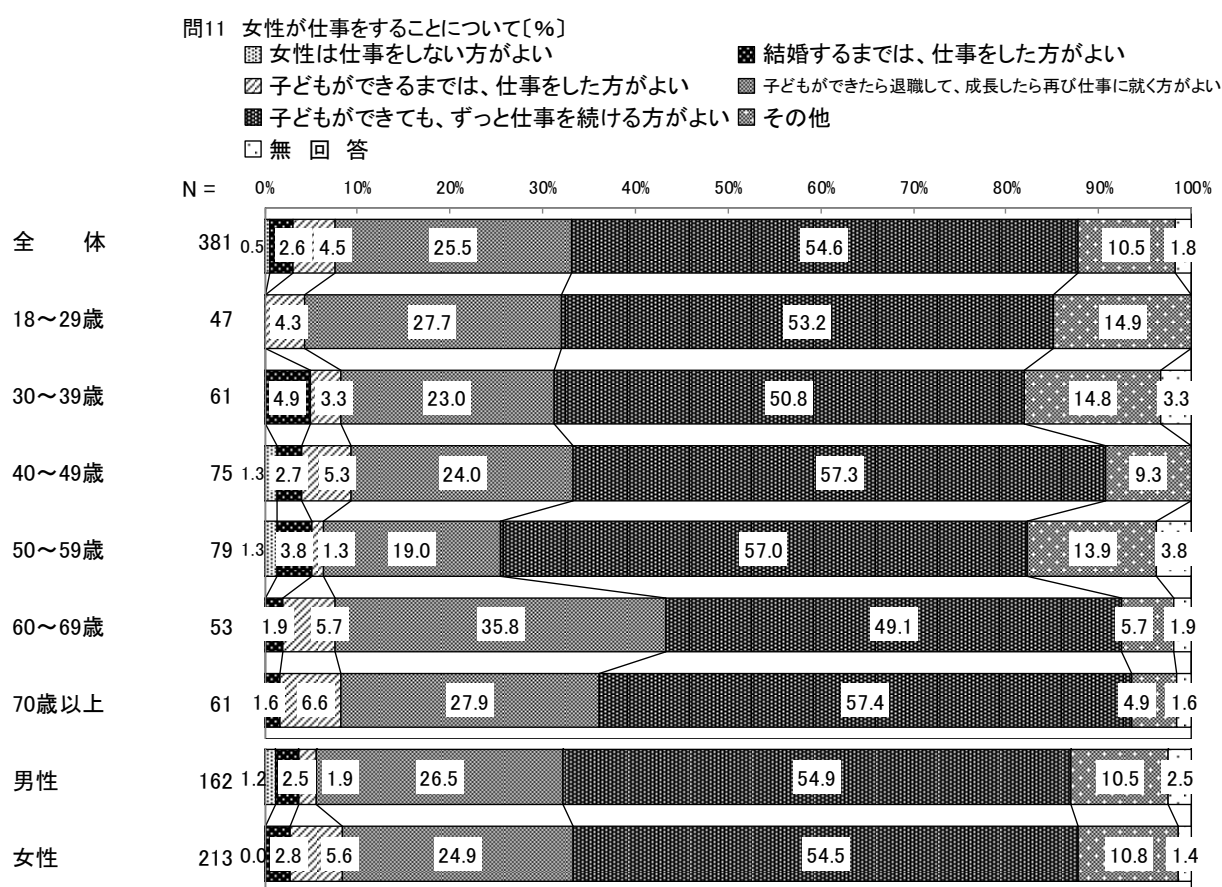
3 職業生活

問 11 女性が仕事をすること（会社等で働くこと）について、あなたはどのように思いますか。

全体では、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が54.6%と多く、「子どもができたなら退職して、成長したら再び仕事に就く方がよい」が25.5%、「その他」が10.5%と続いている。

年代別では、60～69歳で「子どもができたなら退職して、成長したら再び仕事に就く方がよい」が35.8%と最も多い。

同居している子どもの有無別では、小学生の子どもがいる家庭で「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」は45.0%と少ない。



【前回調査との比較】「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が前回（43.6%）より多く、「結婚するまでは、仕事をした方がよい」と「子どもができるまでは、仕事をした方がよい」が前回（5.3%、9.3%）より少ない。

問11. 女性が仕事をすることについて								
	全体	女性は仕事をしない方がよい	結婚するまでは、仕事をした方がよい	子どもができるまでは、仕事をした方がよい	子どもができたなら退職して、子どもが成長したら再び仕事に就く方がよい	子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい	その他	無回答
前回	399 100.0	1 0.3	21 5.3	37 9.3	115 28.8	174 43.6	33 8.3	18 4.5
今回	381 100.0	2 0.5	10 2.6	17 4.5	97 25.5	208 54.6	40 10.5	7 1.8

問 12 あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。

全体では、「家事の負担が大きいこと」が68.0%と多く、「夫や子どもの世話の負担が大きいこと」が56.4%、「高齢者等家族の世話の負担が大きいこと」が36.0%と続いている。

年代別では、18～29歳で「家事の負担が大きいこと」と「夫や子どもの世話の負担が大きいこと」が70%を超えて多く、30～39歳で「保育所等育て支援体制が十分ではないこと」が34.4%、60～69歳で「高齢者等家族の世話の負担が大きいこと」が50.9%と多い。

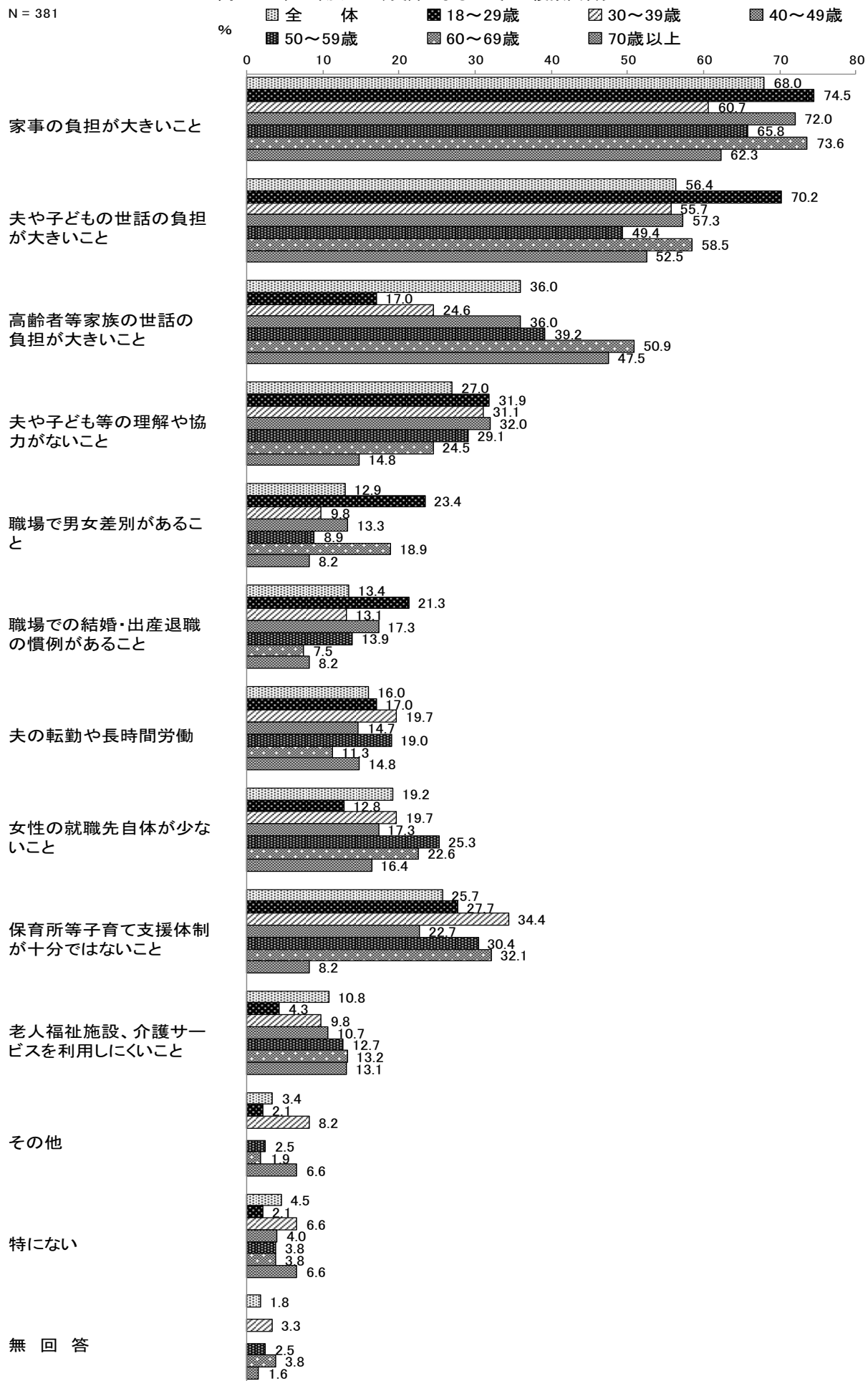
男女別では、「高齢者等家族の世話の負担が大きいこと」は女性で43.2%、男性で27.8%と女性の方が特に多く、「女性の就職先自体が少ないこと」は男性で23.5%、女性で16.4%と男性の方がやや多い。

性・年代別では、男性の18～29歳で「夫や子どもの世話の負担が大きいこと」が77.8%、70歳以上で「高齢者等家族の世話の負担が大きいこと」が46.4%と多く、女性でも「高齢者等家族の世話の負担が大きいこと」は50・60歳代で55%を超え、18～29歳で「職場で男女差別があること」が24.1%、「職場での結婚・出産退職の慣例があること」が31.0%と多い。

職業別では、「家事の負担が大きいこと」は農林水産業の家族従事者と学生とともに83.3%と多く、「夫や子どもの世話の負担が大きいこと」は会社員（事務職）で75.9%、学生で72.2%、専業主婦・主夫で66.7%と多い。「保育所等子育て支援体制が十分ではないこと」は公務員で45.2%、学生で38.9%と多い。

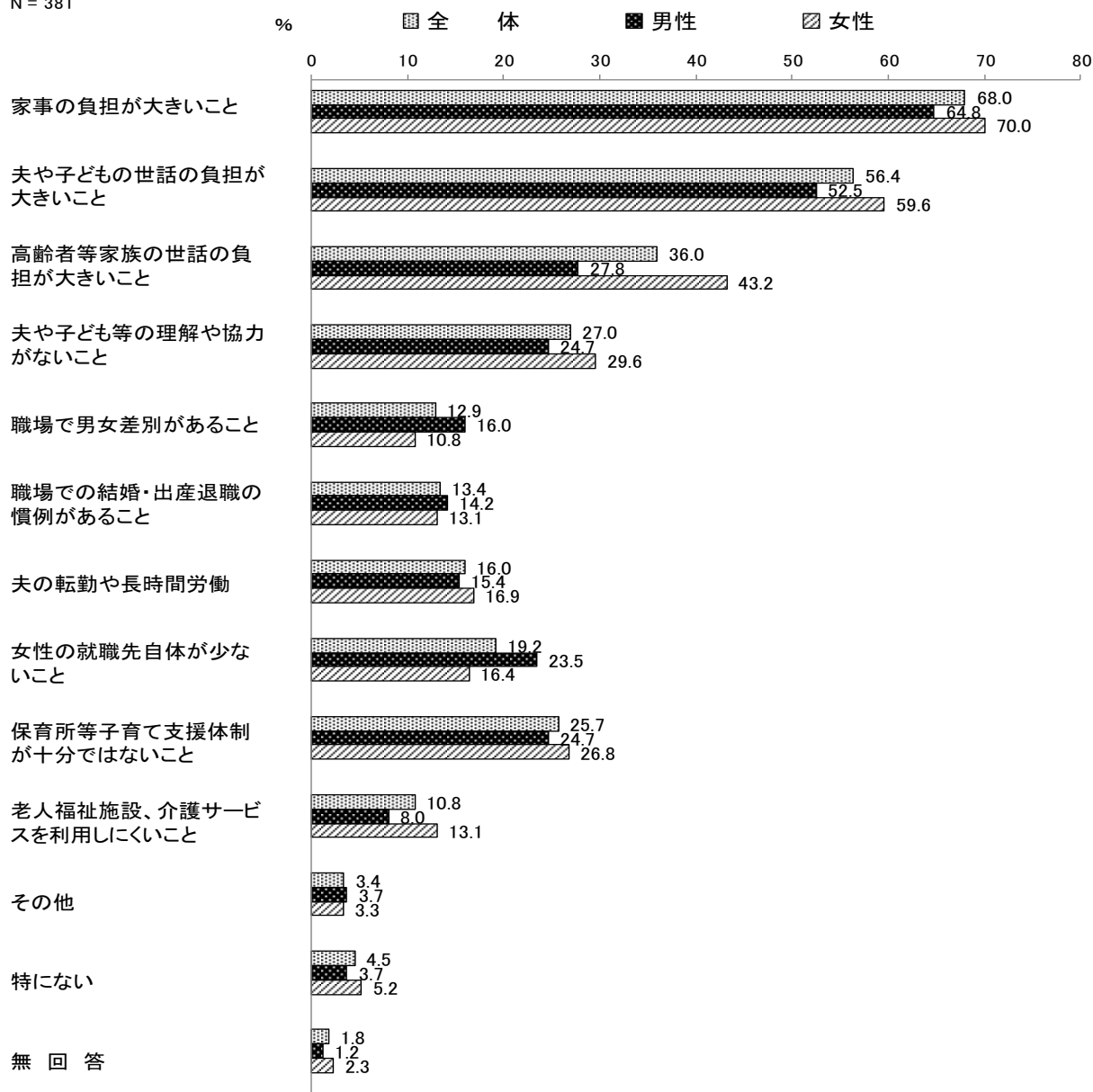
N = 381

問12 女性が働く上で、支障となること〔%・複数回答〕



N = 381

問12 女性が働く上で、支障となること〔%・複数回答〕



【前回調査との比較】「家事の負担が大きいこと」と「夫や子どもなどの理解や協力がないこと」が前回（63.4%、20.6%）より多い。

問12. 女性が働く上で支障となること								
	全体	家事の負担が大きいこと	夫や子どもの世話の負担が大きいこと	高齢者等家族の世話の負担が大きいこと	夫や子どもなどの理解や協力がないこと	職場で男女差別があること	職場での結婚・出産退職の慣例があること	夫の転勤や長時間労働
前回	399 100.0	253 63.4	213 53.4	140 35.1	82 20.6	49 12.3	48 12.0	50 12.5
今回	381 100.0	259 68.0	215 56.4	137 36.0	103 27.0	49 12.9	51 13.4	61 16.0

	女性の就職先自体が少ないこと	保育所など子育て支援体制が十分ではないこと	老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと	その他	支障となることは特にない	無回答
前回	123 30.8	115 28.8	64 16.0	13 3.3	17 4.3	16 4.0
今回	73 19.2	98 25.7	41 10.8	13 3.4	17 4.5	7 1.8

問13 職場での男女の扱いについては、平等になっていると思いますか。

①募集・採用

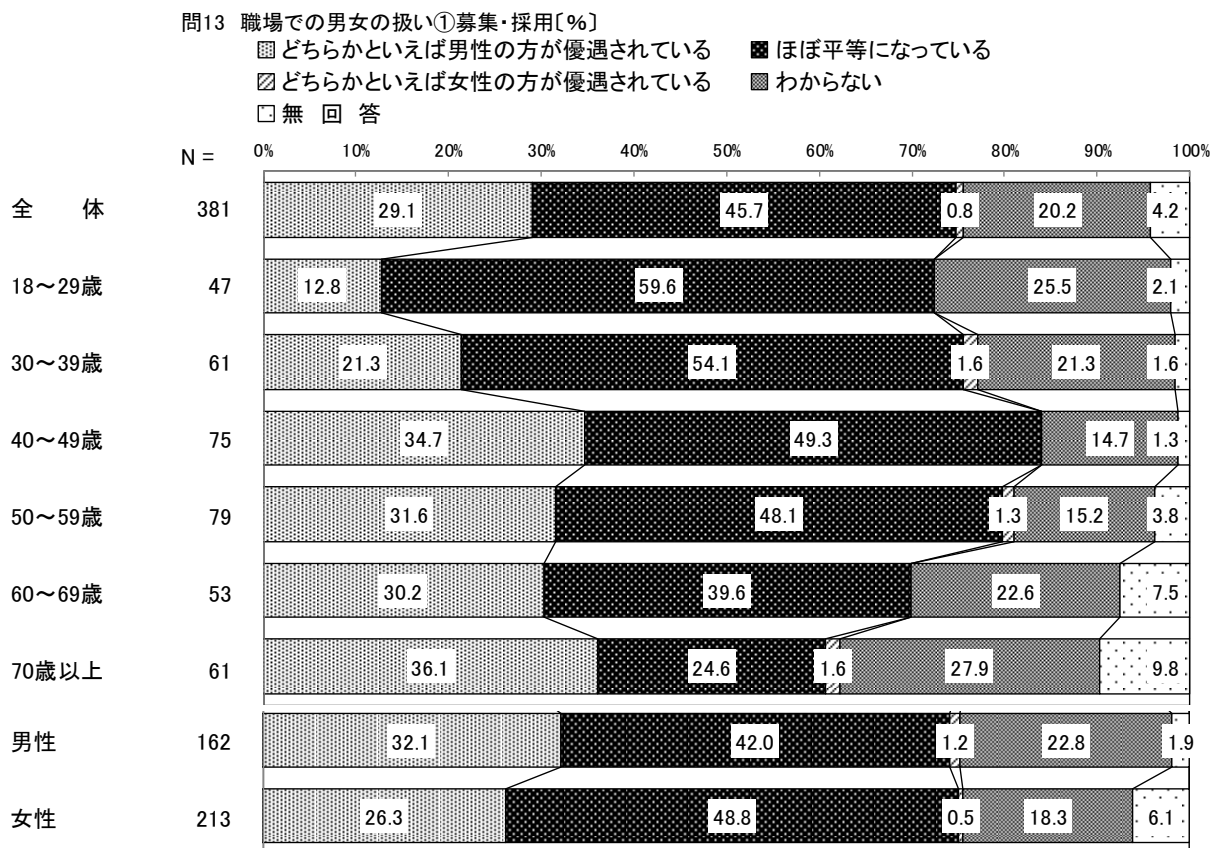
全体では、「ほぼ平等になっている」が45.7%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が29.1%、「わからない」が20.2%と続いている。

年代別では、「ほぼ平等になっている」が18～29歳と30～39歳で55%前後と多い。

男女別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は男性で32.1%、女性で26.3%と男性の方が多い。

性・年代別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は40～49歳の女性で42.5%、男性で25.7%と女性の方が多い。

職業別では、「ほぼ平等になっている」は公務員で73.8%、会社員（事務職）で65.5%と特に多い。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は商工・サービス業の家族従事者で50.0%、農林水産業の自営業主で46.7%、商工・サービス業の自営業主で44.4%と多い。



【前回調査との比較】「ほぼ平等になっている」が前回（38.1%）より多い。

問13. ①募集・採用						
	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399 100.0	119 29.8	152 38.1	9 2.3	87 21.8	32 8.0
今回	381 100.0	111 29.1	174 45.7	3 0.8	77 20.2	16 4.2

②賃金・昇給

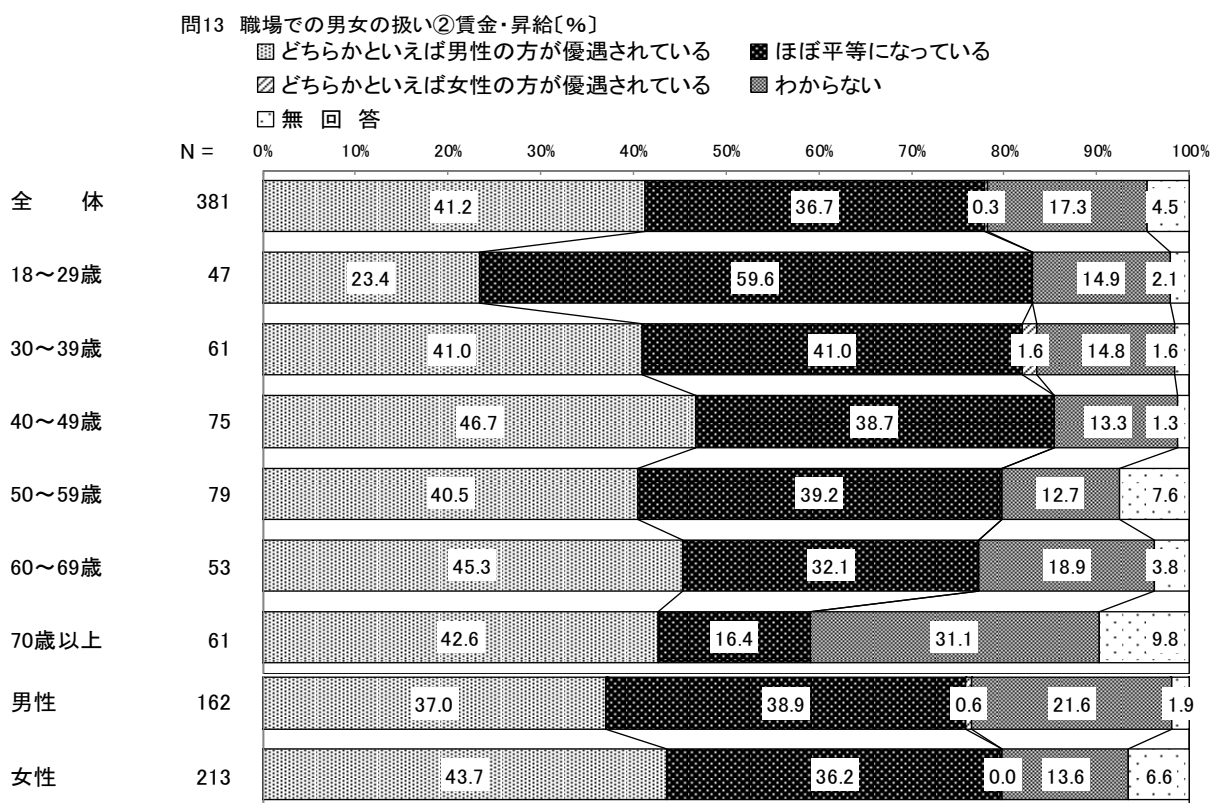
全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が41.2%と多く、「ほぼ平等になっている」が36.7%、「わからない」が17.3%と続いている。

年代別では、「ほぼ平等になっている」が18～29歳で59.6%と多い。

性・年代別では、「ほぼ平等になっている」は30～39歳の男性で60.0%と多く、女性は30.0%と特に少ない。

職業別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は農林水産業の家族従事者で66.7%、商工・サービス業の自営業主で65.5%、パート・アルバイト・派遣等で55.2%と多い。

「ほぼ平等になっている」は公務員で76.2%、商工・サービス業の家族従事者で50.0%と多い。



【前回調査との比較】「ほぼ平等になっている」が前回（24.1%）より多く、「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」が前回（44.6%）よりやや少ない。

問13. ②賃金・昇給						
	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399 100.0	178 44.6	96 24.1	0 0.0	85 21.3	40 10.0
今回	381 100.0	157 41.2	140 36.7	1 0.3	66 17.3	17 4.5

③昇進や昇格

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.0%と多く、「ほぼ平等になっている」は34.4%、「わからない」が18.9%である。

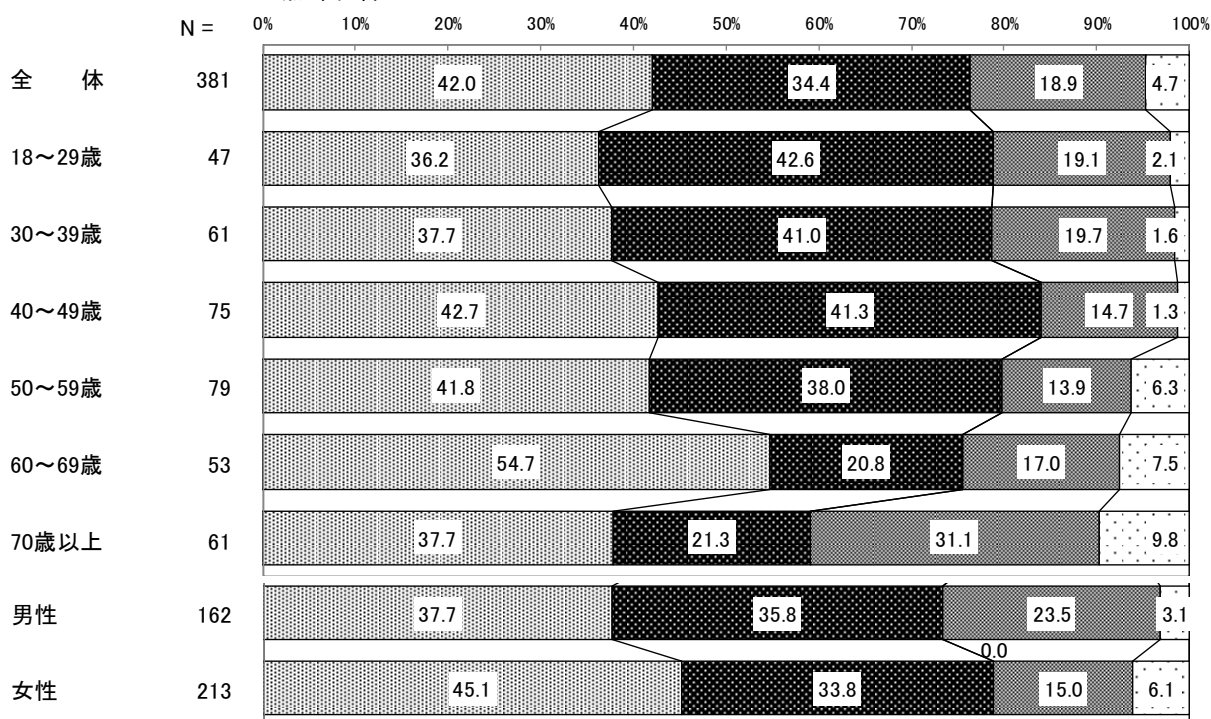
年代別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が60～69歳で54.7%と多い。

性・年代別では、男性の30～39歳で「ほぼ平等になっている」が55.0%と多い。女性は18～29歳で「ほぼ平等になっている」が51.7%、40～49歳で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が65.0%と多い。

職業別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は商工・サービス業の自営業主で66.7%、パート・アルバイト・派遣等で55.2%と多い。「ほぼ平等になっている」は公務員で61.9%、会社員（事務職）で55.2%と多い。

問13 職場での男女の扱い③昇進や昇格[%]

☒ どちらかといえば男性の方が優遇されている ☒ ほぼ平等になっている
☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている ☒ わからない
☐ 無回答



【前回調査との比較】「ほぼ平等になっている」が前回（19.3%）より多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が前回（47.6%）よりやや少ない。

問13. ③昇進や昇格						
	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399 100.0	190 47.6	77 19.3	1 0.3	92 23.1	39 9.8
今回	381 100.0	160 42.0	131 34.4	— —	72 18.9	18 4.7

④仕事の内容

全体では、「ほぼ平等になっている」が46.5%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は26.0%、「わからない」が17.6%と続いている。

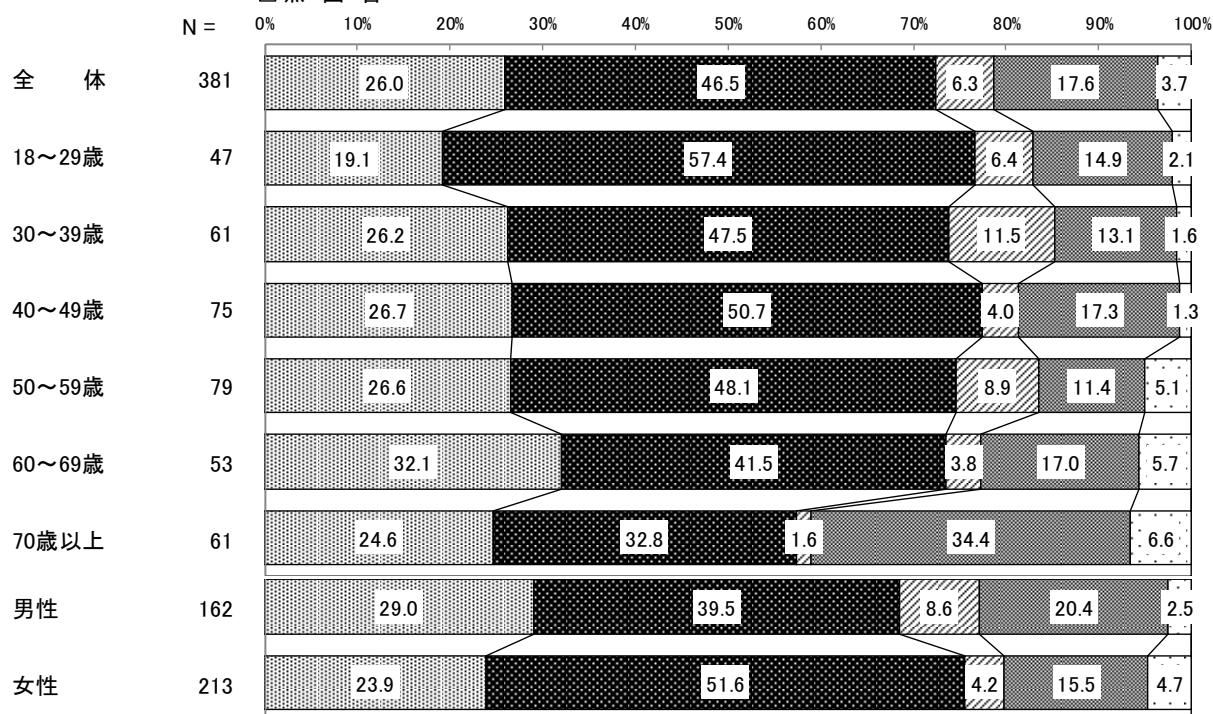
年代別では、「ほぼ平等になっている」が18～29歳で57.4%と最も多い。

男女別では、「ほぼ平等になっている」は女性で51.6%、男性で39.5%と女性の方が特に多い。

職業別では、「ほぼ平等になっている」は公務員で61.9%、商工・サービス業の自営業主で55.6%と多い。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は農林水産業の自営業主で40.0%、会社員（事務職）で37.9%と多い。

問13 職場での男女の扱い④仕事の内容〔%〕

☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている ☒ ほぼ平等になっている
☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている ☐ わからない
☐ 無 回 答



【前回調査との比較】「ほぼ平等になっている」が前回（32.6%）より多い。

問13. ④仕事の内容						
	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399 100.0	105 26.3	130 32.6	21 5.3	104 26.1	39 9.8
今回	381 100.0	99 26.0	177 46.5	24 6.3	67 17.6	14 3.7

⑤退職や解雇

全体では、「ほぼ平等になっている」が50.1%と多く、「わからない」が29.4%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が15.0%で続いている。

年代別では、「ほぼ平等になっている」が18～29歳で63.8%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が60～69歳で20.8%とやや多い。

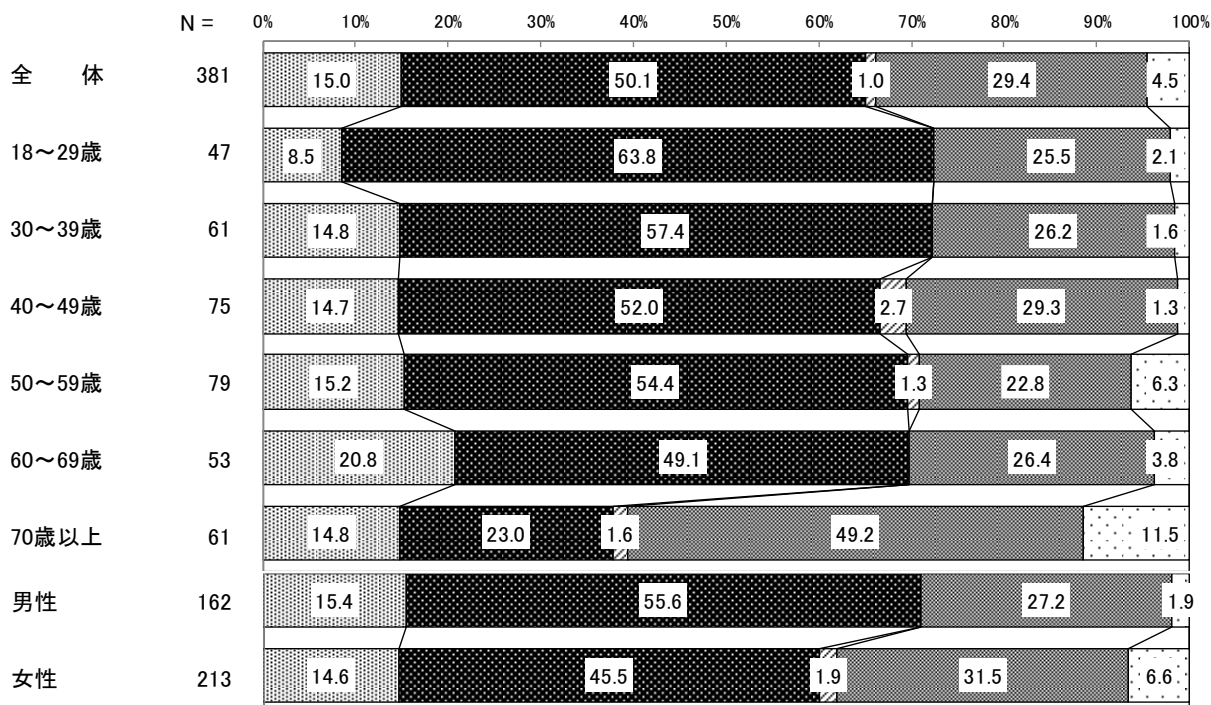
男女別では、「ほぼ平等になっている」は男性で55.6%、女性で45.5%と男性の方が特に多い。

性・年代別では、男性の18～29歳で「ほぼ平等になっている」が66.7%と多く、30・40歳代でも6割以上と多い。

職業別では、「ほぼ平等になっている」が会社員（事務職）と公務員で75%を超えて多い。

問13 職場での男女の扱い⑤退職や解雇[%]

☒ どちらかといえば男性の方が優遇されている ☒ ほぼ平等になっている
☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている ☒ わからない
☐ 無回答



【前回調査との比較】「ほぼ平等になっている」が前回（34.8%）より多く、「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」が前回（20.1%）よりやや少ない。

問13. ⑤退職や解雇						
	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399 100.0	80 20.1	139 34.8	5 1.3	128 32.1	47 11.8
今回	381 100.0	57 15.0	191 50.1	4 1.0	112 29.4	17 4.5

⑥能力評価・査定

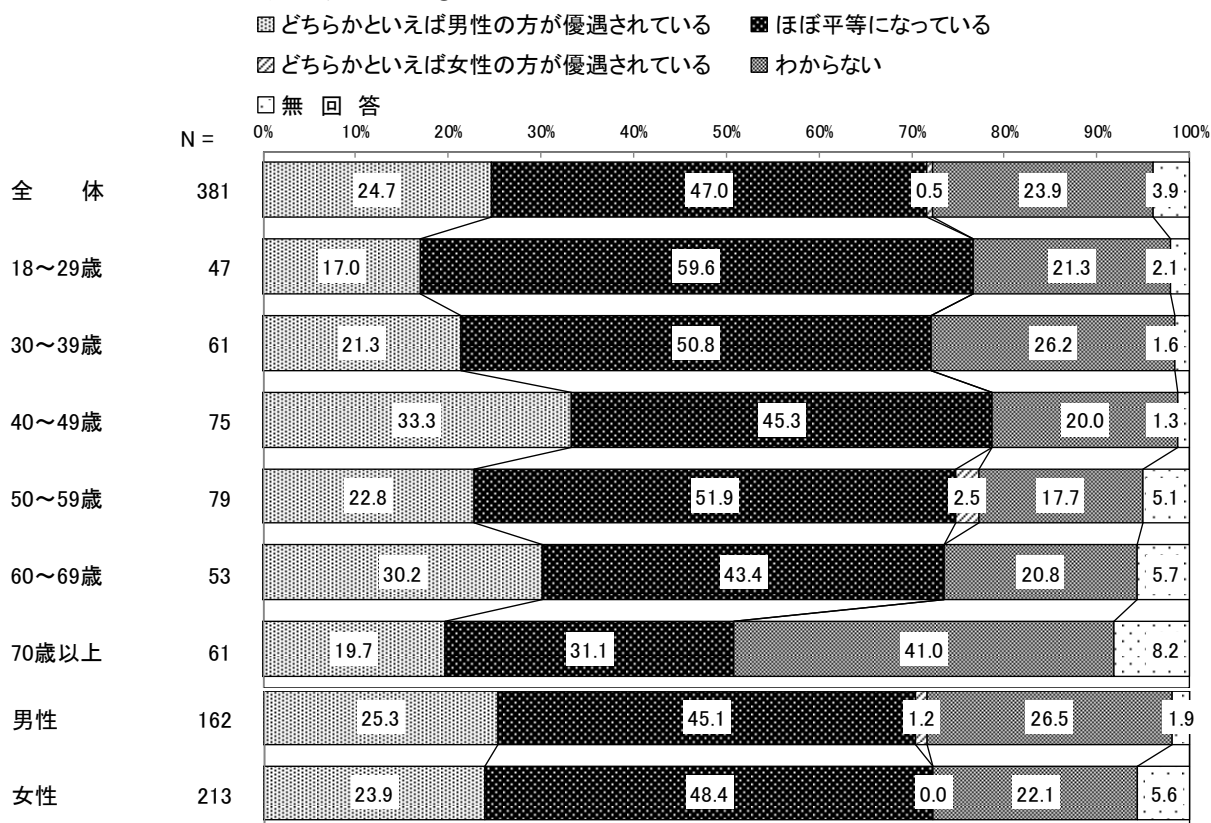
全体では、「ほぼ平等になっている」が47.0%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が24.7%、「わからない」が23.9%で続いている。

年代別では、「ほぼ平等になっている」が18～29歳で59.6%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40～49歳で33.3%とやや多い。

性・年代別では、男性の30～39歳で「ほぼ平等になっている」が60.0%と多い。女性は「ほぼ平等になっている」が18～29歳の65.5%、50～59歳で61.4%と多い。

職業別では、「ほぼ平等になっている」は公務員で69.0%、会社員（技術職）で62.5%と特に多い。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は会社員（その他）で35.2%と多い。

問13 職場での男女の扱い⑥能力評価・査定[%]



【前回調査との比較】「ほぼ平等になっている」が前回（36.3%）より多い。

問13. ⑥能力評価・査定						
	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399 100.0	107 26.8	145 36.3	1 0.3	99 24.8	47 11.8
今回	381 100.0	94 24.7	179 47.0	2 0.5	91 23.9	15 3.9

⑦教育や研修

全体では、「ほぼ平等になっている」が63.0%と多く、「わからない」が20.5%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が11.5%である。

年代別では、「ほぼ平等になっている」が70歳以上で45.9%と少なく、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40～49歳で17.3%と多い。

性・年代別では、女性の40～49歳で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が22.5%と多い。

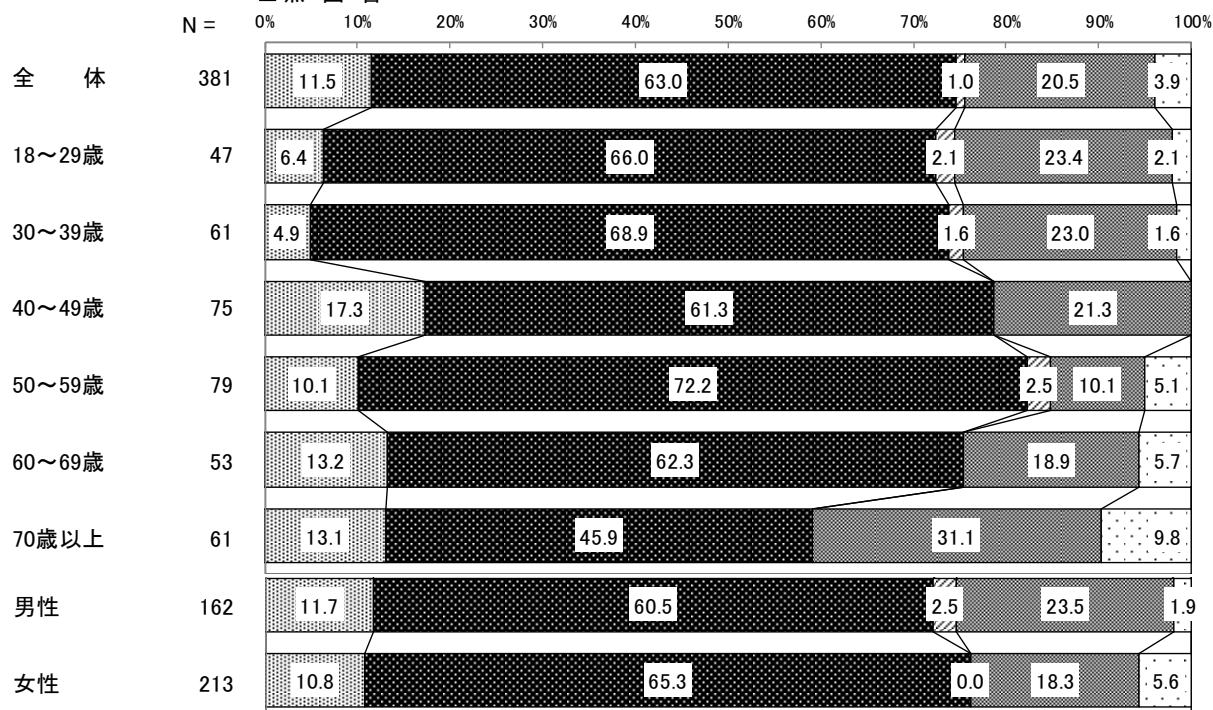
職業別では、「ほぼ平等になっている」は公務員で90.5%、会社員（事務職）で75.9%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は農林水産業の家族従事者で33.3%と多い。

問13 職場での男女の扱い⑦教育や研修[%]

■ どちらかといえば男性の方が優遇されている ■ ほぼ平等になっている

■ どちらかといえば女性の方が優遇されている ■ わからない

□ 無 回 答



【前回調査との比較】「ほぼ平等になっている」が前回（48.4%）より多い。

問13. ⑦教育訓練や研修						
	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399	49	193	2	104	51
	100.0	12.3	48.4	0.5	26.1	12.8
今回	381	44	240	4	78	15
	100.0	11.5	63.0	1.0	20.5	3.9

⑧有給休暇の取得

全体では、「ほぼ平等になっている」が61.9%と多く、「わからない」が20.2%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が9.2%と続いている。

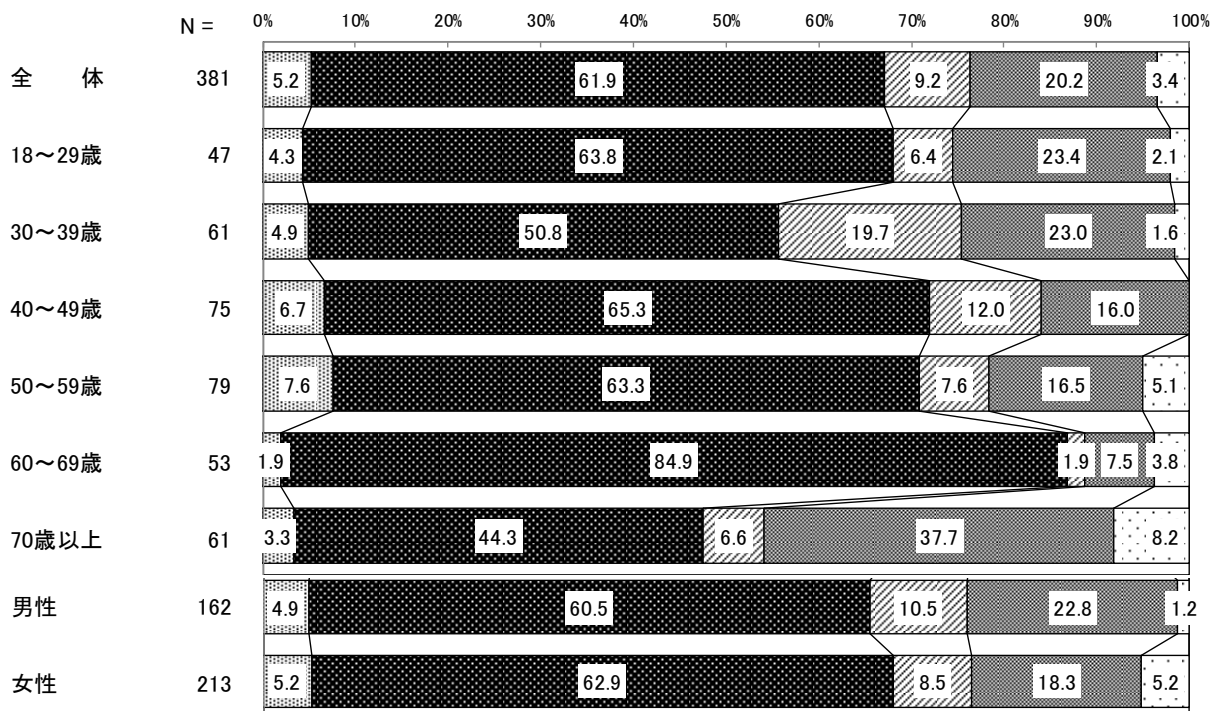
年代別では、「ほぼ平等になっている」が60～69歳で84.9%と多く、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が30～39歳で19.7%と多い。

性・年代別では、「ほぼ平等になっている」は女性の60～69歳で88.5%、40～49歳で72.5%と多く、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」も30～39歳で22.0%と多い。

職業別では、「ほぼ平等になっている」は会社員（事務職）で86.2%、会社員（その他）で79.6%、公務員で78.6%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は商工・サービス業の家族従事者で16.7%である。

問13 職場での男女の扱い⑧有給休暇の取得[%]

☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている ☒ ほぼ平等になっている
☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている ☐ わからない
☐ 無 回 答



【前回調査との比較】「ほぼ平等になっている」が前回（47.6%）より多く、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が前回（12.3%）よりやや少ない。

問13. ⑧有給休暇の取得						
	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399 100.0	15 3.8	190 47.6	49 12.3	99 24.8	46 11.5
今回	381 100.0	20 5.2	236 61.9	35 9.2	77 20.2	13 3.4

問 14 日常生活における、「仕事」「家庭生活」「プライベートな時間（趣味や学習・地域活動・付き合い等）」のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度をお答えください。また、②実際の（現実の）優先度をお答えください。

①希望する（理想とする）優先度

全体では、「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい」が35.2%で最も多く、「家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい」が15.0%、「仕事と家庭生活をともに優先したい」が12.3%、「プライベートな時間を優先したい」が11.3%、「家庭生活を優先したい」が10.5%と続いている。

年代別では、「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい」が50・60歳代で40%を超えて多い。「プライベートな時間を優先したい」が18～29歳で27.7%、「仕事と家庭生活をともに優先したい」が70歳以上で26.2%と多い。

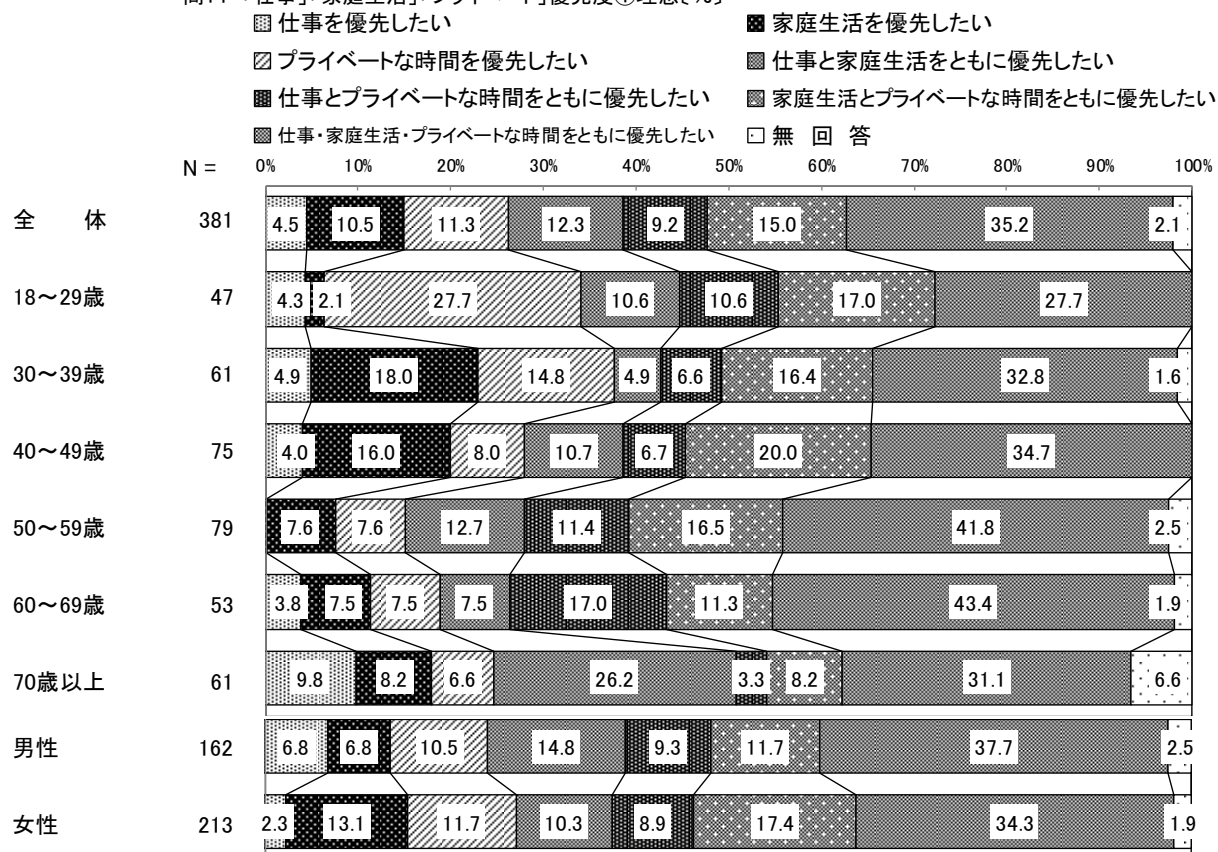
性・年代別では、「プライベートな時間を優先したい」は男女ともに18～29歳で27%台と多く、「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい」は男性の30～39歳で50.0%、女性の60～69歳で53.8%と多い。

職業別では、「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい」は農林水産業の自営業主で60.0%、公務員で45.2%と多く、「家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい」は商工・サービス業の家族従事者で50.0%、公務員で26.2%、専業主婦・主夫で25.0%と多い。

未婚別では、未婚で「プライベートな時間を優先したい」が27.5%と多い。

現実に仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先している回答者の理想は、「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい」が62.5%、現実に家庭生活とプライベートな時間をともに優先している回答者は、「家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい」が62.5%、現実にプライベートな時間を優先している回答者は、「プライベートな時間を優先したい」が42.9%と多い。

問14 「仕事」「家庭生活」「プライベート」優先度①理想[%]



【前回調査との比較】「家庭生活を優先したい」と「仕事と家庭生活をともに優先したい」が前回（15.3%、23.8%）より少なく、「プライベートな時間を優先したい」、「家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい」と「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい」が前回（5.0%、11.0%、30.3%）より多い。

問14. ①希望する(理想とする)優先度									
	全体	仕事を優先したい	家庭生活を優先したい	プライベートな時間を優先したい	仕事と家庭生活をともに優先したい	仕事とプライベートな時間をともに優先したい	家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい	仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい	無回答
前回	399 100.0	18 4.5	61 15.3	20 5.0	95 23.8	23 5.8	44 11.0	121 30.3	17 4.3
今回	381 100.0	17 4.5	40 10.5	43 11.3	47 12.3	35 9.2	57 15.0	134 35.2	8 2.1

②実際の（現実の）優先度

全体では、「仕事を優先している」が38.8%で最も多く、「仕事と家庭生活をともに優先している」が18.6%、「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先している」が12.3%である。

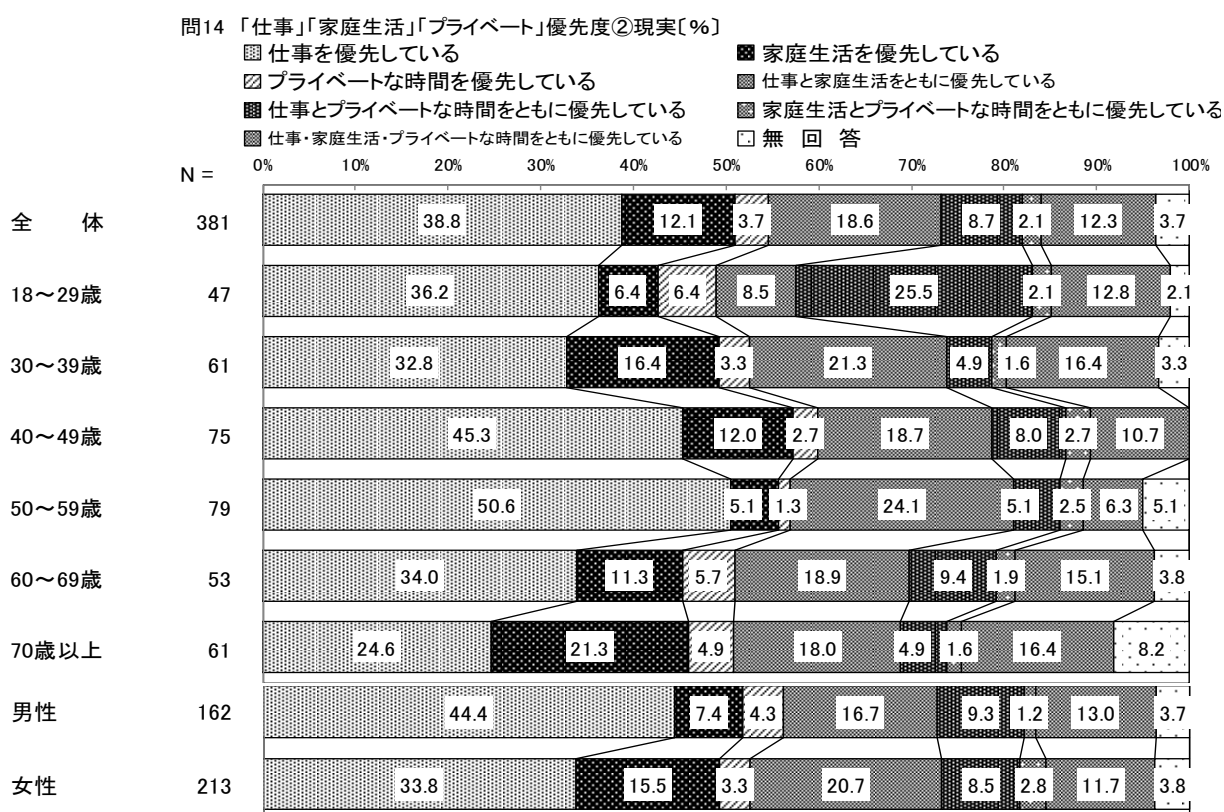
年代別では、「仕事を優先している」が40～50歳代で45%を超えて多い。

男女別では、「仕事を優先している」は男性で44.4%、女性で33.8%と男性の方が特に多い。

性・年代別では、「仕事を優先している」は男性の50～59歳で68.6%、60～69歳でも50.0%と多い。女性は「仕事とプライベートな時間をともに優先している」が18～29歳で27.6%、「仕事と家庭生活をともに優先している」が50～59歳で34.1%と多い。

職業別では、「仕事を優先している」は商工・サービス業の家族従事者で66.7%、会社員（事務職）で62.1%、会社員（その他）で57.4%と多く、「仕事と家庭生活をともに優先している」は商工・サービス業の自営業主で44.4%、商工・サービス業の家族従事者で33.3%と多い。

未婚別では、未婚で「仕事とプライベートな時間をともに優先している」が19.6%と多い。



【前回調査との比較】「仕事を優先したい」と「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい」が前回（34.3%、7.3%）よりやや多く、「家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい」が前回（6.5%）よりやや少ない。

問14. ②実際の（現実の）優先度									
	全体	仕事を優先したい	家庭生活を優先したい	プライベートな時間を優先したい	仕事と家庭生活をともに優先したい	仕事とプライベートな時間をともに優先したい	家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい	仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい	無回答
前回	399	137	58	21	78	19	26	29	31
	100.0	34.3	14.5	5.3	19.5	4.8	6.5	7.3	7.8
今回	381	148	46	14	71	33	8	47	14
	100.0	38.8	12.1	3.7	18.6	8.7	2.1	12.3	3.7

問 15 男女がともに、仕事と家庭の両立をし続けるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

全体では、「育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり」が50.7%と多く、「労働時間を短縮すること」が28.6%、「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」が25.2%と続いている。

年代別では、「労働時間を短縮すること」と「育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり」が40～49歳で36.0%、57.3%と多く、「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」が60～69歳で39.6%と多い。

男女別では、「育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり」は女性で52.6%、男性で48.1%と女性の方が多く、「労働時間を短縮すること」は男性で30.9%、女性で26.3%と男性の方が多い。

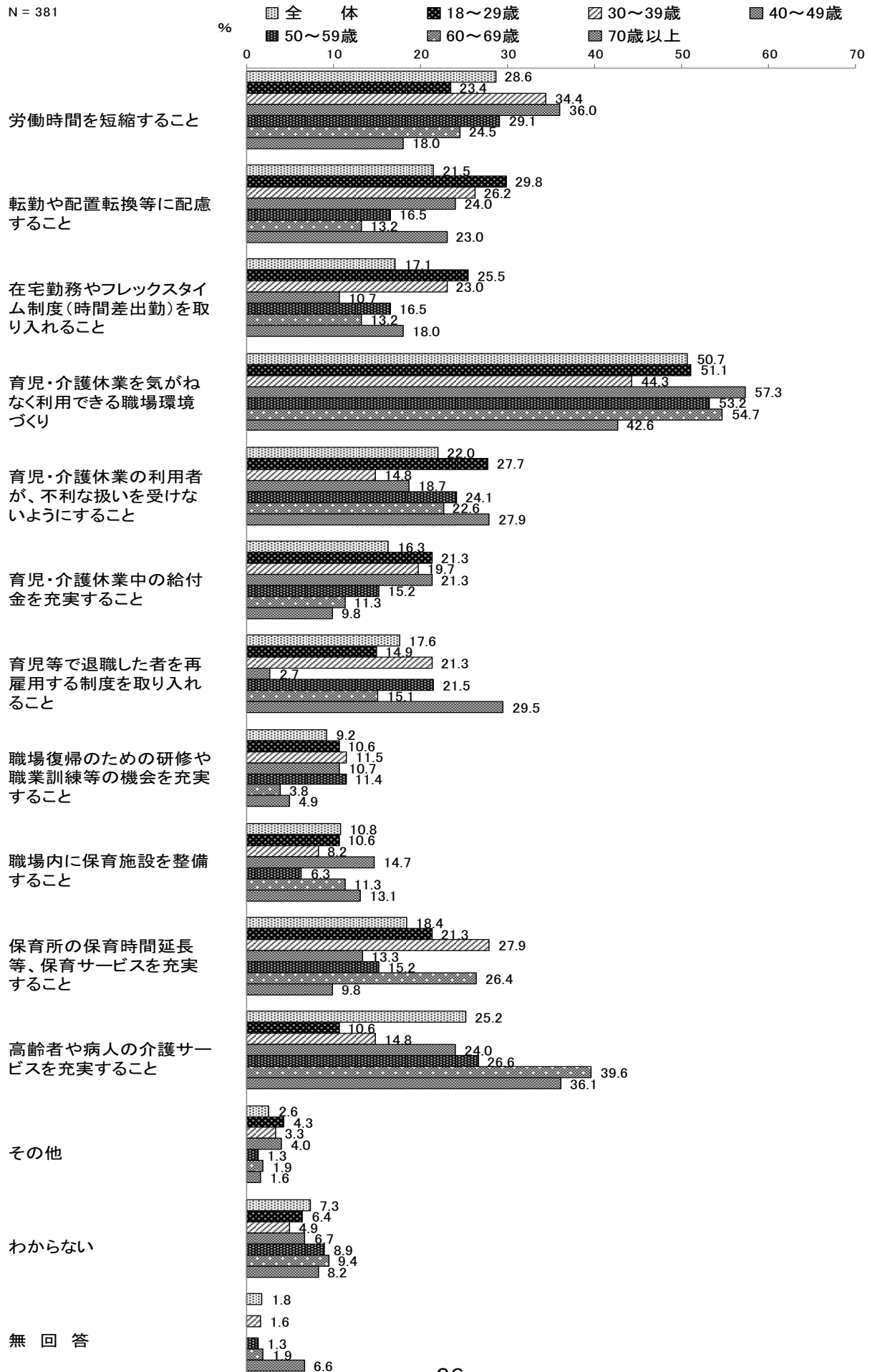
性・年代別では、男性の40～49歳で「労働時間を短縮すること」が42.9%、18～29歳で「転勤や配置転換等に配慮すること」が38.9%、30～39歳で「保育所の保育時間延長等、保育サービスを充実すること」が35.0%と多い。女性は40～49歳で「育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり」が62.5%、60～69歳で「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」が42.3%と多い。

職業別では、「育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり」は会社員（その他）で63.0%、会社員（技術職）と専業主婦・主夫とともに62.5%と多く、「労働時間を短縮すること」は農林水産業の自営業主で46.7%、公務員で45.2%と多い。「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」は、農林水産業の自営業主で60.0%と多い。

同居している子どもの有無別では、未就学の子がいる家庭で「労働時間を短縮すること」が40.0%、中学生の子がいる家庭で「育児・介護休業中の給付金を充実すること」が30.3%と多い。

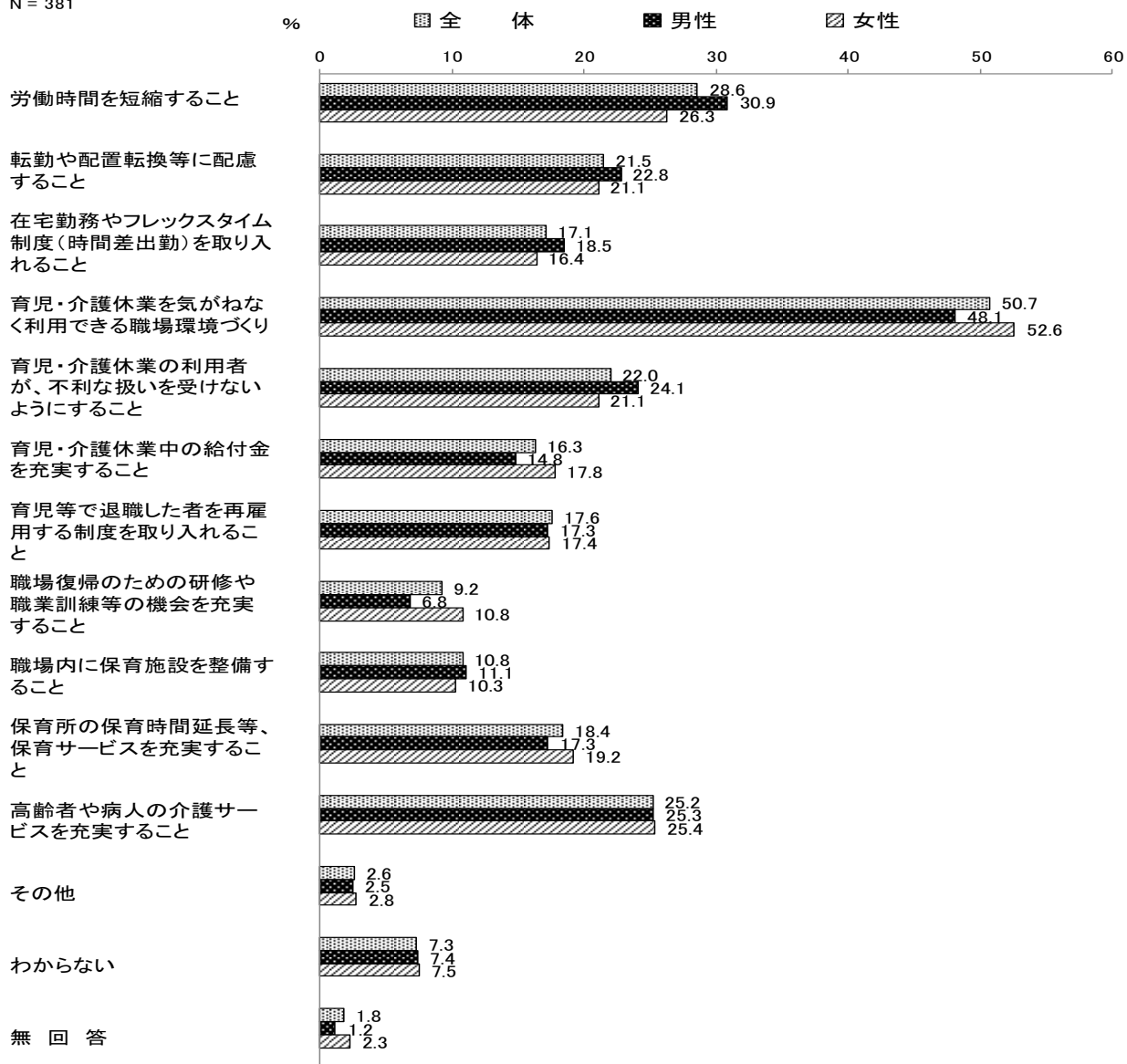
N = 381

問15 仕事と家庭の両立をし続けるのに必要な事〔%・複数回答〕



N = 381

問15 仕事と家庭の両立をし続けるのに必要な事[%・複数回答]



【前回調査との比較】「育児などで退職した者を再雇用する制度を取り入れること」、「保育所の保育時間延長など、保育サービスを充実すること」と「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」が前回(25.8%、25.1%、36.1%)より少なく、「労働時間を短縮すること」が前回(22.8%)より多い。

問15. 仕事と家庭の両立に必要なこと								
	全体	労働時間を短縮すること	転勤や配置転換などに配慮すること	在宅勤務やフレックスタイム制度(時間差出勤)を取り入れること	育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり	育児・介護休業の利用者が、不利な扱いを受けないようにすること	育児・介護休業中の給付金を充実すること	育児などで退職した者を再雇用する制度を取り入れること
前回	399 100.0	91 22.8	79 19.8	60 15.0	195 48.9	94 23.6	56 14.0	103 25.8
今回	381 100.0	109 28.6	82 21.5	65 17.1	193 50.7	84 22.0	62 16.3	67 17.6

	職場復帰のための研修や職業訓練などの機会を充実すること	職場内に保育施設を整備すること	保育所の保育時間延長など、保育サービスを充実すること	高齢者や病人の介護サービスを充実すること	その他	わからない	無回答
前回	41 10.3	40 10.0	100 25.1	144 36.1	12 3.0	14 3.5	10 2.5
今回	35 9.2	41 10.8	70 18.4	96 25.2	10 2.6	28 7.3	7 1.8

問 16 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ：相手の意に反した不快な性的言動や嫌がらせ等の行為）が近年問題になっていますが、あなたが、セクシュアル・ハラスメントだと思うものはどれですか。そう思うものを上位3つまでお答えください。

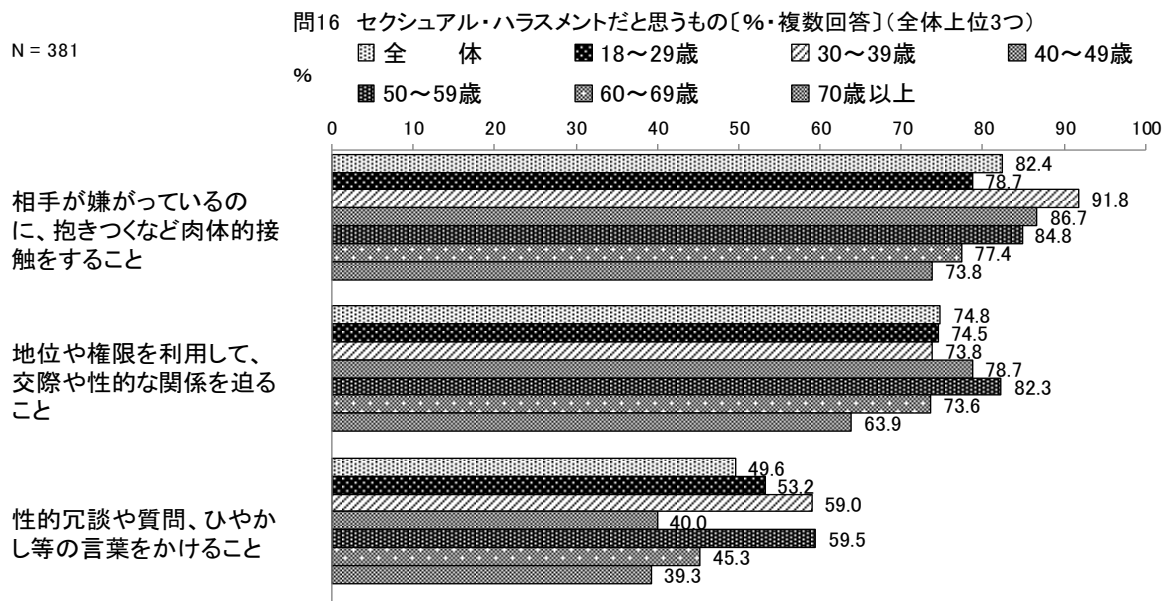
全体では、「相手が嫌がっているのに、抱きつくなど肉体的接触をすること」が82.4%と多く、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を迫ること」が74.8%、「性的冗談や質問、ひやかし等の言葉をかけること」が49.6%と続いている。

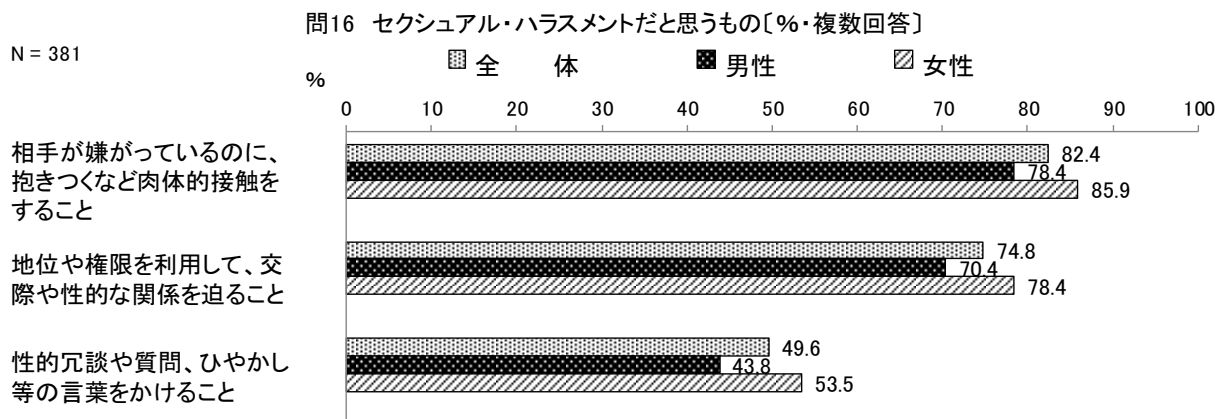
年代別では、「相手が嫌がっているのに、抱きつくなど肉体的接触をすること」が30～39歳で91.8%、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を迫ること」が50～59歳で82.3%、「性的冗談や質問、ひやかし等の言葉をかけること」が30～39歳と50～59歳で59%台と多い。

男女別では、「相手が嫌がっているのに、抱きつくなど肉体的接触をすること」、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を迫ること」と「性的冗談や質問、ひやかし等の言葉をかけること」は女性で85.9%、78.4%、53.5%、男性で78.4%、70.4%、43.8%といずれも女性の方が多い。

性・年代別では、女性の40～49歳で「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を迫ること」が90.0%、30～39歳で「相手が嫌がっているのに、抱きつくなど肉体的接触をすること」が95.1%と多い。

職業別では、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を迫ること」は商工・サービス業の家族従事者で100.0%、パート・アルバイト・派遣等で87.9%と多く、「相手が嫌がっているのに、抱きつくなど肉体的接触をすること」は商工・サービス業の家族従事者で100.0%、公務員で92.9%と多い。「性的冗談や質問、ひやかし等の言葉をかけること」は公務員で71.4%、学生で66.7%と多い。





【前回調査との比較】「相手が嫌がっているのに、さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」が前回（79.9%）よりやや多い。

問16. セクシュアル・ハラスメントだと思う行為								
	全体	地位や権限を利用して、交際や性的な関係を迫ること	相手が嫌がっているのに、さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること	容姿や服装に関して繰り返し言う	宴席で、お酌、デュエット、ダンスなどを強要すること	結婚予定や出産予定などをたびたび聞くこと	目につきやすい所に、ヌード写真・ポスターなどを置いておくこと
前回	399 100.0	308 77.2	319 79.9	206 51.6	64 16.0	83 20.8	13 3.3	41 10.3
今回	381 100.0	285 74.8	314 82.4	189 49.6	59 15.5	86 22.6	17 4.5	35 9.2

	「○○ちゃん」「おばさん」「○○くん」「おじさん」などと呼ぶこと	その他	無回答
前回	13 3.3	10 2.5	24 6.0
今回	10 2.6	12 3.1	20 5.2

問 17 あなたは、身近でセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）を経験したり、身近なところで見聞きしたりしたことがありますか。

全体では、「一般的な知識として知っている」が63.8%と最も多く、「自分のまわりに経験した人がある」が22.6%、「自分が直接経験したことがある」が17.8%と続いている。

男女別では、「自分が直接経験したことがある」は女性で27.7%、男性で5.6%と女性の方が特に多い。

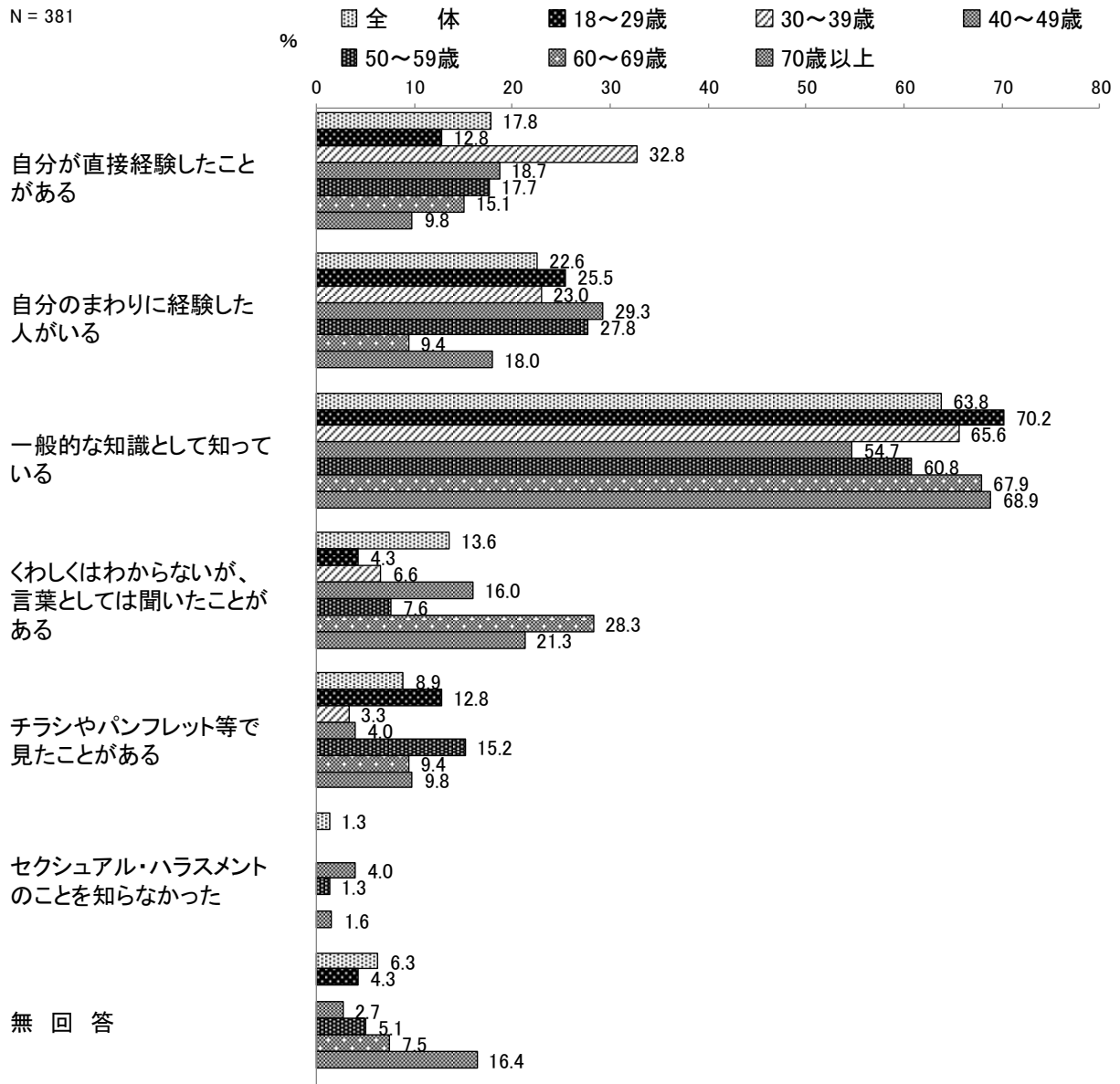
性・年代別では、女性の30～39歳で「自分が直接経験したことがある」が41.5%と多い。

職業別では、「一般的な知識として知っている」は学生で83.3%、会社員（技術職）で81.3%、専業主婦・主夫で75.0%と多く、「自分のまわりに経験した人がある」は公務員で57.1%、商工・サービス業の家族従事者で50.0%、農林水産業の自営業主で40.0%と多い。「自分が直接経験したことがある」は農林水産業の家族従事者で50.0%と多い。

DV経験の有無別では、DV経験ありの回答者で「自分が直接経験したことがある」が37.5%、「自分のまわりに経験した人がある」が34.4%と多い。

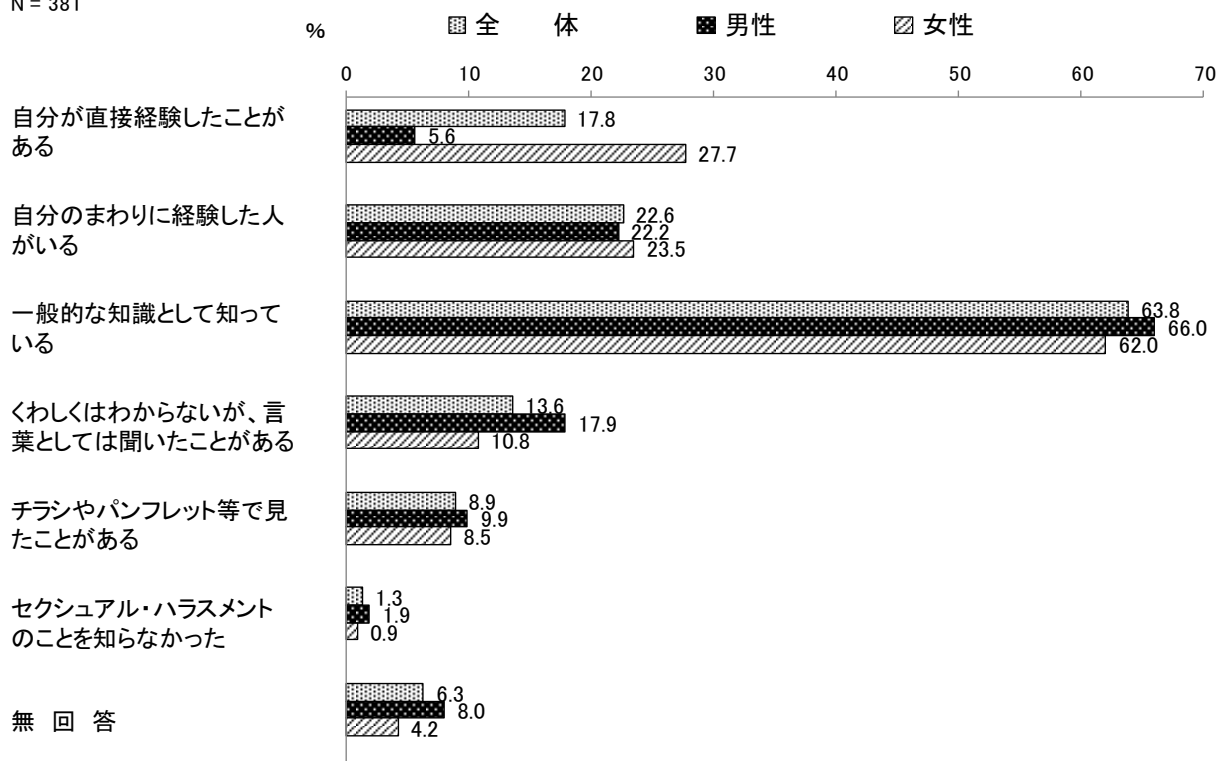
N = 381

問17 セクハラを経験したり、見聞きしたこと〔%・複数回答〕



N = 381

問17 セクハラを経験したり、見聞きしたこと〔%・複数回答〕



【前回調査との比較】「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が前回 (21.6%) より少なく、「自分が直接経験したことがある」と「自分のまわりに経験した人がある」が前回 (10.0%、17.5%) より多い。

問17. セクシュアル・ハラスメントの経験								
	全体	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した人がある	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある	チラシやパンフレットなどで見たことがある	セクシュアル・ハラスメントのことを知らなかった	無回答
前回	399 100.0	40 10.0	70 17.5	276 69.2	86 21.6	46 11.5	4 1.0	23 5.8
今回	381 100.0	68 17.8	86 22.6	243 63.8	52 13.6	34 8.9	5 1.3	24 6.3

4 家庭生活と男女の役割

問 18 あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。

全体では、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が70.9%と多く、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」は59.3%、「子どもの個性に応じて育てる」は57.5%、「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」は57.2%と続いている。

年代別では、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」が18～29歳で70.2%と多く、「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」が18～29歳、30～39歳で70%前後と多い。

男女別では、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」は女性で77.9%、男性で62.3%と女性の方が多い。

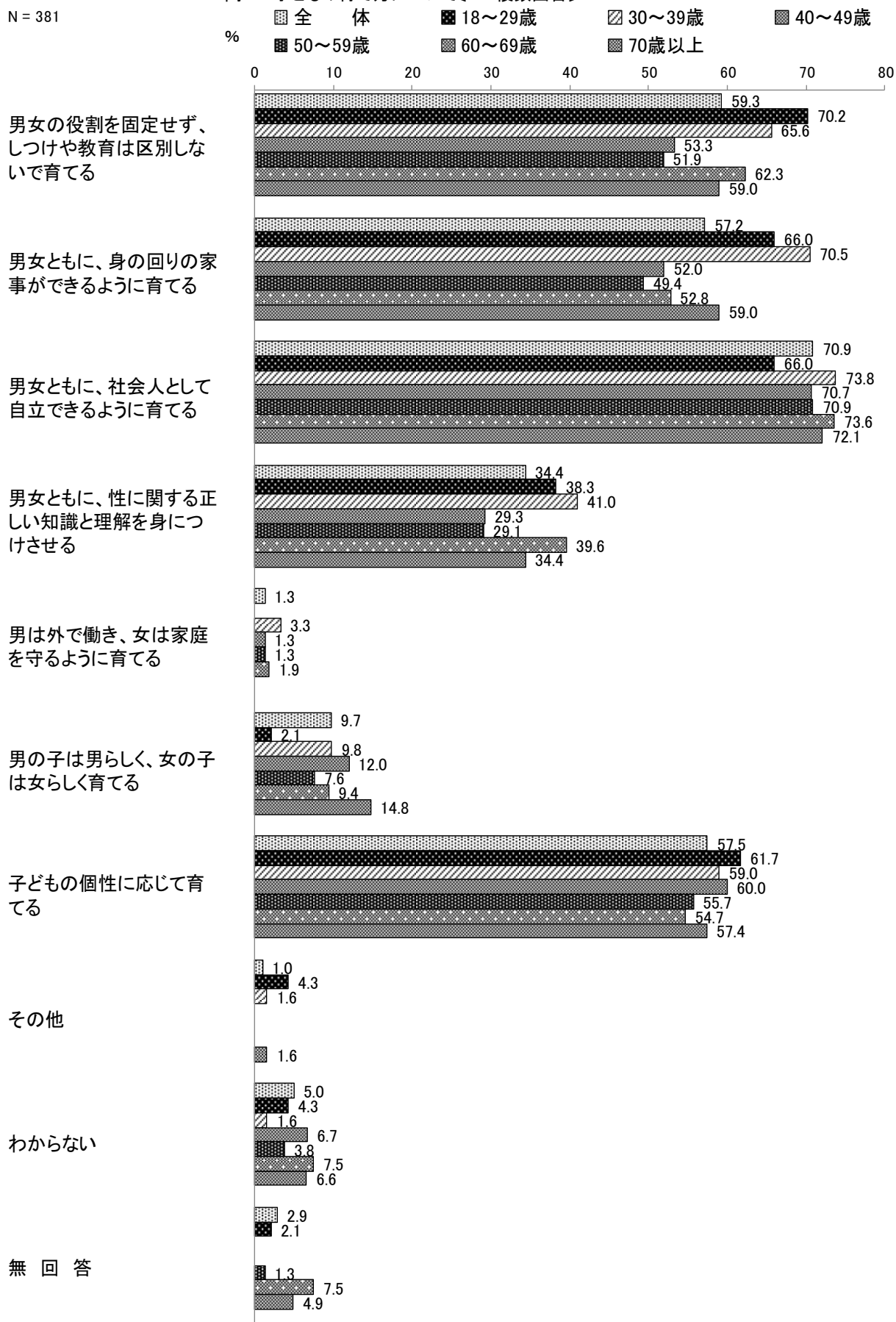
性・年代別では、男性の18～29歳で「子どもの個性に応じて育てる」が72.2%、「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」が50.0%と多く、女性は30～39歳で「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」が78.0%、60～69歳で「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が84.6%と多い。

職業別では、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」は専業主婦・主夫で87.5%、会社員（技術職）で84.4%、農林水産業の家族従事者で83.3%と多く、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」は専業主婦・主夫で87.5%、学生で77.8%と多い。

同居している子どもの有無別では、小学生の子どもがいる家庭で「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が85.0%、中学生の子どもがいる家庭で「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」が75.8%と多い。

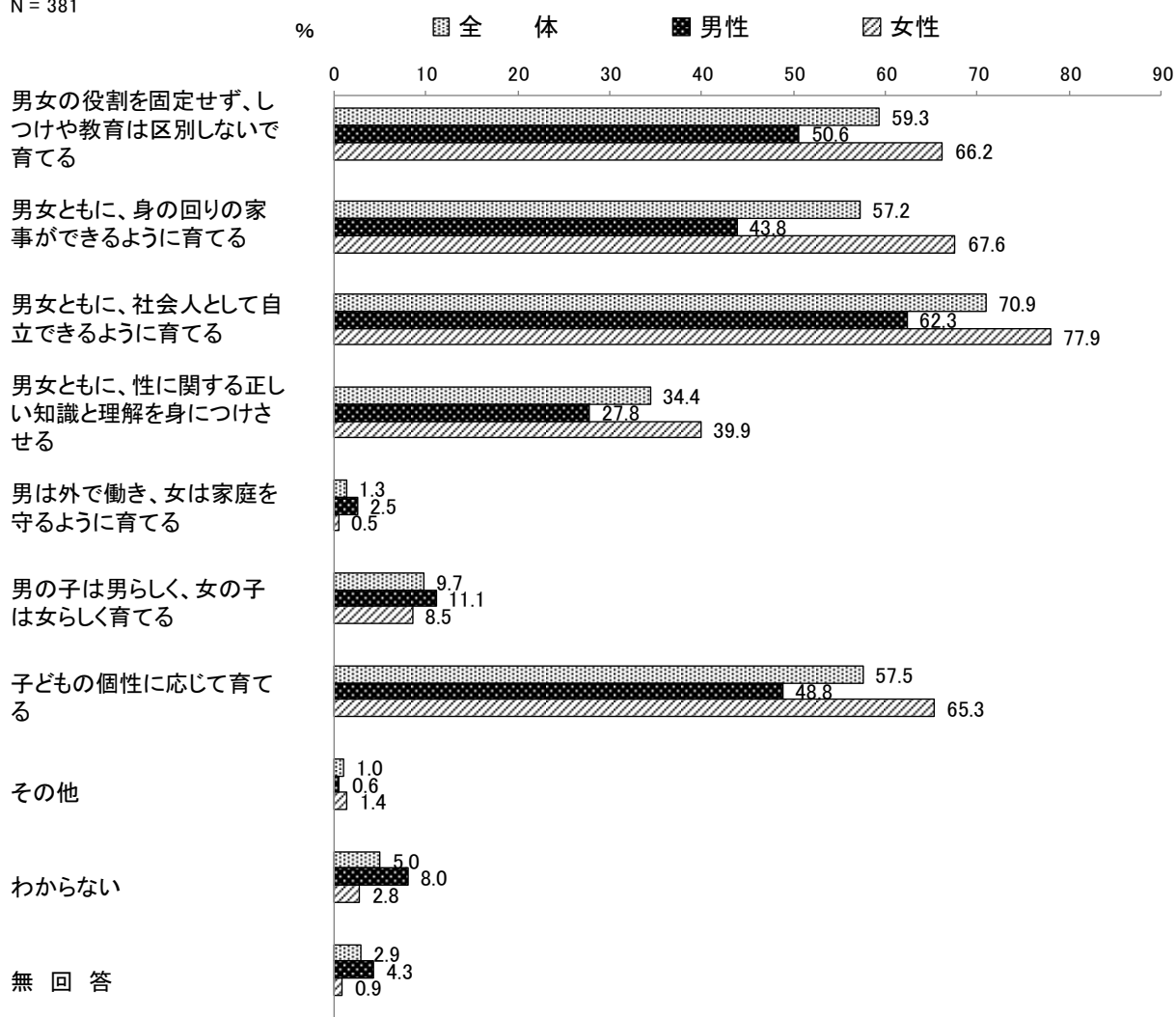
N = 381

問18 子どもの育て方について〔%・複数回答〕



N = 381

問18 子どもの育て方について〔%・複数回答〕



【前回調査との比較】「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」、「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」と「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」が前回（82.0%、43.9%、23.6%）より少ない。

問18. 子どもの育て方について								
	全体	男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる	男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる	男女ともに、社会人として自立できるように育てる	男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる	男は外で働き、女は家庭を守るように育てる	男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	子どもの個性に応じて育てる
前回	399 100.0	259 64.9	267 66.9	327 82.0	175 43.9	13 3.3	94 23.6	244 61.2
今回	381 100.0	226 59.3	218 57.2	270 70.9	131 34.4	5 1.3	37 9.7	219 57.5

	その他	わからない	無回答
前回	2 0.5	6 1.5	7 1.8
今回	4 1.0	19 5.0	11 2.9

問 19 あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。

①個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい

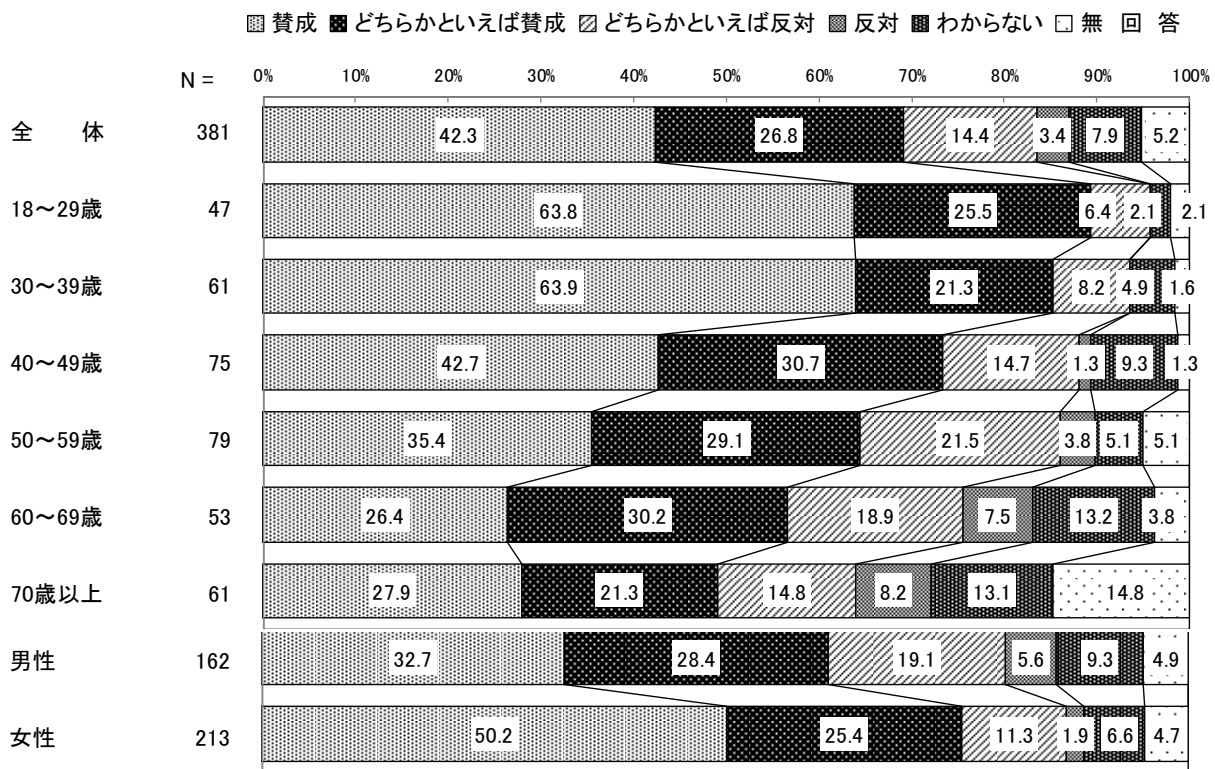
全体では、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計、以下（ ）内省略）が69.1%と多い。

年代別では、18～29歳と30～39歳で「賛成」が63%台と多く、『賛成』も85%を超えて多い。年代が上ると『賛成』が少なくなり、70歳以上は49.2%である。

男女別では、『賛成』は女性で75.6%、男性で61.1%と女性の方が多い。

性・年代別では、男性の18～29歳で「賛成」が55.6%と多いが、50～59歳では「どちらかといえば反対」も28.6%回答されている。女性では「賛成」が30～39歳で75.6%、18～29歳で69.0%、40～49歳で52.5%と多い。

問19 ①個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい[%]



【前回調査との比較】『賛成』が前回（59.4%）より多く、『反対』が前回（26.6%）より少ない。

問19. ①個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい							
	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399	134	103	75	31	35	21
	100.0	33.6	25.8	18.8	7.8	8.8	5.3
今回	381	161	102	55	13	30	20
	100.0	42.3	26.8	14.4	3.4	7.9	5.2

②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

全体では、『反対』が72.4%と多い。

年代別では、「反対」は18～29歳で63.8%と最も多く、「賛成」は18～29歳と30～39歳で5%前後回答されているものの、40・50・60歳代と70歳以上では回答者がいない。

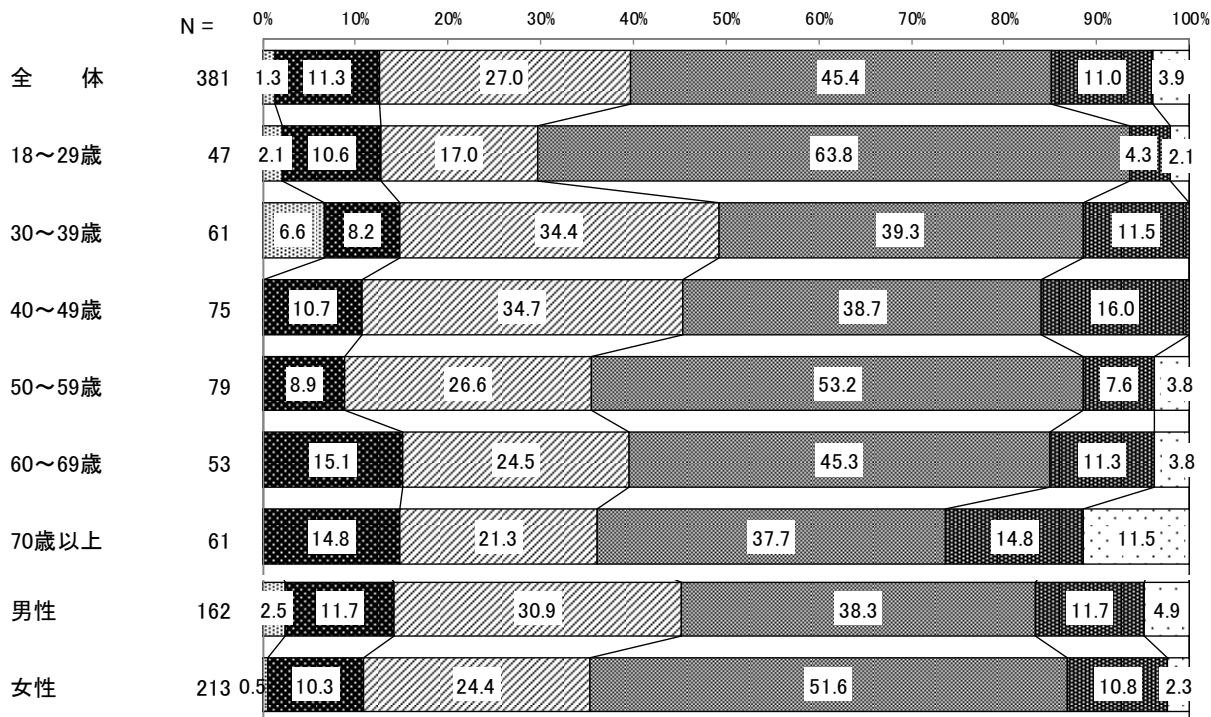
男女別では、「反対」は女性で51.6%、男性で38.3%と女性の方が多く、「どちらかといえば反対」は男性で30.9%、女性で24.4%と男性の方がやや多い。

性・年代別では、男性の18～29歳で「反対」が55.6%と多いが、30～39歳で「賛成」も15.0%回答されている。女性では18～29歳で「反対」が69.0%と多い。

職業別では、「反対」は学生で72.2%、公務員で64.3%と多く、「どちらかといえば反対」は会社員（技術職）で50.0%、専業主婦・主夫で37.5%と多い。

問19 ②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである〔%〕

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無 回 答



【前回調査との比較】「反対」が前回(31.3%)より多く、「どちらかといえば賛成」が前回(19.5%)より少ない。

問19. ②夫は外で働き、妻は家庭を守るべき							
	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399	19	78	120	125	37	20
	100.0	4.8	19.5	30.1	31.3	9.3	5.0
今回	381	5	43	103	173	42	15
	100.0	1.3	11.3	27.0	45.4	11.0	3.9

③女性は結婚後家族を中心に考えて生活した方がよい

全体では、『反対』が64.8%と多い。

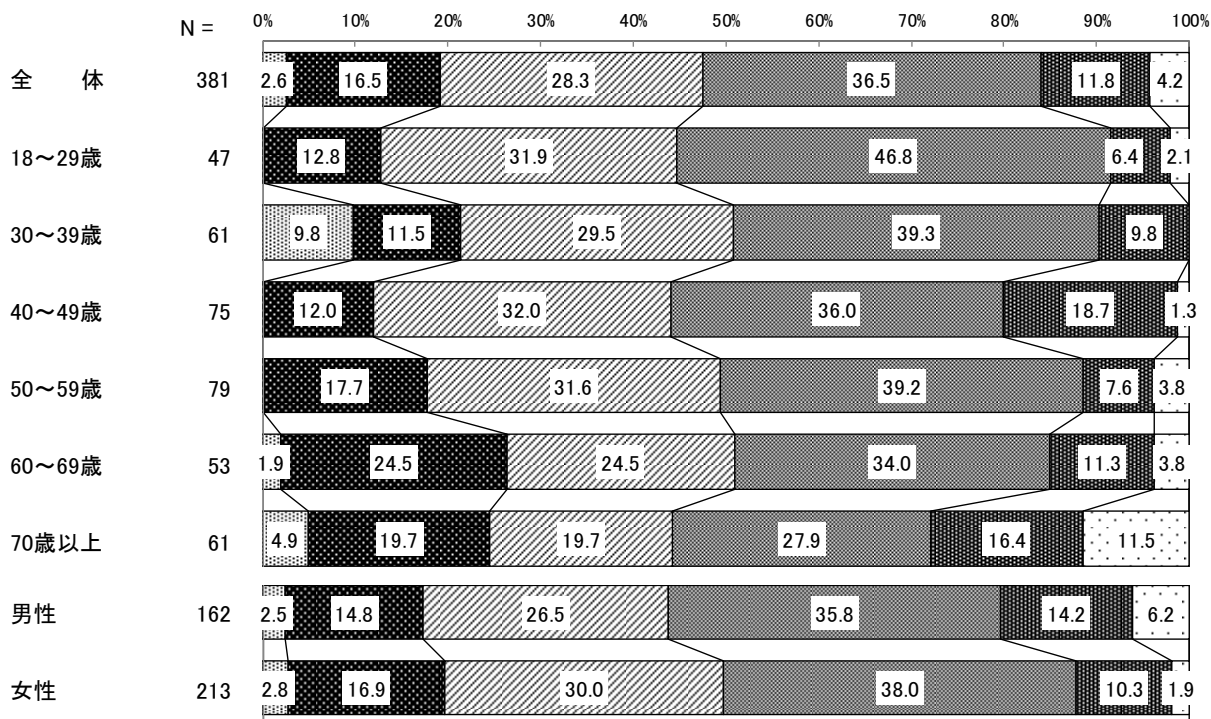
年代別では、「反対」が18～29歳で46.8%と最も多く、「どちらかといえば反対」の31.9%と合わせて『反対』が78.7%と多い。「賛成」が30～39歳で9.8%と最も多く、『賛成』が30～39歳、60～69歳と70歳以上で25%前後と多い。

性・年代別では、男性の18～29歳で「反対」が50.0%と多いが、30～39歳で「賛成」も15.0%回答されている。女性は18～29歳で「反対」が44.8%と多い。

職業別では、「反対」は学生で72.2%、公務員で64.3%と多く、「どちらかといえば反対」は商工・サービス業の家族従事者と学生とともに66.7%、商工・サービス業の自営業主で55.6%と多い。「どちらかといえば反対」は会社員（事務職）で41.4%、公務員で40.5%と多い。

問19 ③女性は結婚後家族を中心に考えて生活した方がよい[%]

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無 回 答



【前回調査との比較】「反対」が前回（21.8%）より多く、『賛成』が前回（36.9%）より少ない。

問19. ③女性は結婚したら家族を中心に考えて生活した方がよい							
	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399	31	116	107	87	38	20
	100.0	7.8	29.1	26.8	21.8	9.5	5.0
今回	381	10	63	108	139	45	16
	100.0	2.6	16.5	28.3	36.5	11.8	4.2

④結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない

全体では、『賛成』が50.7%と多く、『反対』が27.8%である。

年代別では、『賛成』が18～29歳で76.6%と多く、年代が上ると少なくなり、70歳以上で27.8%である。

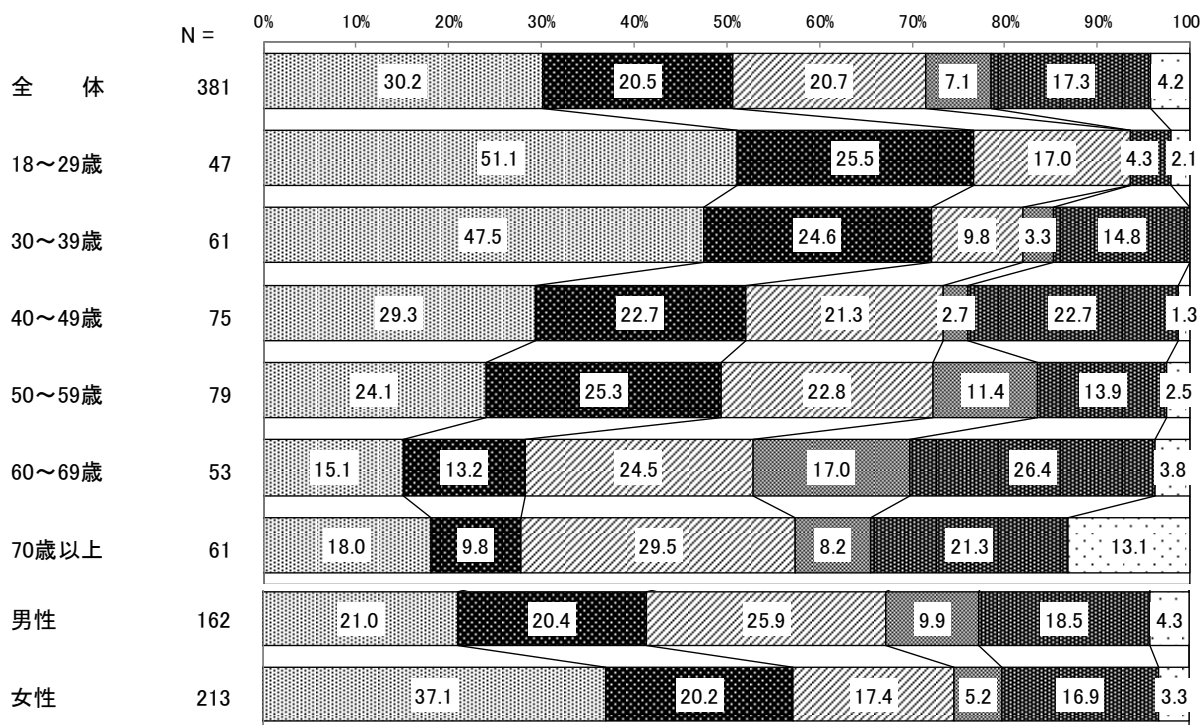
男女別では、『賛成』は女性で57.4%、男性で41.4%と女性の方が多い。

性・年代別では、「賛成」は女性の30～39歳で63.4%、18～29歳で58.6%と多い。「どちらかといえば賛成」は女性の18～29歳で31.0%、「どちらかといえば反対」は女性の60～69歳で30.8%と多く、「反対」は男性の60～69歳で23.1%回答されている。

職業別では、「賛成」は学生で61.1%、会社員（事務職）で44.8%と多く、「どちらかといえば反対」は農林水産業の自営業主と商工・サービス業の家族従事者でともに33.3%と多い。

問19 ④結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない[%]

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無 回 答



【前回調査との比較】『賛成』が前回（33.0%）より多く、『反対』が前回（43.1%）より少ない。

問19. ④結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない							
	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399	66	66	106	66	76	19
	100.0	16.5	16.5	26.6	16.5	19.0	4.8
今回	381	115	78	79	27	66	16
	100.0	30.2	20.5	20.7	7.1	17.3	4.2

⑤未婚や晩婚化は女性の家事や育児の負担感が大きい為

全体では、『賛成』が34.4%と多い。

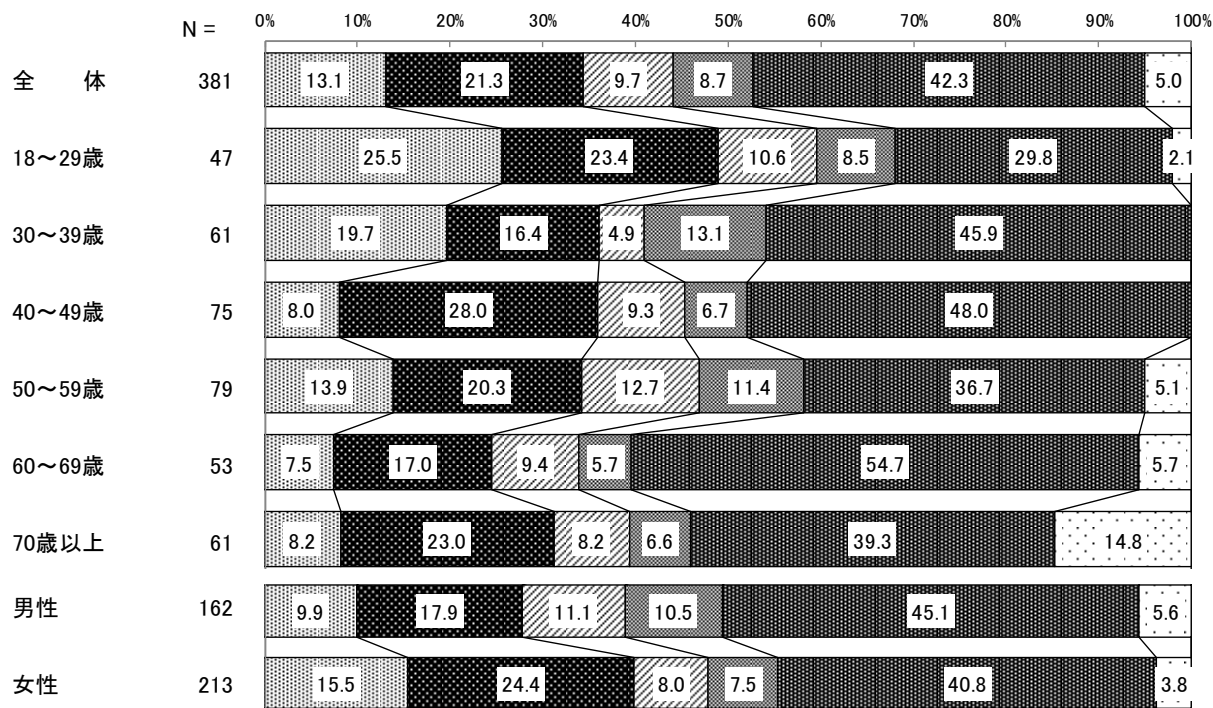
年代別では、『賛成』が18～29歳で48.9%と多く、『反対』が50～59歳で24.1%と多い。

男女別では、『賛成』は女性で39.9%、男性で27.8%と女性の方がやや多い。

性・年代別では、男性では50～59歳で「賛成」が20.0%と多く、女性では40～49歳で「どちらかといえば賛成」が35.0%と多い。

問19⑤未婚や晩婚化は女性の家事や育児の負担感が大きい為〔%〕

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無 回 答



【前回調査との比較】『反対』が前回（26.1%）より少なく、「どちらかといえば賛成」は前回（18.5%）よりやや多い。

問19. ⑤晩婚化は女性の家事や育児の負担感が大きいためである							
	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399	56	74	45	59	142	23
	100.0	14.0	18.5	11.3	14.8	35.6	5.8
今回	381	50	81	37	33	161	19
	100.0	13.1	21.3	9.7	8.7	42.3	5.0

⑥未婚や晩婚化が進んでいるのは経済的な理由が大きい

全体では、『賛成』が51.7%と多い。

年代別では、『賛成』が18～29歳で72.3%と多く、年代が上ると少なくなり、70歳以上で32.8%である。

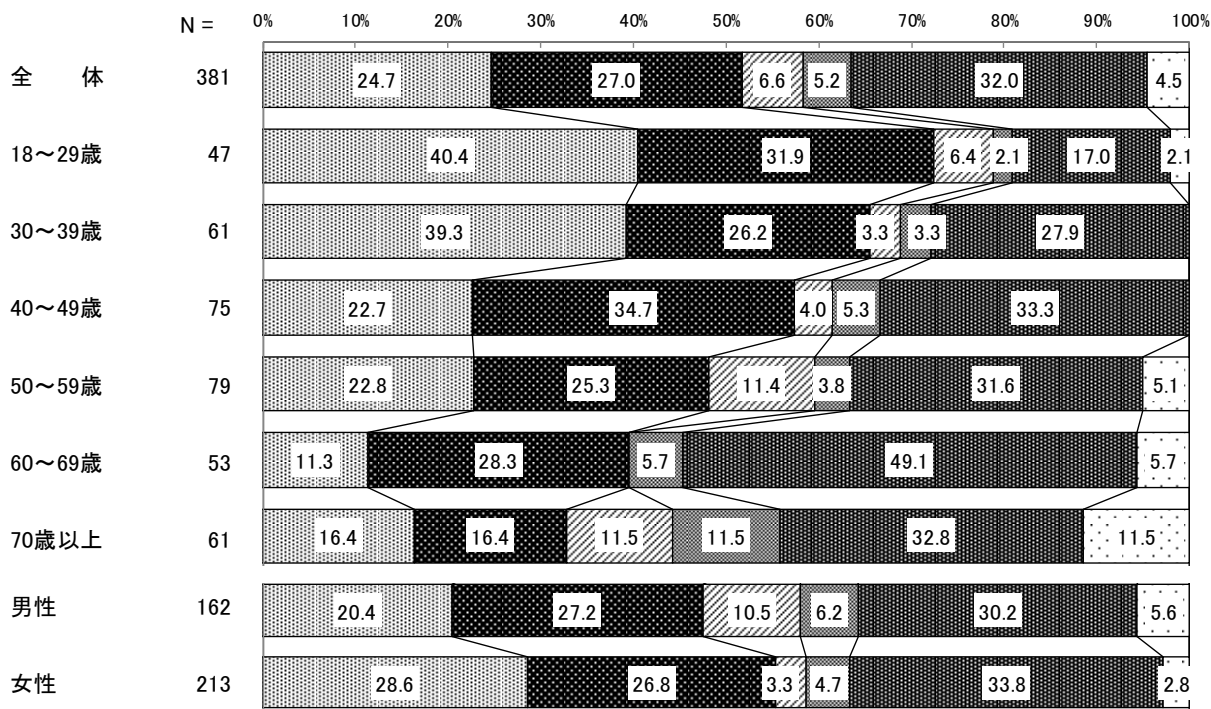
男女別では、『賛成』は女性で55.4%、男性で47.6%と女性の方がやや多い。

性・年代別では、「どちらかといえば反対」は男性の50～59歳で22.9%と多く、「賛成」は女性の18～29歳で48.3%、30～39歳で43.9%と多い。

職業別では、「どちらかといえば賛成」は商工・サービス業の家族従事者で66.7%、商工・サービス業の自営業主で55.6%、公務員で40.5%と多く、「反対」は農林水産業の自営業主で26.7%と多い。

問19⑥未婚や晩婚化が進んでいるのは経済的な理由が大きい[%]

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無回答



【前回調査との比較】「賛成」が前回（26.8%）よりやや少ない。

問19. ⑥結婚しない人や晩婚化は、経済的な理由である							
	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399 100.0	107 26.8	108 27.1	29 7.3	26 6.5	108 27.1	21 5.3
今回	381 100.0	94 24.7	103 27.0	25 6.6	20 5.2	122 32.0	17 4.5

⑦男性はもっと家事や育児等の家庭生活に参画すべき

全体では、『賛成』が82.7%と多い。

年代別では、「賛成」が30～39歳で60.7%と最も多く、「どちらかといえば賛成」と合わせた『賛成』が18～29歳と50～59歳で88%前後と多い。

男女別では、「賛成」は女性で59.2%、男性で32.1%と女性の方が多く、「どちらかといえば賛成」は男性で43.8%、女性で29.1%と男性の方が多い。『賛成』は女性で88.3%、男性で75.9%と女性の方がやや多い。

性・年代別では、「どちらかといえば賛成」は男性の70歳以上で53.6%、50～59歳でも51.4%と多く、「賛成」は女性の30～39歳で75.6%、40～49歳で65.0%、50～59歳で61.4%と多い。

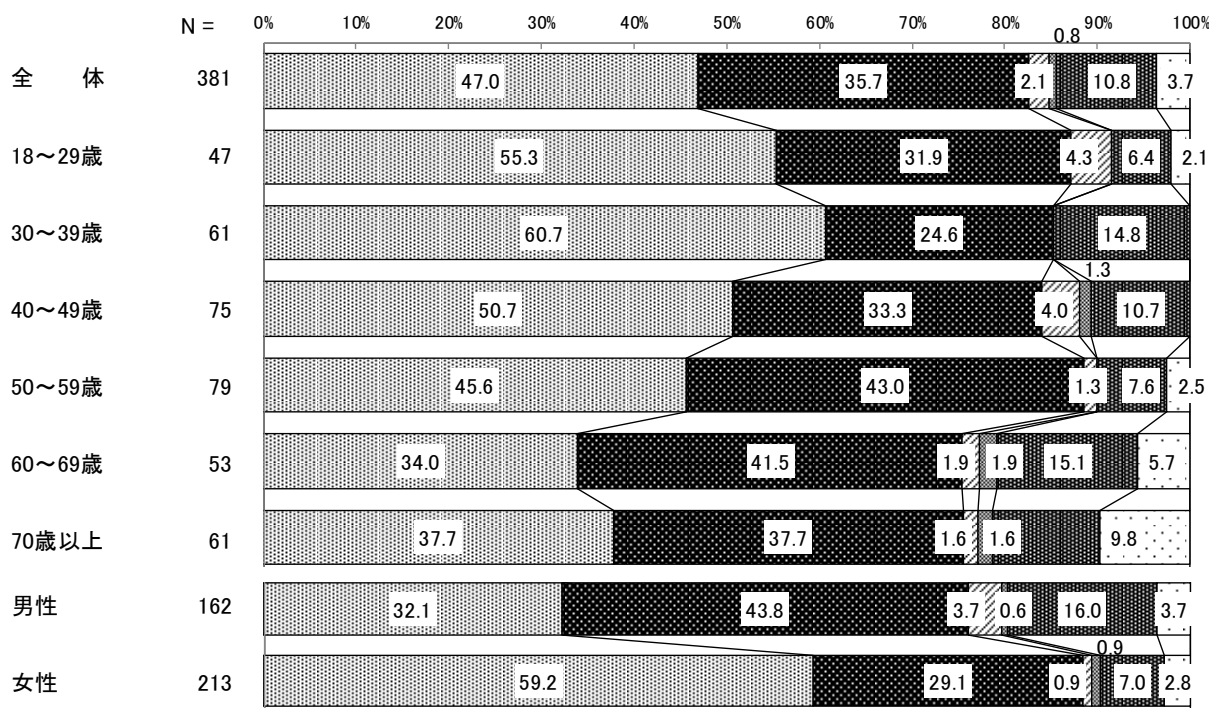
職業別では、「賛成」はパート・アルバイト・派遣等で62.1%と多く、「どちらかといえば賛成」は農林水産業の自営業主で66.7%、公務員で45.2%とやや多い。

未婚別では、離別・死別で「賛成」が61.1%と多い。

世帯構成別では、親と子と孫等（三世代以上同居）で「賛成」が57.1%と多い。

問19 ⑦男性はもっと家事や育児等の家庭生活に参画すべき[%]

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無 回 答



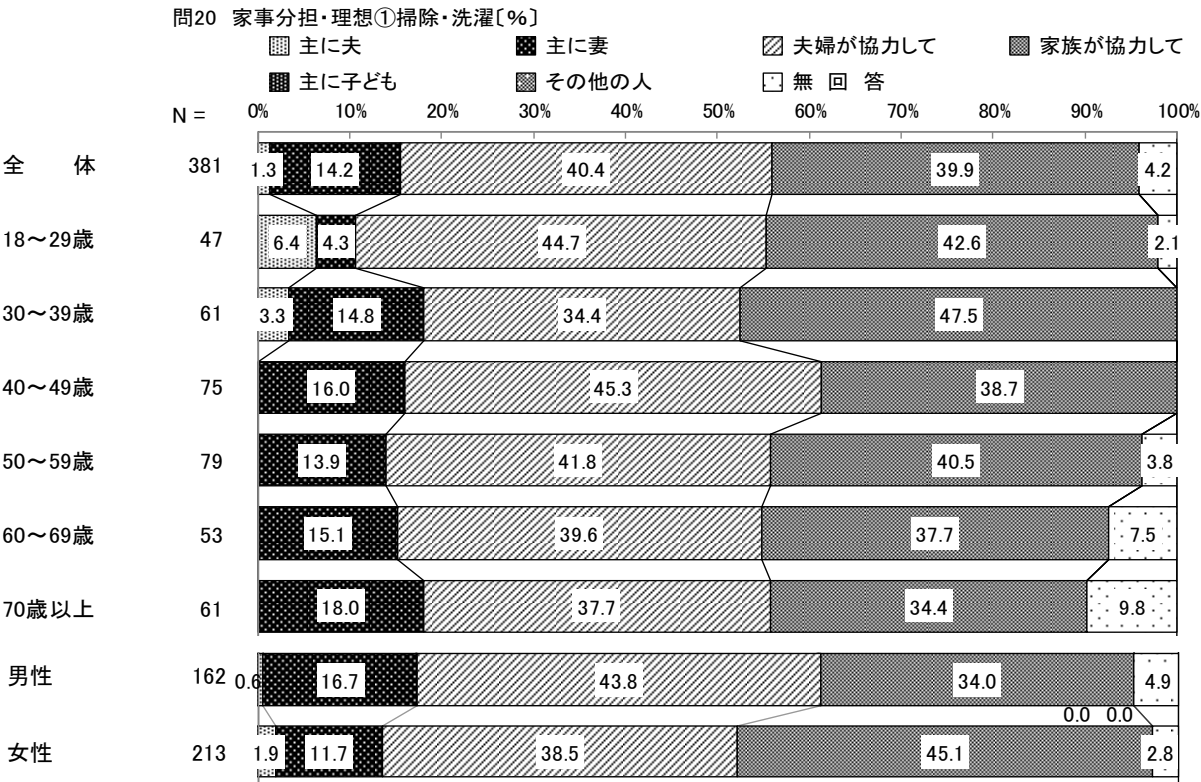
【前回調査との比較】「賛成」が前回（42.4%）よりやや多い。

問19. ⑦男性はもっと家庭生活に参画すべき							
	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399	169	171	11	1	28	19
	100.0	42.4	42.9	2.8	0.3	7.0	4.8
今回	381	179	136	8	3	41	14
	100.0	47.0	35.7	2.1	0.8	10.8	3.7

問 20 あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。(①～⑦に○は1つずつ)
 ※結婚されていない方も、結婚していると仮定してお答えください。

①掃除・洗濯

全体では、「夫婦が協力して」と「家族が協力して」が40%前後と多い。
 年代別では、「主に夫」が18～29歳で6.4%と多く、「主に妻」が4.3%と少ない。
 男女別では、「夫婦が協力して」は男性で43.8%、女性で38.5%と男性の方がやや多く、回答は少ないが「主に夫」は女性で1.9%、男性で0.6%と女性の方が多い。
 性・年代別では、「夫婦が協力して」は男女ともに18～29歳で50%を超えて多い。
 職業別では、「夫婦が協力して」が会社員（その他）で55.6%と多く、「家族が協力して」が商工・サービス業の家族従事者で66.7%、公務員で52.4%、専業主婦・主夫で50.0%と多い。「主に妻」は商工・サービス業の自営業主で44.4%、農林水産業の家族従事者で33.3%と多い。
 共働き状況別では、「主に妻」が共働きではない家庭で27.0%と多い。
 世帯構成別では、「夫婦が協力して」が親と子と孫等（三世代以上同居）と夫婦ふたり暮らしで46%を超えてやや多い。
 家事分担の現実別では、家族が協力している家庭で「家族が協力して」が60.0%、夫婦が協力している家庭で「夫婦が協力して」が54.7%と多い。



【前回調査との比較】「主に妻」が前回 (21.8%) より少なく、「夫婦が協力して」が前回 (35.1%) よりやや多い。

問20. ①掃除・洗濯 (理想)								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399 100.0	2 0.5	87 21.8	140 35.1	160 40.1	0 0.0	0 0.0	10 2.5
今回	381 100.0	5 1.3	54 14.2	154 40.4	152 39.9	-	-	16 4.2

②食事のしたく

全体では、「夫婦が協力して」が38.1%と多く、「家族が協力して」は28.6%、「主に妻」が27.6%と続いている。

年代別では、「夫婦が協力して」が18～29歳で53.2%と最も多く、「家族が協力して」が60～69歳で37.7%と多い。

男女別では、「夫婦が協力して」は女性で43.2%、男性で32.1%と女性の方が多い。

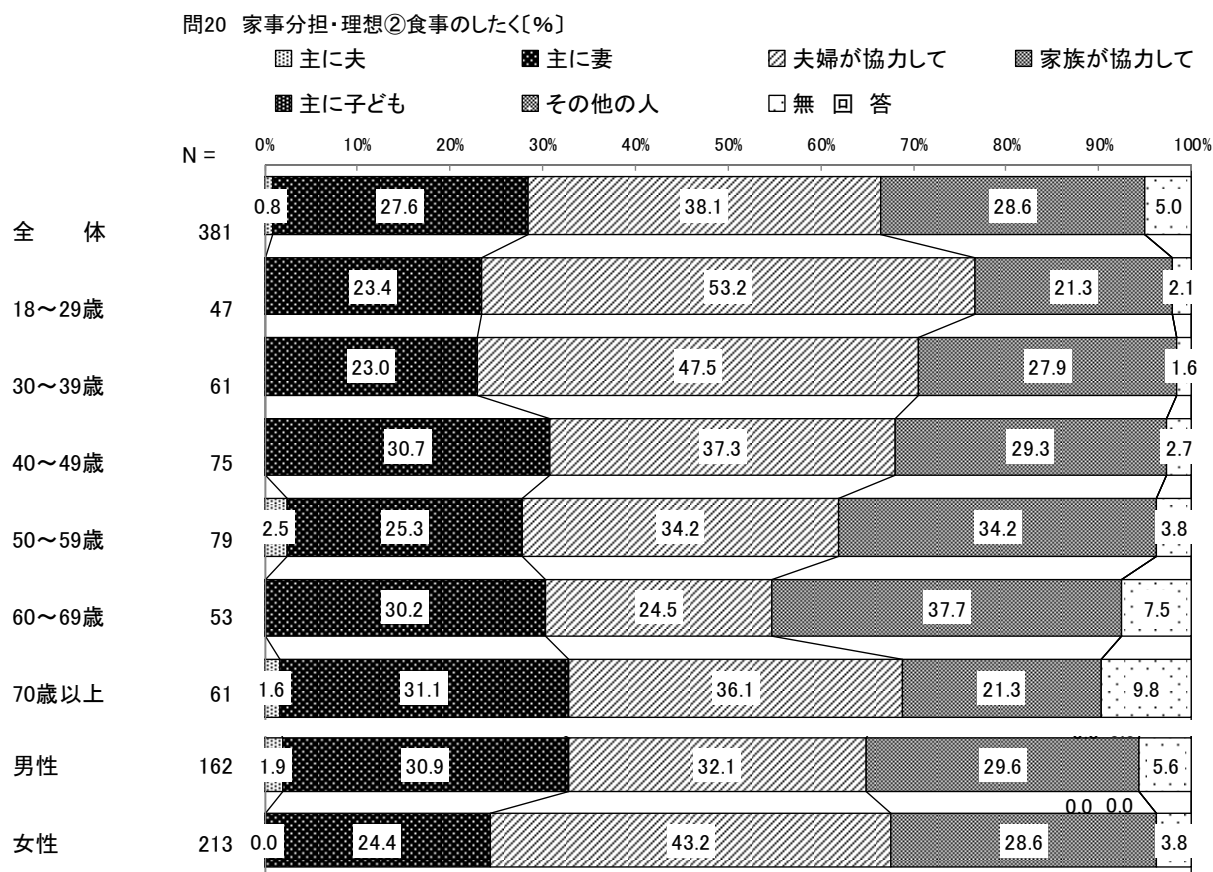
性・年代別では、「夫婦が協力して」は女性の18～29歳と30～39歳で58%台と多く、「家族が協力して」は女性の50～59歳で38.6%と多い。

職業別では、「夫婦が協力して」が農林水産業の家族従事者で66.7%、公務員で47.6%と多い。

共働き状況別では、「主に妻」が共働きではない家庭で39.7%と共働きの家庭の28.0%より多い。

世帯構成別では、「主に妻」が夫婦ふたり暮らしで36.6%と多い。

家事分担の現実別では、夫婦が協力している家庭で「夫婦が協力して」が62.8%、家族が協力している家庭で「家族が協力して」が46.3%と多い。



【前回調査との比較】「主に妻」が前回 (40.1%) より少なく、「夫婦が協力して」が前回 (31.1%) より多い。

問20. ②食事のしたく(理想)								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399	0	160	124	99	0	0	16
	100.0	0.0	40.1	31.1	24.8	0.0	0.0	4.0
今回	381	3	105	145	109	-	-	19
	100.0	0.8	27.6	38.1	28.6	-	-	5.0

③食事の後かたづけ・食器洗い

全体では、「家族が協力して」が43.6%と多く、「夫婦が協力して」が36.5%、「主に妻」が11.8%と続いている。

年代別では、「家族が協力して」が18～29歳で57.4%と多く、「主に妻」が60～69歳と70歳以上で15.1%、21.3%とやや多い。

男女別では、「家族が協力して」は女性で47.9%、男性で38.9%と女性の方が多い。

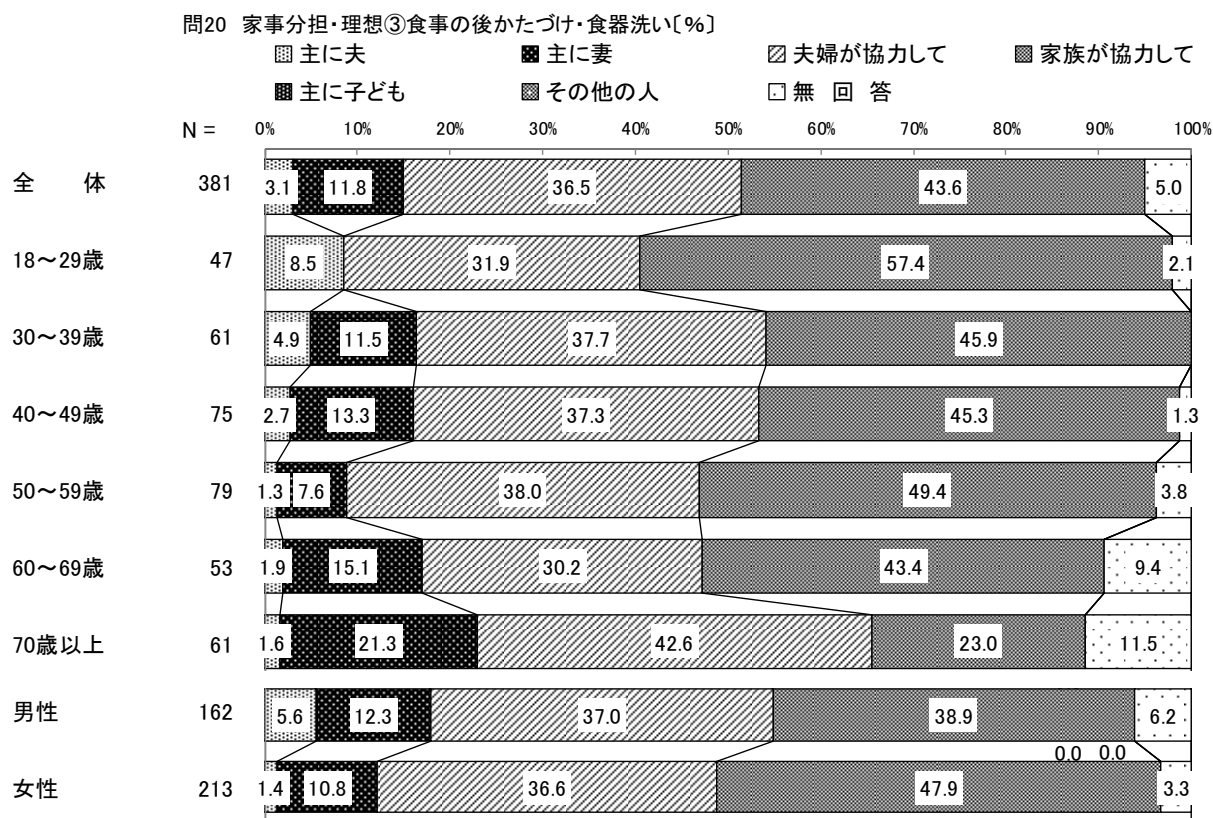
職業別では、「夫婦が協力して」が農林水産業の家族従事者で66.7%、会社員（その他）で51.9%と多く、「家族が協力して」が専業主婦・主夫と会社員（技術職）公務員で55%前後と多い。

未婚別では、「家族が協力して」が未婚で52.0%と多い。

共働き状況別では、「家族が協力して」が共働きではない家庭で28.6%と少ない。

世帯構成別では、「夫婦が協力して」が夫婦ふたり暮らしで46.5%と多い。

家事分担の現実別では、夫婦が協力している家庭で「夫婦が協力して」が50.7%、家族が協力している家庭で「家族が協力して」は65.5%と多い。



【前回調査との比較】「主に妻」が前回（16.5%）よりやや少なく、「夫婦が協力して」が前回（32.6%）よりやや多い。

問20. ③食事の後かたづけ・食器洗い(理想)								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399	9	66	130	176	3	0	15
	100.0	2.3	16.5	32.6	44.1	0.8	0.0	3.8
今回	381	12	45	139	166	-	-	19
	100.0	3.1	11.8	36.5	43.6	-	-	5.0

④日常の家計の管理

全体では、「夫婦が協力して」が48.6%と多く、「主に妻」が37.0%と続いている。

年代別では、「夫婦が協力して」が40・50・60歳代で50%を超えて多く、「主に妻」が70歳以上で41.0%とやや多い。

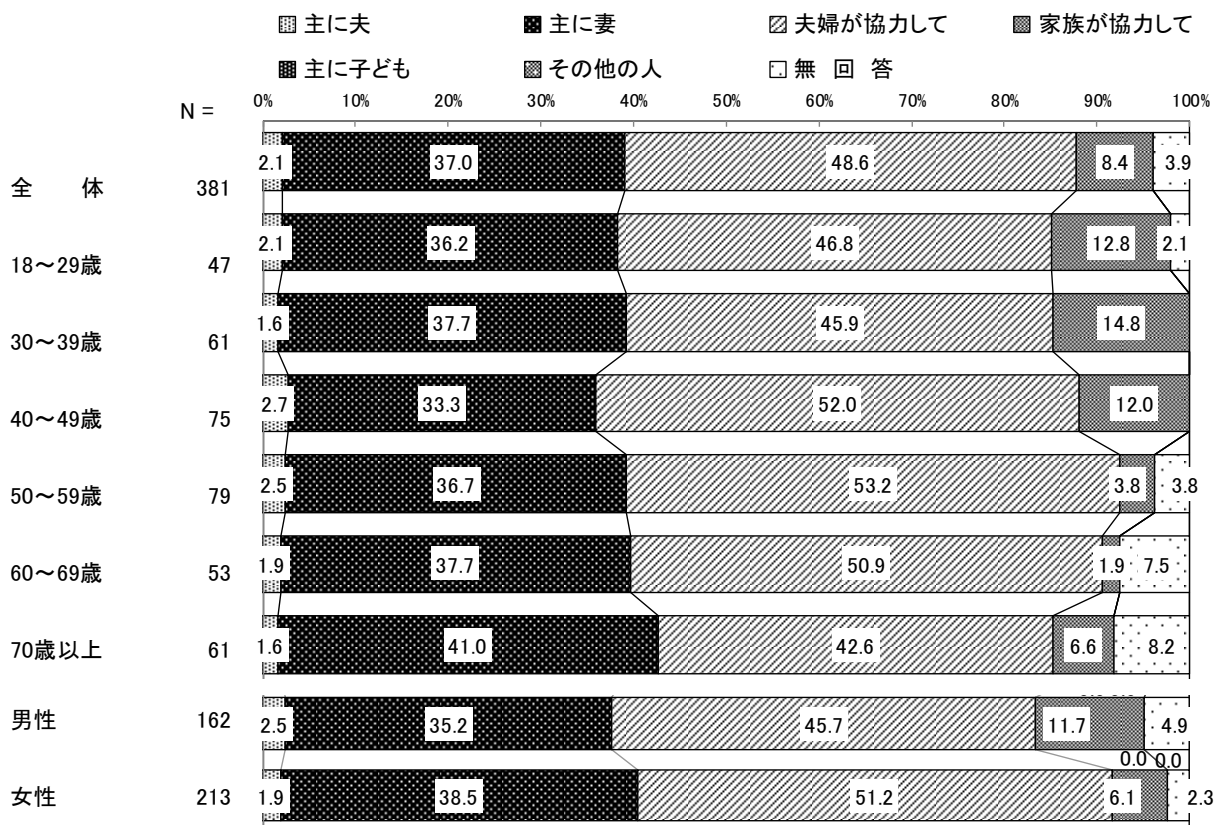
男女別では、「夫婦が協力して」は女性で51.2%、男性で45.7%と女性の方が多く、「家族が協力して」は男性で11.7%、女性で6.1%と男性の方が多い。

性・年代別では、「夫婦が協力して」は女性の40～59歳で60%前後と多い。

職業別では、「夫婦が協力して」が商工・サービス業の家族従事者で66.7%、公務員で59.5%と多い。「主に妻」は商工・サービス業の自営業主で55.6%と多く、農林水産業の自営業主で26.7%と少ない。

家事分担の現実別では、夫婦が協力している家庭で「夫婦が協力して」が70.9%と多い。

問20 家事分担・理想④日常の家計の管理[%]



【前回調査との比較】「主に妻」が前回(46.1%)より少なく、「夫婦が協力して」が前回(42.6%)よりやや多い。

問20. ④日常の家計の管理(理想)								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399	10	184	170	21	0	0	14
	100.0	2.5	46.1	42.6	5.3	0.0	0.0	3.5
今回	381	8	141	185	32	-	-	15
	100.0	2.1	37.0	48.6	8.4	-	-	3.9

⑤子育て（育児・しつけ）

全体では、「夫婦が協力して」が69.0%と多く、「家族が協力して」が18.9%と続いている。

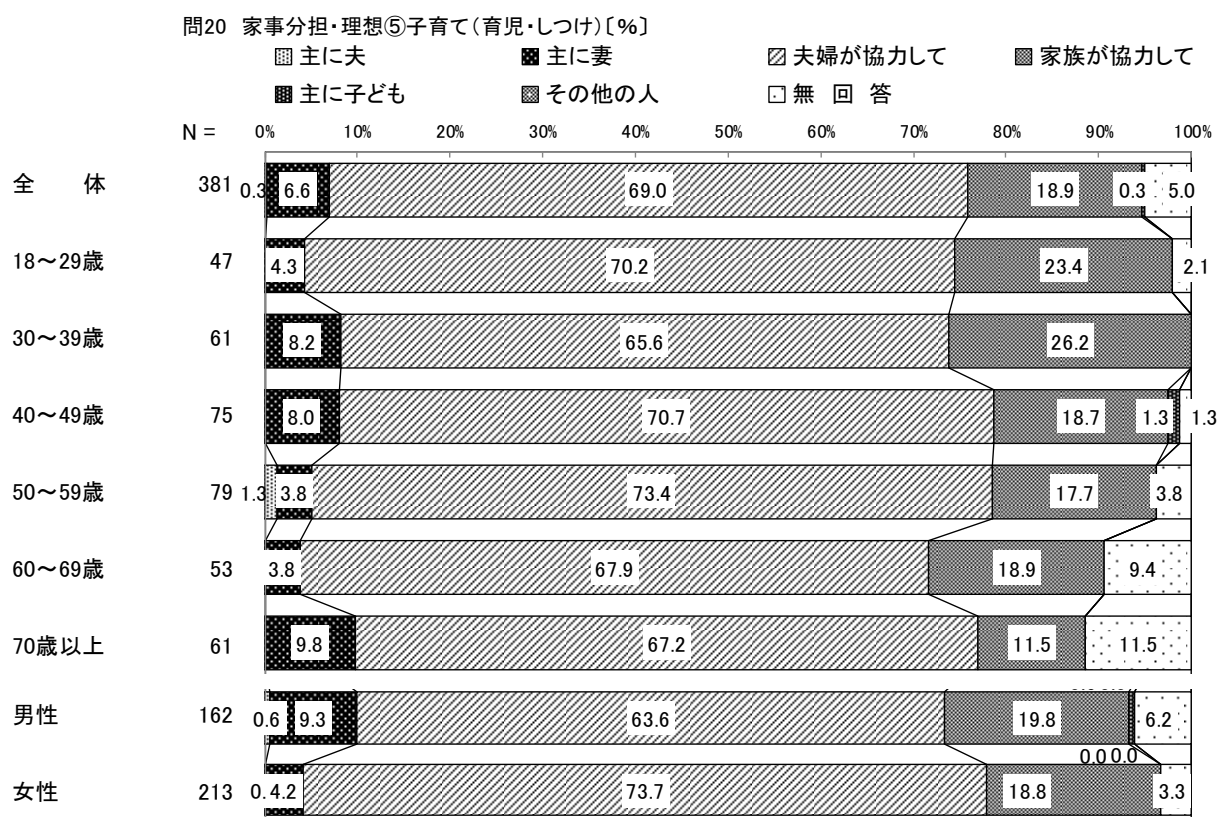
年代別では、「家族が協力して」が18～39歳で25%前後とやや多く、「主に夫」が50～59歳で1.3%回答されている。

男女別では、「夫婦が協力して」は女性で73.7%、男性で63.6%と女性の方がやや多い。

性・年代別では、「夫婦が協力して」は女性の50～59歳で84.1%と最も多い。

職業別では、「夫婦が協力して」が会社員（事務職）で82.8%、商工・サービス業の自営業主で77.8%、会社員（その他）で74.1%、会社員（技術職）で71.9%と多い。「家族が協力して」が農林水産業の家族従事者で50.0%、農林水産業の自営業主で40.0%と多い。

家事分担の現実別では、夫婦が協力している家庭で「夫婦が協力して」が77.8%、家族が協力している家庭で「家族が協力して」が44.7%と多い。



【前回調査との比較】「夫婦が協力して」が前回（75.2%）より少なく、「主に妻」が前回（4.0%）よりやや多い。

問20. ⑤子育て（育児・しつけ）（理想）								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399	1	16	300	68	0	0	14
	100.0	0.3	4.0	75.2	17.0	0.0	0.0	3.5
今回	381	1	25	263	72	1	-	19
	100.0	0.3	6.6	69.0	18.9	0.3	-	5.0

⑥家族の看護

全体では、「家族が協力して」が50.1%多く、「夫婦が協力して」が38.1%と続いている。

年代別では、「家族が協力して」が30～39歳で60.7%と多く、「夫婦が協力して」が40～49歳で49.3%と多い。「主に妻」が18～29歳と70歳以上で10%台とやや多い。

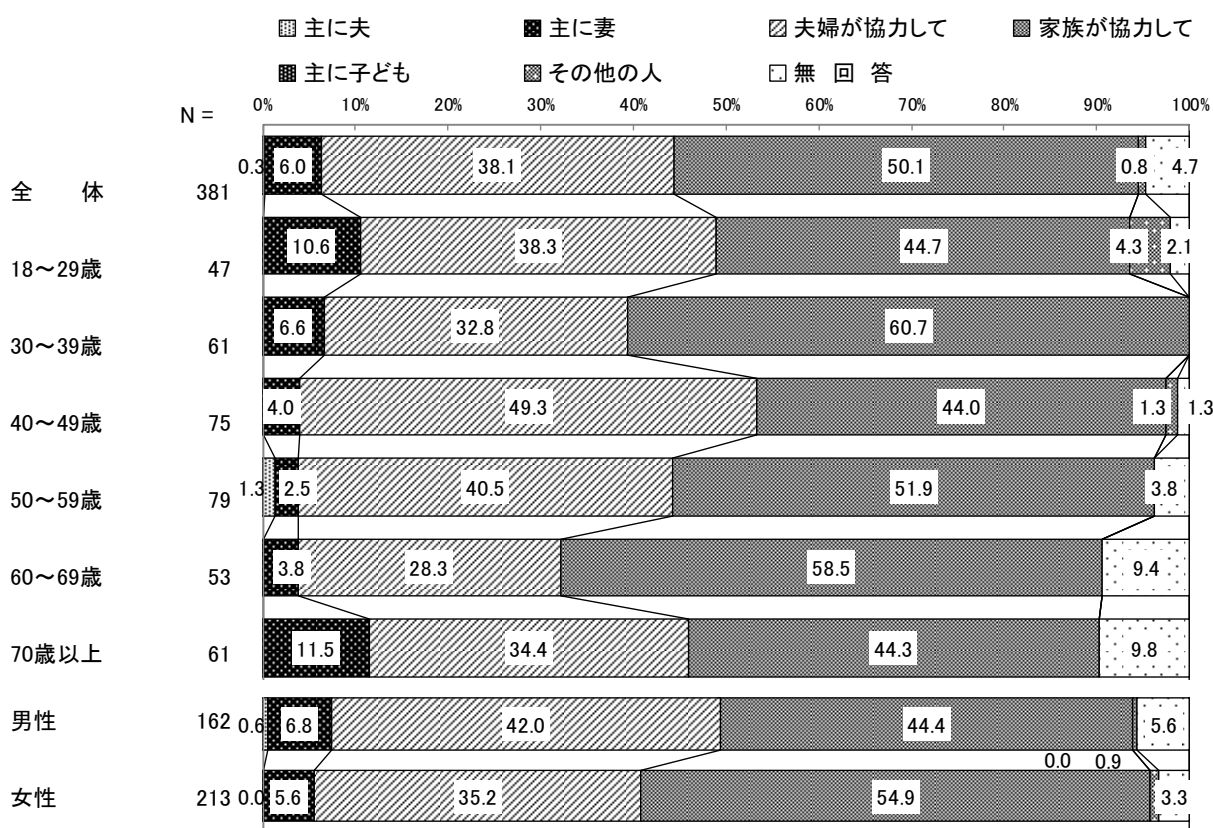
男女別では、「家族が協力して」は女性で54.9%、男性で44.4%と女性の方が多い。

性・年代別では、「家族が協力して」は女性の30～39歳と60～69歳で65%前後と多い。

職業別では、「家族が協力して」が農林水産業の家族従事者で66.7%、農林水産業の自営業主で60.0%、専業主婦・主夫で58.3%とやや多い。

家事分担の現実別では、「家族が協力して」は家族が協力している家庭で74.6%、主に夫の家庭で66.7%と多い。

問20 家事分担・理想⑥家族の看護[%]



【前回調査との比較】「家族が協力して」が前回（53.9%）よりやや少なく、「主に妻」が前回（3.3%）よりやや多い。

問20. ⑥家族の介護や看護(理想)								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399	1	13	152	215	0	2	16
	100.0	0.3	3.3	38.1	53.9	0.0	0.5	4.0
今回	381	1	23	145	191	-	3	18
	100.0	0.3	6.0	38.1	50.1	-	0.8	4.7

⑦家族の介護（高齢者・障害者）

全体では、「家族が協力して」が53.5%と多く、「夫婦が協力して」が31.2%と続いている。

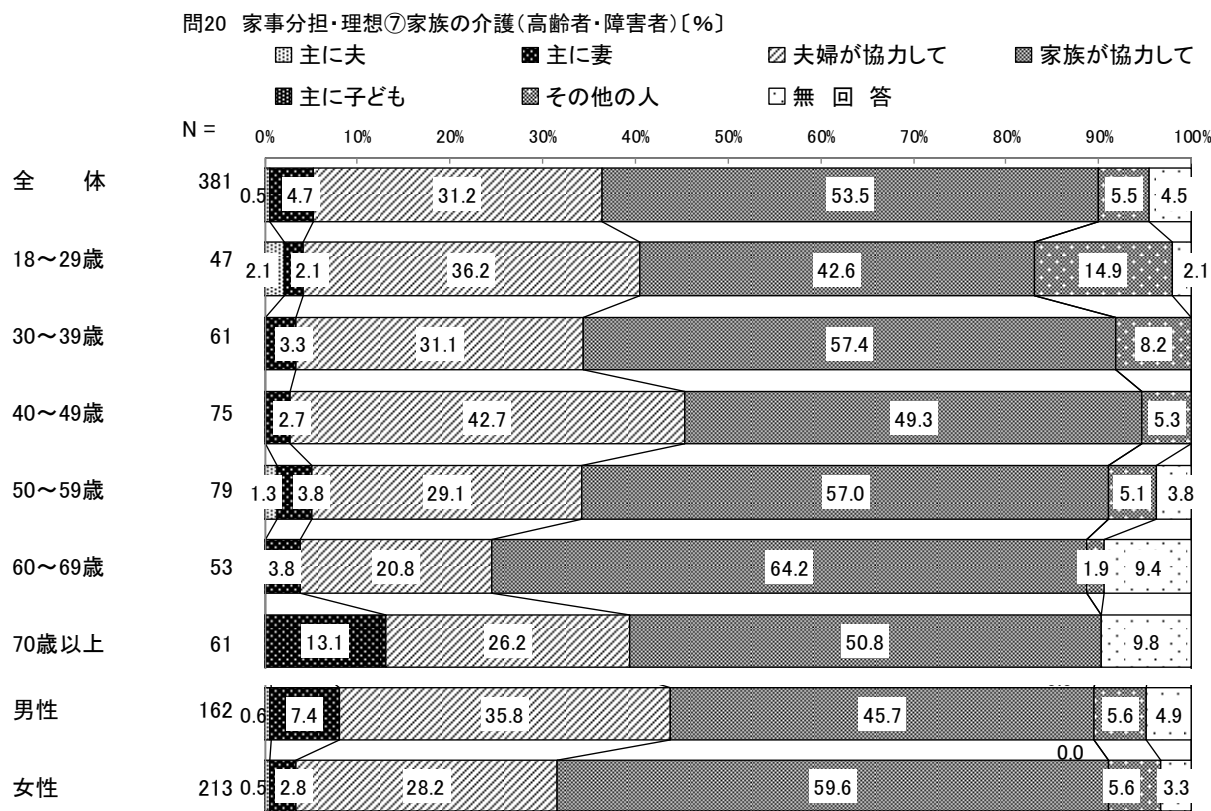
年代別では、「家族が協力して」が60～69歳で64.2%と多く、「夫婦が協力して」が40～49歳で42.7%と多い。「主に妻」が70歳以上で13.1%と多い。

男女別では、「家族が協力して」は女性で59.6%、男性で45.7%と女性の方が多い。「夫婦が協力して」は男性で35.8%、女性で28.2%と男性の方が多い。

性・年代別では、「家族が協力して」は女性の50～59歳で72.7%、60～69歳で69.2%と多く、「夫婦が協力して」は女性の40～49歳で42.5%と多い。

職業別では、「家族が協力して」が農林水産業の家族従事者と商工・サービス業の家族従事者とともに83.3%、商工・サービス業の自営業主と専業主婦とともに66.7%と多く、「夫婦が協力して」が会社員（事務職）、会社員（技術職）、会社員（その他）で40%を超えて多い。

家事分担の現実別では、家族が協力している家庭で「家族が協力して」が80.0%、夫婦が協力している家庭で「夫婦が協力して」が45.7%と多い。



問 21 あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に誰が分担していますか。

①掃除・洗濯

全体では、「主に妻」が57.0%と多く、「夫婦が協力して」が16.8%、「家族が協力して」が11.8%と続いている。

年代別では、「主に妻」が50・60歳代で65%を超えて多く、「夫婦が協力して」が30～39歳で31.1%、「家族が協力して」が18～29歳で25.5%と多い。「主に夫」が60～69歳で13.2%とやや多い。

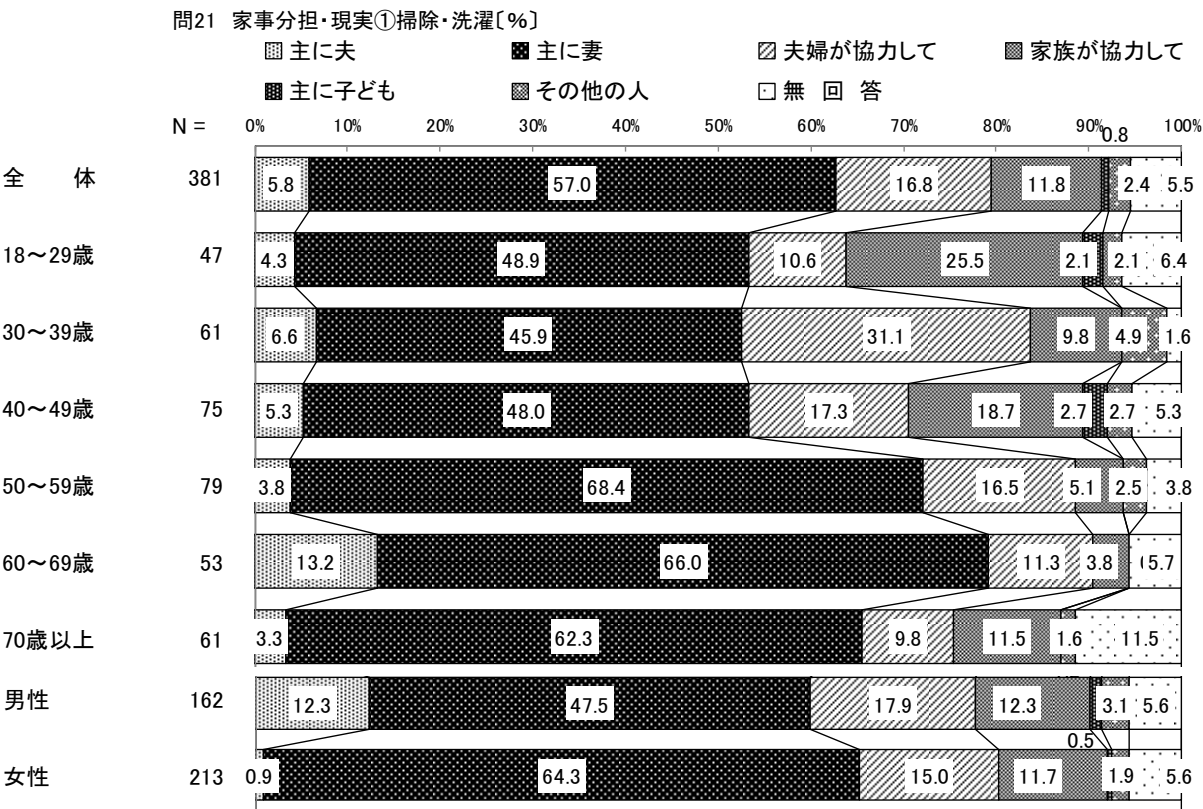
男女別では、「主に妻」は女性で64.3%、男性で47.5%と女性の方が多い。

性・年代別では、「主に妻」は女性の60～69歳で92.3%、50～59歳で81.8%と多い。

職業別では、「主に妻」が専業主婦・主夫で75.0%、「夫婦が協力して」が会社員（その他）で27.8%と多い。

共働き状況別では、「夫婦が協力して」が共働きの家庭で29.3%と多く、共働きではない家庭で19.0%と少ない。

世帯構成別では、「主に妻」が夫婦ふたり暮らしで71.8%と多い。



【前回調査との比較】「主に妻」が前回（60.9%）よりやや少なく、「主に夫」と「家族が協力して」が前回（3.0%、8.5%）よりやや多い。

問21. ①掃除・洗濯（現実）								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399	12	243	74	34	8	8	20
	100.0	3.0	60.9	18.5	8.5	2.0	2.0	5.0
今回	381	22	217	64	45	3	9	21
	100.0	5.8	57.0	16.8	11.8	0.8	2.4	5.5

②食事のしたく

全体では、「主に妻」が63.8%と多く、「夫婦が協力して」が11.3%、「家族が協力して」が10.8%と続いている。

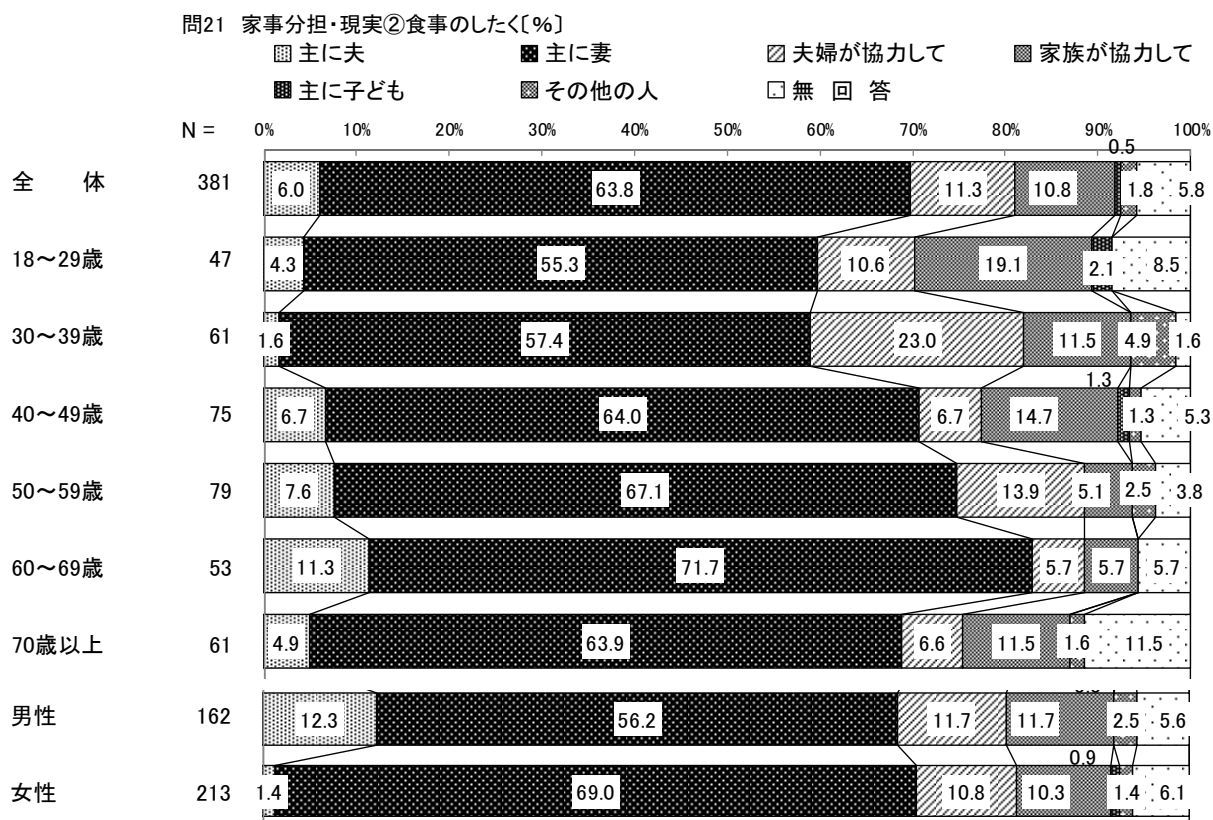
年代別では、「主に妻」と「主に夫」が60～69歳で71.7%、11.3%と多く、「夫婦が協力して」が30～39歳で23.0%、「家族が協力して」が18～29歳で19.1%と多い。

男女別では、「主に夫」は男性で12.3%、女性で1.4%と男性の方がやや多い。

性・年代別では、「主に妻」は女性の60～69歳で92.3%、50～59歳で79.5%と多い。

職業別では、「主に妻」が専業主婦・主夫で83.3%、パート・アルバイト・派遣等で72.4%と多い。

世帯構成別では、「主に妻」が夫婦ふたり暮らしで77.5%と多い。



【前回調査との比較】「主に妻」が前回（68.9%）より少なく、「主に夫」と「家族が協力して」が前回（2.5%、7.0%）よりやや多い。

問21. ②食事のしたく(現実)								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399 100.0	10 2.5	275 68.9	44 11.0	28 7.0	7 1.8	10 2.5	25 6.3
今回	381 100.0	23 6.0	243 63.8	43 11.3	41 10.8	2 0.5	7 1.8	22 5.8

③食事の後かたづけ・食器洗い

全体では、「主に妻」が50.4%と多く、「夫婦が協力して」が18.1%、「家族が協力して」が14.4%と続いている。

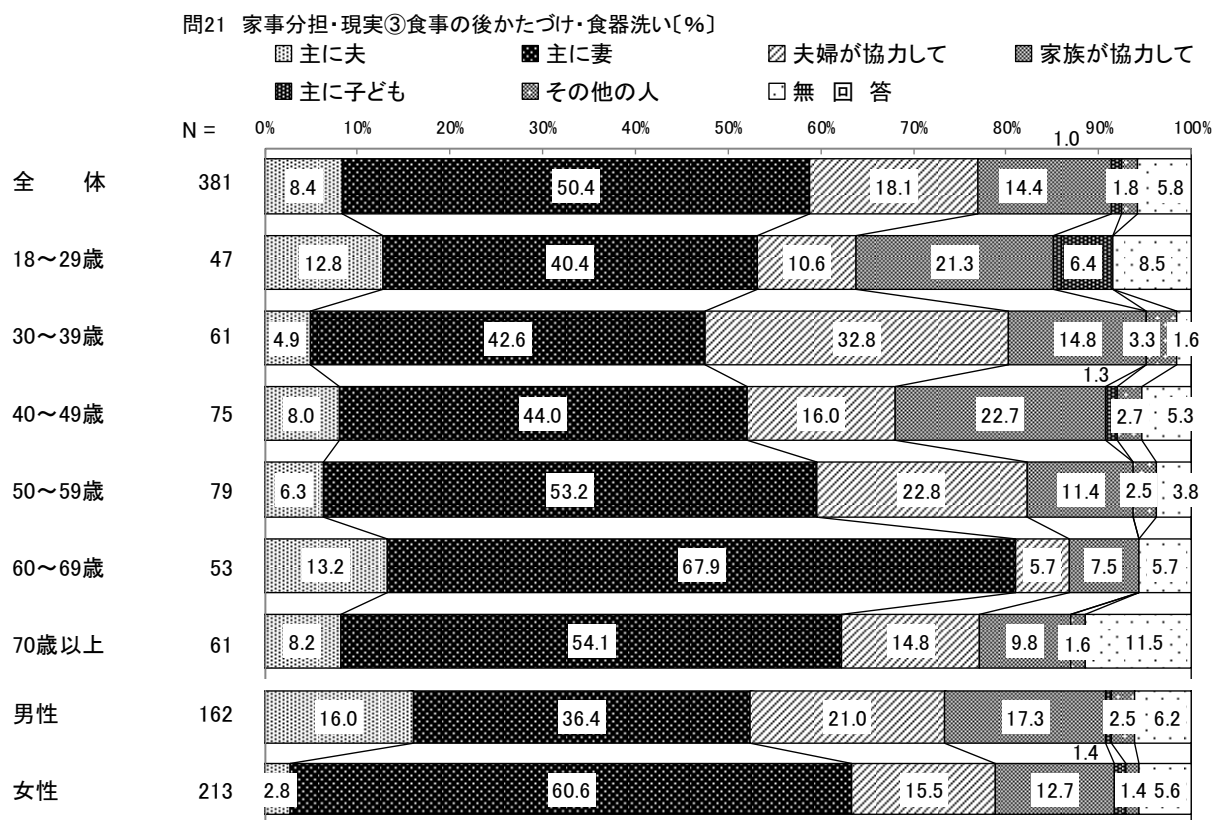
年代別では、「主に妻」が60～69歳で67.9%と多く、「夫婦が協力して」が30～39歳で32.8%と多い。

男女別では、「主に妻」は女性で60.6%、男性で36.4%と女性の方が多い。

性・年代別では、「主に妻」は女性の60～69歳で96.2%、50～59歳で65.9%と多い。「夫婦が協力して」は男性の50～59歳で28.6%、30～39歳で25.0%、40～49歳で22.9%とやや多く、「家族が協力して」は男性の18～29歳で38.9%、30～39歳で25.0%と多い。

職業別では、「夫婦が協力して」が会社員（技術職）で28.1%、公務員で26.2%、会社員（その他）で22.2%と多い。

世帯構成別では、「主に妻」が夫婦ふたり暮らしで66.2%、親と子と孫等（三世代以上同居）で62.9%と多い。



【前回調査との比較】「主に妻」が前回（56.1%）より少なく、「主に夫」と「家族が協力して」が前回（3.0%、11.3%）よりやや多い。

問21. ③食事の後かたづけ・食器洗い(現実)								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399	12	224	75	45	9	8	26
	100.0	3.0	56.1	18.8	11.3	2.3	2.0	6.5
今回	381	32	192	69	55	4	7	22
	100.0	8.4	50.4	18.1	14.4	1.0	1.8	5.8

④日常の家計の管理

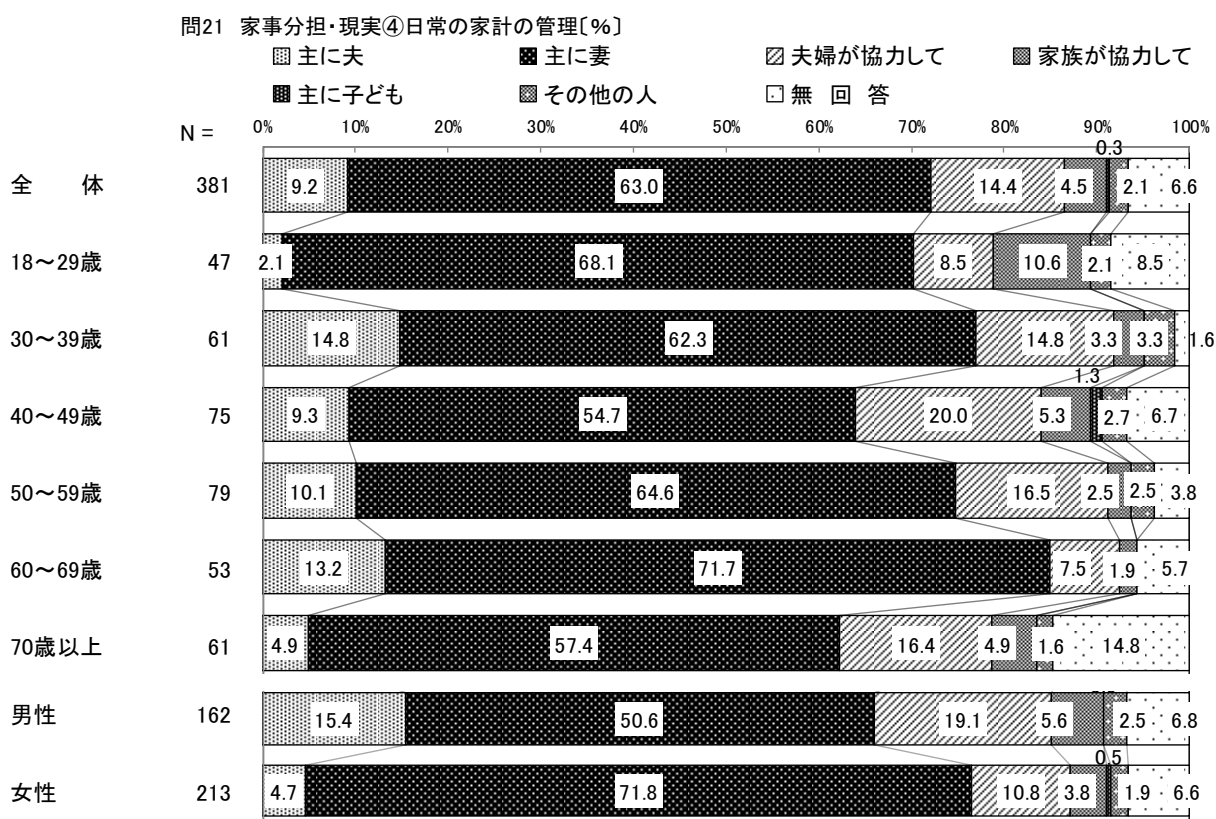
全体では、「主に妻」が63.0%と多く、「夫婦が協力して」が14.4%、「主に夫」が9.2%と続いている。

年代別では、「主に妻」が60～69歳で71.7%と多く、「夫婦が協力して」が40～49歳で20.0%と多い。

男女別では、「主に妻」は女性で71.8%、男性で50.6%と女性の方が多い。

性・年代別では、「主に妻」は女性の60～69歳で88.5%、50～59歳で77.3%と多い。「夫婦が協力して」が男性の40～49歳で25.7%、30～39歳で25.0%と多い。

職業別では、「主に妻」は専業主婦・主夫で75.0%、会社員（事務職）で72.4%と多い。



【前回調査との比較】「夫婦が協力して」が前回（17.0%）よりやや少ない。

問21. ④日常の家計の管理(現実)								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399	33	244	68	15	3	8	28
	100.0	8.3	61.2	17.0	3.8	0.8	2.0	7.0
今回	381	35	240	55	17	1	8	25
	100.0	9.2	63.0	14.4	4.5	0.3	2.1	6.6

⑤子育て（育児・しつけ）

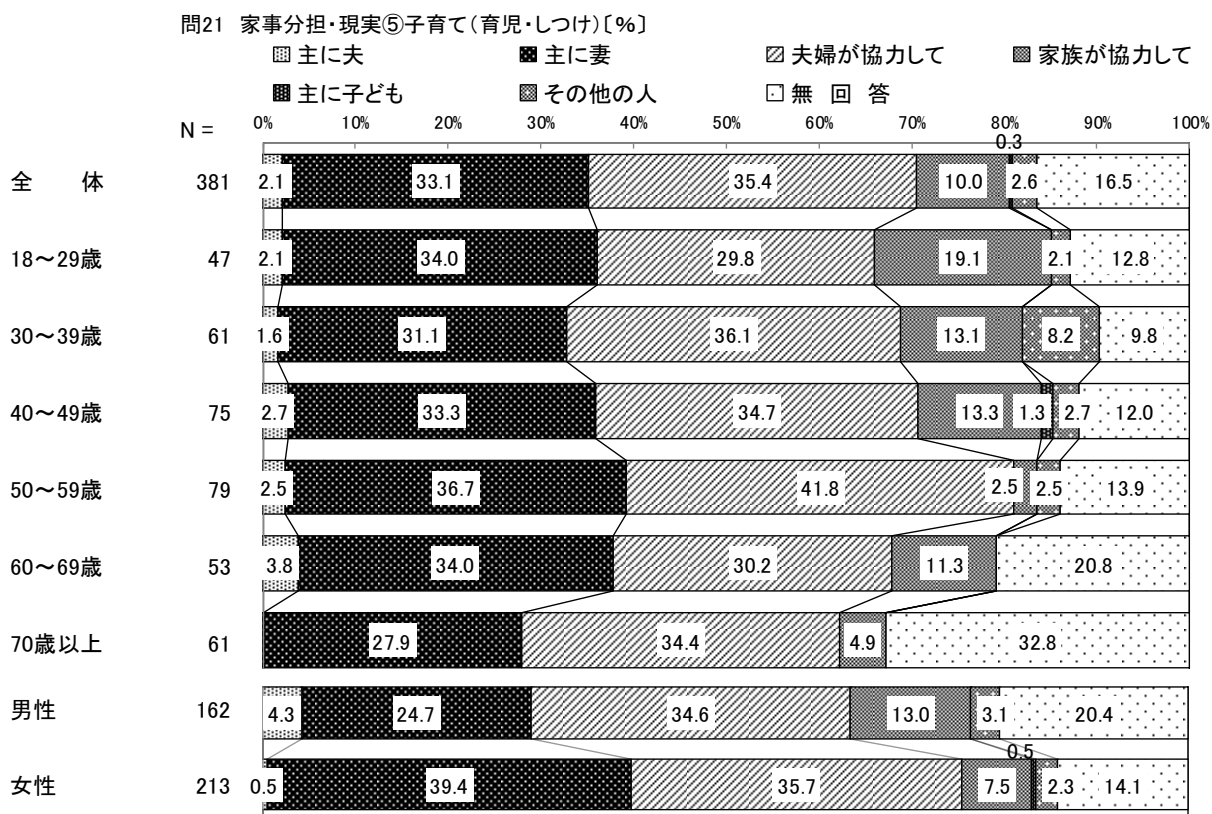
全体では、「夫婦が協力して」が35.4%、「主に妻」が33.1%と同程度で多く、「夫婦が協力して」が10.0%と続いている。

年代別では、「夫婦が協力して」が50～59歳で41.8%と多く、「家族が協力して」が18～29歳で19.1%と多い。

男女別では、「主に妻」は女性で39.4%、男性で24.7%と女性の方が多い。

職業別では、「主に妻」がパート・アルバイト・派遣等で43.1%、「夫婦が協力して」が商工・サービス業の自営業主で66.7%、商工・サービス業の家族従事者、公務員、専業主婦・主夫とともに50.0%と多い。「家族が協力して」が農林水産業の家族従事者と農林水産業の自営業主で30%前後と多い。

未婚別では、「夫婦が協力して」が既婚で46.1%と多い。



【前回調査との比較】「夫婦が協力して」が前回（40.6%）より少ない。

問21. ⑤子育て(育児・しつけ) (現実)								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399 100.0	5 1.3	122 30.6	162 40.6	37 9.3	1 0.3	9 2.3	63 15.8
今回	381 100.0	8 2.1	126 33.1	135 35.4	38 10.0	1 0.3	10 2.6	63 16.5

⑥家族の看護

全体では、「主に妻」が37.3%と多く、「夫婦が協力して」が23.9%、「家族が協力して」が17.6%と続いている。

年代別では、「主に妻」が60～69歳で41.5%と多く、「夫婦が協力して」が50～59歳で31.6%、「家族が協力して」が18～29歳で29.8%と多い。

男女別では、「主に妻」は女性で45.1%、男性で27.2%と女性の方が多い。

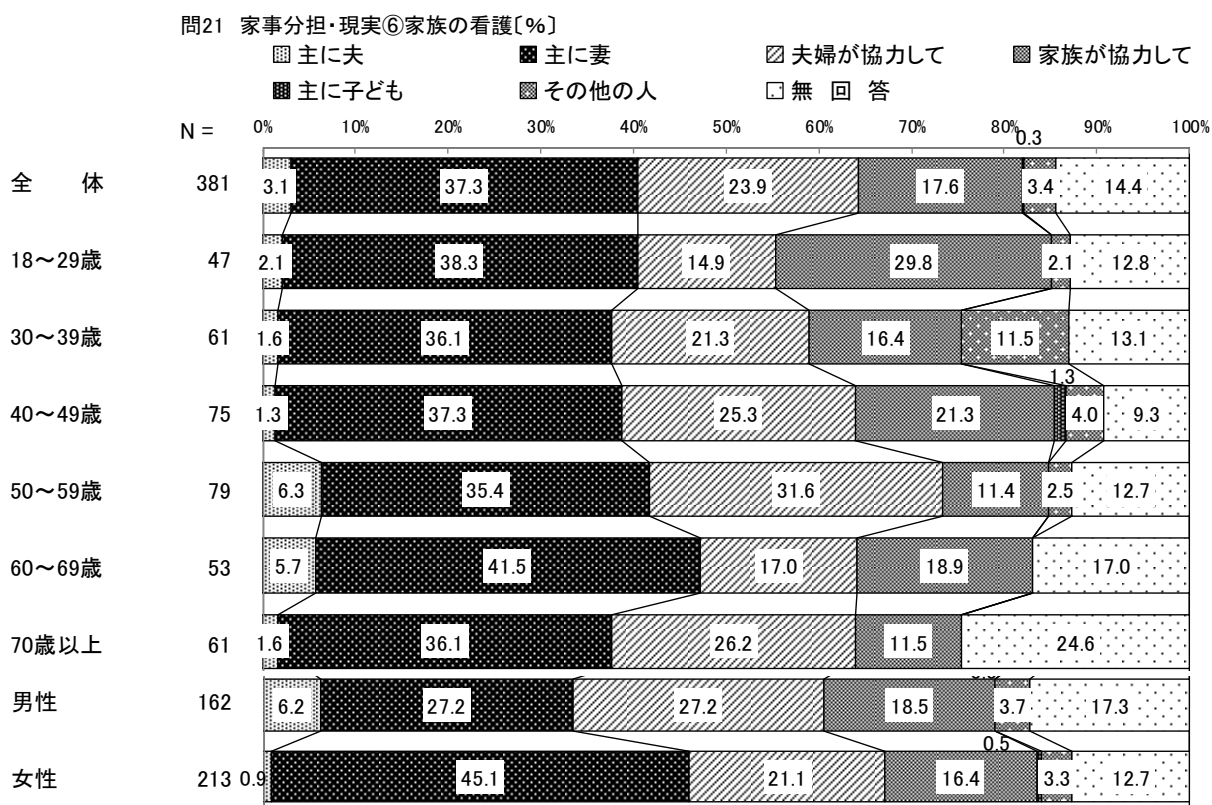
性・年代別では、「主に妻」は女性の60～69歳で53.8%、40～49歳で52.5%と多く、「夫婦が協力して」は男性の40・50歳代でともに34.3%と多い。

職業別では、「主に妻」が専業主婦・主夫が54.2%、パート・アルバイト・派遣等が50.0%と多く、「夫婦が協力して」が商工・サービス業の自営業主で44.4%、会社員（技術職）で37.5%と多い。

未婚別では、「夫婦が協力して」が既婚で34.2%と多い。

共働き状況別では、「夫婦が協力して」が共働きの家庭で37.3%と共働きではない家庭の28.6%より多い。

世帯構成別では、「夫婦が協力して」が夫婦ふたり暮らしで36.6%、「家族が協力して」が親と子と孫等（三世代以上同居）で28.6%と多い。



【前回調査との比較】「夫婦が協力して」が前回（31.6%）より少なく、「主に妻」が前回（28.1%）より多い。

問21. ⑥家族の介護や看護（現実）								
	全体	主に夫	主に妻	夫婦が協力して	家族が協力して	主に子ども	その他の人	無回答
前回	399	5	112	126	76	3	22	55
	100.0	1.3	28.1	31.6	19.0	0.8	5.5	13.8
今回	381	12	142	91	67	1	13	55
	100.0	3.1	37.3	23.9	17.6	0.3	3.4	14.4

⑦家族の介護（高齢者・障害者）

全体では、「主に妻」が27.6%、「夫婦が協力して」が24.1%、「家族が協力して」が18.4%と続いている。

年代別では、「主に妻」が50・60歳代で30%台と多く、「家族が協力して」が18～29歳で31.9%と多い。

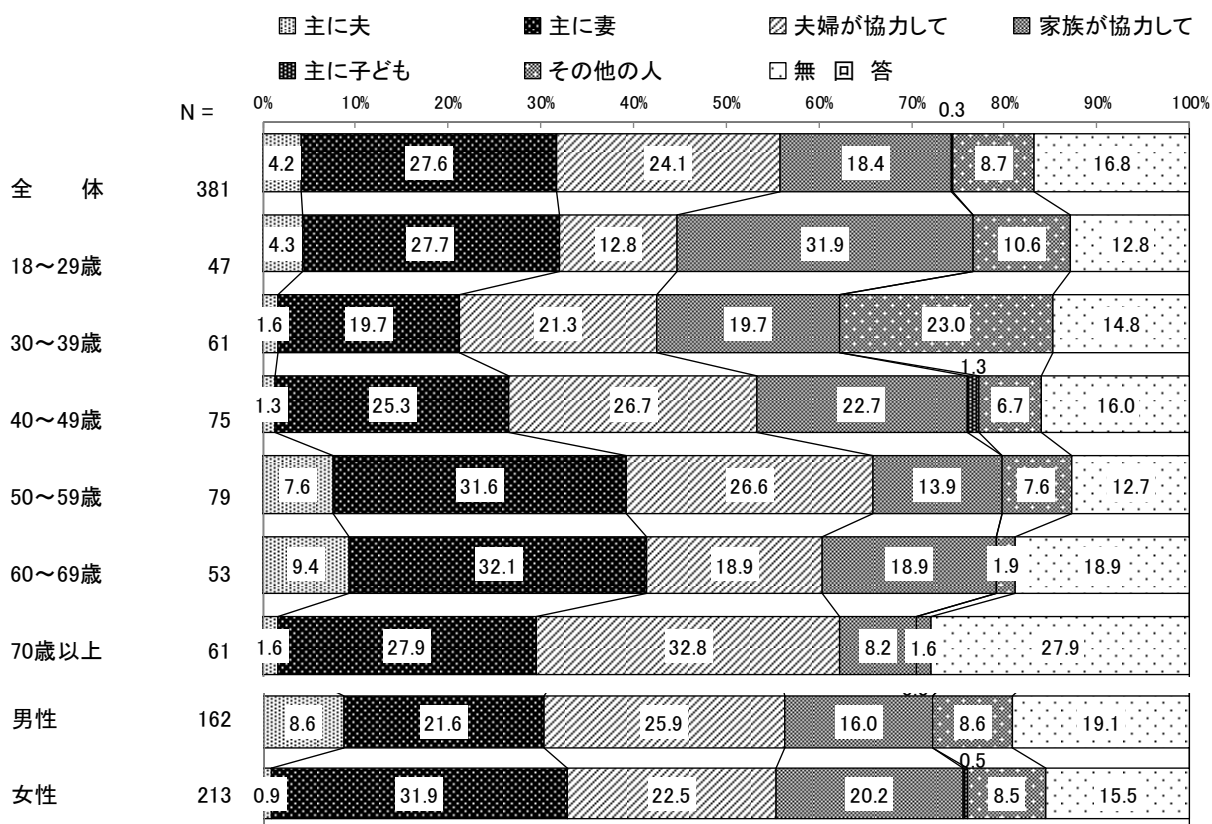
男女別では、「主に妻」は女性で31.9%、男性で21.6%と女性の方が多い。

職業別では、「主に妻」がパート・アルバイト・派遣等で44.8%と多い。

未婚別では、既婚で「夫婦が協力して」が35.6%と多い。

世帯構成別では、夫婦ふたり暮らしで「夫婦が協力して」が42.3%、親と子と孫等（三世代以上同居）で「家族が協力して」が31.4%と多い。

問21 家事分担・現実⑦家族の介護（高齢者・障害者）〔%〕



5 地域社会活動

問 22 あなたは、次のような地域活動に参加していますか。

全体では、「特に参加していない」が53.3%と多く、「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会等の活動」が31.5%、「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」が16.6%と続いている。

年代別では、「特に参加していない」が18～29歳で78.7%と最も多く、「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会等の活動」が70歳以上で41.0%と多い。

男女別では、「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会等の活動」と「防災・防犯等の地域活動」は男性で34.6%、18.5%、女性で29.1%、8.5%といずれも男性の方が多い。

性・年代別では、「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会等の活動」は男性の70歳以上で46.4%、60～69歳で42.3%と多く、「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」は女性の60～69歳で30.8%、70歳以上で27.3%と多い。

居住地区別では、「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会等の活動」が尾川地区で45.0%、「防災・防犯等の地域活動」が黒岩地区で23.3%と最も多い。

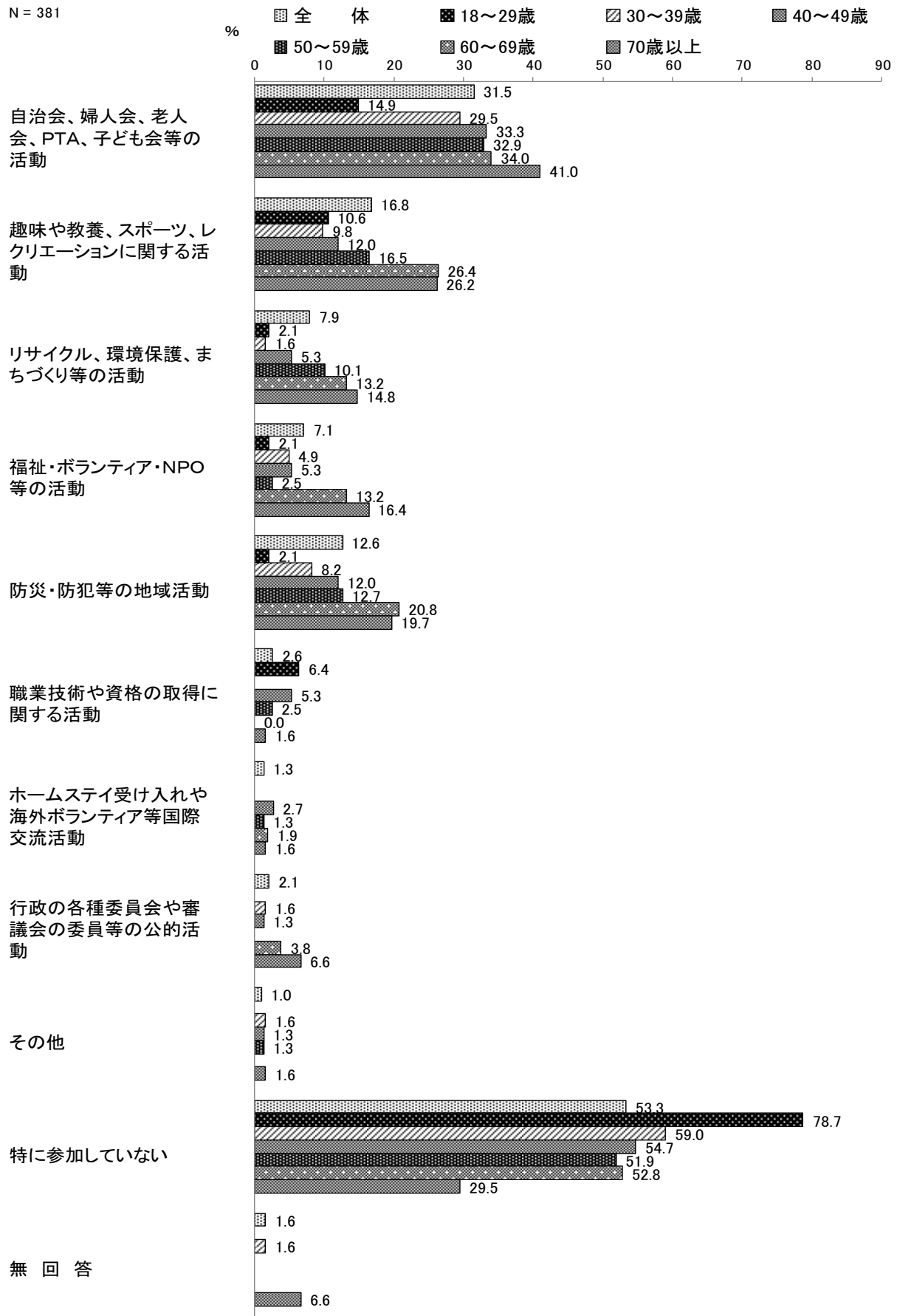
職業別では、「特に参加していない」が学生で77.8%、会社員（事務職）で69.0%と多い。

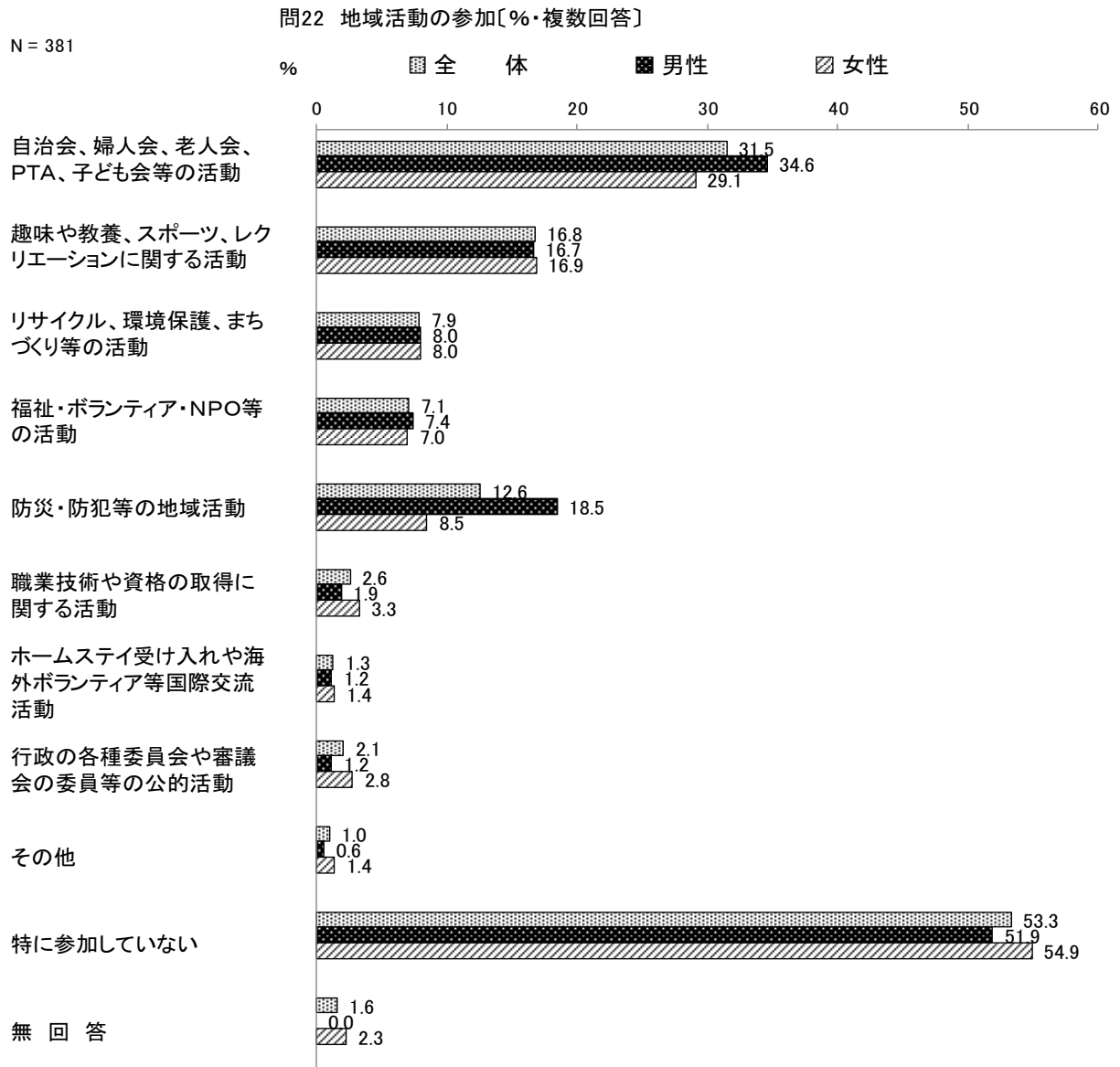
未婚別では、「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会等の活動」が既婚で41.6%と多い。

世帯構成別では、「特に参加していない」がひとり暮らしで64.4%と多い。

N = 381

問22 地域活動の参加[%・複数回答]





【前回調査との比較】「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」と「防災・防犯などの地域活動」が前回（23.6%、15.0%）より少なく、「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会などの活動」が前回（27.8%）よりやや多い。

問22. 地域活動参加状況								
	全体	自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会などの活動	趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動	リサイクル、環境保護、まちづくりなどの活動	福祉・ボランティア・NPOなどの活動	防災・防犯などの地域活動	職業技術や資格の取得に関する活動	ホームステイ受け入れや海外ボランティアなど国際交流活動
前回	399 100.0	111 27.8	94 23.6	28 7.0	35 8.8	60 15.0	10 2.5	5 1.3
今回	381 100.0	120 31.5	64 16.8	30 7.9	27 7.1	48 12.6	10 2.6	5 1.3

	行政の各種委員会や審議会の委員などの公的活動	その他	特に参加していない	無回答
前回	12 3.0	6 1.5	201 50.4	9 2.3
今回	8 2.1	4 1.0	203 53.3	6 1.6

問 23 あなたの住んでいる地域での様々な活動において、次のような男女間の格差がありますか。

全体では、「わからない」が42.0%と多く、「会議や行事等で女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」が39.9%、「地域の活動には女性の方が積極的で活発である」が12.3%と続いている。

年代別では、「地域の活動には女性の方が積極的で活発である」が60～69歳と70歳以上で18%台と多く、「わからない」が18～29歳と30～39歳で54%前後と多い。

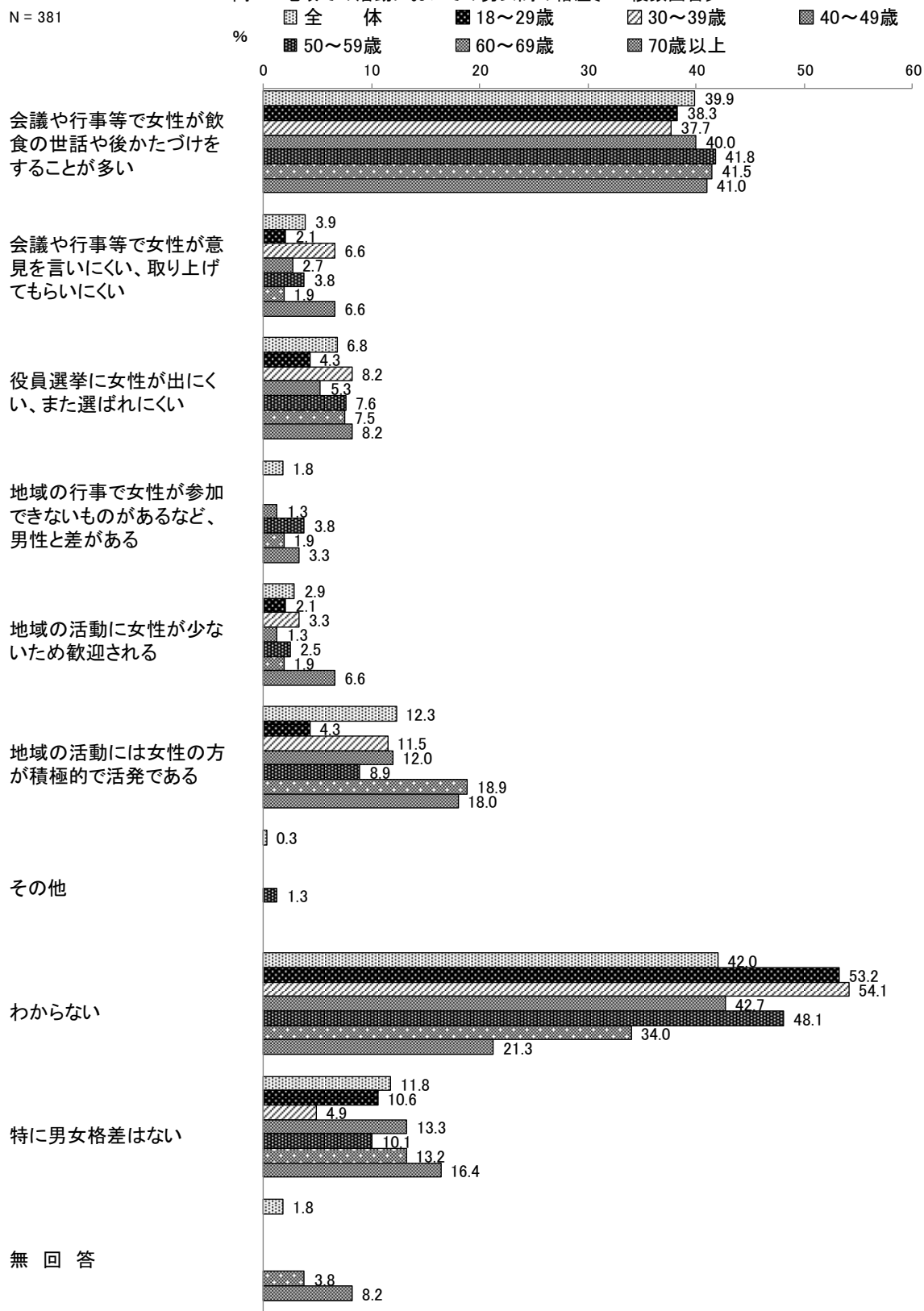
男女別では、「会議や行事等で女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」と「わからない」は女性で40%台と多く、「特に男女格差はない」は男性で16.0%と多い。

居住地区別では、「会議や行事等で女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」が斗賀野地区で52.4%、「特に男女格差はない」が尾川地区で30.0%と多い。

職業別では、「会議や行事等で女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」が公務員と専業主婦・主夫、農林水産業の家族従事者、商工・サービス業の家族従事者で50.0%を超えて多い。

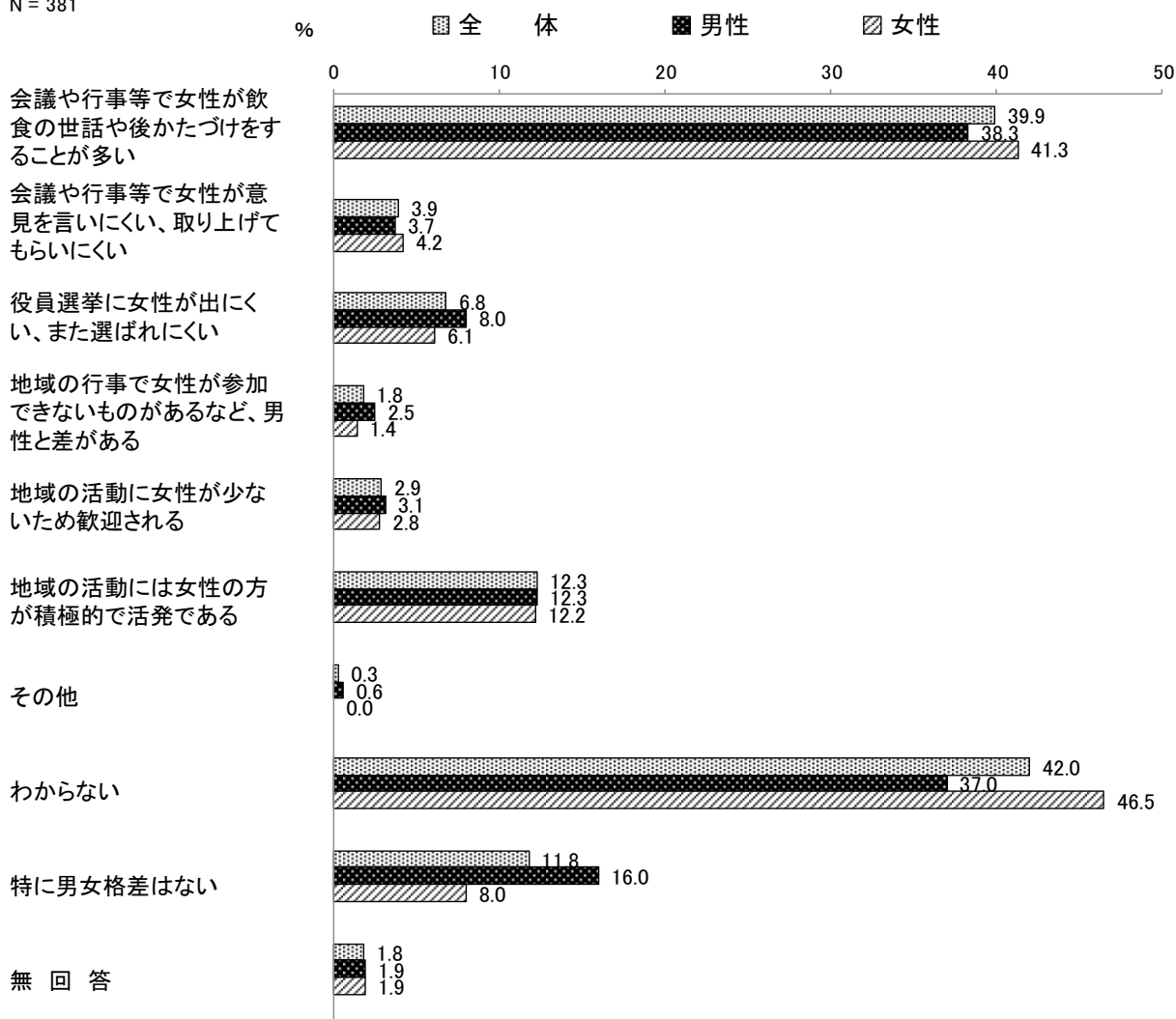
N = 381

問23 地域での活動においての男女間の格差[%・複数回答]



N = 381

問23 地域での活動における男女間の格差〔%・複数回答〕



【前回調査との比較】「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」と「会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見を取り上げてもらいにくい」が前回（47.9%、6.8%）より少なく、「わからない」が前回（30.1%）より多い。

問23. 地域活動における男女間の格差								
	全体	会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い	会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見を取り上げてもらいにくい	役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい	地域の行事で女性が参加できないものがあるなど、男性と差がある	地域の活動に女性が少いため歓迎される	地域の活動には女性の方が積極的で活発である	その他
前回	399 100.0	191 47.9	27 6.8	37 9.3	8 2.0	21 5.3	47 11.8	3 0.8
今回	381 100.0	152 39.9	15 3.9	26 6.8	7 1.8	11 2.9	47 12.3	1 0.3

	わからない	特に男女格差はない	無回答
前回	120 30.1	52 13.0	10 2.5
今回	160 42.0	45 11.8	7 1.8

問 24 あなたの住んでいる地域での様々な活動において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

全体では、「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」が38.3%と多く、「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」が33.9%、「わからない」が23.9%と続いている。

年代別では、「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」が30～39歳と60～69歳で46%前後と多く、「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」が18～29歳と70歳以上で40%を超えて多い。

男女別では、「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」、「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」と「地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること」は男性で42.6%、40.1%、22.8%と多い。「わからない」と「家族の理解と協力を得ること」は女性で27.7%、21.1%と多い。

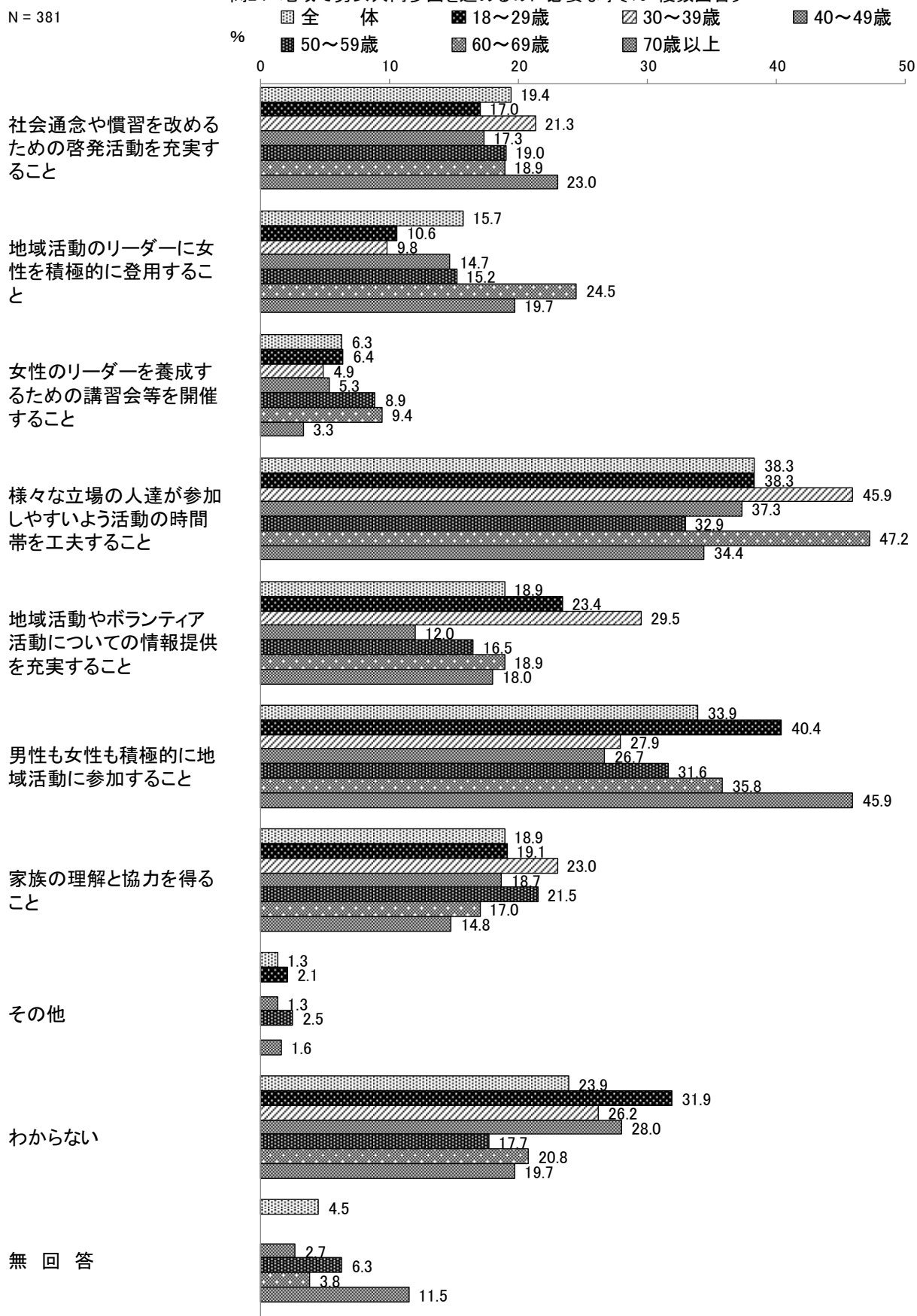
性・年代別では、「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」と「地域活動やボランティア活動についての情報提供を充実すること」は男性の18～29歳と30～39歳で50%以上、30%以上と多く、「地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること」は男性の60～69歳と70歳以上で30%前後と多い。「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」は男性の18～29歳と70歳以上で50%を超えて多い。

居住地区別では、「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」が尾川地区で60.0%と多い。

職業別では、「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」が商工・サービス業の家族従事者で66.7%、会社員（その他）で57.4%と多い。「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」が商工・サービス業の自営業主で55.6%と多く、農林水産業の自営業主で46.7%、学生で44.4%と続いている。「社会通念や慣習を改めるための啓発活動を充実すること」が専業主婦・主夫で33.3%、会社員（事務職）で31.0%と多く、「わからない」が会社員（技術職）で37.5%と多い。

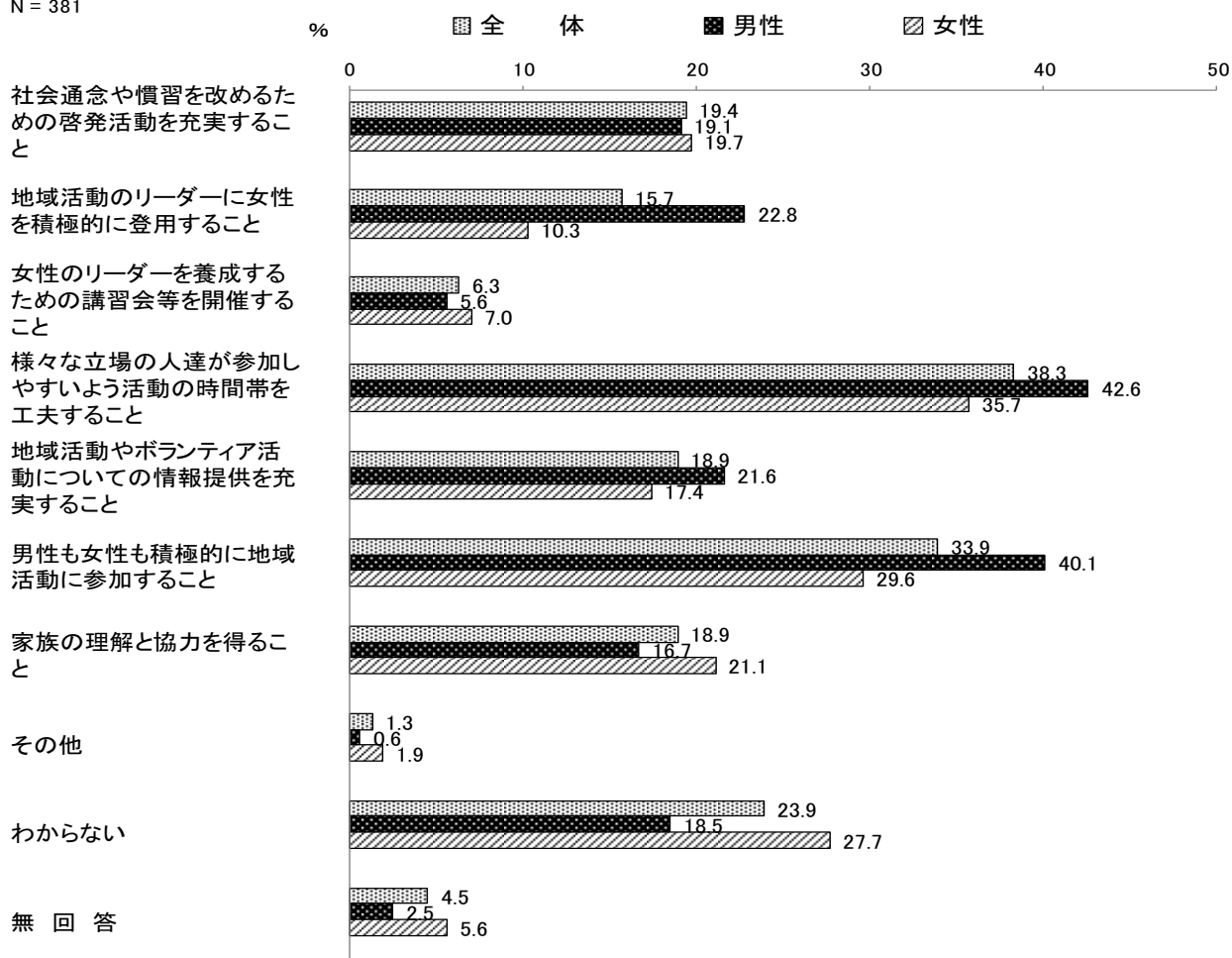
N = 381

問24 地域で男女共同参画を進めるのに必要な事〔%・複数回答〕



N = 381

問24 地域で男女共同参画を進めるのに必要な事[%・複数回答]



【前回調査との比較】「地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること」と「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」が前回（19.3%、38.8%）よりやや少なく、「地域に根付いている社会通念や慣習を改めるための啓発活動を充実すること」と「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」が前回（15.0%、35.8%）よりやや多い。

問24. 地域活動で男女共同参画を進めるため必要と思うこと								
	全体	地域に根付いている社会通念や慣習を改めるための啓発活動を充実すること	地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること	女性のリーダーを養成するための講習会などを開催すること	様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること	地域活動やボランティア活動についての情報提供を充実すること	男性も女性も積極的に地域活動に参加すること	家族の理解と協力を得ること
前回	399 100.0	60 15.0	77 19.3	32 8.0	143 35.8	89 22.3	155 38.8	79 19.8
今回	381 100.0	74 19.4	60 15.7	24 6.3	146 38.3	72 18.9	129 33.9	72 18.9
	その他	わからない	無回答					
前回	4 1.0	94 23.6	12 3.0					
今回	5 1.3	91 23.9	17 4.5					

6 人権意識

問 25 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人等親密な関係にあるパートナーからの暴力）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。

全体では、「一般的な知識として知っている」が65.1%と最も多く、「自分のまわりに経験した人がある」が16.8%、「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が16.3%と続いている。

年代別では、「自分のまわりに経験した人がある」が30～39歳で26.2%と多く、「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が60～69歳と70歳以上で30%前後と多い。

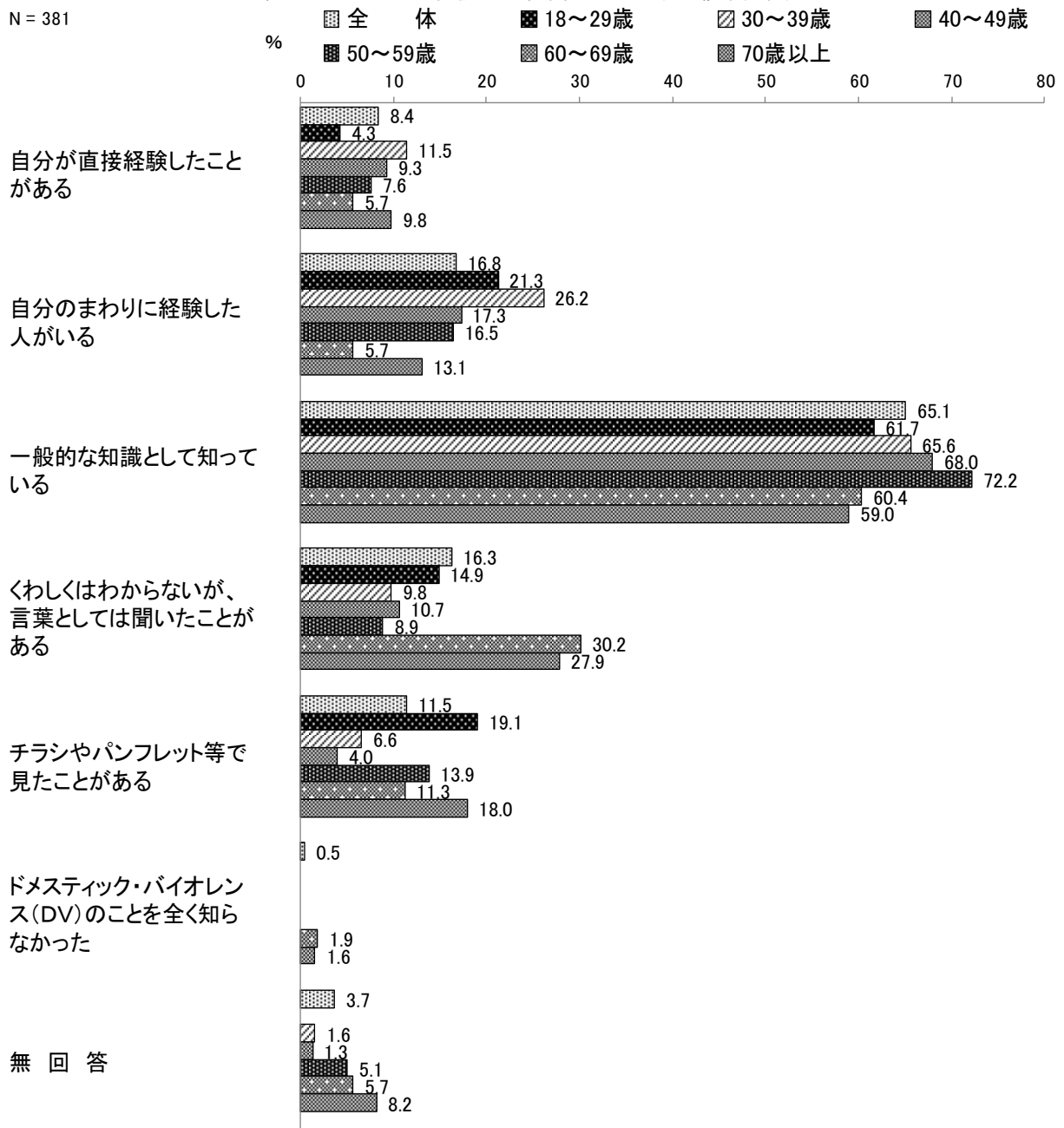
男女別では、「一般的な知識として知っている」と「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」は男性で67.3%、20.4%と多い。

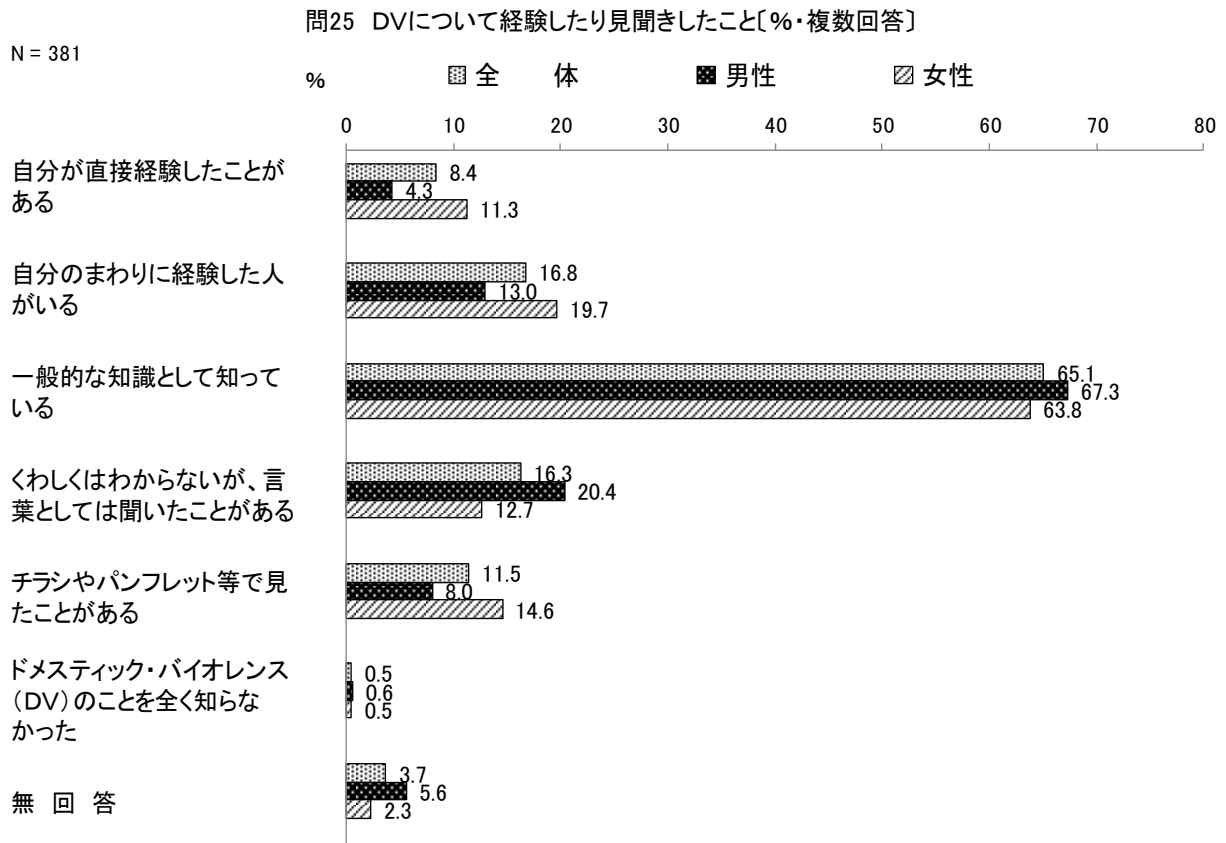
性・年代別では、「一般的な知識として知っている」は18～29歳の男性で77.8%と多く、女性は51.7%と少ない。「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」は男性の60～69歳で38.5%、女性の70歳以上で30.3%と多い。「自分のまわりに経験した人がある」は女性の18～29歳と30～39歳で30%前後と多い。

職業別では、「一般的な知識として知っている」が商工・サービス業の家族従事者で83.3%と最も多く、学生と公務員、会社員（事務職）で70%以上と続いている。

N = 381

問25 DVについて経験したり見聞きしたこと〔%・複数回答〕





【前回調査との比較】「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が前回 (19.3%) よりやや少なく、「自分のまわりに経験した人がある」が前回 (8.3%) より多い。

問25. DVの経験								
	全体	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した人がある	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある	チラシやパンフレットなどで見たことがある	ドメスティック・バイオレンス (DV) のことを全く知らなかった	無回答
前回	399 100.0	26 6.5	33 8.3	257 64.4	77 19.3	44 11.0	7 1.8	34 8.5
今回	381 100.0	32 8.4	64 16.8	248 65.1	62 16.3	44 11.5	2 0.5	14 3.7

問 26 (問 25 で 1 または 2 と回答した方に) あなたは、経験したことや見聞きしたことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

全体では、「どこ (だれ) にも相談しなかった」が35.6%と多く、「家族や親せきに相談した」が32.2%、「友人や知人に相談した」が27.6%と続いている。

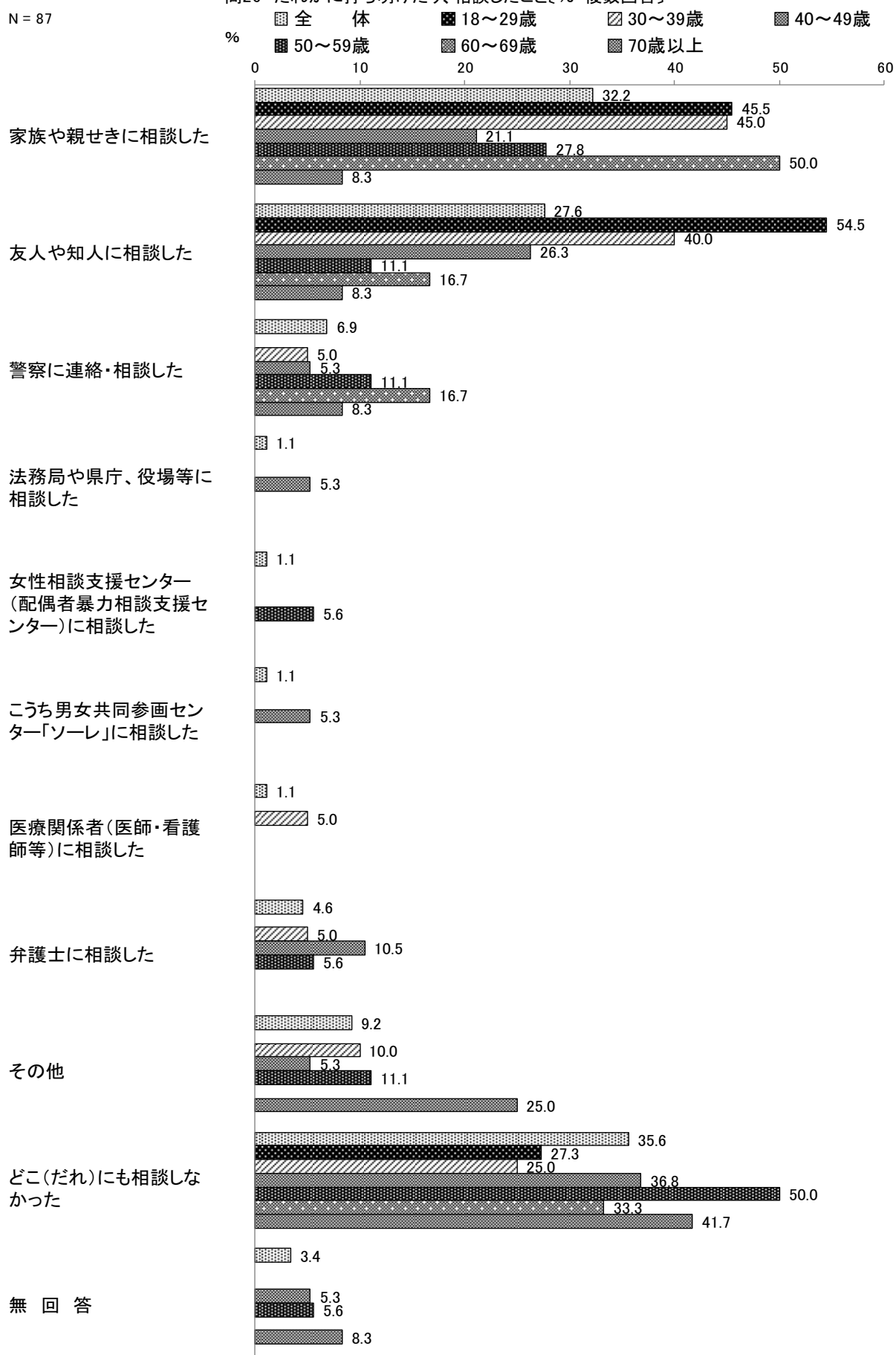
年代別では、「家族や親せきに相談した」が18～29歳、30～39歳と60～69歳で45%を超えて多く、「友人や知人に相談した」が18～29歳で54.5%、「どこ (だれ) にも相談しなかった」が50～59歳で50.0%と多い。

男女別では、男性で「どこ (だれ) にも相談しなかった」が57.7%と多く、「家族や親せきに相談した」と「友人や知人に相談した」がともに10%台と少ない。

職業別では、「どこ (だれ) にも相談しなかった」が無職で66.7%、公務員で46.7%と多い。

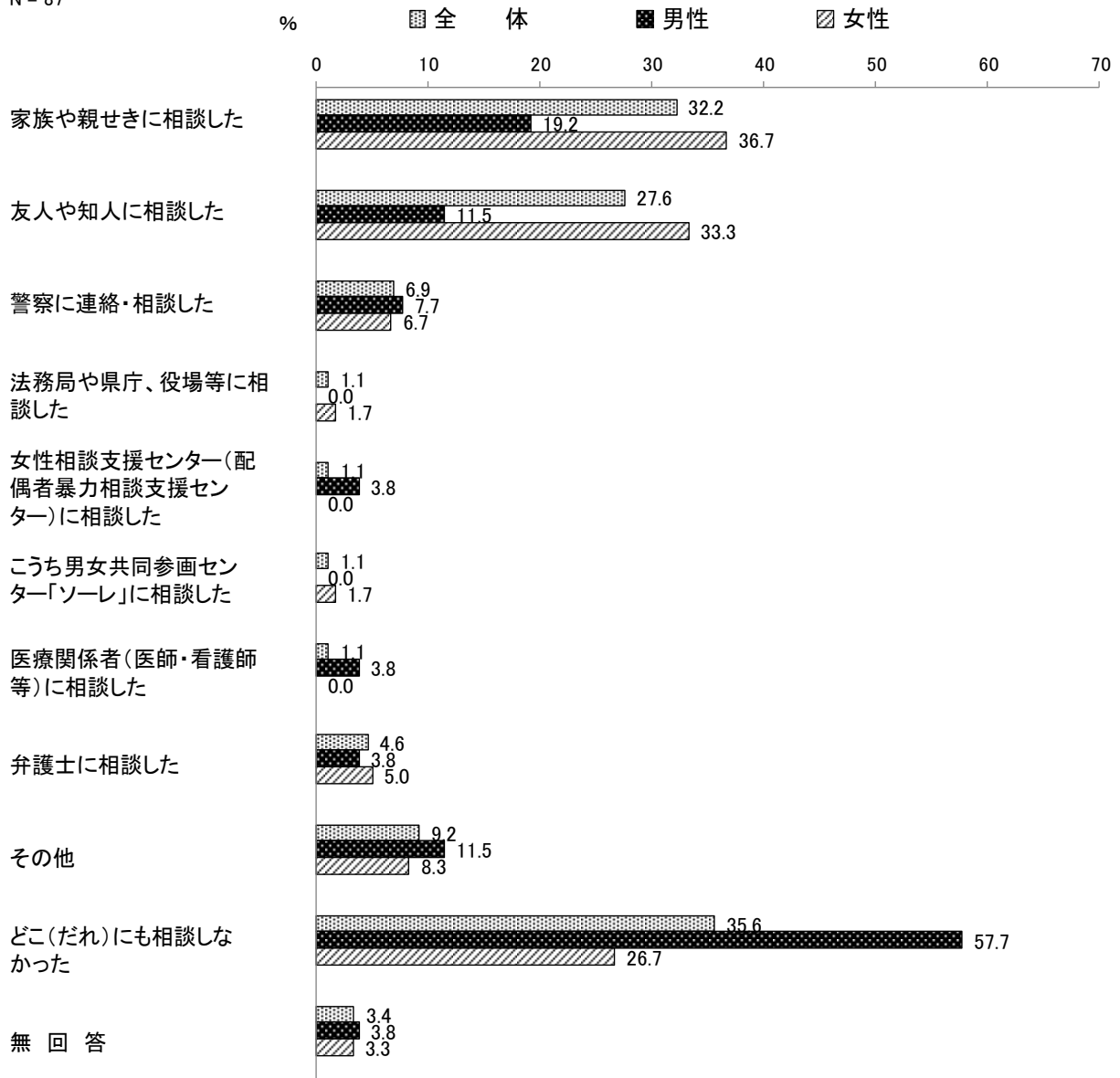
N = 87

問26 だれかに打ち明けたり、相談したこと〔%・複数回答〕



問26 だれかに打ち明けたり、相談したこと[%・複数回答]

N = 87



【前回調査との比較】「友人や知人に相談した」、「警察に連絡・相談した」と「女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)に相談した」が前回(32.7%、14.5%、5.5%)より少なく、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が前回(25.5%)より多い。

問26. DVについての相談								
	全体	家族や親せきに相談した	友人や知人に相談した	警察に連絡・相談した	法務局や県庁、役場などに相談した	女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)に相談した	こうち男女共同参画センター「ソーレ」に相談した	医療関係者(医師・看護師など)に相談した
前回	399 100.0	20 36.4	18 32.7	8 14.5	1 1.8	3 5.5	1 1.8	0 0.0
今回	381 100.0	28 32.2	24 27.6	6 6.9	1 1.1	1 1.1	1 1.1	1 1.1

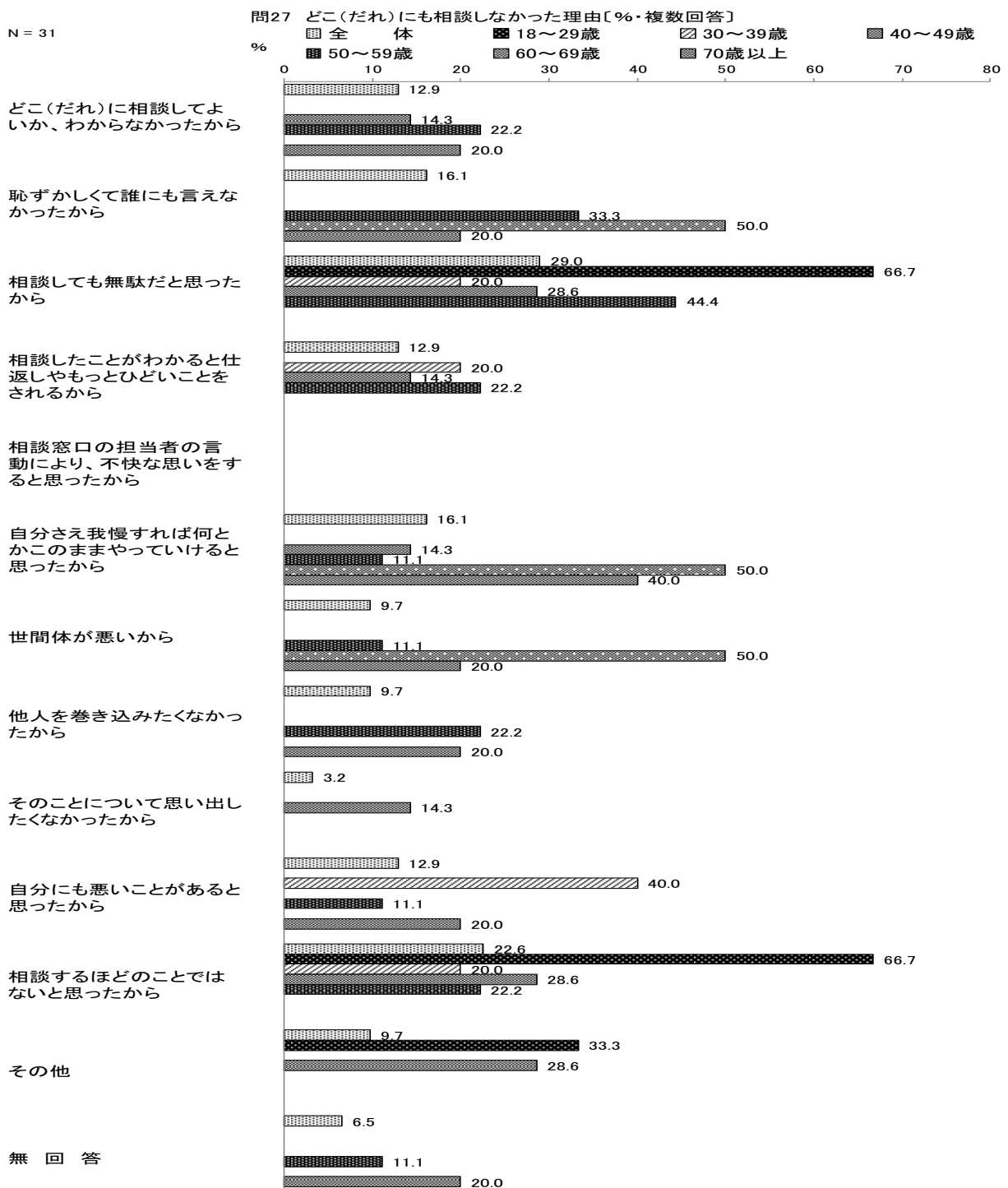
	弁護士に相談した	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
前回	2 3.6	2 3.6	14 25.5	1 1.8
今回	4 4.6	8 9.2	31 35.6	3 3.4

問27 (問26で10と回答した方に) あなたが「どこ(だれ)にも相談しなかった」のは、どのような理由からですか。

全体では、「相談しても無駄だと思ったから」が29.0%と多く、「相談するほどのことではないと思ったから」が22.6%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が16.1%と続いている。

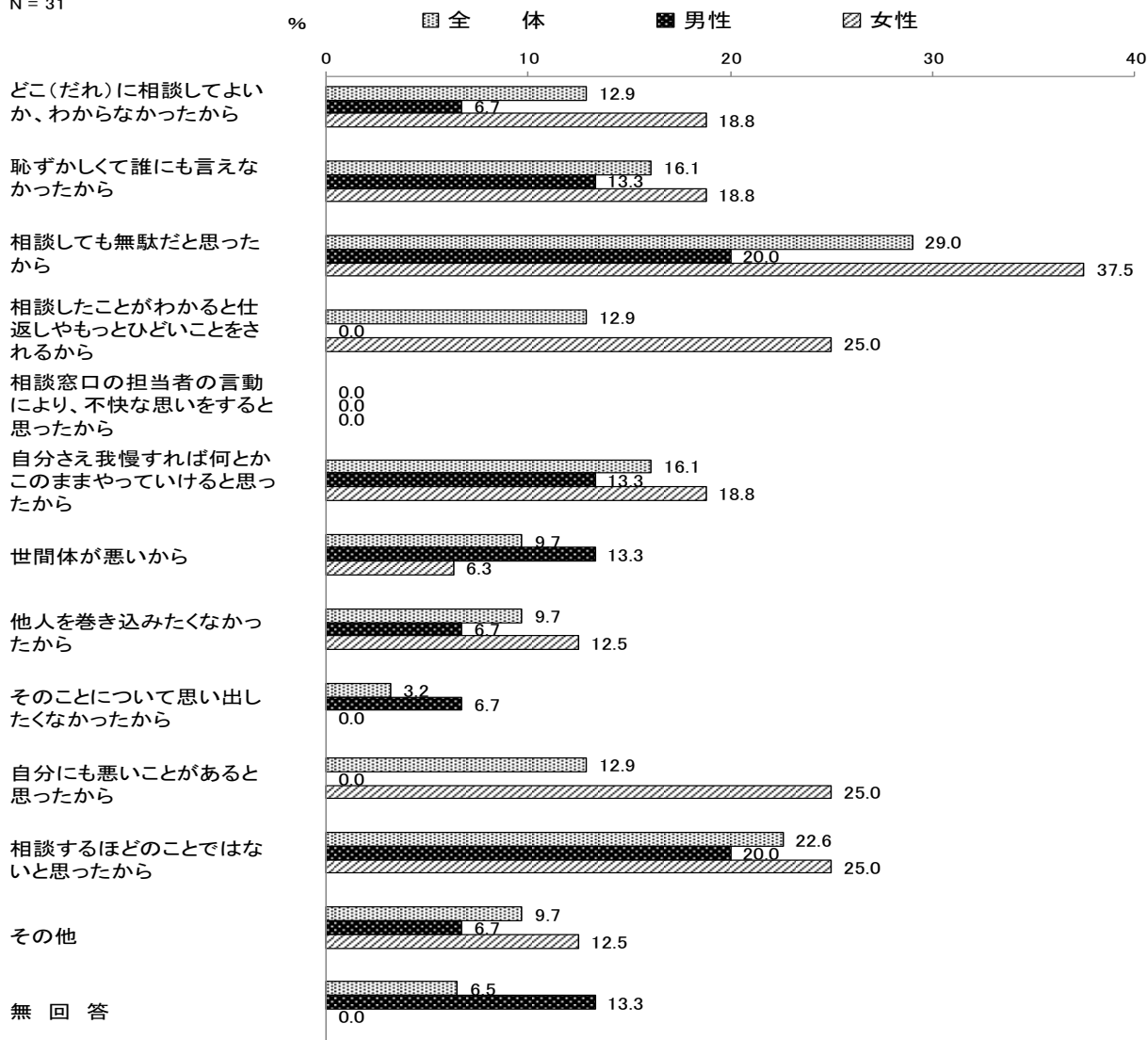
年代別では、「相談しても無駄だと思ったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」が18～29歳でともに66.7%と多い。「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」と「世間体が悪いから」が60～69歳でともに50.0%と多い。

男女別では、各項目で女性の回答が多く、「世間体が悪いから」と「そのことについて思い出したくなかったから」は男性が13.3%、6.7%と女性より多い。



N = 31

問27 どこ(だれ)にも相談しなかった理由〔%・複数回答〕



【前回調査との比較】「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」が前回（ともに21.4%）より少なく、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分にも悪いことがあると思ったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」が前回（21.4%、0.0%、14.3%）より多い。

問27. どこ(だれ)にも相談しなかった理由								
	全体	どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかって仕返しや、もっとひどいことをされると思ったから	相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをと思ったから	自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから	世間体が悪いから
前回	399 100.0	1 7.1	3 21.4	3 21.4	1 7.1	0 0.0	3 21.4	2 14.3
今回	381 100.0	4 12.9	5 16.1	9 29.0	4 12.9	-	5 16.1	3 9.7

	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出したくなかったから	自分にも悪いことがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他
前回	2 14.3	1 7.1	0 0.0	2 14.3	4 28.6
今回	3 9.7	1 3.2	4 12.9	7 22.6	3 9.7

問 28 今後、ドメスティック・バイオレンス（DV）を防ぐためには、どのような取組が必要だと思いますか。

全体では、「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」が63.0%と最も多く、「家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る」が33.9%、「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する」が31.0%、「加害者への罰則を強化する」が28.6%と続いている。

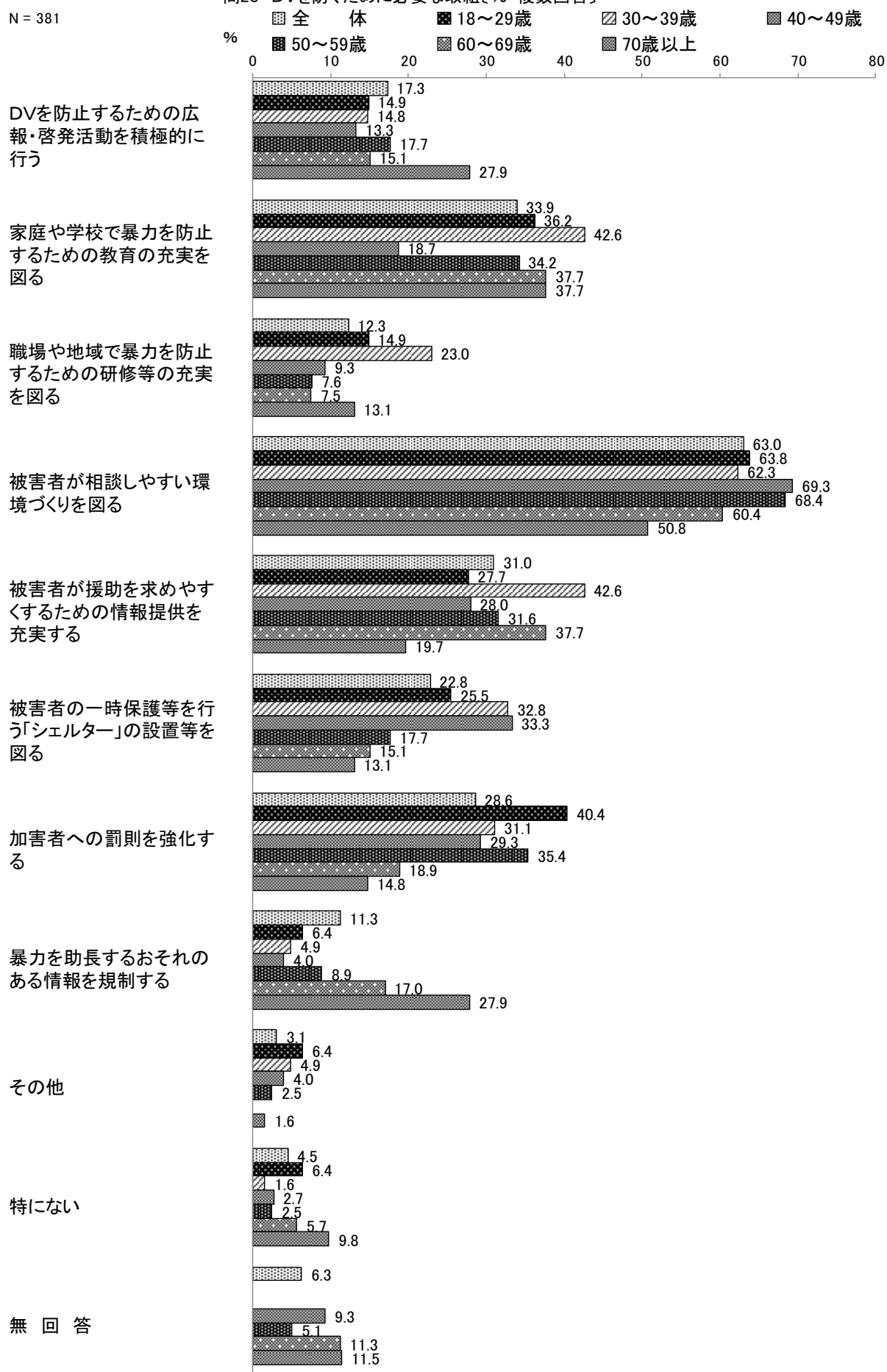
年代別では、「DVを防止するための広報・啓発活動を積極的に行う」と「暴力を助長するおそれのある情報を規制する」が70歳以上とともに27.9%と多く、「家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る」と「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する」が30～39歳とともに42.6%と多い。

男女別では、「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」、「家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る」、「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する」と「被害者の一時保護等を行う「シェルター」の設置等を図る」は女性で66.2%、37.1%、34.3%、27.7%と多く、「DVを防止するための広報・啓発活動を積極的に行う」は男性で23.5%と多い。

DV経験の有無別では、「家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る」がDV経験ありの回答者で43.8%とやや多い。

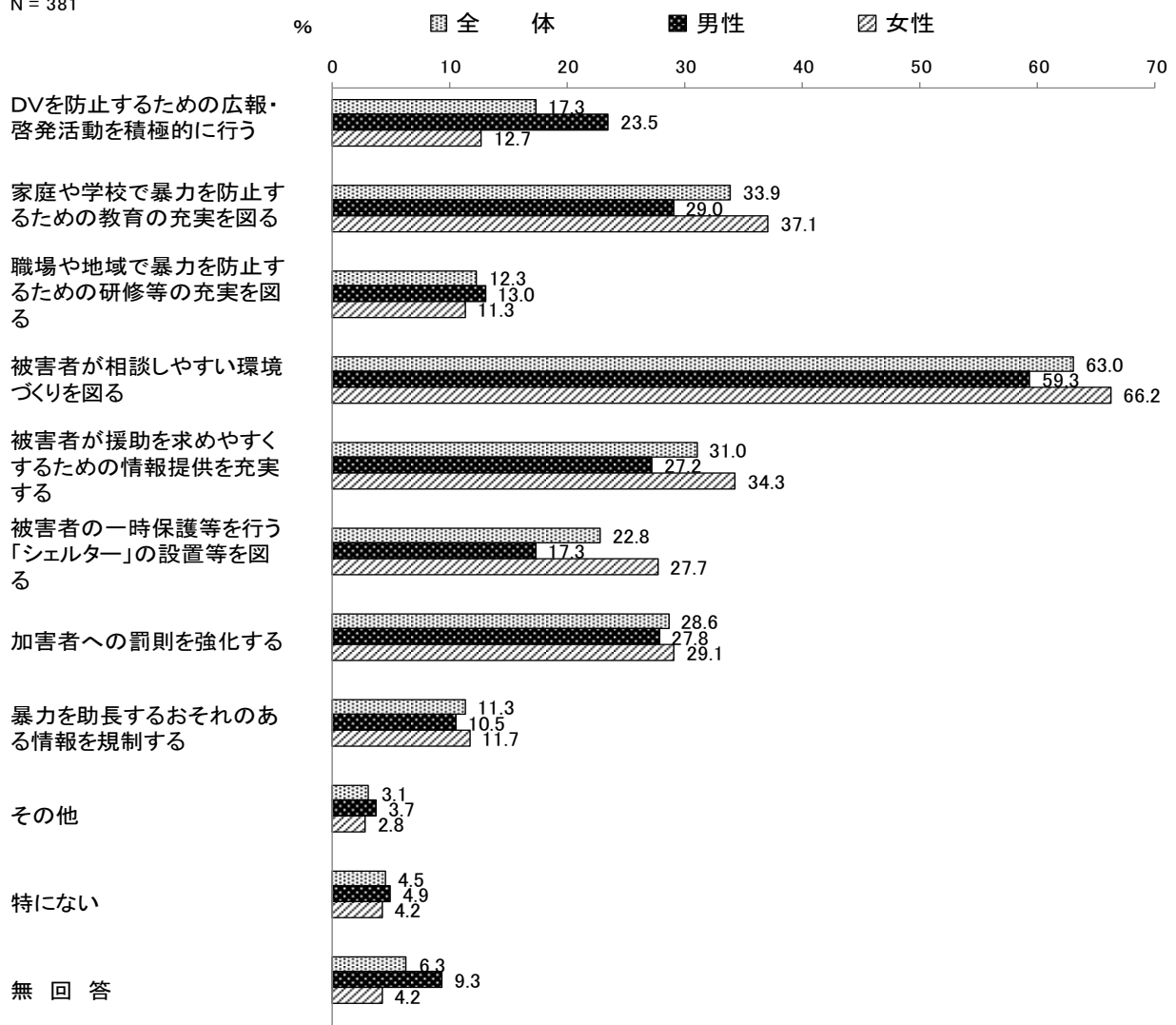
N = 381

問28 DVを防ぐために必要な取組[%・複数回答]



N = 381

問28 DVを防ぐために必要な取組〔%・複数回答〕



【前回調査との比較】「家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る」が前回 (38.6%) よりやや少なく、「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」と「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する」が前回 (57.6%、27.1%) よりやや多い。

問28. DV防止に必要と思う取り組み								
	全体	ドメスティック・バイオレンスを防止するための広報・啓発活動を積極的に行う	家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る	職場や地域で暴力を防止するための研修などの充実を図る	被害者が相談しやすい環境づくりを図る	被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する	被害者の一時保護などを行う「シェルター」の設置等を図る	加害者への罰則を強化する
前回	399 100.0	79 19.8	154 38.6	37 9.3	230 57.6	108 27.1	85 21.3	115 28.8
今回	381 100.0	66 17.3	129 33.9	47 12.3	240 63.0	118 31.0	87 22.8	109 28.6

	暴力を助長するおそれのある情報(ビデオ・雑誌やインターネット等)を規制する	その他	特にない	無回答
前回	65 16.3	11 2.8	17 4.3	43 10.8
今回	43 11.3	12 3.1	17 4.5	24 6.3

7 男女共同参画社会

問 29 あなたは、次にあげる言葉について知っていますか。

①男女共同参画基本法

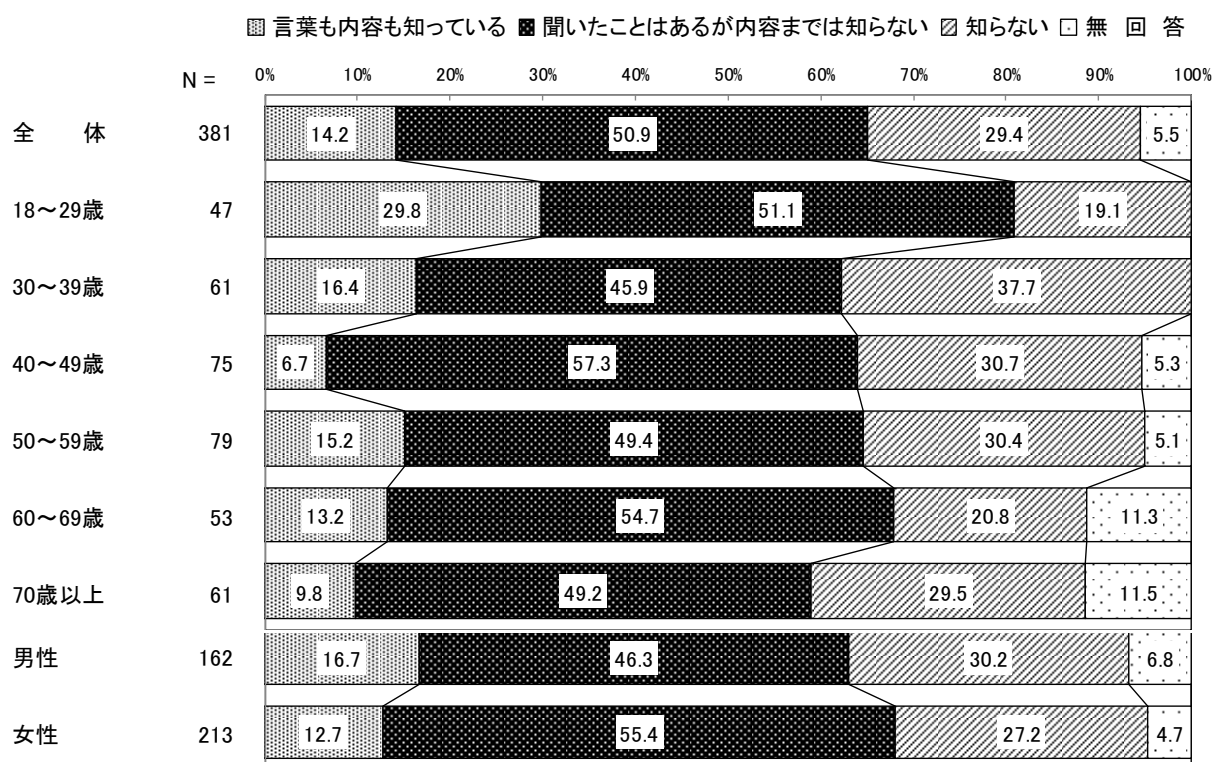
全体では、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が50.9%と多く、「知らない」が29.4%、「言葉も内容も知っている」が14.2%と続いている。

年代別では、18～29歳で「言葉も内容も知っている」が29.8%と多い。

性・年代別では、「知らない」は男性の70歳以上で46.4%、女性の30～39歳で41.5%と多い。

職業別では、「知らない」がパート・アルバイト・派遣等で41.4%と多い。

問29 ①男女共同参画基本法[%]



②女性の職業生活における活躍の推進に関する法律

全体では、「知らない」が49.9%と多く、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が37.5%。
「言葉も内容も知っている」が5.8%である。

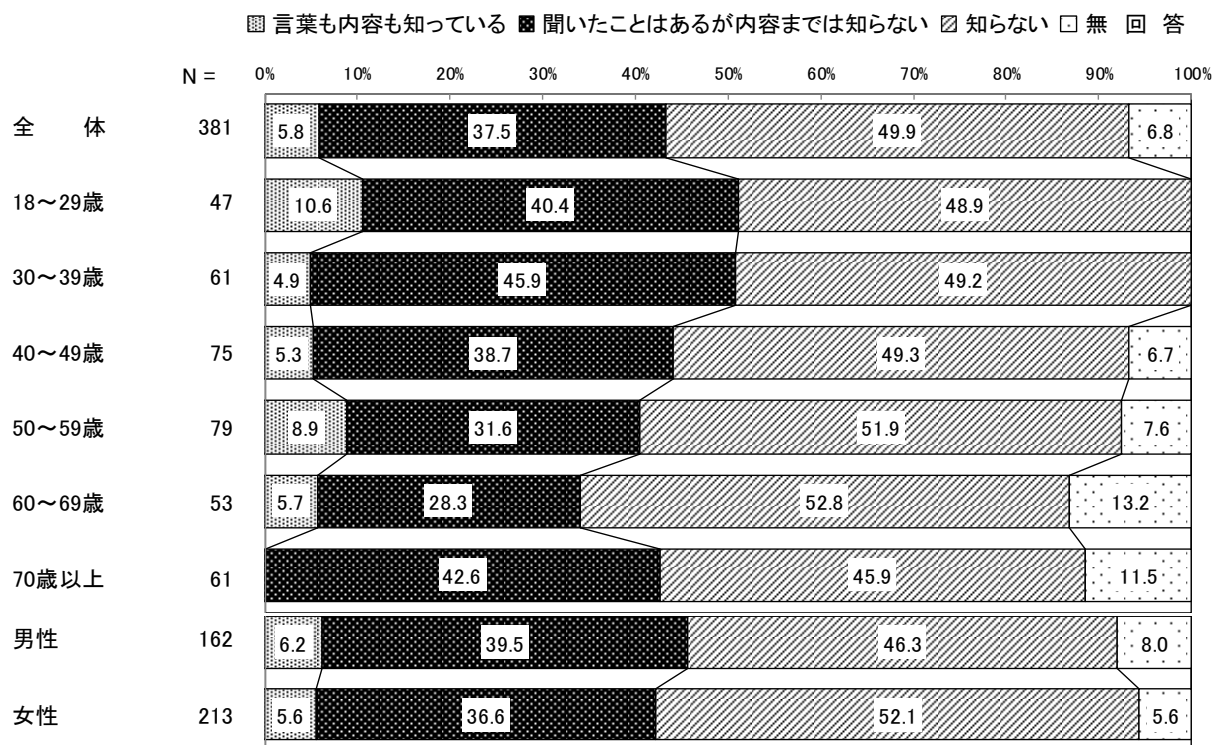
年代別では、「言葉も内容も知っている」が18～29歳と50～59歳で10.6%、8.9%と多い。

男女別では、「知らない」は女性で52.1%、男性で46.3%と女性の方がやや多い。

性・年代別では、「知らない」は女性の30～39歳で61.0%と多い。

職業別では、「知らない」が専業主婦・主夫で70.8%と多い。

問29 ②女性の職業生活における活躍の推進に関する法律〔%〕



③ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

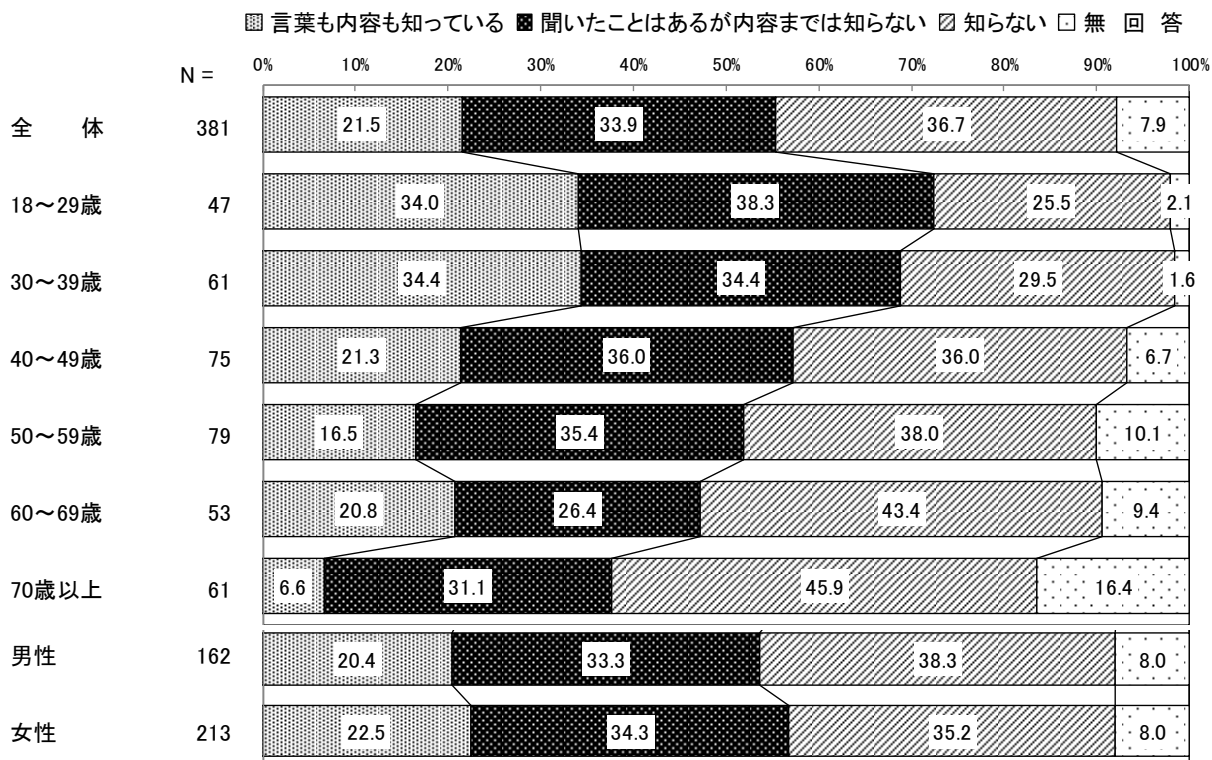
全体では、「知らない」が36.7%、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が33.9%と同程度で多く、「言葉も内容も知っている」が21.5%と続いている。

年代別では、「言葉も内容も知っている」は18～29歳と30～39歳で34%台と多く、「知らない」は年代が上がる则多くなり、70歳以上で45.9%である。

性・年代別では、「知らない」は男性の70歳以上で53.6%と多い。

職業別では、「言葉も内容も知っている」が公務員で42.9%と多い。

問29 ③ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）〔%〕



④セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

全体では、「言葉も内容も知っている」が79.8%と多く、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が12.6%、「知らない」が1.6%である。

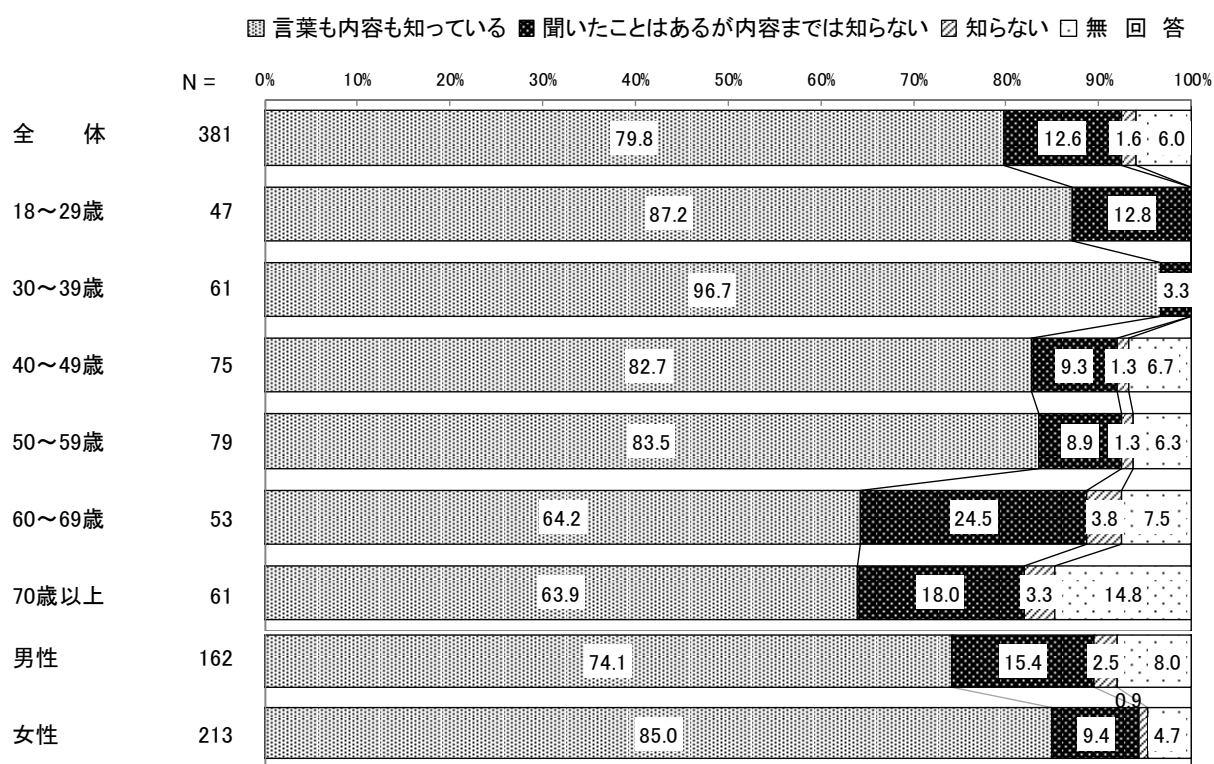
年代別では、「言葉も内容も知っている」が18～29歳と30・40・50歳代で80%を超えて多く、60～69歳と70歳以上で60%台と少ない。

男女別では、「言葉も内容も知っている」は女性で85.0%、男性で74.1%と女性の方が多い。

性・年代別では、「言葉も内容も知っている」は男性の30～39歳で90.0%と多く、40～49歳で68.6%と少ない。「言葉も内容も知っている」は女性の18～29歳と30・40歳代で90%前後と多く、年代が上がると少なくなり、70歳以上で63.6%と少ない。

職業別では、「言葉も内容も知っている」が公務員で92.9%と多い。

問29 ④セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)〔%〕



⑤パワー・ハラスメント（パワハラ）

全体では、「言葉も内容も知っている」が79.5%と多く、「聞いたことはあるが内容までは知らない」は12.6%と続いている。

年代別では、「聞いたことはあるが内容までは知らない」は60～69歳と70歳以上で20%台と多い。

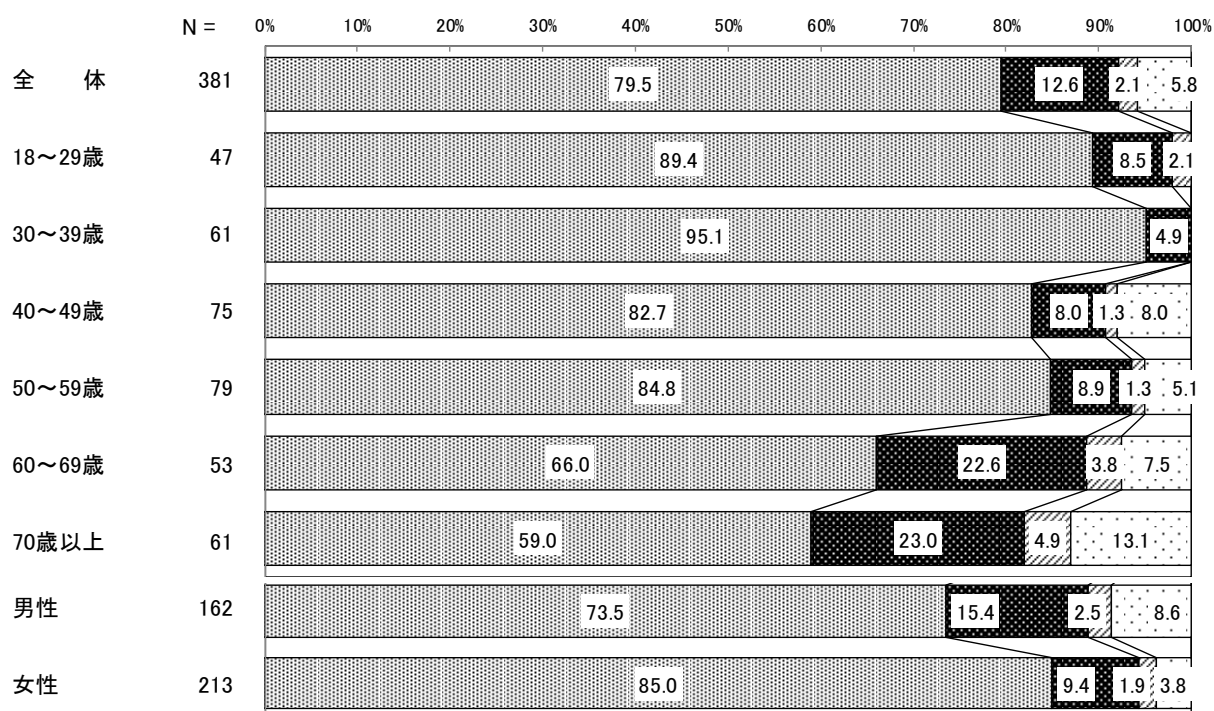
男女別では、「言葉も内容も知っている」は女性で85.0%、男性で73.5%と女性の方が多い。

性・年代別では、「言葉も内容も知っている」は男女ともに18～29歳と30～39歳で80%を超えて多く、年代が上がると少なくなり、70歳以上の男性で60.7%、女性で57.6%である。

職業別では、「言葉も内容も知っている」が会社員（事務職）と公務員、会社員（技術職）で90%を超えて多い。

問29 ⑤パワー・ハラスメント（パワハラ）[%]

■ 言葉も内容も知っている ■ 聞いたことはあるが内容までは知らない ▨ 知らない □ 無 回 答



⑥マタニティー・ハラスメント（マタハラ）

全体では、「言葉も内容も知っている」が67.5%と多く、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が16.3%、「知らない」が10.8%である。

年代別では、70歳以上で「言葉も内容も知っている」が42.6%と少なく、「聞いたことはあるが内容までは知らない」と「知らない」がともに20%台と多い。

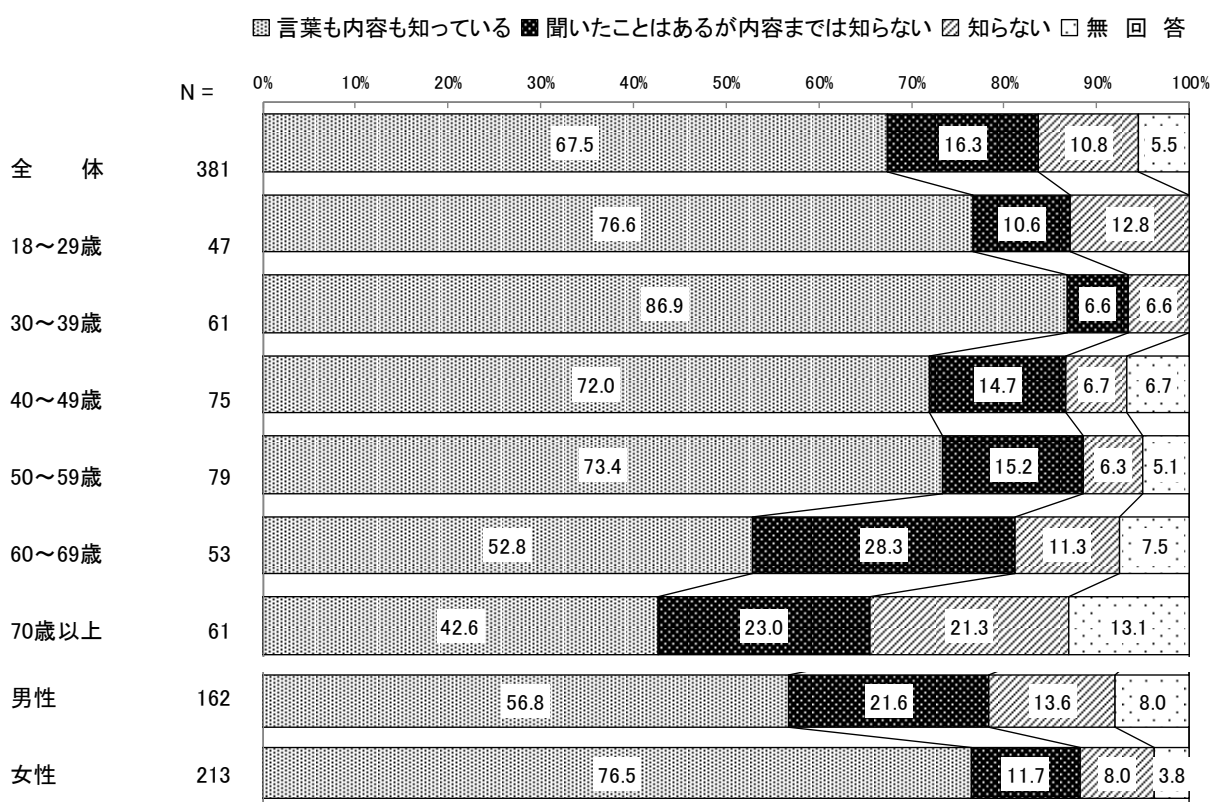
男女別では、「言葉も内容も知っている」は女性で76.5%、男性で56.8%と女性の方が多い。

性・年代別では、「言葉も内容も知っている」は女性の18～29歳と30・40歳代で85%を超えて多く、年代が上がる则少なくなり、男性の60～69歳と70歳以上で42%台である。

職業別では、「言葉も内容も知っている」で公務員が88.1%、会社員（事務職）が86.2%と多い。

共働き状況別では、「言葉も内容も知っている」が共働きではない家庭で63.5%と少ない。

問29 ⑥マタニティー・ハラスメント（マタハラ）[%]



⑦ドメスティック・バイオレンス（DV）

全体では、「言葉も内容も知っている」が76.1%と多く、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が14.7%、「知らない」が3.7%である。

年代別では、60～69歳と70歳以上で「言葉も内容も知っている」が50%台と少ない。

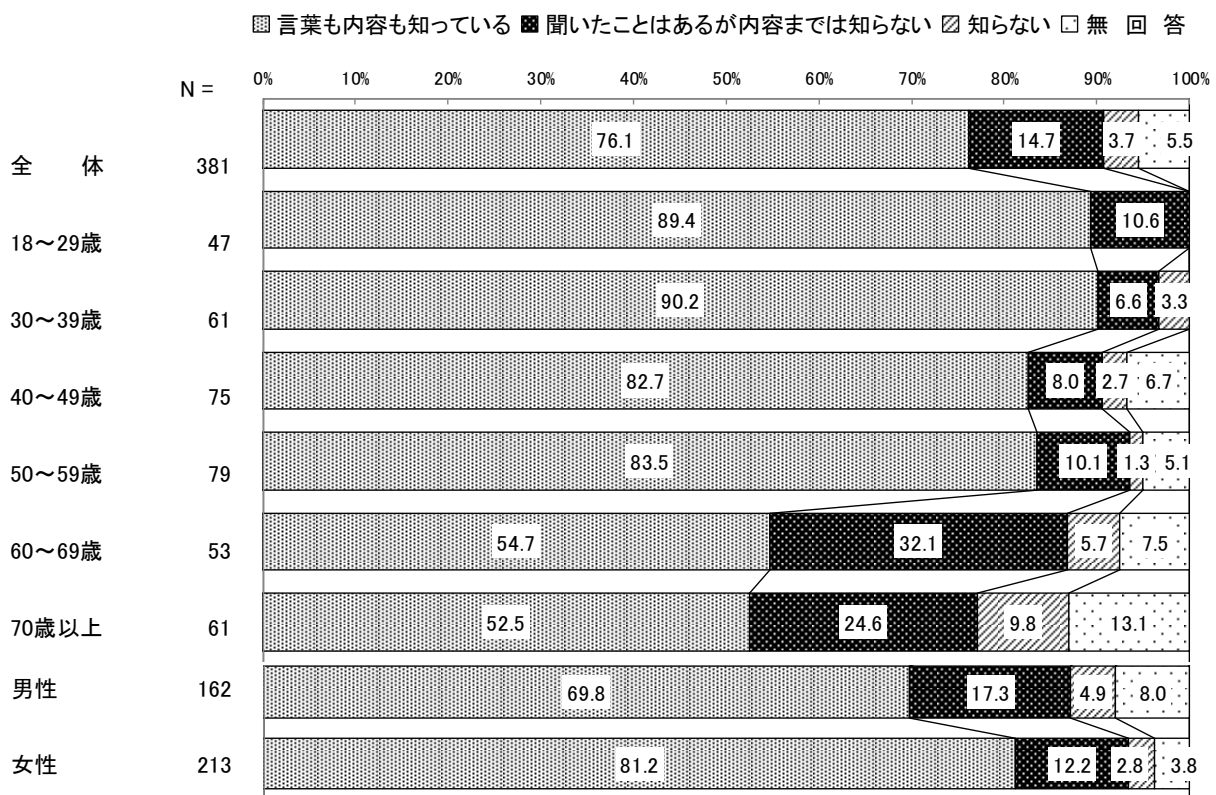
男女別では、「言葉も内容も知っている」は女性で81.2%、男性で69.8%と女性の方が多い。

性・年代別では、「言葉も内容も知っている」は女性の18～29歳と30・40・50歳代で90%前後と多く、男性の60～69歳と70歳以上で50%程度と少ない。

職業別では、「言葉も内容も知っている」は公務員、学生、会社員（事務職）とパート・アルバイト・派遣等が90%前後と多い。

共働き状況別では、「言葉も内容も知っている」が共働きではない家庭で69.8%と少ない。

問29 ⑦ドメスティック・バイオレンス(DV)〔%〕



⑧LGBT

全体では、「言葉も内容も知っている」が43.3%と多く、「知らない」が31.8%、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が18.9%と続いている。

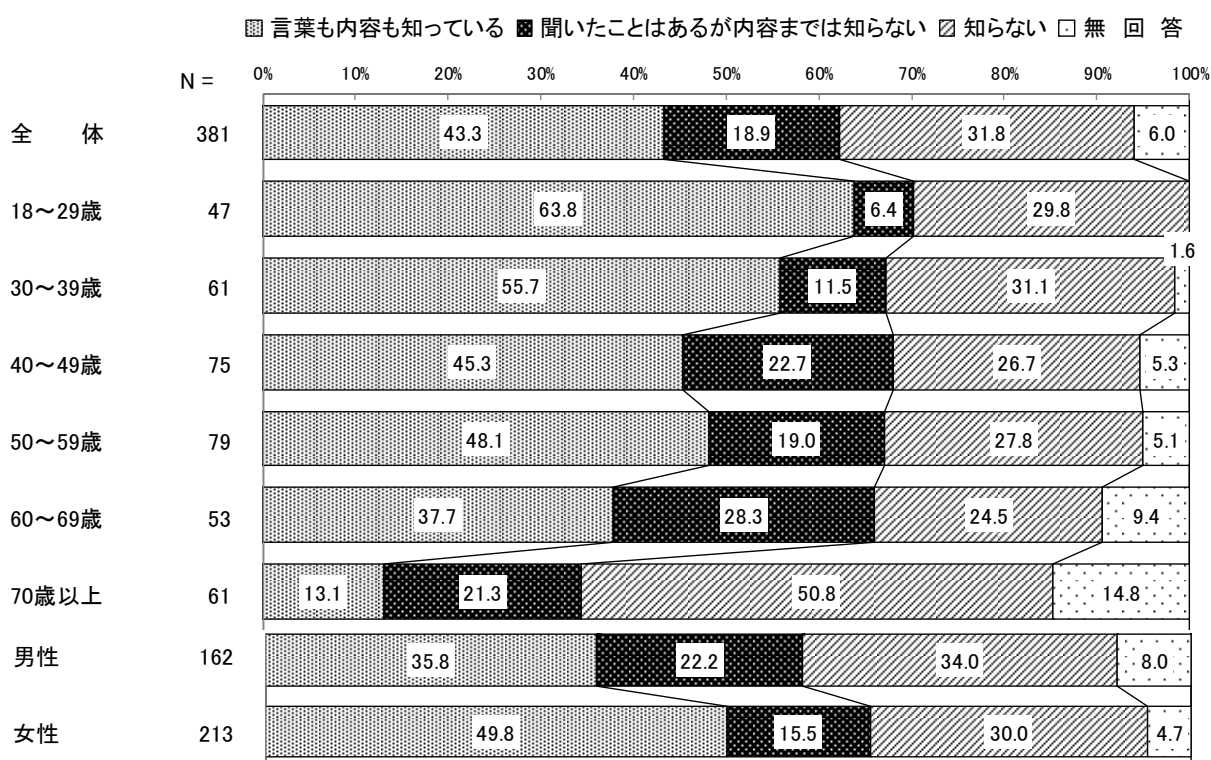
年代別では、「言葉も内容も知っている」が18～29歳で63.8%と多く、年代が上がると少なくなり、70歳以上で13.1%である。「知らない」が70歳以上で50%を超えて多い。

男女別では、「言葉も内容も知っている」は女性で49.8%、男性で35.8%と女性の方が多い。

性・年代別では、「言葉も内容も知っている」は女性の18～29歳と30・40・50歳代で50%を超えて多く、男性の60～69歳で26.9%、70歳以上で17.9%と少ない。

職業別では、「言葉も内容も知っている」が公務員、会社員（事務職）、学生、パート・アルバイト・派遣等で50%を超えて多い。

問29 ⑧LGBT[%]



⑨こうち男女共同参画センター「ソーレ」

全体では、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が42.5%と多く、「言葉も内容も知っている」が30.2%、「知らない」が20.7%である。

年代別では、「言葉も内容も知っている」が50～59歳で41.8%と多い。

男女別では、「言葉も内容も知っている」と「聞いたことはあるが内容までは知らない」は女性で33.3%、45.1%、男性で26.5%、39.5%と女性の方が多い。

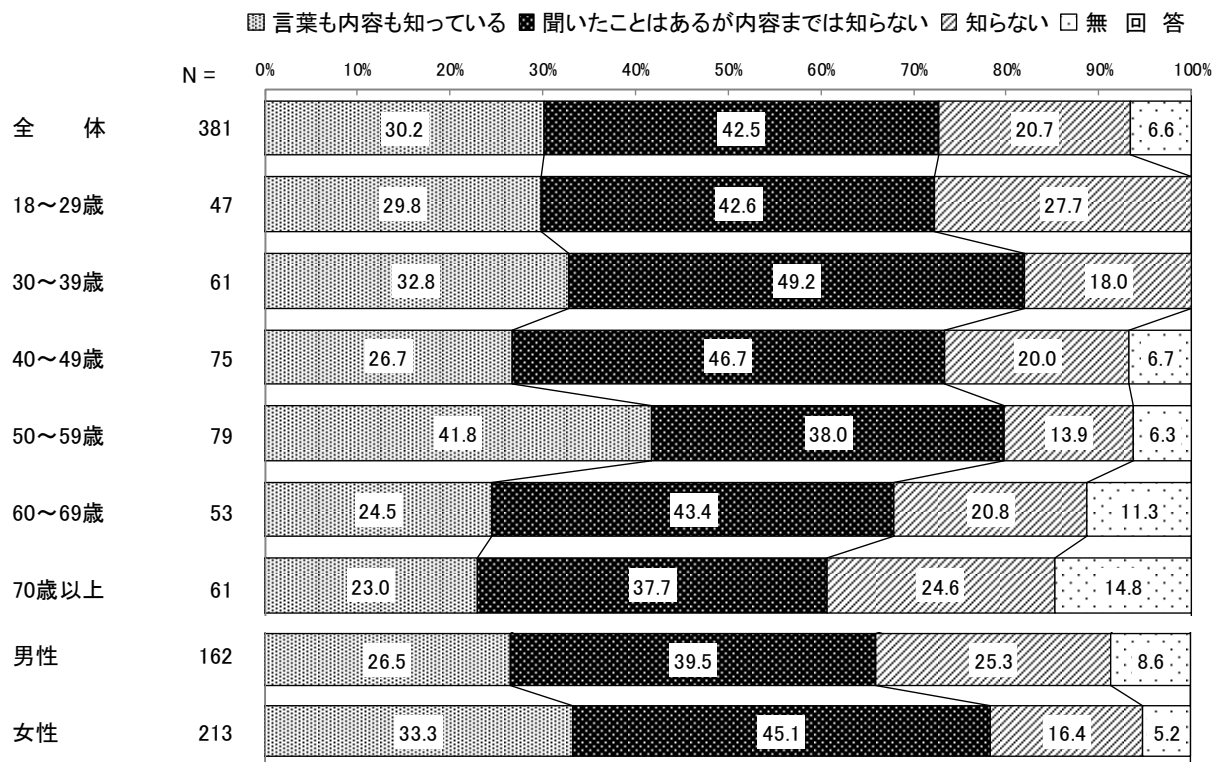
性・年代別では、「言葉も内容も知っている」は女性の50～59歳で47.7%と多い。

職業別では、「言葉も内容も知っている」が公務員で54.8%、会社員（事務職）で41.4%と多い。

未婚別では、「知らない」が未婚で34.3%と多い。

DV経験の有無別では、「言葉も内容も知っている」がDV経験ありの回答者で37.5%とやや多い。

問29 ⑨こうち男女共同参画センター「ソーレ」[%]



問 30 今後、男性と女性がともに家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとること」が51.2%と多く、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な考え方を押しつけない事」は36.5%、「男女ともに働きやすい環境を整えること」が31.8%、「男女ともに育児休暇や介護休暇を取りやすい環境を整えること」が30.4%と30%台で続いている。

年代別では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとること」が30～39歳で62.3%と多く、「男女ともに働きやすい環境を整えること」が18～29歳で44.7%、「男性が家事等をする事への男性自身の抵抗感をなくすこと」が60～69歳で39.6%と多い。

男女別では、「男性が家事等をする事への男性自身の抵抗感をなくすこと」、「労働時間の短縮等により仕事以外の時間を増やすこと」と「男性が家事等をする事への男性自身の抵抗感をなくすこと」は男性で29.0%、18.5%、6.8%、女性で27.2%、14.6%、4.2%と男性の方が多い。

性・年代別では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとること」は男性の30～39歳で65.0%と多く、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な考え方を押しつけない事」は男性の18～29歳で55.6%、女性の30～39歳と40～49歳で50%前後と多い。「男女ともに働きやすい環境を整えること」は女性の18～29歳で51.7%、40～49歳で42.5%と多く、「男女ともに育児休暇や介護休暇を取りやすい環境を整えること」は女性の50・60歳代と70歳以上で45%前後と多い。「男性が家事等をする事への男性自身の抵抗感をなくすこと」は男性の60～69歳と70歳以上で42%台と多い。「男女を問わず家事・子育てに積極的に参加できるよう環境を整える」は女性の18～29歳で41.4%と多い。

居住地区別では、加茂地区で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとること」が77.4%と多い。

職業別では、「男女ともに育児休暇や介護休暇を取りやすい環境を整えること」が専業主婦・主夫で54.2%、会社員（事務職）で41.4%と多く、「男女を問わず家事・子育てに積極的に参加できるよう環境を整える」が公務員で35.7%と多い。

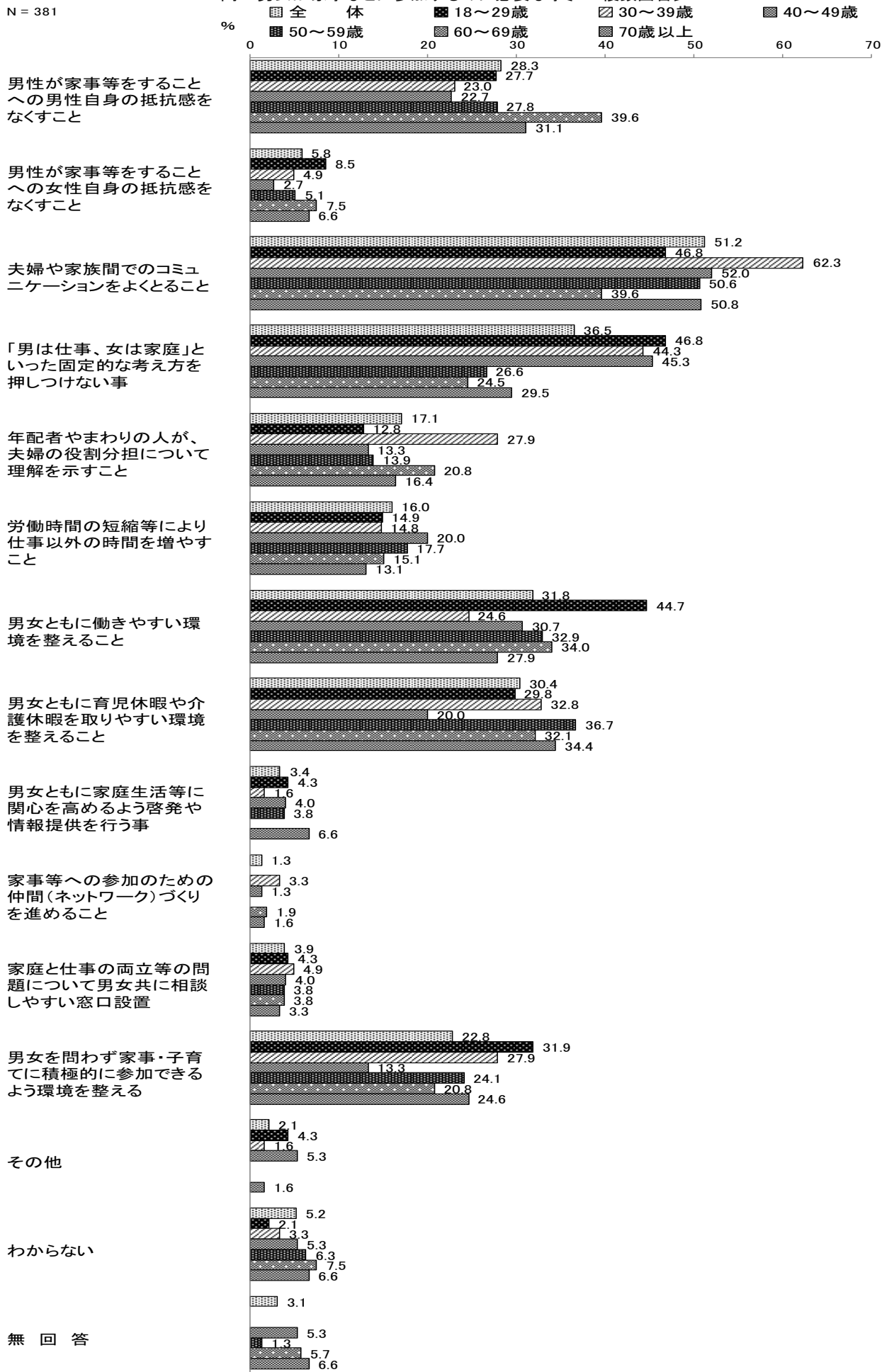
未婚別では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとること」が離別・死別の回答者で63.0%と多い。

DV経験の有無別では、DV経験ありの回答者で「男は仕事、女は家庭」といった固定的な考え方を押しつけない事が50.0%、「男性が家事等をする事への男性自身の抵抗感をなくすこと」が46.9%、「男女を問わず家事・子育てに積極的に参加できるよう環境を整える」が34.4%と多い。

同居している子どもの有無別では、「労働時間の短縮等により仕事以外の時間を増やすこと」が小学生の子どもがいる家庭で32.5%と多い。

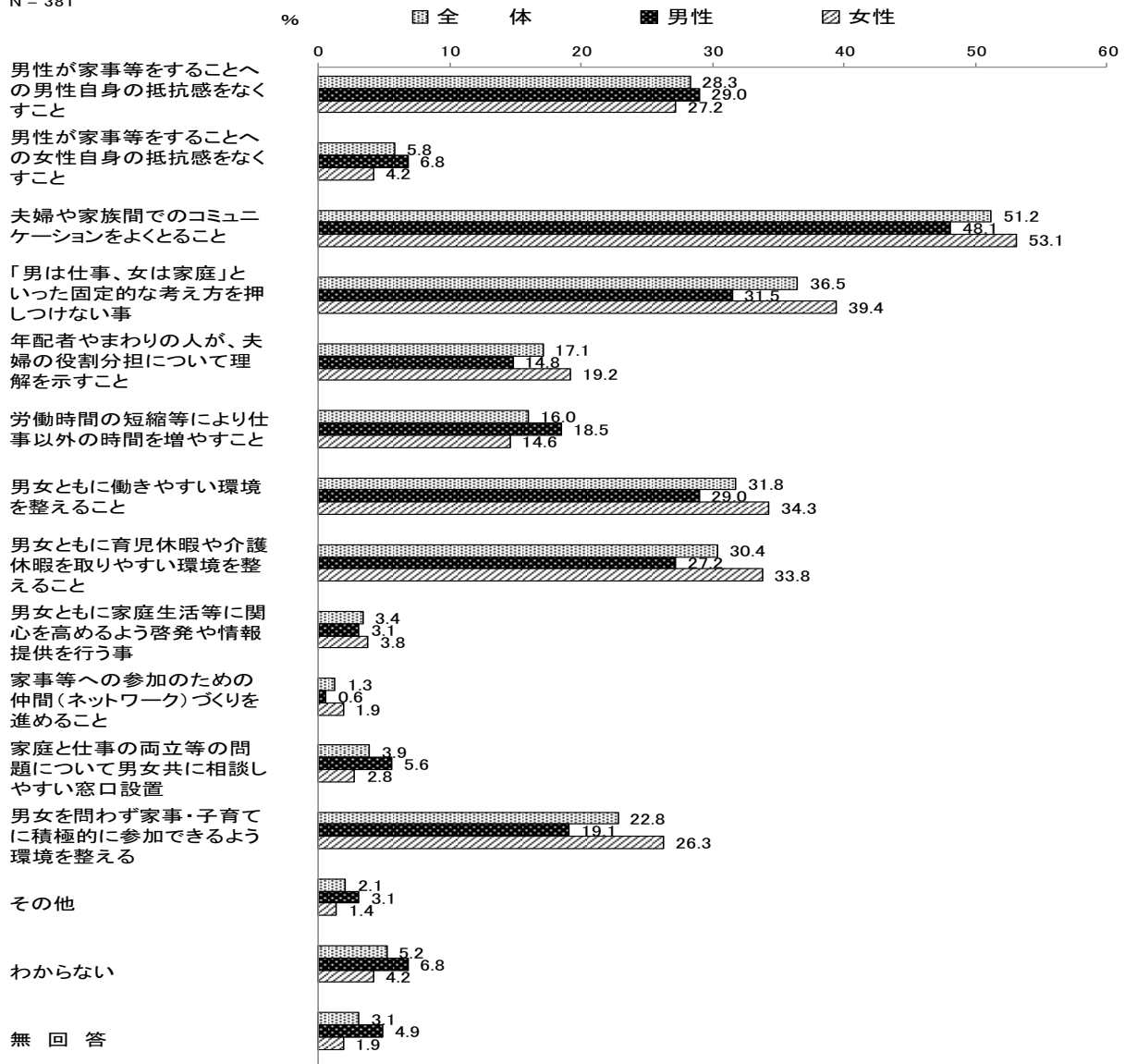
N = 381

問30 男女が家事などに参加するのに必要な事[%・複数回答]



N = 381

問30 男女が家事などに参加するのに必要な事[%・複数回答]



【前回調査との比較】「男女を問わず家事・子育てに積極的に参加できるような環境を整えること」が前回(28.3%)よりやや少なく、「男性が家事などをする事への男性自身の抵抗感をなくすこと」と「労働時間の短縮などにより仕事以外の時間を増やすこと」が前回(23.3%、10.3%)よりやや多い。

問30. 男女ともに各種活動への参加のため必要と思うこと								
	全体	男性が家事などをする事への男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などをする事への女性自身の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	「男は仕事、女は家庭」といった固定的な考え方を押しつけないこと	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担について理解を示すこと	労働時間の短縮などにより仕事以外の時間を増やすこと	男女ともに働きやすい環境を整えること
前回	399 100.0	93 23.3	16 4.0	195 48.9	129 32.3	66 16.5	41 10.3	140 35.1
今回	381 100.0	108 28.3	22 5.8	195 51.2	139 36.5	65 17.1	61 16.0	121 31.8

	男女ともに育児休暇や介護休暇を取りやすい環境を整えること	男女ともに家庭生活等に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	家事等への参加のための仲間(ネットワーク)づくりを進めること	家庭と仕事の両立などの問題について、男女ともに相談しやすい窓口を設けること	男女を問わず家事・子育てに積極的に参加できるような環境を整えること	その他	わからない	無回答
前回	122 30.6	17 4.3	4 1.0	23 5.8	113 28.3	4 1.0	18 4.5	21 5.3
今回	116 30.4	13 3.4	5 1.3	15 3.9	87 22.8	8 2.1	20 5.2	12 3.1

問 31 男女共同参画を積極的に進めるために、今後、佐川町はどのようなことに力を入れていくべきと思いますか。

全体では、「保育など子育て支援のサービスを充実する」が33.3%、「介護など高齢者を支援するサービスを充実する」が31.8%、「学校教育において男女共同参画や人権の尊重についての教育を充実」が27.3%と多い。

年代別では、「保育など子育て支援のサービスを充実する」が30～39歳で50.8%と多く、「介護など高齢者を支援するサービスを充実する」が60～69歳で41.5%、「男女共同参画や人権の尊重について啓発推進や学習機会の充実」が70歳以上で26.2%と多い。

男女別では、「保育など子育て支援のサービスを充実する」、「介護など高齢者を支援するサービスを充実する」と「学校教育において男女共同参画や人権の尊重についての教育を充実」は女性で37.6%、34.3%、28.2%、男性で27.2%、28.4%、25.3%と女性の方がやや多い。

性・年代別では、「保育など子育て支援のサービスを充実する」は女性の30～39歳と60～69歳で50%前後と多い。「介護など高齢者を支援するサービスを充実する」は女性の60～69歳で50.0%、40～49歳で45.0%と多い。「学校教育において男女共同参画や人権の尊重についての教育を充実」は男性の18～29歳で38.9%と多く、「男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援等を検討する」は男性の60～69歳と70歳以上で20%前後と多い。「男女共同参画や人権の尊重について啓発推進や学習機会の充実」は女性の70歳以上で27.3%と多い。

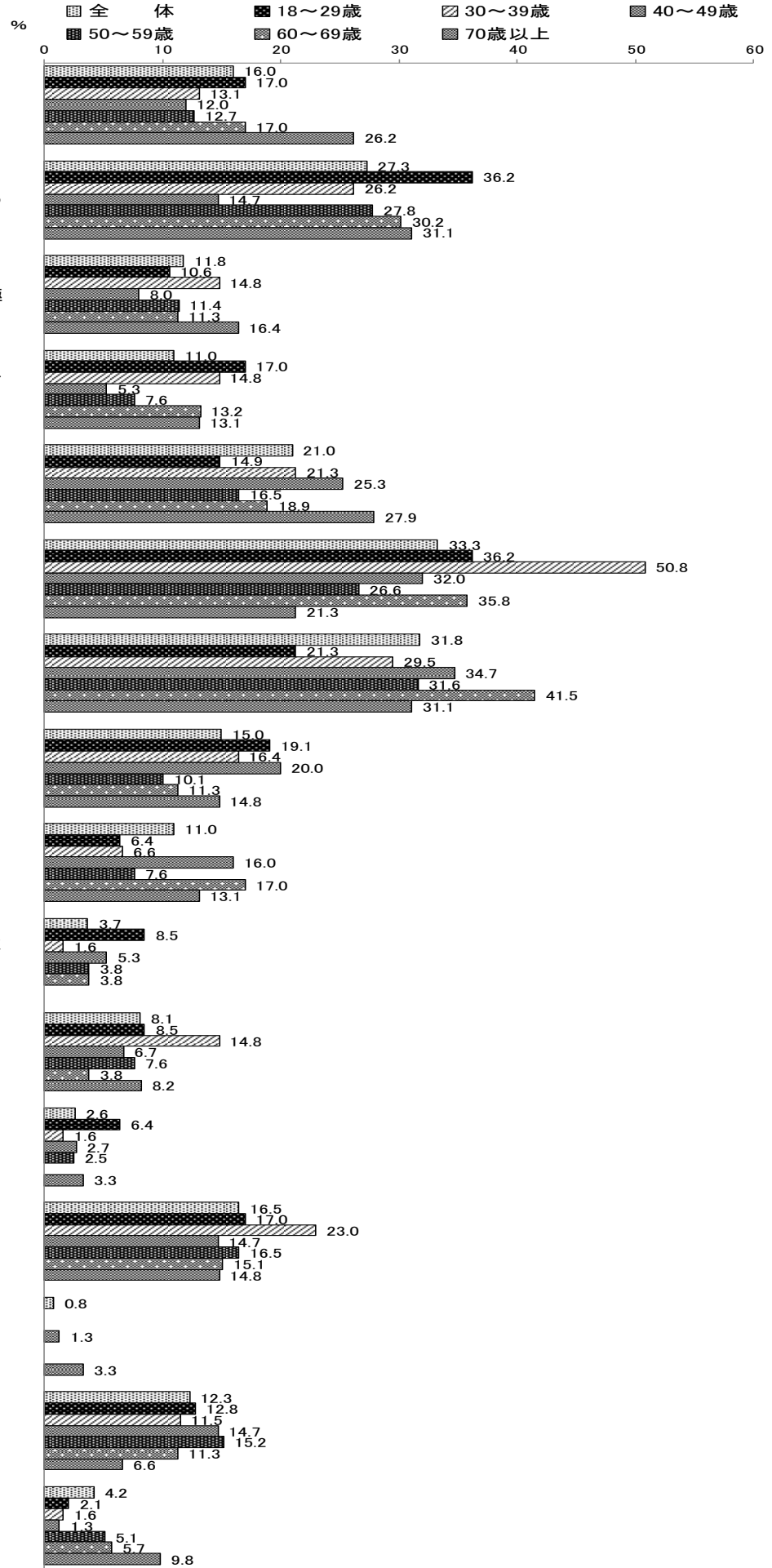
職業別では、「保育など子育て支援のサービスを充実する」が農林水産業の家族従事者で83.3%、会社員（その他）で44.4%と多い。「介護など高齢者を支援するサービスを充実する」が農林水産業の家族従事者と商工・サービス業の家族従事者でともに50.0%と多い。「学校教育において男女共同参画や人権の尊重についての教育を充実」が商工・サービス業の自営業主で66.7%と多く、専業主婦・主夫と学生で40%前後と多い。

共働き状況別では、「男女共同参画や人権の尊重について啓発推進や学習機会の充実」が共働きではない家庭で30.2%と多い。

DV経験の有無別では、「保育など子育て支援のサービスを充実する」がDV経験ありの回答者で43.8%、「男女共同参画や人権の尊重について啓発推進や学習機会の充実」が28.1%と多い。

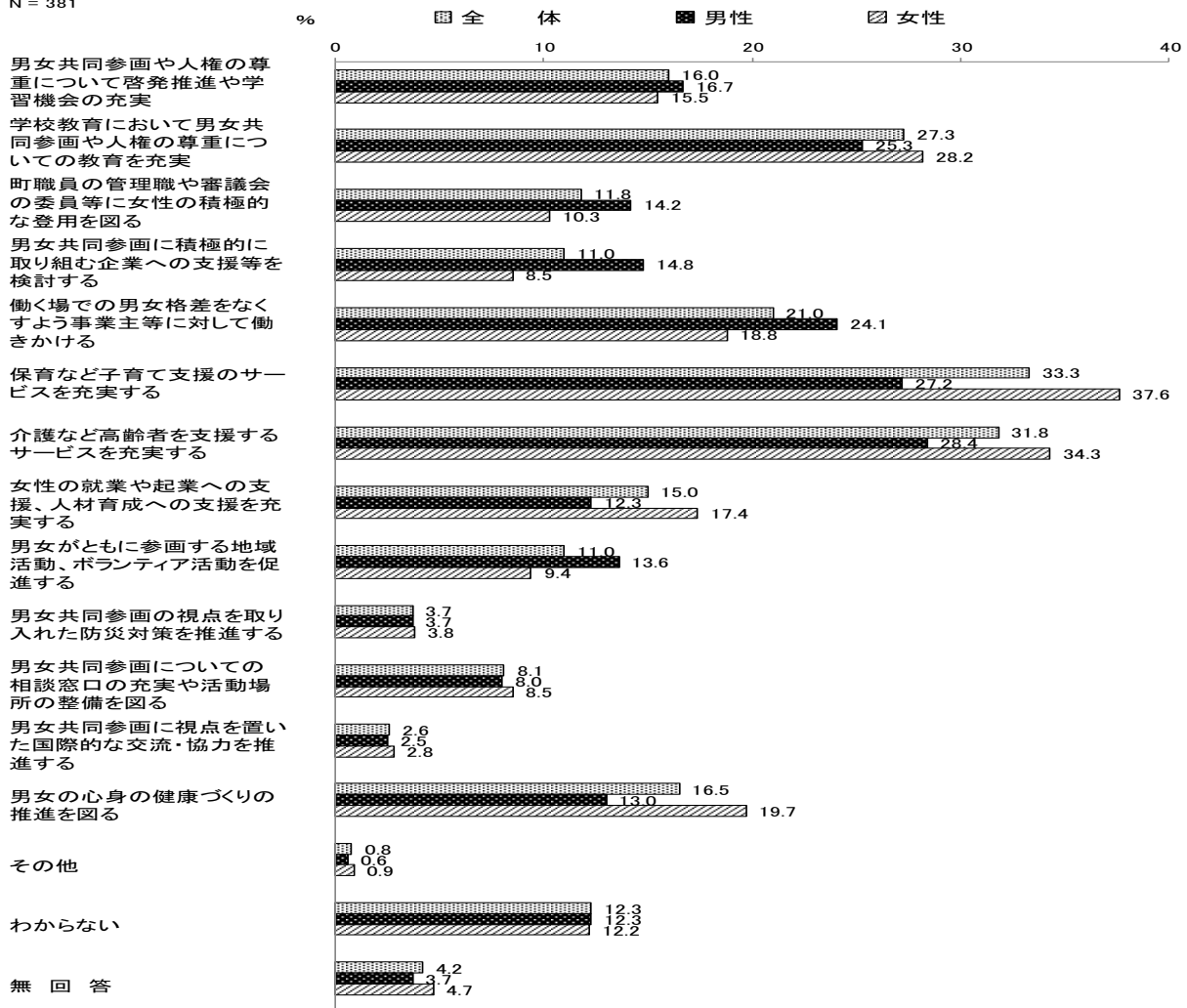
N = 381

問31 男女共同参画において町が力をいれること〔%・複数回答〕



N = 381

問31 男女共同参画において町が力をいれること[%・複数回答]



【前回調査との比較】「学校教育において男女共同参画や人権の尊重についての教育を充実する」と「保育、家事、介護などの公的サービスを充実する」が前回（37.6%、41.4%）より少ない。

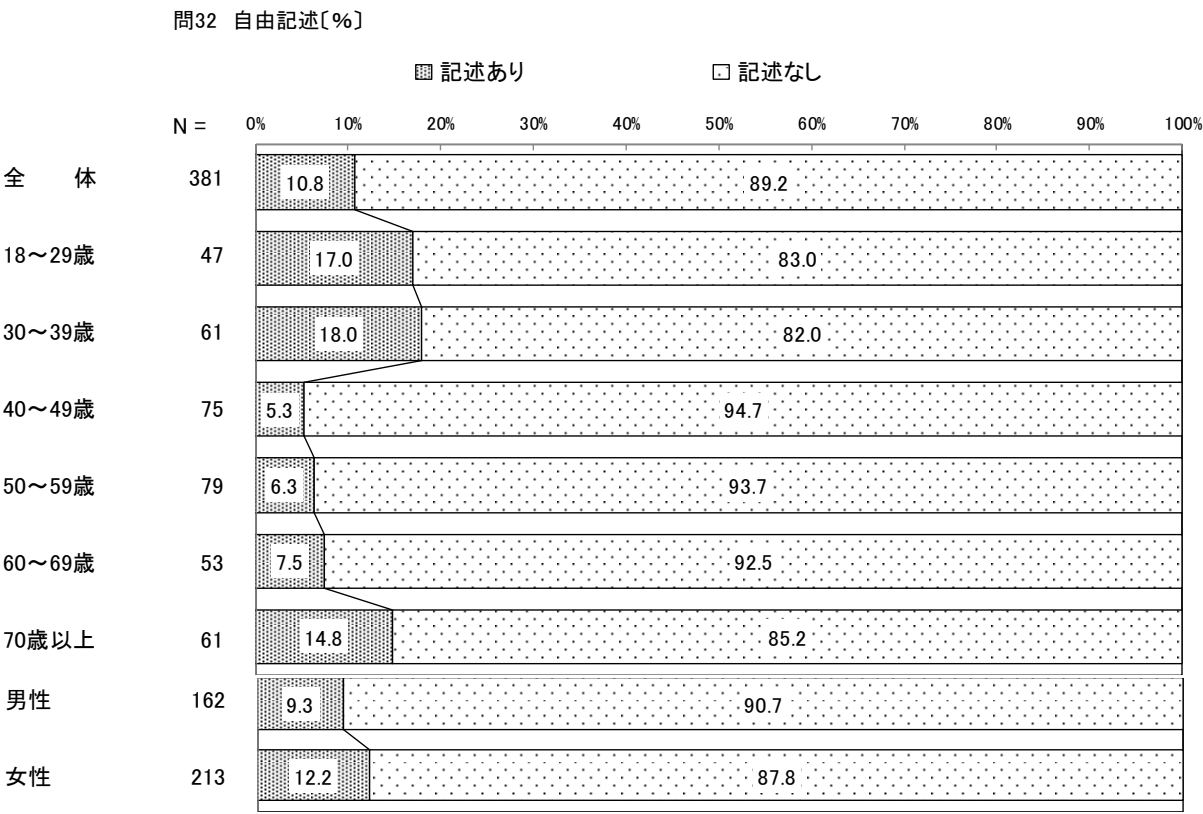
問31. 今後、佐川町はどのようなことに力をいれていくべきこと								
	全体	男女共同参画や人権の尊重について啓発推進や学習機会の充実を図る	学校教育において男女共同参画や人権の尊重についての教育を充実する	町職員の管理職や審議会の委員などに女性の積極的な登用を図る	男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援などを検討する	働く場での男女格差をなくすよう事業主などに対して働きかける	保育、家事、介護などの公的サービスを充実する	介護など高齢者を支援するサービスを充実する
前回	399 100.0	81 20.3	150 37.6	69 17.3	54 13.5	80 20.1	165 41.4	— —
今回	381 100.0	61 16.0	104 27.3	45 11.8	42 11.0	80 21.0	127 33.3	121 31.8

	女性の就業や起業への支援、人材育成への支援を充実する	男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動を促進する	男女共同参画の視点を取り入れた防災対策を推進する	男女共同参画についての相談窓口の充実や活動場所の整備を図る	男女共同参画に視点を置いた国際的な交流・協力を推進する	男女の心身の健康づくりの推進を図る	その他	わからない
前回	66 16.5	44 11.0	19 4.8	28 7.0	10 2.5	62 15.5	7 1.8	38 9.5
今回	57 15.0	42 11.0	14 3.7	31 8.1	10 2.6	63 16.5	3 0.8	47 12.3

	無回答
前回	21 5.3
今回	16 4.2

問 32 男女共同参画についての意見・要望等がございましたら、どのようなことでも結構
 ですので、ご自由にご記入ください。

全体で10.8%が回答しており、主な意見として「国政・町政について」、「計画について」、
 「意識について」などである。



順位	内容	件数
1位	国政・町政について	12件
	まず役場において積極的に男女共同参画の見本を示してみてもいいだろうか。そうすれば、解決方法も見つかるのではないかなと思う。町職員がもっと積極的に町の発展に取り組む姿勢を見せてほしい。町議も高齢、男性優位で、佐川町の縮図のようである。各世代代表のような議会ができればもっと楽しい佐川町が生まれるかもしれない。	
2位	計画について	8件
	計画会議を男女半々で行うこと。小さな声でも握り潰さないでほしい。十人十色、もっと細かくくつき、誰もが理解できる内容や、取組が必要ではないか。町民がひとつになれるようなイベントを、一度でいいから考えてみてはどうだろうか。	
3位	意識について	7件
	ハード面の整備もさることながら、そもそもの意識を変えることの方が大事ではないかなと思う。佐川町が先頭に立って女性を有利にしよう。男女共同参画という言葉は知っているが、深く考えたことはないし、考える場面もあまりない。	
4位	アンケートについて	5件
	質問内容を既婚者対象にした方がよいものが多いと思った。給与生活者に対してと思われる設問が、大部分において難しかった。男女共同参画についての概要等の説明もないままのアンケートは、意味のないことだと思う。選択肢が、そもそも、女性より男性の方が優遇されている前提でつくられていると感じた。	
	教育・子育てについて	5件
	佐川町ははっきり言って、保守的で男尊女卑だが、これからの時代はそれではないと思う。しかし、その解決策がないのはやはり古い体質、村社会だからである。唯一の希望は教育ではないだろうか。佐川町は子育てで世代に全く優しくないと感じる。保育士の教育にも力を入れてほしい。	

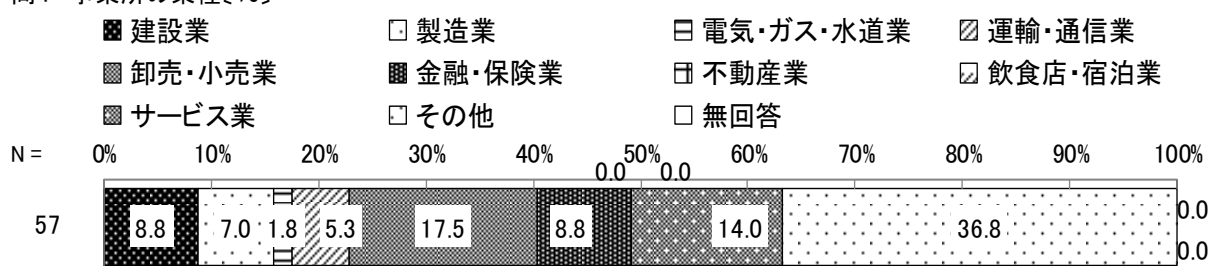
3. 男女共同参画に関する事業所実態調査

1 貴事業所の概要

問1 貴事業所の業種をお選びください。

「卸売、小売業」が17.5%と最も多く、ついで「サービス業」(14.0%)、「建設業」、「金融・保険業」(ともに8.8%)と続く。

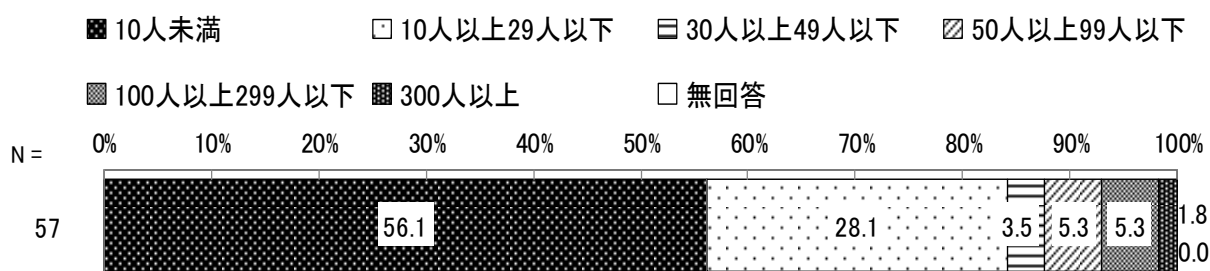
問1 事業所の業種[%]



問2 貴事業所の従業員についてお答えください。

「10人未満」が56.1%と最も多く、ついで「10人以上29人以下」(28.1%)、「50人以上99人以下」、「100人以上299人以下」(ともに5.3%)と続く。

問2 従業員について[%]



問3 現在在籍している従業員の平均年齢を男女別に記入してください。

男性従業員の最少年齢は28.8歳、最大年齢は74.0歳で、平均年齢は50.0歳である。女性従業員の最少年齢は24.0歳、最大年齢は70.8歳で、平均年齢は48.6歳である。正規・非正規従業員別で見ると、女性は正規従業員に比べて非正規従業員は最少年齢が24.0歳と低く、最大年齢が70.8歳と高いので幅広い年齢層の従業員がいるが、男性は正規従業員に比べて非正規従業員の最大年齢が74.0歳と高く、最少年齢も35.0歳と高くなっている。

問3 従業員の男女別年齢 男性従業員〔%〕			
全体	最小	最大	平均
71	28.8	74.0	50.0

問3 従業員の男女別年齢 女性従業員〔%〕			
全体	最小	最大	平均
82	24.0	70.8	48.6

問3 従業員の男女別年齢 正規・非正規従業員〔%〕			
全体	最小	最大	平均
153	24.0	74.0	49.2

問3 従業員の男女別年齢 ①男性・正規従業員〔%〕			
全体	最小	最大	平均
50	28.8	65.0	47.1

問3 従業員の男女別年齢 ②男性・非正規従業員〔%〕			
全体	最小	最大	平均
21	35.0	74.0	57.0

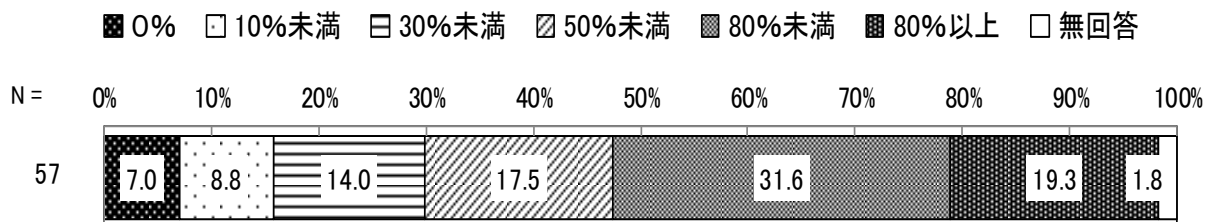
問3 従業員の男女別年齢 ①女性・正規従業員〔%〕			
全体	最小	最大	平均
47	28.0	67.0	47.1

問3 従業員の男女別年齢 ②女性・非正規従業員〔%〕			
全体	最小	最大	平均
35	24.0	70.8	50.5

問4 貴事業所において現在、女性従業員の占める割合はどのくらいですか。

「80%未満」が31.6%と最も多く、ついで「80%以上」(19.3%)、「50%未満」(17.5%)、「30%未満」(14.0%)と続く。「0%」は7.0%となっている。

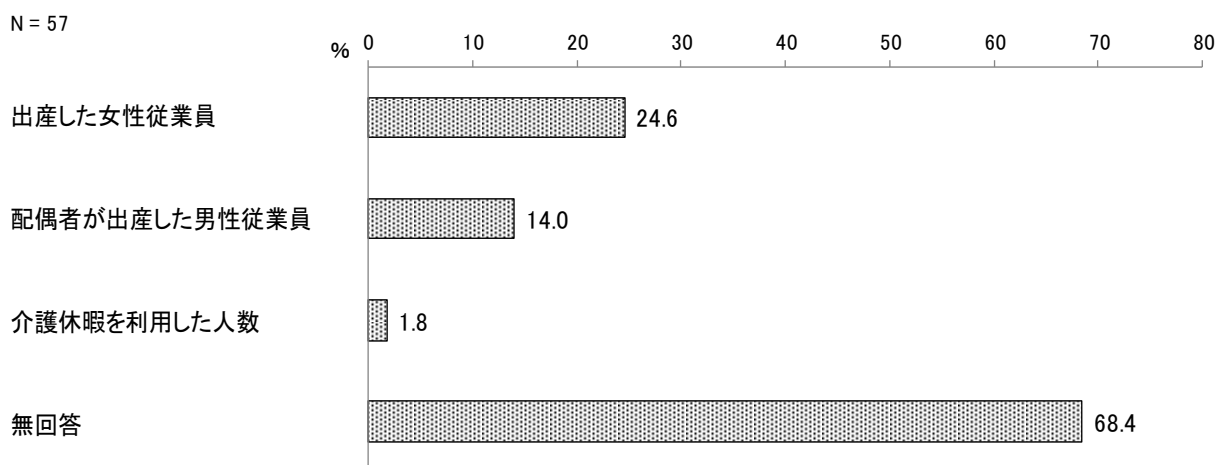
問4 女性従業員の占める割合[%]



問5 昨年度、育児休業や介護休暇を取得した従業員はいますか。取得者がいた場合は人数をお答えください。

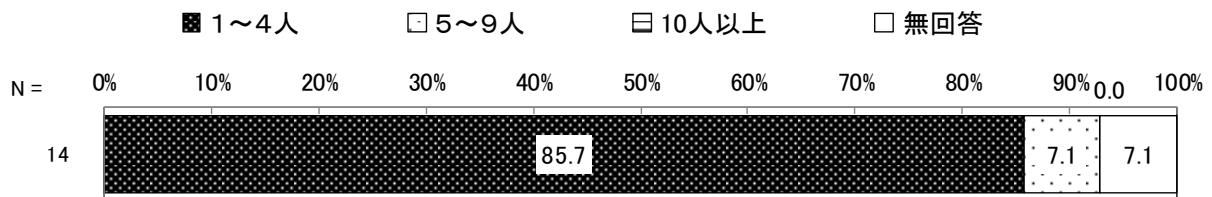
「無回答」が68.4%と多いが、「出産した女性従業員」は24.6%、「配偶者が出産した男性従業員」は14.0%となっている。「介護休暇を利用した人数」は1.8%となっている。出産した女性従業員の数、「1～4人」が85.7%、ついで「5～9人」が7.1%となっている。そのうち、育休を取得した女性従業員は、「1～4人」が78.6%、ついで「5～9人」が7.1%となっている。配偶者が出産した男性従業員と介護休暇を利用した人数は、すべて「1～4人」である。

問5 育児休業や介護休暇を取得した従業員の人数[%・複数回答]



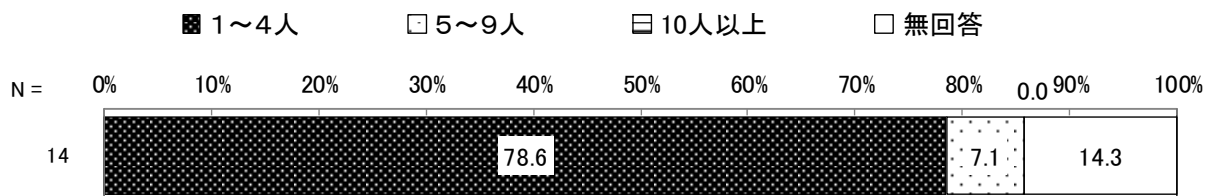
①出産した女性従業員

問5 ①出産した女性従業員〔%〕



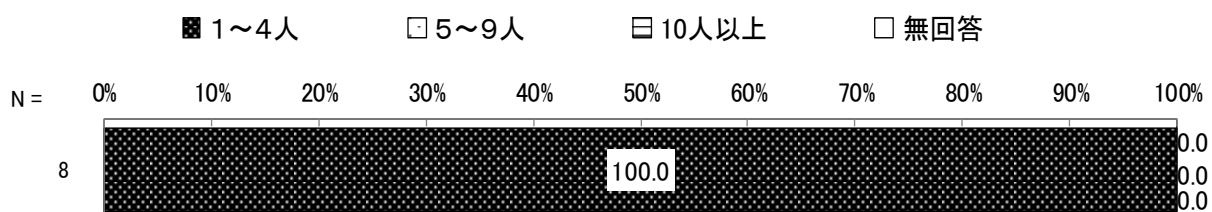
出産し育児休業を利用した女性従業員

問5 ①'出産し育休した女性従業員〔%〕



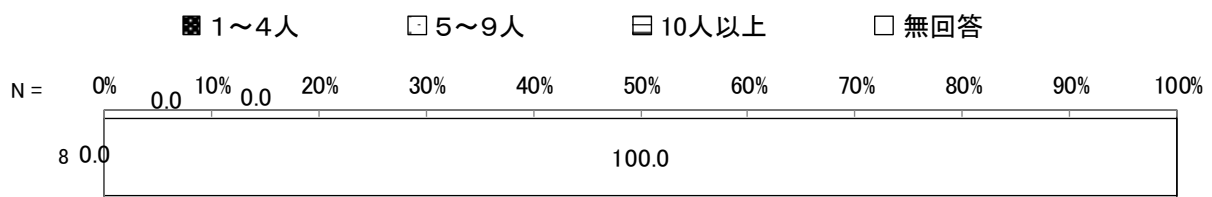
②配偶者が出産した男性従業員

問5 ②配偶者が出産した男性従業員〔%〕



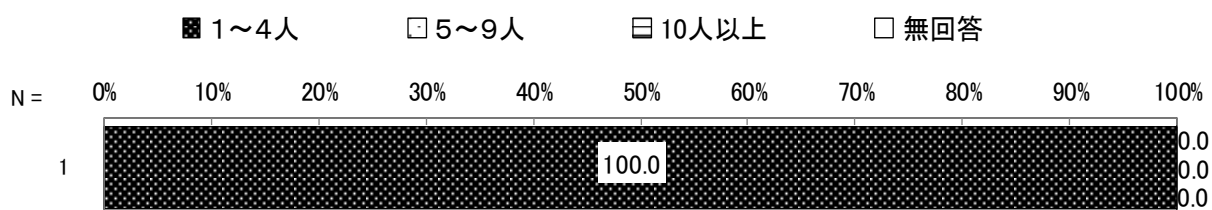
配偶者が出産し育児休業を利用した男性従業員

問5 ②'配偶者が出産し育休した男性従業員〔%〕



③介護休暇を利用した従業員の合計

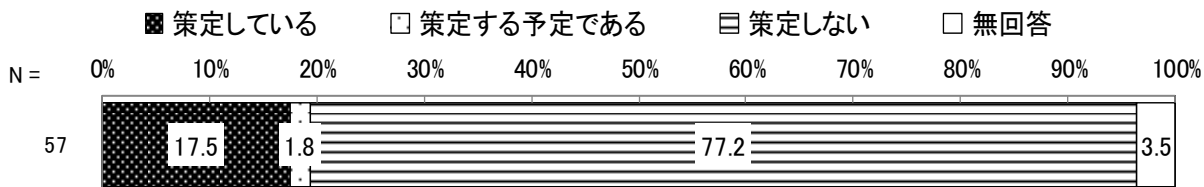
問5 ③介護休暇した従業員の合計〔%〕



問6 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定していますか。

「策定しない」が77.2%と最も多く、ついで「策定している」が17.5%となっている。「策定する予定である」は1.8%と少ない。

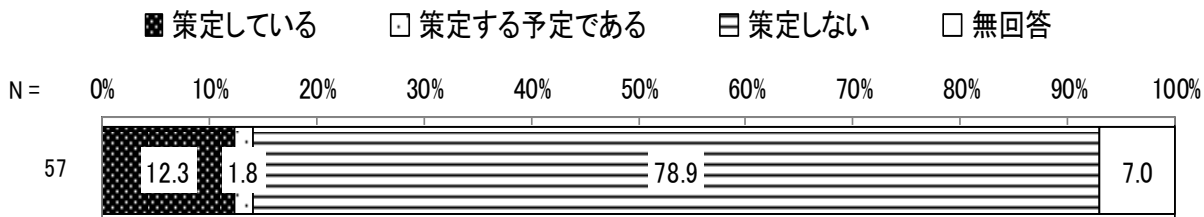
問6 次世代育成支援事業主行動計画の策定〔%〕



問7 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を策定していますか。

「策定しない」が78.9%と最も多く、ついで「策定している」が12.3%となっている。「策定する予定である」は1.8%と少ない。

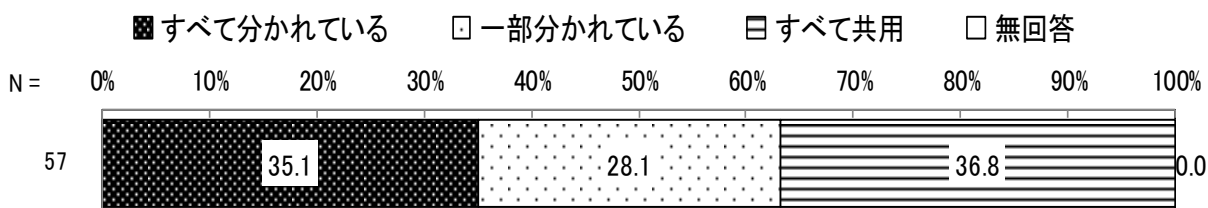
問7 女性活躍推進事業主行動計画の策定〔%〕



問8 貴事業所内のトイレは男女別になっていますか。

「すべて共用」が36.8%と多く、ついで「すべて分かれている」(35.1%)、「一部分かかれている」(28.1%)と続く。

問8 事業所内のトイレが男女別となっている〔%〕



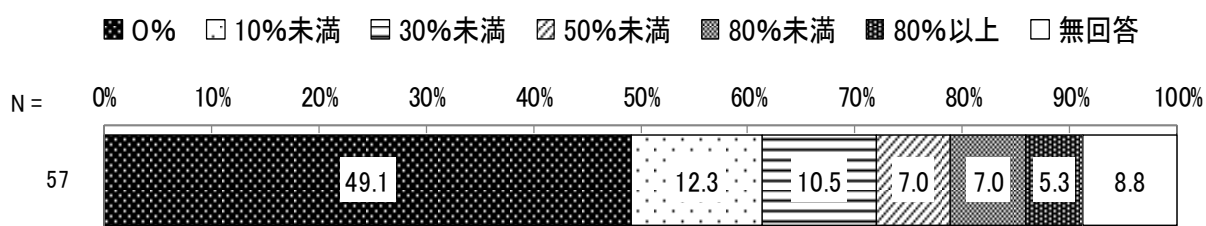
2 女性の活躍推進

問9 貴事業所において現在、次の役職における女性従業員の占める割合はどのくらいですか。

役員では、「0%」が49.1%と最も多く、ついで「10%未満」(12.3%)、「30%未満」(10.5%)、「50%未満」、「80%未満」(ともに7.0%)、「80%以上」(5.3%)と続く。課長相当職以上では、「0%」が52.6%と最も多く、ついで「10%未満」(15.8%)、「80%未満」、「80%以上」(ともに5.3%)、「30%未満」、「50%未満」(ともに3.5%)と続く。

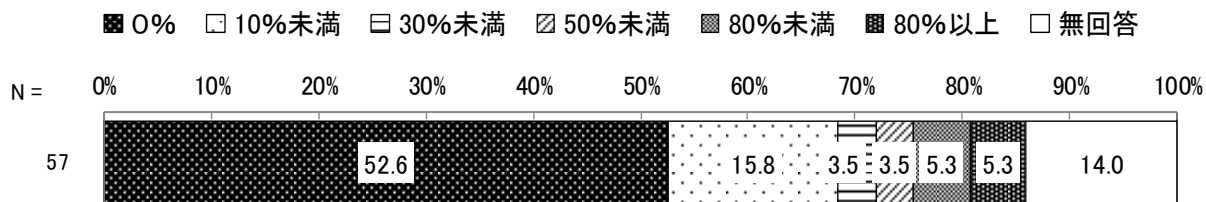
①役員

問9 女性従業員の占める割合 ①役員[%]



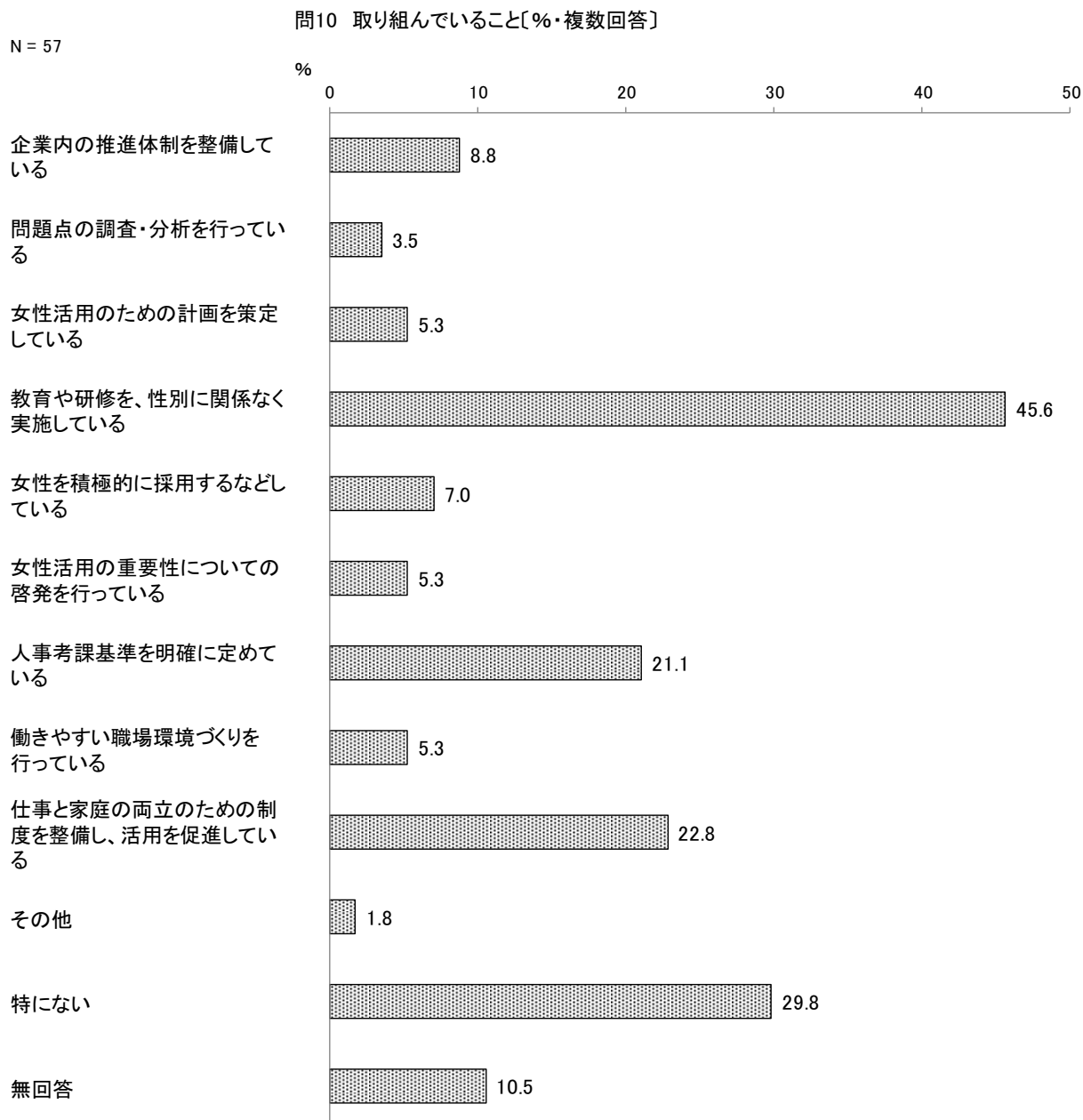
②課長相当職以上

問9 女性従業員の占める割合 ②課長相当職以上[%]



問10 女性を活用するために貴事業所ではどのようなことに取り組んでいますか。

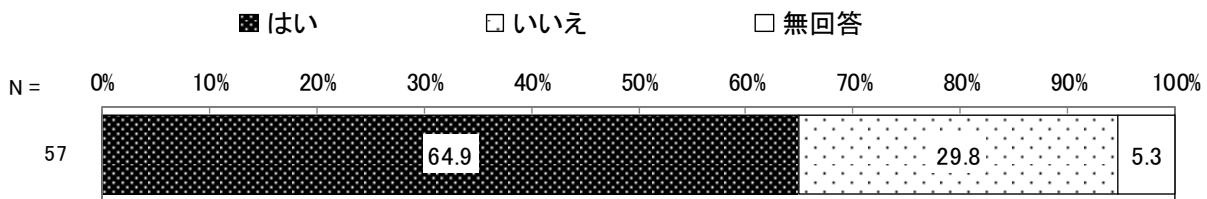
「教育や研修を、性別に関係なく実施している」が45.6%と最も多く、ついで「特にない」(29.8%)、「仕事と家庭の両立のための制度を整備し、活用を促進している」(22.8%)、「人事考課基準を明確に定めている」(21.1%)と続く。



問11 今後、役員や管理職に女性を積極的に登用しようと考えていますか。

「はい」が64.9%と多く、「いいえ」が29.8%である。

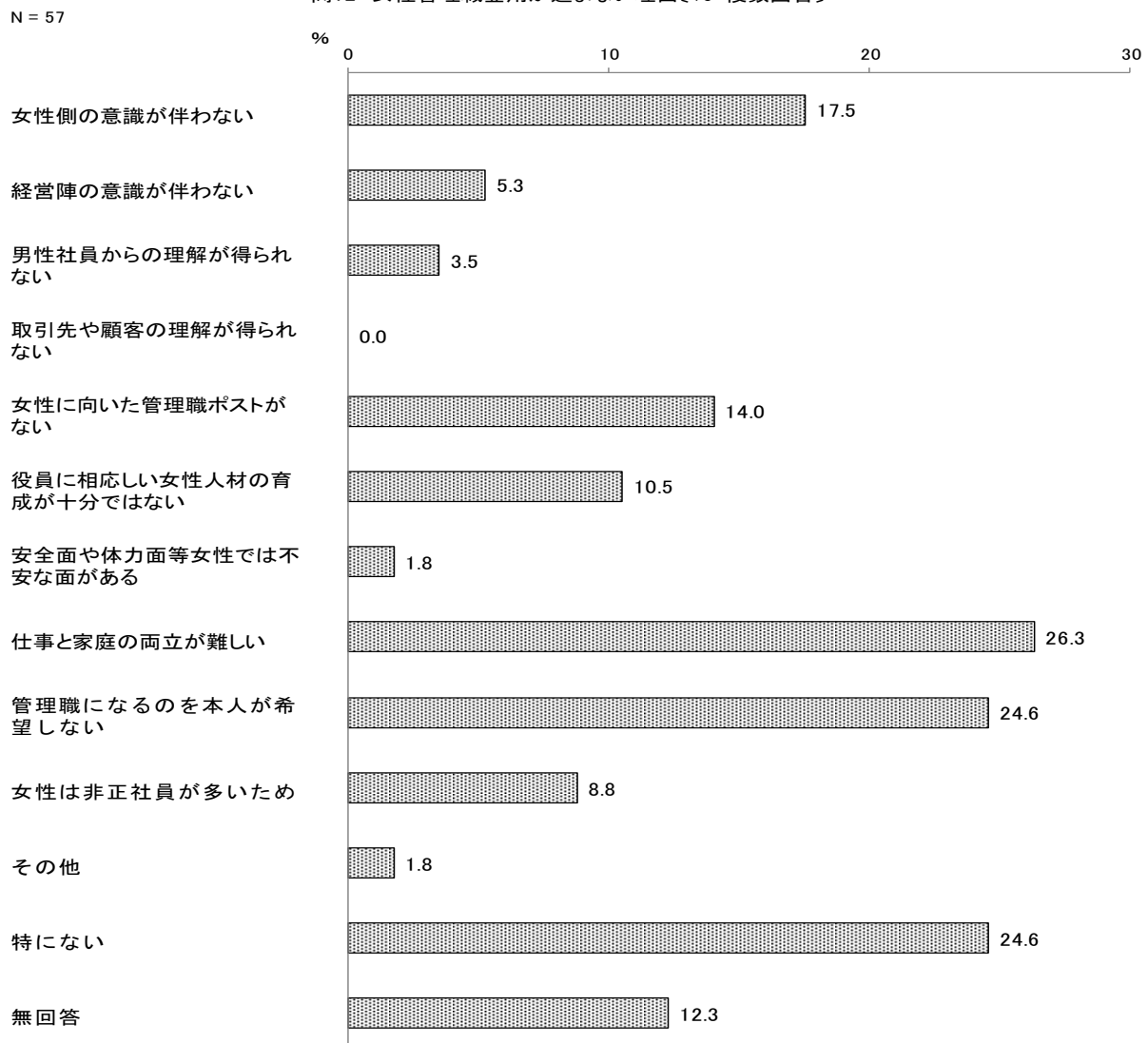
問11 女性役員・管理職の登用意向〔%〕



問12 女性の管理職等への登用が進みにくい理由は何だと思いますか。

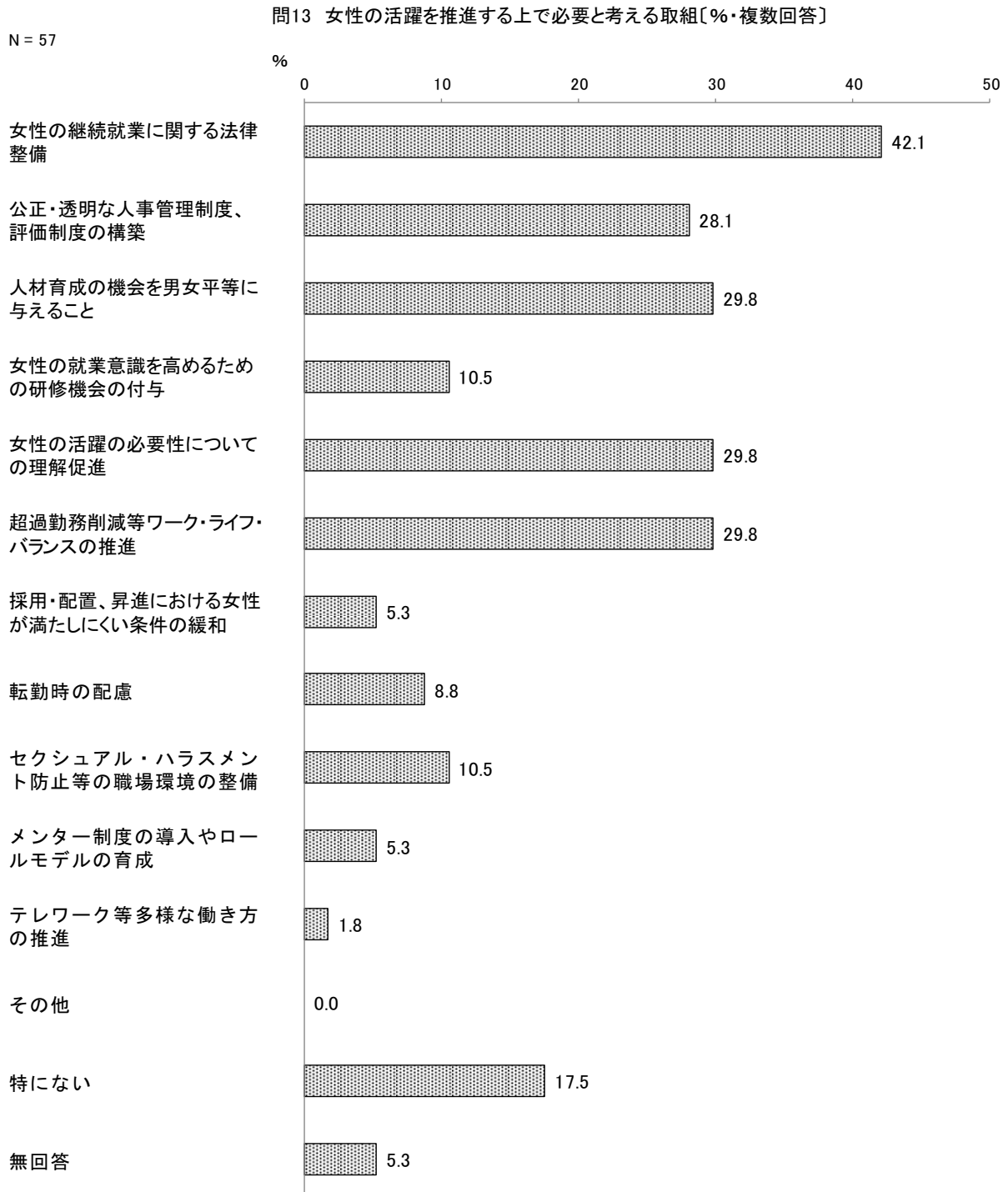
「仕事と家庭の両立が難しい」が26.3%と最も多く、ついで「管理職になるのを本人が希望しない」、「特にない」（ともに24.6%）、「女性側の意識が伴わない」（17.5%）、「女性に向けた管理職ポストがない」（14.0%）、「役員に相応しい女性人材の育成が十分ではない」（10.5%）と続く。

問12 女性管理職登用が進まない理由〔%・複数回答〕



問 13 女性の活躍を推進する上で必要と考える取組について該当するものを選んでください。

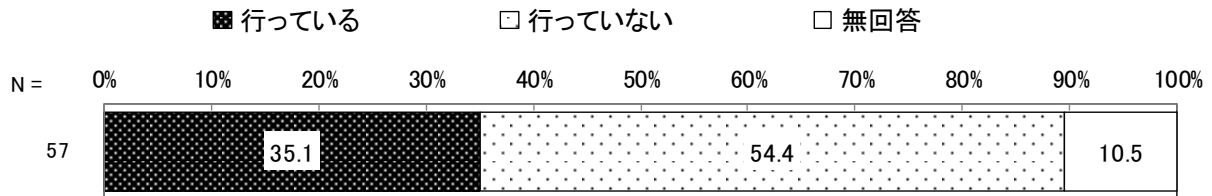
「女性の継続就業に関する法律整備」が42.1%と最も多く、ついで「人材育成の機会を男女平等に与えること」、「女性の活躍の必要性についての理解促進」、「超過勤務削減等ワーク・ライフ・バランスの推進」（ともに29.8%）、「公正・透明な人事管理制度、評価制度の構築」（28.1%）と続く。



問14 貴事業所では、女性の職域拡大にむけた取組を行っていますか。

「行っていない」が54.4%と多く、「行っている」が35.1%である。

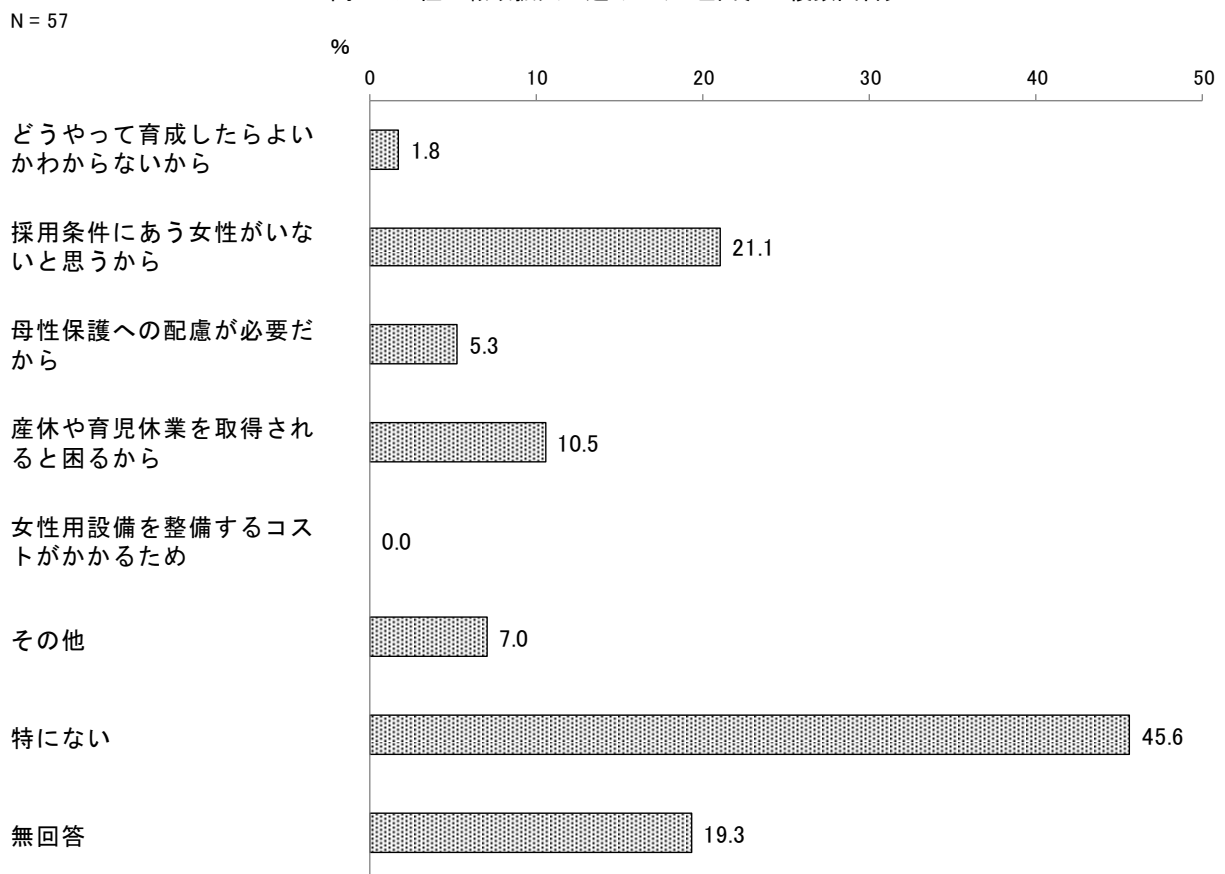
問14 女性の職域拡大にむけた取組[%]



問15 女性の職域拡大が進みにくい理由はどのようなことだと思いますか。

「特にない」が45.6%と最も多く、「採用条件にあう女性がいらないと思うから」(21.1%)、「産休や育児休業を取得されると困るから」(10.5%)と続く。

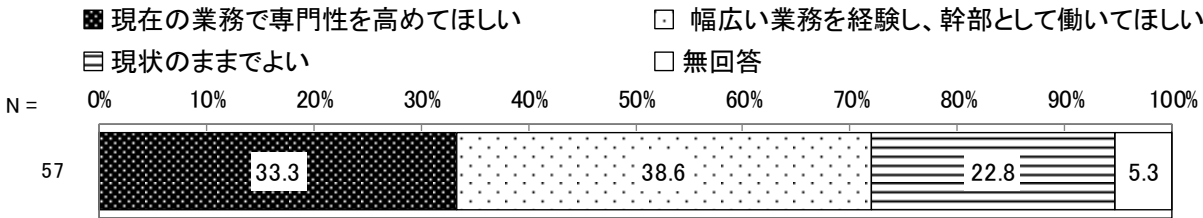
問15 女性の職域拡大が進みにくい理由[%・複数回答]



問 16 女性にどのような働きを期待しますか。

「幅広い業務を経験し、幹部として働いてほしい」が38.6%と多く、「現在の業務の専門性を高めてほしい」(33.3%)、「現状のままでよい」(22.8%) と続く。

問16 女性に期待する働き方〔%〕

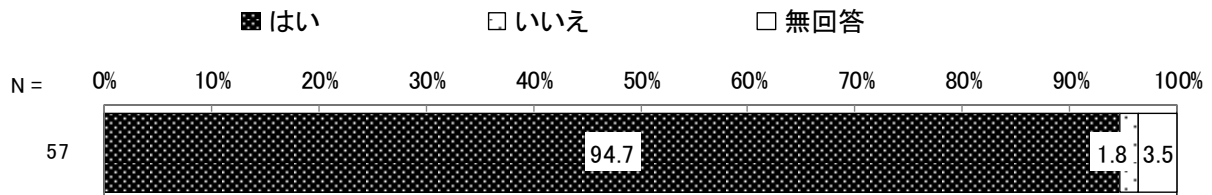


3 男女が活躍する社会

問 17 今後は女性の労働力が欠かせないと思いますか。

「はい」が94.7%と大半を占めており、「いいえ」が1.8%である。

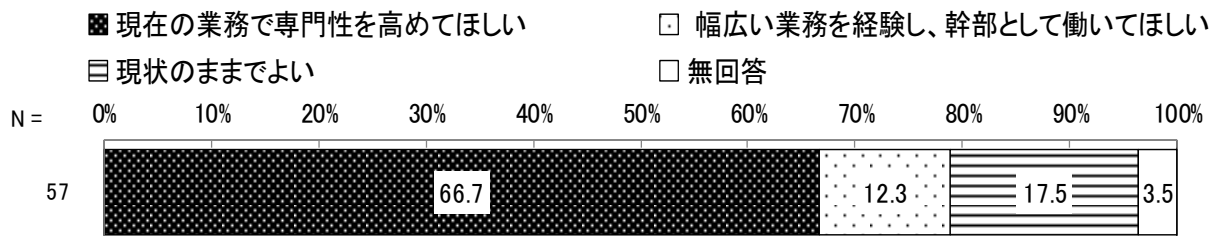
問17 今後は女性の労働力が欠かせないと思う[%]



問 18 女性の勤続年数が伸びる一方で、育児や介護のために労働時間に制約が生じる社員が増えた場合、どのように対応しますか。

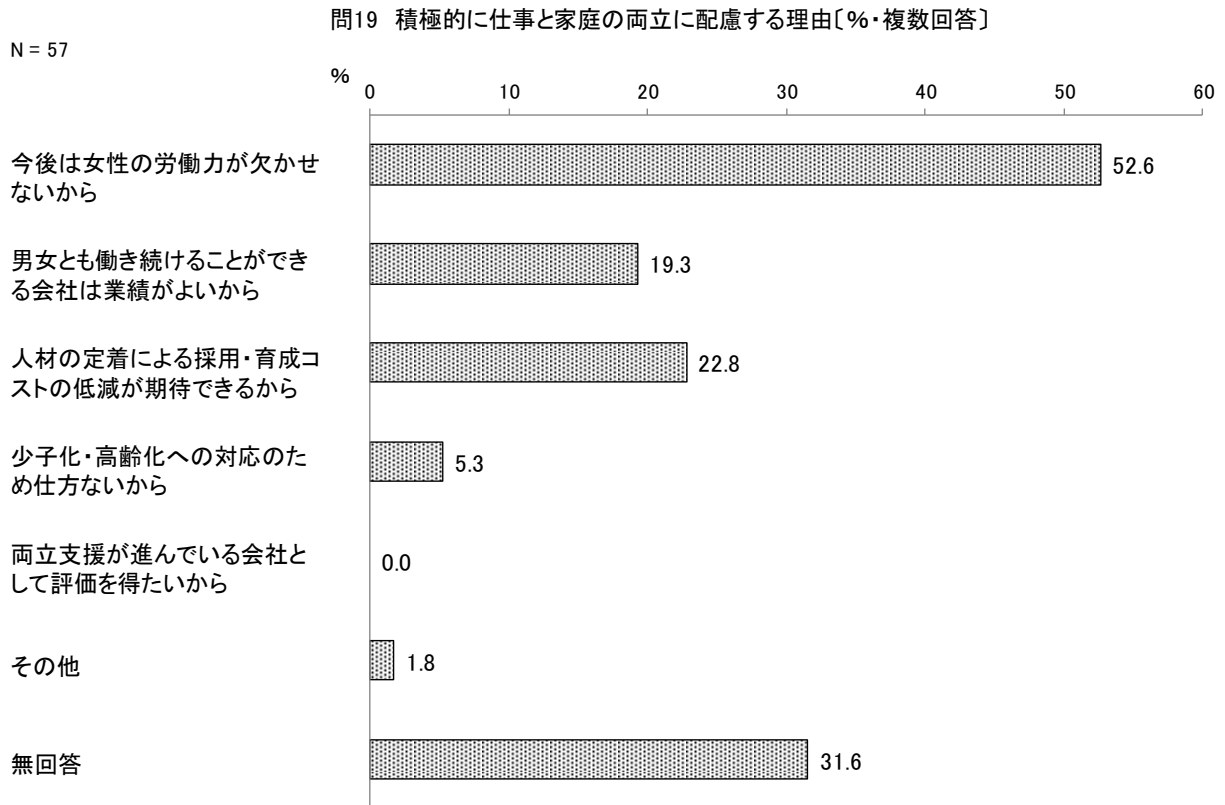
「現在の業務で専門性を高めてほしい」が66.7%と最も多く、「現状のままでよい」(17.5%)、「幅広い業務を経験し、幹部として働いてほしい」(12.3%)と続く。

問18 育児や介護の休業を取得する社員が増えた場合の対応[%]



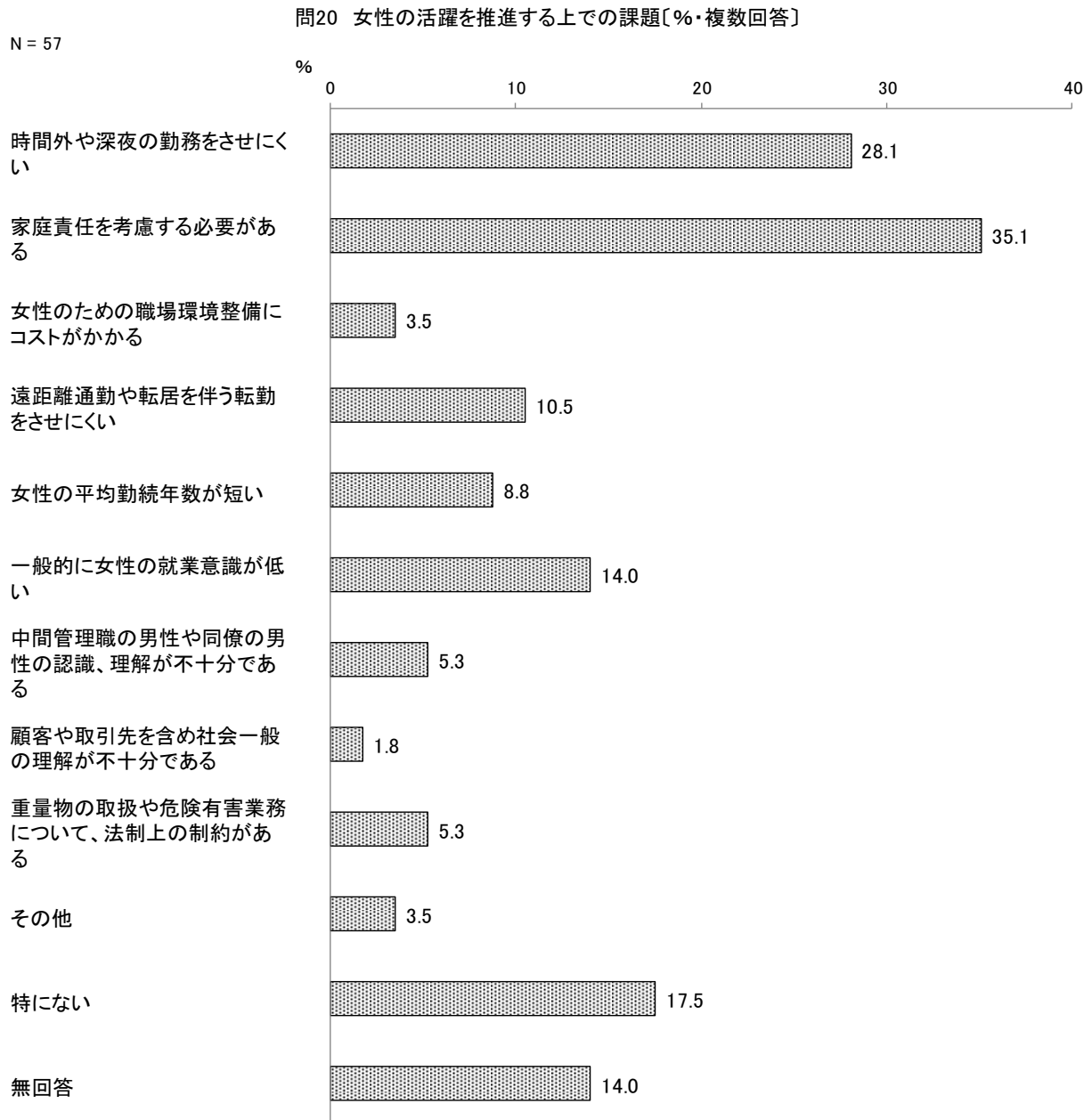
問 19 （問 18 で、1 を選んだ事業所におたずねします。）積極的に仕事と家庭の両立に配慮する理由をお答えください。

「今後は女性の労働力が欠かせないから」が52.6%と最も多く、「人材の定着による採用・育成コストの低減が期待できるから」(22.8%)、「男女とも働き続けることができる会社は業績がよいから」(19.3%) と続く。



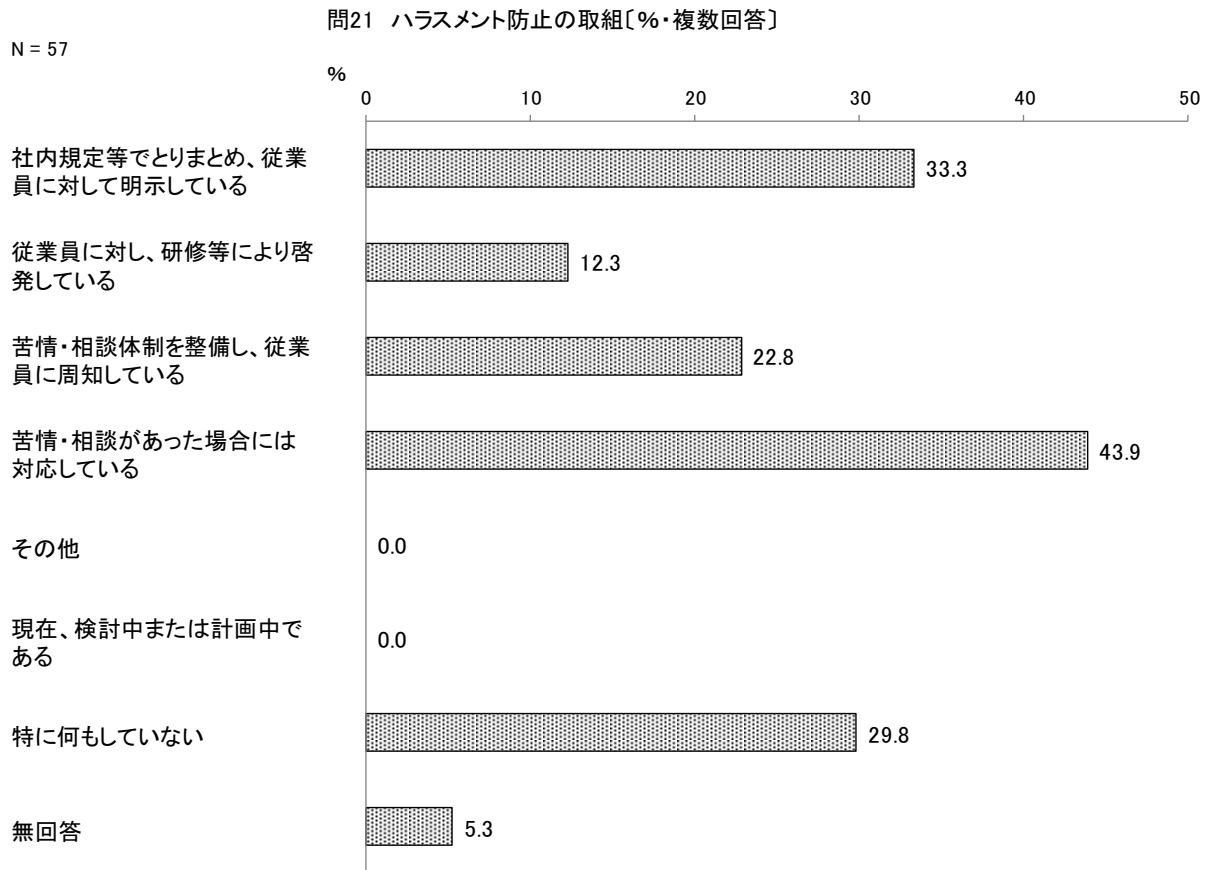
問 20 女性の活躍を推進する上での課題は何だと思いますか。

「家庭責任を考慮する必要がある」が35.1%と最も多く、「時間外や深夜の勤務をさせにくい」(28.1%)、「特にない」(17.5%)、「一般的に女性の就業意識が低い」(14.0%)と続く。



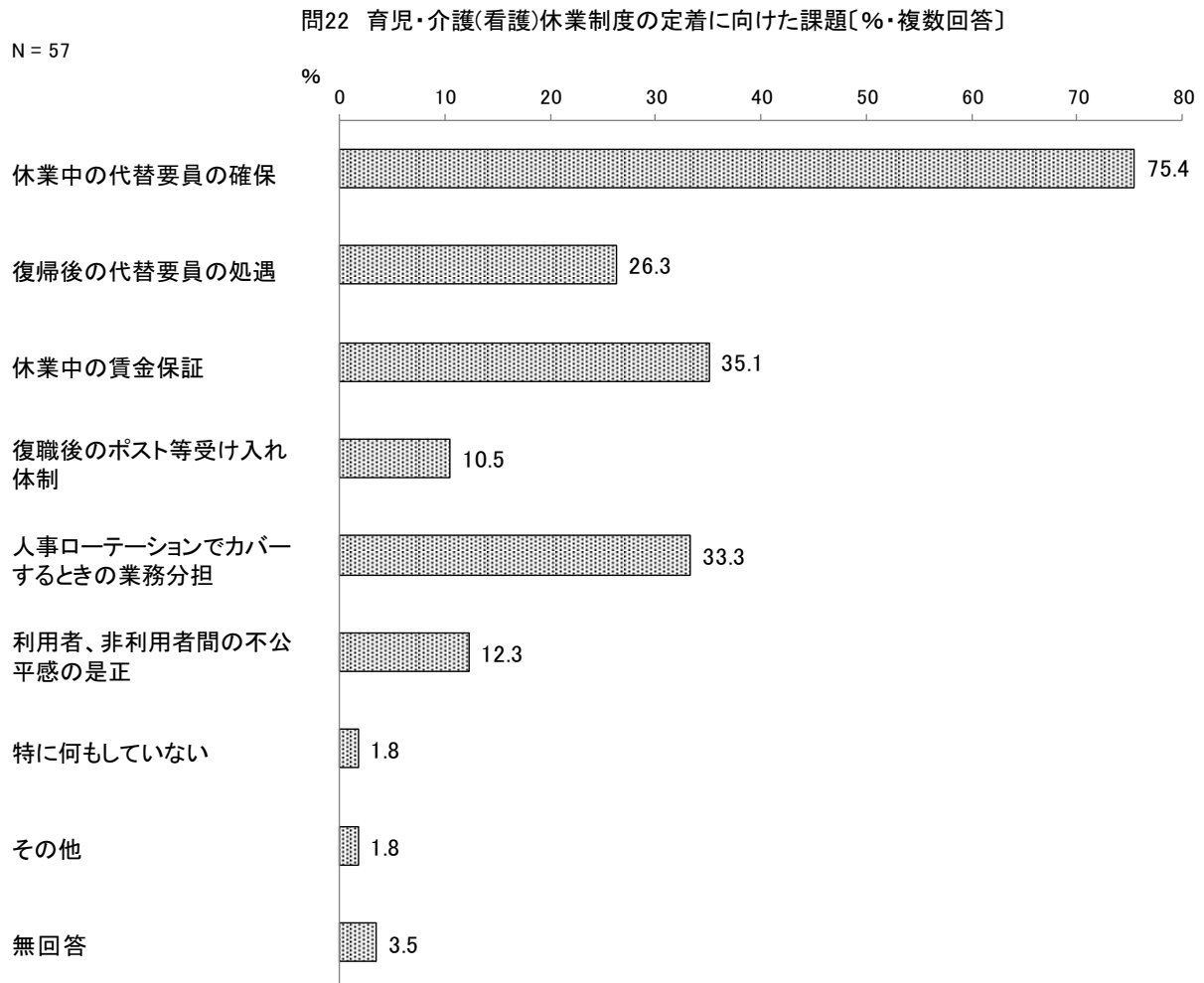
問21 職場におけるセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティー・ハラスメント等のハラスメントを防止するため、貴事業所ではどのようなことに取り組んでいますか。

「苦情・相談があった場合には対応している」が43.9%と最も多く、「社内規定等でとりまとめ、従業員に対して明示している」(33.3%)、「特に何もしていない」が29.8%と続く。



問 22 育児・介護(看護)休業制度を今後、定着させていくための課題は何だと思いますか。

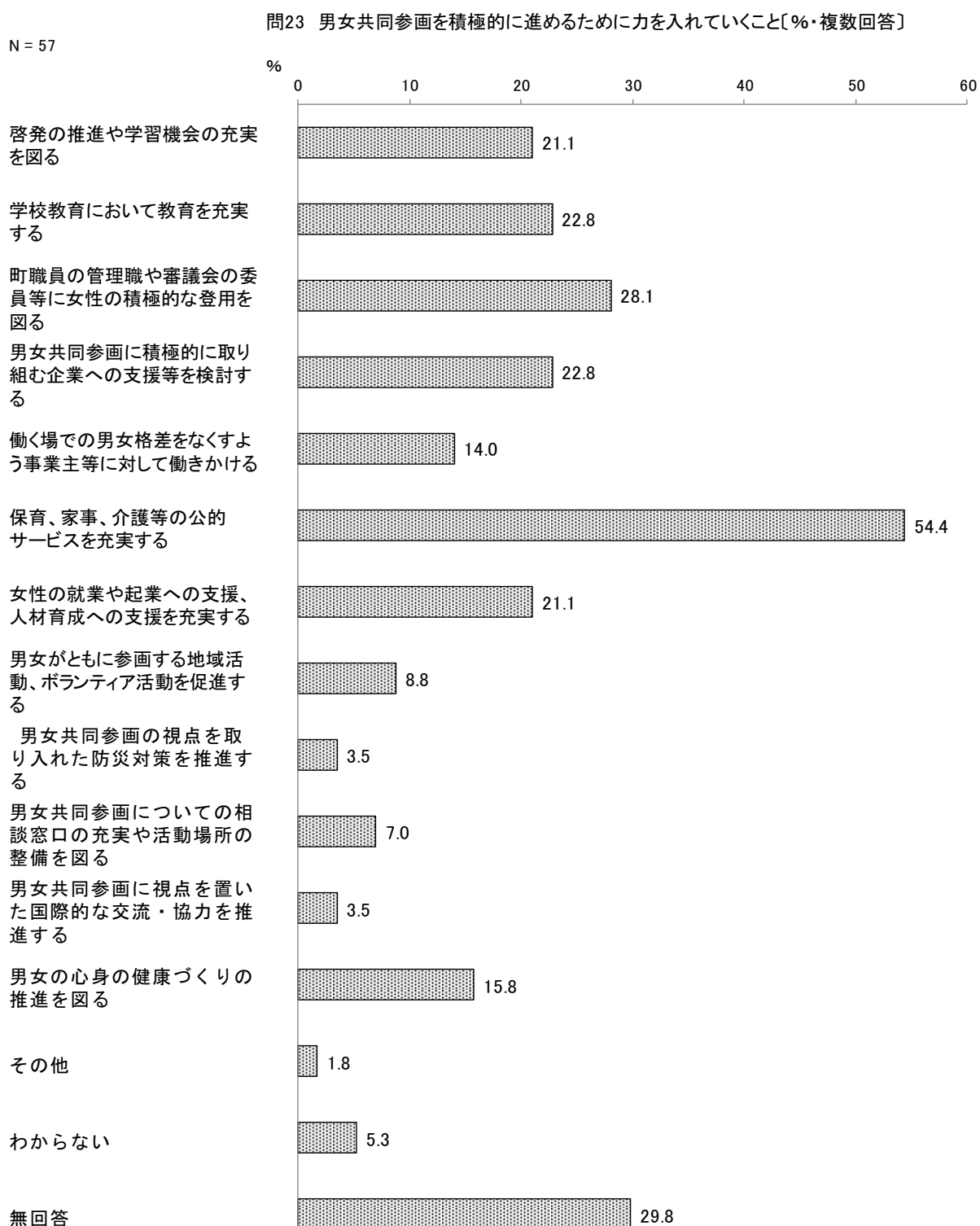
「休業中の代替要員の確保」が75.4%と最も多く、「休業中の賃金保証」(35.1%)、「人事ローテーションでカバーするときの業務分担」(33.3%)と続く。



4 男女共同参画社会の実現に向けた町の取組

問 23 男女共同参画を積極的に進めるために、今後、佐川町はどのようなことに力を入れていくべきと思いますか。

「保育、家事、介護等の公的サービスを充実する」が54.4%と最も多く、「町職員の管理職や審議会の委員等に女性の積極的な登用を図る」(28.1%)、「学校教育において教育を充実する」、「男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援等を検討する」(ともに22.8%)、「女性の就業や起業への支援、人材育成への支援を充実する」(21.1%)と続く。



問 24 自由意見

5.3%が記述している。

問24 自由意見〔%〕

